

# 新居浜工業高等専門学校

## 点検報告書

(平成15年度版)

—— 第1章～第3章 ——

平成16年11月

新居浜工業高等専門学校 点検専門部会

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7-1

ホームページ <http://www.niihama-nct.ac.jp>

Tel 0897-37-7700 (代表)

Fax 0897-37-7842

# まえがき

高等教育機関における点検評価の必要性が認識されてから久しく、この数年、全国の大学・高専から数多くの点検評価書が送られてきています。本校においても、平成14年度から本格的な点検活動がスタートし、平成10年度～平成13年度版、平成14年度版に続いて3回目の点検報告書の発行となりました。今回は、過去2回の点検報告書に対する指摘事項を踏まえると共に今後の点検活動が効率的に行われることを目的に、内容を大幅に変更し、4つの章から成る構成としました。

第1章と第2章では、平成15年度から各部門の年間運営目標を年度当初に設定し年度末に実施状況と成果について自己点検評価を行う活動が始まったことを受けて、平成15年度の学校運営目標および教育改善推進計画の実施状況と成果をまとめています。

第3章では、各部門の活動状況を継続的に記録蓄積してゆくために、過去2回の点検報告書の内容と同様な点検項目についてデータの取りまとめを行っています。有効かつ効率的な点検活動のために、今後、点検項目の検討、記録フォーマットの定型化を図っていきたいと考えています。

第4章では、教育改善および学校運営改善のための基礎資料として活用するために行った、各種アンケートの実施状況とその分析をまとめています。以前から継続して実施されている授業アンケート、勉学アンケート、新入生アンケート、卒業生アンケートに加え、平成15年度には学生委員会による生活・アルバイトアンケート、環境保全委員会による教職員環境意識調査が行われました。さらに、点検専門部会で保護者へのアンケート、企業へのアンケートを企画し、実施いたしました。これらの膨大なアンケートが取りっぱなしにならぬよう、各部門の具体的な改善に向けた取り組みに生かしていただくことを願っています。

今後、JABEE認定の受審のみならず独立行政法人大学評価・学位授与機構による高等専門学校の機関別認証評価が予定されています。そこでは、高等専門学校の目的、教育組織、教員、学生の受入、教育内容および方法、教育の成果、学生支援、施設・設備、教育の向上および改善のためのシステム、財務、管理運営と多岐にわたる評価項目があります。このような学校を取り巻く環境の変化に的確に対応し社会的責任を果たしていくためには、継続的な点検評価と改善により着実に実績を積み上げていくことが不可欠です。本報告書が、そのために有効に活用されることを期待しています。

最後に、本報告書をまとめるにあたり、本校教職員、保護者、卒業生、学生ならびに企業の皆様には多大なご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

平成16年11月

新居浜工業高等専門学校  
点検専門部会長 谷口 佳文

## 目 次

1．学校運営目標の実施状況と成果	
1.1 平成15年度学校運営重点推進目標の実施状況	1
1.2 各学科・科運営目標の実施状況	5
1.3 センター・委員会等運営目標の実施状況	31
1.4 学年毎の年間教育目標・方針の実施状況	62
2．教育改善推進計画の実施状況と成果	
2.1 平成15年度教育改善推進計画の実施状況	71
2.2 各学科・科教育改善推進計画の実施状況	75
2.3 センター・委員会等教育改善推進計画の実施状況	100
3．各部門の活動状況	
3.1 教育活動	104
3.1.1 学生の受入状況	104
3.1.2 学生の留年・退学状況	109
3.1.3 授業外教育の実施状況	111
3.1.4 専攻科学生の成果発表状況	114
3.1.5 就職・進学状況	115
3.2 研究活動	118
3.2.1 研究成果の発表状況	118
3.2.2 学会への参加・活動状況	119
3.2.3 教員の学位取得状況	120
3.2.4 外部資金導入状況	121
3.3 学生生活	124
3.3.1 学生生活の支援	124
3.3.2 課外活動の状況	126
3.4 学内の管理運営	136
3.4.1 教員組織	136
3.4.2 事務組織	137
3.4.3 技術室の活動状況	138
3.4.4 各種委員会	139
3.4.5 教職員の人事交流	139
3.4.6 予算の配分状況	140
3.4.7 環境管理・安全防災体制	145
(添付資料3.4.1) 各種委員会等の主な議題(平成15年度)	149
3.5 施設、設備の整備と運用	186
3.5.1 施設の整備状況	186
3.5.2 語学演習室の整備と利用状況	186
3.5.3 電子計算機室の整備と利用状況	187
3.5.4 図書館の整備と利用状況	188

3.5.5	実習工場の整備と利用状況	189
3.5.6	SCS/MUPの活用状況	191
3.5.7	学内LAN・インターネットの管理・運営体制	193
3.6	社会との連携	195
3.6.1	高度技術教育研究センターの運営と活用状況	195
3.6.2	公開講座、社会への生涯学習事業の実施状況	201
3.6.3	教員の学外活動状況	202
3.6.4	広報活動	204
3.7	国際交流	205
3.7.1	留学生の受入状況と指導体制	205
3.7.2	在学生の海外留学と研修状況	205
3.7.3	教員の国際会議への参加状況	206
3.8	教育および学校運営の改善活動	207

# 1. 学校運営目標の実施状況と成果

各学科・科、各種委員会等、各部門の活動内容を明確にし、学校運営の効率化を図るために、各部門の年間運営目標を年度当初に設定し、年度末に実施状況と成果について評価を行う活動が平成15年度から始まった。以下に、平成15年度の各部門の運営目標と実施状況、およびその評価を示す。(運営目標をゴシック体で、実施状況と評価を明朝体で表記している。)

## 1.1 平成15年度学校運営重点推進目標の実施状況

個性豊かな教育を創造・実践するとともに、教育研究の向上にたゆまず努力し、地域とともに歩む信頼される学校をめざし、次の取り組みに重点を置く。

### ○ 各項目ごとの実施状況とその成果

1. 新しい教育理念・教育目標の定着化をはかるとともに、各学科・科、専攻科の教育目標の明確化、具体化を推進する。
  - ・学校案内、学校ホームページ、履修要覧等に掲載するとともに、入学式の式辞、始業式の訓話、学校見学会、保護者との懇談など様々な機会に説明をし、趣旨の徹底を図った。
  - ・各学科等の教育目標についても、学生に十分説明するとともに、はばたけ未来などの出版物の作成に反映した。
2. 平成16年度の独立行政法人への円滑な移行のため、諸準備を鋭意進めるとともに、学校運営の効率化、学校活動に対する評価システムの確立、社会的説明責任を果たす活動を充実する。
  - ・独立法人化の検討状況については、随時運営会議等に報告するとともに、全教職員を対象にした説明会を4回実施した。学校改革推進室を中心に、学校の中期計画をとりまとめた。
  - ・学校運営の効率化については、16年度に向けて、授業時間割表作成の工夫等による会議時間の確保、委員会構成員の見直し、会議室等のIT予約システムの導入などを行った。
  - ・外部評価については、機械工学科、電気・電子制御工学科、材料工学科の三グループで行った。
  - ・研究者情報の整備等ホームページの充実に努めた。また、行事を行うに当たっては、マスコミに積極的に情報提供を行った。
3. 教育改善活動を一層推進する。そのため、各学科・科、専攻ごとの教育改善推進体制(計画、実践、評価)を確立し、授業公開の実施、教員間の評価活動を推進するとともに、研修会の定期開催など学校全体の教育改善推進計画を策定する。
  - ・教育改善推進計画を策定し、計画的な実施を心がけた。その成果を「教育改善推進計画の実施状況」として、まとめた。外部講師を招いての研修機会をもう少し強化すべきである。
  - ・公開授業の実施については、学科によって取り組みに温度差が見られた。実施後のフィードバックなど効果的な実施について課題を残した。
  - ・教員間相互の評価活動については、今後の課題である。
  - ・各科等の教育改善システムについては、効率的なものとするよう改善する必要がある。

る。

4. 学生の学習意欲の向上及び自律的な学習・生活習慣の形成を支援するため、オフィスアワー制度の導入、学級担任サポート体制の充実、HR活動の活性化など学校全体での取り組みを強化する。また、個に応じたきめの細かい進路指導を行うとともに、進路指導を計画的、体系的、組織的に行う体制の確立に努める。
  - ・低学年教育委員会の活動、3年学級担任の担任連絡会、低学年のショートホームルームの実施など学校全体の取り組みとして一定の成果をあげることができた。
  - ・オフィスアワー制度の実施状況については、学生にどの様に受け取られているかなど点検評価する必要がある。専門学科のアドバイザー制度も学級担任との連携等改善する必要がある。
  - ・進路指導については、各学科でさまざまな努力が払われたが、毎年内定時期が遅くなる傾向がある点や就職または進学先が決まらなかった学生が少数ではあるが生じた。今後も、進路指導の計画的、体系的、組織的実施体制を検討する必要がある。
  
5. 学生の自主的、主体的な課外活動を奨励、支援するとともに、学生として規律ある生活を送れるよう教職員が一体となった指導を行う。特に、チャレンジプロジェクト支援事業をはじめ創造教育、健康教育、環境教育、読書指導の充実に努める。
  - ・学生会の活動が例年になく活発に行われた。クラブ活動については、参加率の向上を図る必要がある。
  - ・チャレンジプロジェクトについては、禁煙、ソーラーポート、国際交流、学習障害児との交流のプロジェクトが行われ、その成果発表も行うことができた。
  - ・タバコのない学校環境の実現については、校則違反者に禁煙外来を受ける指導を新たに採り入れ、一定の成果を得た。16年5月から県立高校が敷地内完全禁煙になることを踏まえ、一層推進に努める必要がある。
  - ・学生会に環境専門委員会が発足し、図書館裏広場の花壇の世話や高専西側の市道の清掃活動など新たな成果をあげることができた。
  - ・図書館利用については、図書館より毎月学年別クラス別の貸し出しデータを提供することが行われた。全体としては、貸し出し冊数が前年度より大きく伸びる結果を得た。
  
6. 研究活動について、地域ニーズに対応した研究を推進するとともに、本校の特色となる研究シーズに応じた学内プロジェクト研究を推進する。研究費の配分について、さまざまな業績評価が反映できる仕組みを工夫する。
  - ・特別設備として、移動体通信の研究装置一式を導入した。
  - ・研究紀要について、一部ではあるが査読制度を導入した。
  - ・研究費の配分については、15%を業績反映分として留保して配分したほか、最優秀教員及び優秀教員については、特別配分を実施した。
  
7. 地域との連携を一層推進する。そのため、高度技術教育研究センターを中心に、年間推進計画を策定するとともに、事業・プロジェクト・テーマごとに評価活動を実施するなど「地域連携推進プラン」を推進する。
  - ・地域企業等との共同研究、技術相談の件数を大幅に伸ばすことができた。また、知的財産研究会が発足した。

- ・県、市、産業支援機関と一体となって、エリアの産学官の連携を促進する外部資金の獲得を目指した活動を行った。本校の提案により初めての試みとして四国地区6高専産学官交流会を開催した。
- 8 . J A B E E 認定に向けた取り組みを強化する。生物応用化学プログラムの本年度受審に向けた準備を進めるとともに、J A B E E 推進会議を定期的で開催し、J A B E E 推進チームごとの取り組みを促進、評価する。
    - ・生物応用化学プログラムについては、受審することができた。
    - ・複合融合型の教育プログラムとして、「デザイン工学プログラム」を策定し、教育目標・学習目標等をホームページに掲載し、公開した。
    - ・J A B E E 推進室会議を6回開催した。今後、「デザイン工学プログラム」の受審準備を強力にすすめる必要がある。
  - 9 . 学校運営の効率化と責任の明確化を図るため、各学科・科、各種委員会、センターは、年度当初に年間の運営重点推進目標を設定し、年度末に活動実績について評価を実施する。

また、予算の効率的、効果的な使用を図るため、校長裁量経費配分対象プロジェクトや学科配分経費の評価を行う。

    - ・年度当初に「平成15年度学校運営目標」を策定し、その実施状況と評価を「平成15年度学校運営目標の実施状況」として、取りまとめた。
    - ・校長裁量経費配分対象プロジェクト及び学科配分経費の評価は、次年度行う。
  - 10 . 教官の業績評価システムの改善充実を図る。そのため、教育業績、研究業績、学校運営参画業績、地域貢献業績ごとの評価者、評価尺度を明確にする。
    - ・業績評価の実施要綱を改正した。評価尺度については、第1次評価者の評価にばらつきが見られることから、引き続き検討研究する必要がある。
    - ・最優秀教員、優秀教員の氏名を公表し、最優秀教員については、校長表彰を行った。
  - 11 . 学習環境の改善のための施設設備の整備を推進するとともに、学校施設の有効活用を促進するため、施設マネジメントの観点に立った施設活用指針を策定する。また、学生寮の環境整備に努めるとともに、女子寮の設置に向け諸準備を鋭意進める。
    - ・一般教育棟に新たにHR教室を確保した。留学生交流室の整備、教職員連絡コーナーの整備、トレーニングルームの整備、尚友会館前の憩いスペースの整備、正門掲示板の設置、防犯カメラの設置などを行った。有効利用のための中長期的な見直し作業は、今後の課題である。
    - ・英語のコンピュータ利用学習システムの導入や新しい教育内容に対応した設備の整備を行った。
    - ・女子寮「清風寮」の整備を完成させ、11名の女子学生が1月から入寮した。あわせて、学寮広場の整備、男子寮の床の張替え、冷蔵庫の設置など環境改善を行った。
  - 12 . 点検評価活動について、年闘実施計画を策定し、計画的・継続的に実施する。点検評価の仕方・内容及び改善活動への反映状況について評価を行い、必要な見直しを行う。
    - ・企業向け及び保護者向けアンケートを始めて実施した。各種のアンケート結果を迅速に活用できるよう、カードマークリーダーなどの整備を行った。

- ・実験実習、卒業研究などの分析評価に力を入れるとともに、学科単位の外部評価を実施した。
- ・点検評価については、計画的、重点的、効率的な実施計画を立てる必要がある。また、学校教育法に基づく認証評価、独立行政法人国立高専機構の評価など第三者による評価に対応するため、本校の活動にかかわる教育研究情報の整理・蓄積を進める必要がある。

### **総括的な評価と課題**

- ・年度当初に学校運営全般について運営目標を立て、年度末に実施状況の点検評価を行う試みは初めてであったが、全教職員が学校運営の課題・目標に共通の理解を持ちそれぞれの役割の中で成果を出してくシステムとしては、一定の成果が得られたと評価する。
- ・来年度の目標設定に生かされることが重要である。



## 1.2 各学科・科運営目標の実施状況

### 機械工学科

主任 刑部 富夫

#### ○ 運営目標の実施状況とその成果

平成15年度機械工学科の学科運営重点推進目標

機械工学の基本的な目標

グローバル化した社会のニーズに十分応えて、機械を設計・製作し、また、これらの機械を取り扱うことのできる創造性豊かな実践的技術者を、学力(知識、専門的知識/技術力、口頭/文章表現力など)と人間力(自己啓発、責任感、自己管理力、積極性/意欲など)を重視して学生を養成する。

機械工学科の教育に関する目標

- (1) 機械工学全般についての基礎知識を習得させるためのカリキュラムおよび指導方法の充実を図り、学生に勉学の習慣を身につけさせ、さらに認定単位を実効のあるものにする。
- (2) 創造性の養成と体験的学習を通して、高い応用力を持ち、新しいものに挑戦できる人材を育成する。
- (3) 論理的記述力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の養成を重視する。
- (4) 社会のニーズに合わせて、専攻科、大学への編入学などの進学者数の適正化を図る。
- (5) 授業内容および方法の改善を図るための教官研修の推進を図る。

教育に関する目標計画

機械工学科では、教育に関する目標を5項目挙げている。本年度は(1)(2)(3)(5)を重点推進目標とするが、学生の教育に当たり(1)(2)(3)(5)は関連する項目があるので、これらに関する具体的重点目標計画を以下に示す。

1. JABEE審査にあたりカリキュラム、教育のあり方の見直し。平成15年度にカリキュラム検討チームを結成して検討を行い、平成16年度からのカリキュラムに反映する。

(項目(1)(2)(3)(5))

具体的な運営重点推進項目

- (1) 卒研成果の評価法の見直し。15年度より検討する。(項目(3)(5))  
卒研成果の評価法の見直しを検討した。卒研テーマは、基礎研究、応用研究、技術開発など多岐にわたっており、統一した評価が困難である。来年度は、JABEE 学習教  
育  
実  
融  
目標のC「工学専門知識を活用し、問題解決に向けて自主的に考え、計画を立案・  
行ける技術者の育成」を、どのような評価方法・基準で達成度を評価するかを、  
合複合プログラムの他学科と調整し、統一的評価方法を決定する。
- (2) 実験・実習授業の見直し。(項目(1)(3))  
工学実験テーマ数の見直しと記載内容のチェックが十分できるような報告書にする。  
工学実験はさらに見直し、4テーマ分の報告書を一度に提出する方法には問題(一度  
に提出するため中身を十分見ることができない)があり、毎週提出させることを考  
えている。
- (3) 授業改善の推進。15年度に企業アンケートを実施し、改善内容を検討する。  
(項目(1)(5))  
学校全体で企業アンケートを実施した。その結果から、学科で意見をまとめ報告した。
- (4) 習熟度、応用力の向上のための工夫・努力の検討。15年度から2年生に工学基礎実験

(項目(1)(2)(3))

与えられた課題を自分達で解決し、その方法、結果をプレゼンテーションするという試みは成功したと思われる。(2004年2月18日公開授業)

さらに、教材を検討する予定である。

- (5) 課題演習の時間における有効利用方法の検討。(学内全体に関係あり)

(項目(1)(2)(3)(4))

時間割に課題演習の時間がなくなっていたので、1・2年生の特活の時間を利用して、学生の意識調査と「講義：形状記憶合金と高分子材料」を行った。

- (6) 授業科目のアンケート結果をもとに、各教官、各教科の授業方法を改善。毎年8月末までに前年度実施アンケートをもとに科全体で討議して、各自の目標を実現するための方策を決定して次年度からの授業で実施する。ただし、可能であれば後期から実施する。項目(5)

平成14年度専門科目アンケート分析について学科全体で取り組み報告した。

- (7) 平成14年度から新カリキュラムとなり、授業・実験・実習等におけるもの作り、および、制御に関する科目の増加により、教育機器を充実させる。(平成15年度において2年生に工学基礎実験、平成17年度に4年の創造設計製作、平成16年度にメカトロニクス基礎、平成17年度にメカトロニクス応用開講予定)

工学基礎実験はすでに教育機器はあり、新カリキュラムを実施した。

- (8) シラバスの再検討。

融合複合 JABEE プログラム受審準備に伴い、内容を吟味。とくに、学習・教育目標が複数に関わる科目(創造設計製作など)については、個々の目標における到達度の評価方法、基準を十分審議している。

## 2. 学生の人格形成のための取り組み

- (1) 進路指導方法の見直し。4年生以下を対象として、16年度までに検討。4年生は15年度実施。

そのとき対応した担任の個人的ノウハウで埋没しないよう、共有できる仕組みを検討。

例) 3学年における担任連絡会(含メル会議)など

3学年の特活で、5年生による講話：「私がこの大学への編入学を決めたきっかけ」、「私がこの会社を選んだきっかけ」の二例について実施した。

4年生については、進学・就職の講話および模擬面接などの進路指導を行った。

- (2) アドバイザ - 制度の有効的な実施の検討。

各教官が個別に対応した。

- (3) 3年生、特別活動の協力および支援

兵庫県 Spring-8 研究設備への研修旅行を実施(2003-11-21)

学科より事前の勉強会講師を派遣および学科より2名の引率教官を派遣

## 3. 設備の整備に関する計画

- (1) もの作り教室の整備

ボ - ル盤、旋盤を整備することになった。

- (2) 実習工場の充実

教育に必要な基礎的実習設備と最先端設備を考慮して、新しい実習教育内容等を検討する。

本年度達成できなかった。

(3) 教官室・実験室の整備

本年度達成できなかった。

4. 研究に関する目標

現在の研究活動の状況や問題点を把握し、地域産業のニーズに応えられるように研究内容の最適化および活性化を図るためのシステムを構築する。

研究に関する目標計画

(1) 研究活動活性化の検討。15年度の機械工学科教官の研究デ - タベ - スを作成。

機械工学科教官の研究デ - タベ - スを準備していたが、情報教育センターにて、本校全教官の研究デ - タベ - スを作成することになったので中止。

(2) 学科における重点研究課題(地域産業のニーズに応えられるような研究および最先端の研究など)を設定して、グループごとに企業との共同研究を推進する。そのためには、地域企業への工場見学を積極的に行い、その場で共同研究できる課題を検討推進する。

住友金属鉱山、住友共同電力、サイクスなどを訪問し、プレゼンや情報収集を実施。今後も、引き続きこのような活動を継続予定。まだ接点が見出せていないので、東予産業創造センタなどのフォロー - あるいはバックアップが更に必要である。

(3) 博士を取得するための支援

主任裁量経費および旅費の支援を行った。

## ○ 総括的な評価と課題

### 1. 総括的な評価

点  
検  
上  
・ JABEE 審査にあたりカリキュラムの内容(教育のあり方の見直し)を十分検討し、現時点では系統的教育システムが得られたと考えられる。また、シラバスについても学科で検討した。このように学科で共通の問題を検討したことにより、各教官の教育意識が向上してきたと考えられる。

・ 教育に関しては、従来問題が生じた時点で議論して解決していたが、学科運営目標を明確にすることにより、共通認識のもとで議論できたことは評価できる。

の 2  
検  
討  
・ 学生指導に関して、3年生と4年生の進路指導は十分できたが、1年生と2年生は特活の2回しか実施できなかった。アドバイザーは個人で行っているが、実効のある方法を検討することが必要である。

機  
・ 設備に関する計画。本年度は、校長裁量経費により購入したモ - タドライバセット、制御ソフト、信号解析ソフト、ノート PC がメカトロニクス基礎、メカトロニクス応用、機械制御の教育に利用できるようになった。

・ 研究に関する目標は、企業との共同研究が実施されるようになり、道が開けつつあると考えられる。

### 2. 総括的な課題

・ JABEE 審査に向けて、平成 16 年度も継続してあたる。

・ 教育に関して、卒研評価を継続検討する。工学実験は、本年度見直しをした具体的方法を実施する。

・ 学生指導に関して、進路指導の時間を生み出す方法(特活の時間・課題演習など)を考え、実施できる体制を模索する。

・ アドバイザーについても実効のある方法を確立する。

・ 設備に関する計画は、実技を伴う新設開講科目について教育機器を充実する。

・ 研究に関する目標は、企業との共同研究が実施されるよう積極的に行動する。

## ○ 運営目標の実施状況とその成果

## 1 電気情報工学科の基本方針

## (1) 教育関係

- ・ 社会に対する貢献と義務の責任を自覚した正しい倫理観を持ち、電気情報工学の基礎と教養を身に付けた技術者の育成
- ・ 自分の目で観察し、自分の頭で考え、問題を解決しようとする創造性豊かで、活動力・想像力に満ちた国際感覚豊かな実践的技術者の育成
- ・ 論理的記述力、プレゼンテーション能力等自分の考えを正確に他人に伝達する能力を有する技術者の育成
- ・ 多様化する情報化社会への対応として、情報が分かる電気技術者、電気が分かる情報技術者の育成
- ・ 卒業時に第2種電気主任技術者と同等の能力を持つ技術者の育成
- ・ 教官FDの推進
- ・ IT手法を用いた授業方法改善

倫理教育については、5年生の卒業研究の一部を利用して、各研究室ごとに「はじめての工学倫理」昭和堂、を読ませ、レポートを提出させた。また、論理的記述力、プレゼンテーション能力等の育成については、実験等で発表会を行ったり、口頭試問で応答を指導するなど訓練しているが、高学年ではパワーポイントを使う機会も増やしている。学力を定着させるために、資格試験の受験を通して技術や知識を身に付けさせるよう心がけているが、大きな成果は上がっていない。なお、本年は5年電気工学科の学生が1名第3種電気主任技術者の試験に合格している。

教官のFDについては、定例の科会議とは別に毎週一回会議を開いて学生に時間外に勉強してもらうための教官の対応等についての議論や実験の改善等について継続的に検討している。なお、最近学科共通に事務室で使うプロジェクタとノートパソコンを購入し、学科のFD会議で活用し始めている。電気情報工学科では学科共通ファイルを科ホームページに設け、各種ファイルをその中に入れて会議の場で活用する体勢をとっている。

IT手法を用いた授業方法の改善についてはプロジェクタを用意している教官もいるが、本年度はまだ活用してはいない。低学年の情報教育では、情報処理室でプロジェクタを活用して授業や演習を行っている。特に「情報リテラシ」では、課題演習を学生とメールでやりとりする方法を取り入れている。

## (2) 研究関係

- ・ 教官研究業績の向上
- ・ 研究の活性化とその結果の教育への反映

教官の研究業績向上については十分とはいえ、もっと頑張る必要がある。しかし、本年は平成15年度理工系教育高度化設備である「移動体用情報通信シミュレーション装置」の導入が認められ、電気工学実験や卒業研究への大きな反映が期待されているし、研究面でも学会発表の推進に大きく貢献できるものと期待されている。また、9月末には一名が学位を取得した。

## 2 平成15年度の具体的実施目標

### 教育関係

#### (1) 電気情報工学科として特に低学年教育の充実のために

- ・専門学科1年生の成績不振者への早期対応等の教育指導体制（アドバイザー指導制）充実のために、担当担任（電気情報工学科教官）を設置する。
- ・電気基礎科目、工作演習、基礎実験で行っている少人数教授体制を継続する。
- ・4,5年のコース制（電気情報工学科）に対応したカリキュラム・シラバスを点検し、見直す。

1,2年専門クラス担当の担任は各1名ずつ、その学年の専門科目の授業を多く担当している教官を選定し、専門科目の授業を通して指導に当たった。号令係や席替えなどの専門クラス運営を行ってきた。低学年アドバイザーは、「電気情報基礎演習」、「回路理論演習」を通して各学年5人ずつの教官が8,9名ずつの学生を分担して指導を行った。かなりよく学生を把握できたのではないと思われる。各教官からの情報は、必要なときは適宜学科教官に何らかの形で知らされている。しかしながら、1年生では1名の中途退学者と長期欠席者を、2年生では一部成績不振者を出している。今後さらに混合クラス担任との連携も密にして対応する必要があると思われる。

学科FD会議では実験の見直しとコース制に対応したシラバスの見直し、さらには数年後のIT化社会の変貌も視野に入れた、電気情報工学科カリキュラムの再検討も検討項目に挙げようとしている。

#### (2) 電気情報工学科、電子工学専攻の全学生に個人別目標管理を行わせるために、年度初めの目標と年度終りの評価を行える学習等達成度記録簿を付けさせる。

実施している。成果はまだ議論していない。

#### (3) 情報処理室の改良整備のために

- ・プリンタ（2台）を追加する。
- ・ソフトを変更（Windows NTからWindows2000,Office2000への変更）する。

プリンタの整備は行っているが、ソフトウェアについては、情報教育をどのように進めていくかという大きな視点からの議論の後で整備する予定であり、最近検討に入ったところである。

#### (4) JABEE対応のために、平成15年度に予備審査の受審（電子工学専攻）を行う。

夏までJABEE受審の方向で検討していたが、準備不足のためと融合複合領域で受審することになったため、受審は中止となった。本審査受審に向けて検討を進めている。

#### (5) JABEE対応のために、選択科目を増やし、学生に受講する機会を与える目的で、例えば、電気情報工学科の4年生から導入する電気工学コース、情報工学コースの授業を電子制御工学科の学生が受講できるようにする等電気情報工学科と電子制御工学科の共通の授業科目の設定の検討を開始する。

E, D共通の科目設定の検討については、スタートとして両学科における3科目同時開講科目の設定を平成16年度からスタートすることになった。科目としては、半導体工学、ロボット工学、情報通信システムを5学年で開講する。現時点で実現できるのは上記科目くらいであるが、今後さらに検討を加えていく予定である。

#### (6) 教官教授力のスパイラルアップのために、授業参観、公開授業等を実施すると共に学生授業アンケート結果を反映させた授業改善について検討を開始する。

公開授業は年4回実施する計画であったが、7月7日から助手を除いた全員で、各々一科目について、夏休みをはさんで9月11日まで授業参観を実施した。今年度は1回と2回を合併して行い、残り2回は実施しなかった。事後のまとめ等を考えると年4回は多

すぎるようなので、来年度は2回くらいがよいのではないかと考えている。授業参観終了後できるだけ一週間以内に検討会を行い種々指摘しあったので、次からの授業に生かすことができたと思われる。

また、2月中旬には電気工学実験1(シンクロスコープを使った実験)と電気工学実験3(制御工学・電力工学に関する実験)についても公開授業を行い、実験方法の改善と新しいテーマ開拓の成果を公開した。

- (7) 在学中に取得する資格認定数を増やすための方策についてのガイドブックを整備する。

本項目については古いガイドブックの更新はできなかった。新任教官も増えたので、次年度には各分野の担当を決めて、ガイドブックの整備を図りたい。

- (8) 学生実験内容の整備のために、4年弱電、5年強電関係の実験内容を点検し、見直す。外部点検評価を機会に実験全部の指導書を集め、現在それを基に学科全員で実験内容の見直しとテキストの整備のための会議を毎週行っている。

- (9) 単位認定を実効のあるものにするために、勉学の習慣(予習、復習)を身に付けさせる方策(本当の意味での実力を付ける方策)について検討を開始する。

半年かけて科会議で検討を進めた結果、16年1月からオフィスアワーの改良案を作り、1週2回放課後学生が質問や予習復習のために集まることができる場の設定を行い実施している。教官も半数が2回の内どちらかへ顔を出すように申し合わせている。

- (10) 5年生での学会発表実施に対する方策についての検討を開始する。

具体的な検討は始めているが、教官がその意識は持つようになっている。

本年度は、7月中旬に開催された電子情報通信学会MEとバイオサイバネティクス研究会に専攻科1年、2年の学生が各1名ずつ、秋の電気関係学会四国支部連合大会に5年生2名、専攻科2年生1名、専攻科1年生2名の発表があった。また、3月上旬に行われた電気学会関西支部主催の「平成15年度高専卒業研究発表会」にも5年生が1名参加した。

## 研究関係

- (1) 教官研究業績向上のために

・各教官とも学会で最低1件以上を発表し、科全体で学術論文5件を発表することを目標とする。

・研究成果発表が少ない現状分析と問題点の洗い出し、改善策の検討を開始する。

改善策の検討を開始することはできなかったが、このような項目を運営目標としてあげることにより目に見えない成果があったものと考えられる。次年度はしっかりと検討を始めたいと思っている。

学会発表は、学生に発表させたものも含めて、口頭発表19件、学会主催の研究会発表3件、紀要2件、投稿中の学術論文1件であった。7名の教官が発表している。

- (2) 科研費申請の活性化のために8件以上申請することを目標とする。

本年度申請者は5名であり、目標を達成できなかった。申請書の提出が間に合わなかった者もいた。

- (3) 研究グループの結成に向けて具体的活動を開始する。

卒業研究に関連して5グループを作って学生指導を進めているが、教官研究分野の関連でグループを結成しているのは3グループであり、さらに検討が必要である。

## その他

(1) 電気情報工学科PRのために、パンフレットを新たに作成し、中学校、企業へPRを行う。

「はばたけ未来へ」の電気情報工学科ページをリニューアルしたが、それ以外のパンフレットは作成できなかった。

(2) 電気情報工学科のWebページを点検し、見直す。

電気情報工学科のWebページの見直しはできていると思われるが、さらに広報・図書図書委員会の意見もふまえて再度見直すことを検討している。

(3) 地域企業との連携推進のために、2件程度の共同研究を行う。

本年度は受託研究は1件であった。

## ○ 総括的な評価と課題

総括的な評価としては、この一年間は少ない人数で何とか頑張ってきたと思われる。各教官は幾分過負荷のため仕事が停滞気味の面もあったが、それなりの成果を出していると考えたい。

3年の担任は毎日7時半頃から教室で学生の登校状況を指導・チェックしてきたことは大変なことであったと思われる。夏季体験学習、出前講座、高専市民講座での講演、公開講座、その他の講習等も電気情報工学科教務委員や新任教官はもとより全教官の尽力によって積極的に開催してきたことは評価されるべきであろう。教官FDについては現在継続して検討中であり、ホームページ上に学科共通ファイルの設定、共通の会議用ノートパソコンやプロジェクトの設置等学科全員で討議できる環境を整えた。これからは討議内容のレベルアップを図って、教育・研究のスパイラルアップを図っていききたい。

学生の学習意欲の向上については、まだまだ課題が山積しており、学生、教官ともに質の向上を心がける必要がある。若い活発な教官が増えたので、今後期待していききたい。研究面でもまだまだ活性化ができていないので、これからさきに大きな課題を残している。来年度は学术论文の投稿や科研費申請の活発化を図ることが大きな課題と考えられる。また、電気情報工学科が2年目になるので、シラバスの整備や実験設備の充実を優先課題として、学生の素質を十分に引き出せるような教育・教育環境の充実を心がけなければならない。

## ○ 運営目標の実施状況とその成果

## 1 教育目標の明確化、カリキュラムの見直し、JABEE 審査への対応

## (1) JABEE 試行を受審予定

融合・複合分野で受審のため準備中

## (2) 高学年から専攻科へのカリキュラムの継続性を見直しと、本学科高学年の科目と電気（電気・情報工学科）の新カリキュラムとの関連の再見直しを行う。

電子制御工学科では、JABEE 推進チーム、電気情報工学科との協議、を通じ、本科 4 年生以上と専攻科へ連なる科目体系を設定した。また、この見直しに基づき、電気情報工学科との連携に基づく次のカリキュラムの改訂を行った。

## a) 5 D 「情報通信システム」および「ロボット工学」

変更前：後期、「情報通信システム」1 単位（栗原）および「ロボット工学」1 単位（山田）ともに必履修

変更後：後期、「情報通信システム」1 単位（栗原）、「ロボット工学」1 単位（山田）、および「半導体工学」（E 科、尾西）の 3 科目のうち 1 科目選択

## （改善の狙いと内容）

既に、進路や関心ある技術分野が明確化している 5 年後期において、情報・通信分野、メカトロニクス分野、電子デバイス分野から選択させて、高度な内容を教授する。

## （改善にいたる経緯）

- ・点検報告書（H14 年）アンケート結果：「授業が面白くない」への対応
- ・自己評価書（H14 年）の記述：「電気・電子教官が共同して選択科目を増やす」への対応
- ・平成 15 年 8 月以降の学科会議による協議により、改善方針決定

## b) 5 D 「経営工学」

変更前：後期、1 単位、電子制御工学科のみで授業

変更後：後期、1 単位、電気情報工学科と電子制御工学科とで合同授業

## （改善の狙いと内容）

新設の科目において、2 学科共通の一斉講義を行い、授業への十分な準備の時間を確保する

## （改善にいたる経緯）

- ・「学生のニーズに応じた少人数、大人数授業」試行の一環
- ・平成 15 年 11 月以降、学科会議および教務委員会での協議により改善方針決定

## (3) シラバスの内容の検討を行う。

電子制御工学科ではシラバスは学科全体で作成し、内容に責任を持つという方針のもと、学科会議で検討を行っている。本年度の検討を通じ、実施時間数の増強を含むシラバスの改訂を行った例を下記する。

## a) 1 D 「電子基礎実習」

変更前：通年、隔週、1 単位（出口、榊原）

変更後：通年、隔週、1.5 単位（出口、榊原）

## （改善の狙いと内容）

低学年時にあって、専門分野や将来の進路への興味を喚起するとともに、併せて、専門分野への基礎となる低学年での科目履修の意欲を増進させるため、1 D 「電子基礎



実習」を隔週3時間にして内容を充実させる。具体的には、全テーマについて「解説」を1時間程度に増加するとともに、後期に1テーマ追加する。

(改善にいたる経緯)

- ・点検報告書(H14年)アンケート結果:「授業が面白くない」への対応
- ・自己評価書(H14年)の記述:「低学年時からの専門分野への意識付の必要性」への対応
- ・平成15年8月以降の学科会議による協議により、改善方針決定

b) 1D「情報基礎実習1」

変更前: 通年, 隔週, 1単位 (榊原, 占部)

変更後: 通年, 隔週, 1.5単位 (榊原, 占部)

(改善の狙いと内容)

低学年時にあって、専門分野や将来の進路への興味を喚起するとともに、併せて、専門分野への基礎となる低学年での科目履修の意欲を増進させるため、1D「情報基礎実習1」を隔週3時間にして内容を充実させる。具体的には、通年で5テーマを追加する。

(改善にいたる経緯)

- ・点検報告書(H14年)アンケート結果:「授業が面白くない」への対応
- ・自己評価書(H14年)の記述:「低学年時からの専門分野への意識付の必要性」への対応
- ・平成15年8月以降の学科会議による協議により、改善方針決定

(4) 電子制御工学科、電子工学専攻の全学生に、年度初めの目標と年度末の評価を学生自身が行うための「学習達成度記録簿」を付けさせ、個人別目標管理を行わせる。

電気情報工学科との協議により、添付ファイルに示す在学期間中を通した「学習達成度記録簿」と、定期試験ごとにアドバイザの指導の下にPDCAサイクルを行う「(成績記入用紙)学習達成度記録簿」を設けている。このアドバイザは、各学生に在学期間中を通じて同一教員を割り当てて一貫した指導を行うと共に、担任との重複を避けて、万一、学生と担任の意志疎通が難しくなった際にもバックアップできるシステムにしている。

(5) CAD室の効率化と、情報基礎教育実施に伴う予算措置

教育効果を考えた教育用ソフト(電子教材、OS、言語ソフト等)整備の検討、情報セキュリティの強化を検討

教育用ソフトの整備は実施できていない。16年度予算でOSの更新、リテラシー関連ソフトの購入を検討

(6) 技術の進歩に即した実験テーマの設定と測定機器類の整備

制御工学実験のテーマと内容の検討、オシロスコープ、実験用コンピュータ等の更新、不足機器の追加を検討

基礎工学実験室のパソコンを更新した。

- ・LabVIEWおよびNI-ELVISを基礎工学実験室に導入。
- ・基礎工学実験室のパソコンに高速A/D変換ボード、および、プリアンプを装備。
- ・基板加工機のソフトの最新バージョンを導入。

(7) 学生支援の強化

「全学年生に対して学生支援体制を作り支援を行う。」

本年度より教員のオフィスアワーを設定して、学生の指導体制を強化した。また、卒業、特別研究については、研究ノートによる日々の指導、および、教官グループ単位の定例討論会を定着させた。

## 2 課外活動の奨励、支援、創造性教育(感動体験教育)の取り組み

### (1) 電子制御実験、電子創作実習、卒業研究

### (2) ロボコンの取り組みの強化、プロコンの取り組み(通年体制として確立)

ロボコン、プロコンの入賞を目指す。

1)プロコンにおいては、課題、自由、競技の3部門が全国大会の出場した。自由、課題は特別賞を受賞、競技では準優勝を果たした。この結果卒業研究が充実した内容になったほか、低学年からのプロコン出場希望者が増加した。

### 2)パテントコンテストへの入賞

5年生において、知的財産権の入門と特許明細書執筆上の注意に関する講義を行い、卒業研究から発明を抽出させる取組を推進したところ、(財)発明協会主催の平成15年パテントコンテストで電子制御工学科5年生2名の連名の応募が、高専部門において本年は全国で4件が入選した「出願支援発明」となった。これは「短時間計測が可能な音波式温度分布計測システム」に関する発明で、3月末までに、弁理士の指導のもとに出願し、特許庁の審査を経て成立すれば、発明した学生が特許権をもつことができる。また、その際の弁理士費用、出願手数料、審査請求料及び権利化後の維持費2年分はコンテスト主催者側が負担するという、たいへん有利な賞である。

## 3 志願者増員対策

### (1) 体験学習や国領祭での科展示など学科PR活動の強化

電子制御工学科をもっとPRする。

H15年度夏季体験学習の参加者100名。

### (2) 学科PRの強化

ホームページの改善、学校案内パンフレットの見直し

効果的な改善ができていなかった。

## 4 教官研究の活性化、地域との連帯

### (1) 学位取得を目指す教官への時間的予算的援助

昨年度に引き継ぎ1名が学位を取得したが、未取得者に対する支援体制は十分とは言えない。

### (2) 地域企業等との共同研究、地域活動

ユースエンジニアリング、妻鳥工業、等との共同研究、新居浜市との連携、NPOへの参加

・ユースエンジニアリング(株)との共同研究を実施、

フロンガス分解装置の電源周波数の最適値について検討。

・川之江市切山地区案内ロボットの製作について技術相談を受ける。

試作ゼロ号機を設計製作。

・妻鳥通信工業(株)との共同研究を実施、

緊急時などの位置通報に関わる汎用システムおよび端末の開発。試作機を製作し、上記システムの基本動作を確認・E-e-himeとの無線伝搬実験に協力参加

・NPO e-えひめへの参加継続

特定の教官の上記企業等との連携は今年度も続いているが、学科全体としては、不十分である。また、研究成果においても特定の教官以外は、低調であった。

## 5 教育の改善活動の推進

### (1) 公開授業の実施

- ・12月8日(月)6,7時限 電子基礎実習および情報基礎実習1の公開授業を実施。両科目を併せて、11名の授業参観があった。
- ・授業参観日に、4D電子創作実習を実施。
- ・2月25日に、4D電子創作実習ミニロボコン競技会を公開。

### (2) 研修会等への積極的参加

- ・8月新任教官研修受講。
- ・平成15年度工学教育連合講演会(6.15)に参加
- ・高等専門学校情報処理研究委員会第23回研究発表会
- ・電子情報通信学会主催のJABEE自主研修会(3/6,7)に出席
- ・3月4日～5日 LabVIEWBasicsII コース受講

## ○ 総合的な評価と課題

### 1. 評価

高学年から専攻科へのカリキュラムの継続性の見直しと、本学科高学年の科目と電気・情報工学科の新カリキュラムとの関連の再見直し、および、シラバスの内容の検討については一応の目標達成できたといえる。また、全学生を対象に、年度初めの目標と年度末の評価を学生自身が行うための学習達成度記録簿を付けさせ、個人別に目標管理を行わせる点に関しても、定期試験ごとに「(成績記入用紙)学習達成度記録簿」を通じて全教官が学生の支援に参加したが、全体としては詰めが甘く、在学期間中を通したPDCAサイクルを行うまでには至らなかった。

課外活動の奨励、支援、創造性教育(感動体験教育)の取り組みに付いては、十分とは言えないが、一応の目標達成ができたと言える。志願者増員対策、および学科PRの強化については十分な対策ができなかった。教官研究の活性化については、目標および達成の方法が明確にされていなかったが、評価としては不十分であった。今後具体的な方策を検討する必要がある。

### 2. 課題

本学科への制御志願者が著しく減少したことに関連し、15年度目標項目の志願者増員対策、学科PRの強化は、16年度においても重要な課題である。また、全学年生に対する学生支援体制については、15年度目標では不十分であった「学習達成度記録簿」の徹底、オフィスアワーの活用、および学生への連絡体制の強化等が課題である。

地域企業等との共同研究、地域活動も一部教官に限定されており、教官研究の活性化、目標および達成方法の明確と合わせ16年度の課題である。

## ○ 運営目標の実施状況とその成果

## 1 JABEE本審査において認定を受ける。

- (1) 自己点検書を作成し、JABEE事務局、日本化学会および審査チームに提出した(7月下旬)。また「生物応用化学プログラム」をHPにおいて公開した。
- (2) 自己点検書に関する疑問点、質問点に対する回答書を作成し、審査長に提出した(11月上旬および実地審査時)。
- (3) 実地審査を受け、審査終了後プログラム点検書(その2)を受け取った(11月16日)。
- (4) プログラム点検書(その2)に関して、事実誤認が無いことを審査長に伝えた(11月下旬)。
- (5) 審査長より送付された一次審査報告書およびプログラム点検書(その3)を受け取った(12月下旬)。
- (6) 一次審査報告書およびプログラム点検書(その3)に関する改善報告書を審査長に提出した(1月下旬)。
- (7) 審査長より、二次審査報告書およびプログラム点検書(その3)をJABEEおよび分野別審査委員会へ提出するとの報告を受けた(1月下旬)。  
現在の所、認定に関する最終結果は出していない。自己点検書の作成および実施審査において準備不足の点は多かったが、教職員の協力をいただき受審できたことは成果であった。

## 2 教育改善の推進

## 教育方法の改善

自らの授業について必ず1回ビデオ撮影を行い、報告書を提出する。

各教官1回ビデオ撮影を行なった。自己分析した結果を、学科内の内部・外部評価委員会がまとめた。教育改善委員会で分析を行ない、平成15年度授業改善に関する重点目標を定めた。

## 3 PR活動の推進

過去数年のPR活動(パンフレット、体験入学、体験学習等)について見直しを行う。

- (1) 過去3年間の体験学習の参加人数と推薦入試の受験者数について調査した。体験学習参加者を増やすことで、推薦志願者を増やすことができれば、入学者のレベルアップにつながる事が推測できた。
- (2) 1、2年生を対象としたアンケートを実施した。生物応用化学科のパンフレットを通して学科を知ったと答えた割合は1年生(55%)、2年生(31%)と共に高く、有効な方法であることが分かった。
- (3) 学科紹介のパンフレットを新規に作成した。学科で学習することの中心は「化学」であることを中学生に理解してもらえるように、内容を見直した。
- (4) 体験学習の実施方法を変更した。単に実験を体験するだけでなく、内容を理解してもらう目的で、各実験の説明、実験結果や感想を記入できる夏季実験学習ノートを作成し、参加者に配付した。また生物応用化学科に関する紹介も実施した。参加者数は昨年度と比較して20名程度増加した。

#### 4 学習支援の推進

1年生に対して有効に機能しているアドバイザー制度を2年生に対しても強化する。

各アドバイザー教官が成績不振学生に学習指導と生活指導を行ない、年2回程度学科内で状況報告を行なう予定であった。2月に学生に行なったアンケートより、多くの学生がアドバイザー教官の所に行っておらず、この制度が機能していないことが分かった。

#### ○ 総括的な評価と課題

JABEE 審査を通して、不十分な点、問題点などについて指摘を受けたことは、本科4、5年及び専攻科におけるカリキュラムの見直し、技術者像の明確化などの点において大きなプラスであった。しかし、一方で4の「学習支援の推進」において指摘したように、本科低学年における指導体制は十分機能しなかった。また学科パンフレットの新規作成、体験学習の実施方法の見直しなど PR 活動に努力したが、推薦志願者数および学力志願者数を増やすことはできなかった。

## ○ 運営目標の実施状況とその成果

## 1 中期目標・中期計画の中で、15年度に実施する事項

## (1) 教育目標、カリキュラム、シラバス検討WGを設置し、JABEEも考慮に入れて検討する。

- ・教育目標、カリキュラムについては、JABEE 推進グループの進捗にあわせて、十分な検討を重ね、まず教育目標を決め、それを達成するためのカリキュラム系統図を作成した。それらをもとに、H16年度以降のカリキュラムの変更について検討し、結論を出すに至った。
- ・シラバスについては、H15年度分の本科および専攻科の全科目のシラバスについて検討し、内容、表現の統一など改善点を拾い出した。これらの検討項目は、H16年度分に反映させる。また、他高専や大学のシラバスを参照し、本校のシラバスとの比較、検討を行った。
- ・目標を設定し、目標に沿ったカリキュラムの検討（変更）ができた。
- ・シラバスについてもいくつかの改善ができた。

## (2) 教育改善WGを設置し、現状調査、公開授業等教授方法改善策を実施する。達成度評価方法についても検討する。

- ・授業アンケート分析のため、アンケート結果を数値化し、学生評価の高い授業について公開授業を行った。

アンケートの設問10項目の内、評価項目を授業に直接関連する6項目として満点600点から最低-600点となるよう数値化した結果、評価点数は417～-194（平均点129）の範囲で分布した。この内、材料加工学（417点、谷教官）と材料力学（397点、志賀教官）を公開授業とした。

前者はパワーポイントを主体とする授業、後者は板書を主体とする授業である。

- ・公開授業の感想や意見を収集し、学生評価の高い授業を分析した。
- ・材料力学の公開授業をビデオに収録し、授業参観できなかった教官も視聴して、教授方法を分析した。
- ・勉強アンケートの結果については他学科との比較をするに留まった。  
すなわち、宿題やレポートは「他人のものを参考にする」、「丸写しにする」学生が両方で53%と材料工学科が最も多い。また、1日の勉強時間「ほとんどしない」学生が69%で材料工学科が最も多い、など問題があるが、これらの結果は機械工学科の結果と酷似しており材料工学科特有の問題点ではないと考える。なお、アンケート結果全体において機械工学科と材料工学科の分布に似通ったものが多いが、「自分の将来に明るい希望を持っていない」学生は、材料工学科が33%で最も多く、機械工学科が19%で一番少ない。
- ・アンケート結果を数値化することによって授業を定量的に評価できた。
- ・公開授業参観およびビデオ視聴した教官全員が見習うべきところを捉えた。
- ・2つの公開授業に共通する点が多く、授業の進め方、授業の良いところ等を2ページ（A4）にまとめ、各教官の授業改善に活用できるようにした。
- ・達成度評価の方法は基本的にはシラバスに記載とおりの評価方法で良いと考える。一方、到達レベルの設定や評価方法の妥当性に関わる問題がある。

シラバスに記載された評価方法の実施状況を検討するため、授業アンケートの「シラバスとおりの評価か」について分析した。この項目4は1で述べた授業アンケート

の分析には含めていない。項目4を数値化した結果は、全体的に低い値であったが、1の結果と相関が認められ、1の学生評価の高い授業は項目4が高得点であった。なお、「シラバスの内容を知っている」とした学生は平均として25%に満たないことは問題点である。

・到達レベルを適切に設定し、評価方法が妥当であれば、授業アンケートによって達成度の一部を評価できる。

(3) 求人に来校した企業や、インターンシップ受入れ企業等に対し、最近の卒業生に対する正直な評価の聞き取り調査を行う。(外部評価調査)

・13社の企業と4名の卒業生から聞き取り調査を行った。

今回調査した企業の多くは、(新居浜)高専卒業生を高く評価していること、また、「専門基礎知識をしっかりと身につけ、自ら考えられる能力を持った学生」を希望していること。さらに、コミュニケーション能力の向上や精神面の鍛錬に寄与することから「課外活動を重要な位置づけにしている」ことが明らかとなった。

卒業生の意見は母数が少ないので一般論としては扱えないが、MS-Word, Exel等の市販ソフトを使いこなせるようになっておきたかったこと。また、企業の第一線で働いている人の講義には心動かされるものがあったようである。

・アンケートとは違った正直な聞き取り調査ができ、それなりの成果は得られたが、母数が少なかった。H16年度は年度当初から全教官で取り組みたい。

(4) 実験・実習にプレゼンテーションを組込む。

・材料工学入門(1Z)は、7週毎に1/4の学生を順次回転して、種々の体験をさせているが、多くのグループが、最後の1~2週はそれまでの成果を発表しあう方式をとった。発表状況をビデオで再現し、検討したところもある。

・材料工学実験2,3でプレゼンテーション能力の向上を意識して、発表をさせたり、レポートを厳しく評価するなどしている。

・材料工学実験4では1,2週目で実験を行い3週目に報告書作成およびプレゼンテーション(質疑応答)を行った。教官1名に対して学生1名。提出された報告書をもとに質疑応答の形式で進める。単に報告書の内容を朗読するだけではなく、自分の言葉で説明するように指導している。自分の言葉で説明するためには内容をしっかり理解していなければならないので、プレゼンを導入してからは以前に比べて報告書作成時に「理解しよう」とする姿勢が見えるようになった。

(5) 卒研評価の見直しを行う。

・本年度の評価は、実験遂行能力：40%、卒業研究発表：30%、卒業論文：30%とし、卒業研究発表については、4つの評価項目について、教官全員が、5段階で評価し、主任がその平均を集計し、3未満の学生については、再発表させることとした。

・卒業研究発表については、基準が明確になり、また発表自体大変よくなった。

・課題としては、卒研の遂行状況をどのように記録し評価するかである。来年度はこの課題を検討し、卒研全体としての評価をより明瞭にしたい。

(6) 進路指導を早期から取り組む。

・保護者懇談会で、前年度の求人一覧表、過去5年間の就職、進学先を配布して、進路決定に対する具体的な意識を高めるよう努力した。(4Z)

・就職関連本(SPIなど)の教室への設置、SPIテスト(性格)の試行等を実施した。

・どのような成果があったかについては、調査するに至らなかった。

(7) PRキットを充実させ、体験学習等に備える。また材料工学科パンフレットを有効に活

用し、志願者の増員を図る。

- ・既存の超伝導キット，形状記憶合金キット，制震鋼板など素材の見本，の他に，今年度学研「大人の科学シリーズ1～9」およびソーラカーキットを購入し，体験学習などに活用した。体験学習の幅が広がった。

2 「高専に来てよかった！」「材料工学科に来てよかった！」と感じさせるような教育環境（講義，実験実習）を作る（全教官）。

- ・教官一人一人が，良い講義を心がけ，学生と良い人間関係を作るよう努力した。また，努力しようと教室会議などで話しあった。

3 授業環境の改善を徹底（全教官が協力して学生に徹底させる）

きれいな教室，きれいな黒板

遅刻をしない

居眠り，私語をしない

教室に漫画等の持込みをしない

- ・年度当初に材料工学科の掲示板，教室に掲示し，主任，担任，科目担当教官は，学生に説明し，守るよう呼びかけた。
- ・朝，始業前に教室の前に立ち，遅刻寸前の学生には声をかけてきた。放課後，教室の点検を行い，片づけ，黒板拭き等を学生と一緒にやってきた（3Z，4Z，5Z）。もともと出席状況の良いクラスであり，その傾向は継続された。（4Z）
- ・教室の清掃状況は，以前よりはかなりよくなった（3Z，5Z）。
- ・ノートを提出させ，評価すると授業中の集中度が増し，私語や居眠りが少なくなった。
- ・実験室への携帯電話と漫画の持ちこみを禁止した結果，不注意によるやけど等の事故が非常に少なくなった。

4 部活動への全員参加（学生）を奨励

教官も全員何らかの部または愛好会に関与する。

- ・4，5月に1～5年生の実態を全教官が協力して調査し，参加していない学生には，今からでも参加するよう呼びかけた。  
1年生：34 / 43 = 79.1%，2年生：24 / 42 = 47.6%，3年生：21 / 37 = 56.8%，  
4年生：17 / 33 = 51.5%，5年生：19 / 30 = 63.3%であった。
- ・後期になって，参加していない1年生にその後の参加状況を聞いたが，新たに部活動に参加した学生は皆無であった。
- ・1年生の最初の段階で，参加させることが必要であり，以降は，いかに卒業まで継続させるかである。
- ・社会に出ても学生時代の部活動がいかに大切かを，教職員や先輩たちの話を通して理解させる必要があると思う。

5 学生会・寮生会への積極参加（学生，寮生）を奨励

学生会長や国領祭執行委員長等学生会役員に意欲的に参加しよう。

寮生会長，寮生会役員，指導寮生，指導寮生補佐等に積極的に参加しよう。

- ・主任，担任，学生委員，寮務委員など教官全員が積極参加を呼びかけた。
- ・学生会役員は，5Z 岸（総務），藤田（国領祭執行委員長），石村，岸，伊藤，越智，近藤，高橋，西本（国領祭執行委員），3Z 安部（文化局補佐）で，国領祭には積極



的に参加したが、全体としては、あまり成果があったとはいえない。

- 6 実験設備の充実（主任裁量経費の遣い方，校長裁量経費の獲得）
  - ・校長裁量経費は，5 件申請し，実質 2 件（万能試験機のシステムアップ(252 万円)，ラフトチャンバー（135 万円））採択された。
  - ・3 月中に設置されるので、H16 年度以降有効に活用したい。
- 7 若手教官の研究を支援（主任裁量経費）
  - ・主任裁量経費 10 万円を学位取得の励みとして，支援した。
  - ・論文投稿 2 件（日本セラミック協会誌，新居浜高専紀要），国際学会発表 2 件，国内学会発表 1 件
  - ・2004 年中には，博士論文が取得できる見通しが立った。

## ○ 総合的な評価と課題

- ・ 1 . の中期目標・中期計画に掲げた目標については，材料工学科全員が心を一つにして取り組み，おおむね達成できた。  
あとは，実験・実習，卒研の内容の更なる充実を図ることおよび，卒研の平常時の評価方法を確立することである。  
教育改善については，種々のアンケートなどを参考に，常に改善，向上に努めたい。
- ・ 2 , 3 , 4 , 5 , については，目標に掲げるまでもなく，教官として常に考慮すべき大切な事項であり，15 年度については，それなりの効果はあったと思われる。成果の如何に関わらず，毎年継続してゆきたい。

（課題）

- ・卒業研究，特別研究の評価を確立すること
- ・アドバイザーの機能が有効に働くようなシステムを作ること。
- ・1，2 年生と専門教官のかかわり方を検討すること。
- ・入学志願者倍率を高めること。推薦志願者を倍増すること。
- ・進級率・卒業率を高めること。
- ・活気があり，しかも「ルールとマナーを守る」授業環境を作ること。

## ○ 運営目標の実施状況とその成果

1. 愉快で闊達な職場風土形成を目指す。  
科会議を毎週とし、議論を活発に行い、意思疎通を図り、風土的にかなり改善できた。
2. 科内組織として、数学グループ、物理グループ、化学グループの3グループとする。  
推進体制を整備し、グループごとの小体制をとった。
3. 新しい学校の教育理念・教育目標の数理科における定着を図る。  
すべてのワークに当たり、このことを原点に据えてできるようになった。
4. 工学基礎科目であり、かつ重要な教養科目である数学、物理、化学を、専門科目への円滑な接続が図れるレベルで、かつ、技術者として付与すべき素養レベルまで、教授する。  
そのために必要な具体的教育改善活動を、チャレンジャー精神で企画・立案し、実施する。
  4. 1 数学：中学の新指導要領対策及び計算力低下対策  
Hand Held Computer 導入試行  
数学は、カリキュラム変更の最終年で、3年にわたる変更課程が完全にスタートした。評価はこれからである。さらに今年度は、数学に接続する応用数学について内容の改革案提示を行った。
  4. 2 物理：新課程に整合したカリキュラム変更  
演示授業の充実と座学・実験融合授業の新スキーム提案  
物理は、新1年生からカリキュラム変更を行った。また、演示授業推進体制を整備した。
  4. 3 化学：演示授業の充実と座学・実験融合授業の新スキーム提案  
化学は、演示授業推進体制を整備し、実行した。
5. 情報教育センター関連部門と連携し、その在り方を検討し、情報教育を推進する。  
情報教育センターと連携し、諸施策を企画実行した。
6. 生物教育の必要性と実現案を検討し、提案する。  
準備として、新規採用の教官に生物学、生物応用工学の専門性もある人物を選抜した。どう取り込むか等の検討は継続検討とした。
7. 混合学級における授業については、非常勤講師との連携を含め、科内の連絡を密にし、進度や学習内容の統一を図るとともに、混合学級の利点を生かす教育を各機関と連携して推進する。  
基礎工学科目の非常勤講師は最小限としているが、どうしても頼らざるを得ない現状、当該科目常勤教官が中心となり、密な連絡を図り、常勤教官と遜色ない学習の教授が行えた。

- 8 . 各専門学科教科内容につき、積極的に見直しに関わり、その教育改善推進に寄与する。  
散発的に関わったが、当初考えていたほどの達成状況にはない。ただ、専攻科教育委員会と JABEE 関連委員会を通してこの面に関わり、教育改善に寄与した。
- 9 . 学生の学習意欲の向上及び自律的な学習・生活習慣の形成を支援するため、また、個に応じたきめの細かい進路指導を行うため、学校全体での取り組み強化に対応し協同する。  
特に、数理科が教科との関連で責務を担う低学年に重点を置く。  
低学年教育委員会の設置に伴い、この委員会を通して、生活指導面での混合学級教育に多大の成果を上げた。
- 10 . オフィスアワーについて、全学に協同して実施する。  
全学に協同して実施した。全教官ともオフィスアワーは盛況であった。ただ、当科の場合、オフィスアワーは以外も勉学のための来訪を認めており、オフィスアワー内と外ともに活発であった。
- 11 . 研究活動について、教官個々の研究課題に加えて、数理科としても地域ニーズに対応した研究の可能性を追求する。また、地域との連携の一層の推進も行う。  
学会発表、論文投稿、特許登録等の知的財産生産を行い、教官個々の研究活動はおおむね活発であった。
- 12 . 独立行政法人化、J A B E E 認定に向けた全学的取り組みに数理科としても協同する。  
全学的取組に協同した。

#### ○ 総合的な評価と課題

設定目標はおおむね妥当であり、各項目とも80%以上達成できたと総括する。一番の観点は目標1に代表される意識面改革であろうが、時間のかかることでもあり、着実に成果を上げてゆくことが、今後の課題である。

**○ 運営目標の実施状況とその成果**

- 1 学校の教育理念・教育目標の定着をはかる。
  - 理念・目標を各教科の授業に反映させる。 -
  - 理念を念頭におき教育にあたると共に授業を通じた教育目標の追求に努めた。
  
- 2 教科ごとにグループを編成し、効果的な授業を進める。
  - 非常勤講師も含めて教科ごとのグループを編成し、教科内容の検討、見直しを行うほか、意見の交換、授業参観などを通じて授業方法の改善に努める。 -
  - 教育改善推進計画にもとづき、各教科グループごとに実施した。
  
- 3 英語力の向上をはかり、科としても支援する。
  - 英語教育改善WG等で授業方法の改善を行うほか、科としても経費等の面で支援して行く。 -
  - 英語科の協力要請に対応したが、経費の支援は新任教官の研究・教育費のほかは困難であった。
  
- 4 J A B E E 認定に向けた各学科・コースの取り組みに協力する。
  - 各学科・コースの学習目標等に各教科を対応させて行く。 -
  - J A B E E 認定に向けた協議に参加し、カリキュラム編成に協力し、教育方針に対応した。
  
- 5 教官の研究活動の推進をはかる。
  - 科学研究費の申請等を実現させて行く。 -
  - 研究の推進に努め、科学研究費の申請も前年度より1件の増加をみた。
  
- 6 地域との連携を検討する。
  - 公開講座等の件数が前年度よりも増加するよう努力する。 -
  - 公開講座等の件数が前年度より2件増加したほか、地域研究も1件あった。

**○ 総合的な評価と課題**

抽象的な目標の成果がどのようなものであったかは表すことが困難であるが、具体性を伴う目標は一定の成果をあげたといえる。ただし、質的にも量的にもより成果をあげることが求められる。

## ○ 運営目標の実施状況とその成果

## 1. 専攻科生の潜在能力の発現（勉学・学生会活動・奉仕活動など）

## 1.1 勉学

- [ 1 ] 専攻科基礎科目担当部会を立ち上げる
- [ 2 ] 英語教育特別推進室：高橋先生(中川に変更)を主軸に国語教官、AV機器担当教官、英語科教官
- [ 3 ] 数学教育手億別推進室：柳井先生を主軸に各専門学科およびAV機器担当教官、物理担当教官

前期において、英語担当教官と“TOEIC: 400”達成を目指した長期計画について議論を行い、原案を作成した。さらに、“英語学習支援用ソフト”の申請を行う。生産工学専攻より生物応用化学専攻が分離申請を学位授与機構へするため、数学担当教官との連絡会を実施し、カリキュラムについて見直しを行うと共に、新設科目を設けた。

後期において、英語担当教官として新採用された外国人講師の長所を活かした教育方法などについて議論を行い、実施した。専攻科基礎科目である数学・英語の専攻科入試における必要性の見直しを数学担当教官及び英語担当教官と実施した。学生が“TOEIC IP”試験を受験しやすくするため、“TOEIC IP”試験の法人会員になる申請が採択され、本年度末に実施される。

## [ 4 ] 資格取得への指導

各専攻において、取得可能な資格をリストアップし、資格取得への援助活動の推進

専攻科履修要覧を全面的に改定し、取得可能な資格を掲載し、学生へ配布。

さらに、外部者である大学院大学の教授、新居浜高専の先輩創業者などによる講演を行う。

## [ 5 ] 各コースおよび専攻別のカリキュラムの見直し

\*10年間のカリキュラム変遷とその技術者像との関係を見直す。

9月末、生産工学専攻と電子工学専攻（本科のM,E,D,Z科）による“複合・融合新領域）JABEEが立ち上がり、JABEE実行委員会へ専攻科教育委員会が積極的に参加し、カリキュラムの見直しを実施する。

## 1.2 学生会活動の充実

専攻科1,2年生への連絡事項、合同討論、合同レクレーション等を行うミーティングアワーを新設する。（毎週か隔週の水曜日、午後1時から2時間程度）但し、時間割上では、特別研究の時間にしておき、専攻科長、各専攻主任は必ず参加できるように時間割を組んでおく。（願わくば、校長先生も、時折参加して頂く）

## [ 1 ] 四国地区高専総合文化祭への参加

## [ 2 ] ボランティア活動への参加

学生会活動については、学生の福利厚生に関する意見を聞き、その実現に向けてミーティングルームの新設した。春と冬のクラスマッチに専攻科生が参加し、春ではバレーボール・野球において決勝リーグへ進出し、冬ではサッカーにおいて準優勝を飾った。しかし、ミーティング・アワーを時間割へ設けることができなかつ

た。校長先生による専攻科1, 2年生への講話を実施した。

### 1.3 奉仕活動

- [1] 本校環境保全委員会の連携による地域に対する環境保全啓蒙活動  
本校環境保全委員会との連携による活動を実施した。

## 2. 専攻科生の教育研究環境の整備

### 2.1 ミーティングルームの新設(旧専攻科棟の長田教官室)

ミーティングルームの新設を実施し、学生から要望を基に整備を行う。

### 2.2 他の大学等の科目履修方法について、具体的に専攻科履修要覧へ掲載する。

その中へ、長岡技大のe-learningも含める。

全面改定した専攻科履修要覧へ掲載を行う共に、その履修指導も実施する。

長岡技大、豊橋技大など大学4校と仙台電波、群馬、岐阜、豊田、鈴鹿、新居浜を含む6高専による“高等教育IT活用推進事業”に係る遠隔教育による単位互換に関する協定について情報教育センターと連携しながら検討を行い、3月中旬に締結予定である。

### 2.3 専攻科の2専攻が同時に開講できるAV施設の要求

要求書を提出したが、見送られる。

### 2.4 図書館、教育情報センターなどの整備

図書館の蔵書が整備される。さらに、教育情報センターとの連携により、英語学習支援ソフト能ochALC NetAcademy”、音源ボードの導入、セキュリティカードシステムの導入などが実施された。

### 2.5 図書館経由の外部データベースの使用規定

教育情報センターとの連携により本校のネットワークに関する規定がまとめられた。

## 3. 専攻科の広報活動の充実

### 3.1 専攻科生の活動状況を“高専だより”へ数ページ以上掲載する。

- [1] 平成15年度の第1号:(漫画的なイラストやカラー刷りなどの対応はできないか?)

専攻科生の活動状況を“高専だより”および“新居浜高専校報”へ積極的に掲載した。

- [2] 進路指導体制の強化:5年担任との面談を実施する:4月上旬

5年生担任との面談も数回実施する。

- [3] 本科4年生以下へのPR活動については、“高専だより”、“TAによるアピール、特に実験・実習”、1, 2, 3年生の特活において“専攻科のPR”を実施する。(CD/ROMなどを作成し、それをういたPRを実施する。専攻科交流会、特別研究の実験風景、学会発表、企業との交流など。そのために、メディア、パソコンを1台申請する)

申請するが、認可されなかった。

- [ 4 ] 本科4年生については、特に進路決定における大事な時期なので、2ヶ月に1回程度、4年生担任および専攻科希望学生との接触を図り、専攻科希望者を募る。3年次の特活において専攻科のPRを実施した。そして、4年生担任との専攻科進学へ向けての懇談も数回実施する。図書館したロビーに専攻科PR用パネルを作成し、掲示した。専攻科PR用CD-ROM作成の原案を作成した。さらに、専攻科PR用パンフレットの全面改定を行い、各企業、官公庁へ郵送・持参した。

### 3.2 専攻科生の活躍する場を提供する。

- [ 1 ] 中学生の校内見学会に、アイデアコンテスト審査を実施し、表彰する。  
(リーダーとして、専攻生)  
中学生の校内見学会に、アイデアコンテストの実施はできなかった。
- [ 2 ] 本科の実験及び実習におけるTAとしての参加。(本科学生に対しても、専攻科生の存在が身近になる)  
本科の実験及び実習におけるTAとしての参加についてトライアルを実施する。
- [ 3 ] 工業技術懇談会における、特別研究成果の発表。  
高度技術教育センターとの連携により、工業技術懇談会や新居浜市役所においてパネル展示を行う。
- [ 4 ] 高度技術教育研究センター(以下高技センター)の専門部会に参加。  
企業との共同研究における打合せ会に専攻科生も参加する。
- [ 5 ] インターンシップを地域の企業で実施する。また、中学校(技術家庭科など)、パソコン講習会、高技センターの各種講習会におけるアシスタントなど。  
今年度よりシニア・インターンシップを地域の企業や官庁などで実施した。
- [ 6 ] 新居浜市役所、新居浜市商工会議所に専攻生の特別研究のパネルを展示して頂く。  
高度技術教育センターとの連携により、新居浜市役所への展示を行った。
- [ 7 ] JR新居浜駅に、専攻科生の成果である作品(例えば、介護の車イス、環境モニターシステムなど)や写真等を掲示して頂く  
JR新居浜駅への展示はできなかった。

## 4. 専攻科の教育改善推進

### 4.1 教育改善の必要性を訴える外部講師による講演会を開催する。

- [ 1 ] 東海大学、安岡先生の講演会、東京大学、天野先生の講演会  
計画した講演はできなかったが、外部講演会として、高知高専、教育改善室長である島内教授による講演会を実施する。
- [ 2 ] 卒業生による講演会(企業における意識改革のセミナー)  
本校卒業生である平田会長、神野社長、村尾社長、土居参事官などによる講演会(セミナー)を実施した。
- [ 3 ] 教育改善に熱心に取り組んでいる高専の教務主事による講演会  
実施できなかった。
- [ 4 ] 校長先生による講演会  
実施できなかった。
- [ 5 ] 以前、実施していた学内教官による教育方法の発表会  
教務委員会の運営により、教官会において実施された。
- [ 6 ] 愛媛県教育委員会との連携  
教務主事の企画・運営により、英語教育フォーラムが実施された。

- 4.2 教育改善のため、学生の協力を得る。学生はとても熱心にであり、その気にさせる努力、つまり、学生の授業に対する意見を毎時間聞くなどを実施する教官側の積極的な姿勢、そして、その結果を必ず学生へ次の時間にフィードバックを行う。学生は、自分のレベルを上げたい、勉強をやりたいという気持ちを持ち続けており、教官以上に、真剣に取り組んでくれると考えられる。

[1] 例えば、ミニッツ評価<毎回、授業の評価をまとめ、学生へフィードバックを行う>

専攻科生に対する授業アンケートを行い、その結果をまとめており、フィードバックを行う予定である。ミニッツ評価の試行も実施する。

- 4.3 学内教育改善委員会の設置： 企画室としての立場

教育方法の改善、教育技術の向上、教育貢献評価、その他教育改善の推進に関すること

教育改善推進計画の冊子が作成され、学内の組織の連携が図れた。

教育改善委員会の設置に向けて検討が行われている。

一方、本年度、M, E, D, Z科による“複合融合・新領域：JABEE 受審が決まり、その実行委員会も設置され改善が進行中である。

5. 専攻科の学習・教育目標を達成するために必要な資質を持った学生を入学させる。

- 5.1 専攻科入試への内申点の導入

[1] 平成15年度に過去の受験生について内申点を導入した場合をシミュレーションする。

実施できなかった。

[2] 入学試験の検討のため、平成15年度には、現在までの専攻科生の本科の成績、入試成績、入学後の状況を調査する。

過去の専攻科入試における選抜方法別による修了者数と修了率の算出、専攻科入学後の成績と選抜方法との関係などについて検討を行う。

さらに、入試科目としての数学・英語の見直しに取りかかる。

一方、面接方法、社会人特別選抜資格の見直し、長期履修制度の検討、他高専における専攻科入試方法の検討なども行う。

[3] 他高専の調査も同時に行う。(旅費が必要である：九州、四国、中国、近畿、中部、関東、東北、北陸、北海道：9校を訪問し、本件以外の項目を含めて実地調査する)

実施できなかった。

## ○ 総合的な評価と課題

1. 専攻科生の潜在能力の発現

1.1 専攻科が育成する技術者像を見直し、カリキュラムの点検を行い教育システムを再構築することができた事は評価できる。

課題は、その実施、分析・検討を来年度行いたい。

1.2 学生会行事への積極的な参加を促進することはできたことは評価できる。

課題は、勉学に対する意欲も向上させたい。

1.3 学生の意識向上を目指し、本年度特別講義1「ベンチャーマインド養成セミナー」を本年度開講し、学生の講義に対する評価も高く、この結果に満足している。



来年度、さらにこの講義の内容をを発展させ、新居浜高専独自の講義科目の設置を目指しその計画を行ったので、実施した結果の分析・検討を来年度行いたい。

- 1.4 課題として、専攻主任を核とした専攻科生の学力、進路指導の見直し、ミーティング・アワーの計画実施を行いたい。
  - 1.5 課題として基礎学力の更なる向上を目指し、基礎科目担当者との連携を継続したい。
  - 1.6 課題として、専攻科生による奉仕活動への自主参加を目指したい。
2. 専攻科生の教育研究環境の整備
    - 2.1 本年度導入した英語学習支援システムの導入をすることができたことは評価できる。しかし、課題として、来年度はその活用について英語担当教官のみならず、専門教官との連携を図りたい。
    - 2.2 本年度、各学科及び科から e-learning 教材の開発について参加意志が得られことは評価できる。課題として、来年度の実施しによる分析・検討を行い、新たな自己学習システムの整備を行いたい。
    - 2.3 専攻科の生産工学専攻より生物応用化学コースが専攻分離し、3専攻になった。課題として、この3専攻が同時に受講できる AV 施設(60 ~ 80 名程度)等の環境整備予算申請を行いたい。
    - 2.4 学習環境整備の課題として、専攻科生ミーティング室に数台のパソコン、プリンターの設備を申請したい。
3. 専攻科の広報活動の充実
    - 3.1 今年度、「高専だより」への掲載頁数の増刷、「専攻科 PR 用パネル」や新規な専攻科パンフレット、専攻科募集ポスターの作成などを実施した。さらに、特別研究活動が新聞などにも掲載された点は、評価される。
    - 3.2 来年度、4月22日から開催される本校において開催される中国四国地区専攻科生研究交流会のポスターを企業や官公庁へ掲示し、専攻科生の活動を PR したい。
    - 3.3 課題として、本年度より再開しているシニア・インターンシップ(NPO 活動、自治会館におけるパソコン講習会活動など)の活動を地域へ PR を継続する。
    - 3.4 最重要課題である学内における専攻科生の存在をアピールする方法を実施したい。そして、やる気のある多数の本科生に専攻科を希望して欲しい。
4. 専攻科の教育改善推進
    - 4.1 専攻科設立後 10 年が経過し、生産工学専攻より生物応用化学コースが専攻分離し、3専攻になった。専攻科が養成する技術者像を見直し、カリキュラムの点検を行い教育システムを再構築することができた。そして、生物応用化学学科を除く 4 学科による「複合融合新領域」JABEE プログラムが立ち上がる。専攻科に開設される専門科目や基礎科目の e-learning 教材の開発日程が決まり、来年度が実施される。以上の内容については評価はできる。
    - 4.2 しかし、現在、社会が最も要求している「デザイン能力」、「技術者倫理」などを養成するためシラバスの見直しや科目の新設などが、来年度の課題である
5. 専攻科の学習・教育目標を達成するために必要な資質を持った学生を入学させる
    - 5.1 本年度より専攻科の入試方法について見直しを行ったことは評価できる。

課題として、入試の選抜方法、試験科目、面接方法を見直しを継続する。

- 5.2 本年度実施できなかった過去の専攻科受験生について内申点を導入したシミュレーションを実施し、解析する。

以下の内容については、結果のみを記載し、上述の結果などを参考してほしい。

問題点：

1. 専攻科受験促進対策  
不完全である。
2. “JABEE 推進室” から “教育改善推進室”  
実現に向けて検討中である。
3. 外部評価団体である JABEE への対応：シングル、ダブルの方針  
シングルの方針である。
4. 専攻科棟における専攻科学生の快適な環境整備  
不完全である。
5. 専攻科生の活躍する場の提供  
不完全である。
6. 専攻科インターンシップ(学外実習)の奨励  
約 30%の実施であった。
7. 1 専攻科担当教官の資格審査  
学位授与機構からの資格審査に関する提示を全教官へ周知し、各教官がその対応を実施している。
7. 2 教官のリフレッシュ制度  
独法化による運営方針が定まるまで難しい。
8. 専攻科履修要覧の大幅な改訂  
ほぼ完全実施した。

## 1.3 センター・委員会等運営目標の実施状況

### 高度技術教育研究センター

センター長 川崎 宏一

#### 運営目標の実施状況とその成果

##### 1 基本方針

「開かれた，力強い高技センターを！」目指して，以下の活動を推進する．

- (1) 産学連携活動
- (2) 市民・企業向け活動
- (3) 情報発信

ほぼ基本方針に従って活動できた．

##### 2 運営方法

- (1) センター長，副センター長，越智専門職員で「方針検討会」を毎週開き，案件の検討を行う．適宜，部門責任教官，関係教官，アドバイザー（東予産業創造センター事務局長），の出席を求める．また，センター長，副センター長は，メール・面談により，各委員・教官との連絡を密に行い，活動の活性化に努める．
- (2) センター運営委員会は方針，センターテーマ，予算など重要事項の審議を行う．
- (3) シーズ発信型，ニーズ対応型，双方の共同研究を推進する．
- (4) 開かれたテーマ研究会，工業技術懇談会などの，市民・企業向け活動や情報発信を行い，活動の活性化を図る．

方針検討会は毎週活動し，十分に意志疎通を行えた．東予産業創造センター事務局長は，ほぼ毎月一回のペースで出席していただいた．テーマ研究会リーダーのE 稲見先生，D 深山先生には時々出席していただいた．他のリーダーやC 中川先生，M 吉川先生とは，個別に頻繁に協議を行った．共同研究は11件で，受託研究と合わせて12件と増加した．テーマ研究会は新居浜高専知財研究会，教育プロジェクトを開始することができた．

工業技術懇談会などの活動は，四国6高専産学官交流会 in Niihama，工業技術懇談会，科学技術特別シンポジウムを開催した．えひめ財団・東予センターとの共同主催が実現したが，共同主催は来年も継続可能である．

##### 3 推進計画

- (1) 学生高度教育（専攻科生を中心として）
  - ・科学技術シンポジウムの開催継続を行う．
  - ・センター機器を利用した高度教育を行う．
  - ・企業と連携した高技センターの活動に参加する．

専攻科生の出席状況は科学技術シンポジウムは多数であったが，四国6高専産学官交流会 in Niihama，工業技術懇談会は各2名と少なかった．要検討事項である．センター機器を専攻生数名に利用させている．本科生については測定補助または授業・見学に利用している．今後，拡大させていきたい．

共同研究，技術相談に関する研究に，専攻生・本科生を参加させている．今後，拡大させていきたい．

## (2) 学内共同・学際研究

- ・学科横断的に、放射光関連、IT関連、の学内共同研究の進展を図る。「放射光利用微細加工・先端分析」、「介護ロボット」のテーマ研究の推進、及び「情報通信工学懇話会」の新設を行う。

- ・センターテーマについて、マイルストーンによる成果評価を行う。

学科横断的にテーマ研究会を形成しているが、まだ、活動は十分とは言えない。

また、都市エリア予算要求に伴い、研究グループ形成を行った。センターテーマのマイルストーンによる成果評価は、声かけ程度しか行えなかった。企業協力会の構築とも関連して、アクティブな活動グループ形成の方策を検討する。

## (3) 地域共研・技術相談

- ・共同研究・受託研究件数を5件以上とする。(できれば、H16年度中期目標の7年を目指す)

- ・地域に開かれたテーマ研究会・懇話会の新設、工業技術懇談会の懇談活性化、により技術相談の増加を図る。

- ・「放射光利用微細加工・先端分析」のテーマ研究を推進する。推進に当たっては、住友重機械、住化分析、SPRING-8、立命館大学等との連携を図る。

- ・介護工学研究会について、予算獲得、活動でこ入れを行い、自立化支援を図る。

- ・「新居浜高専企業協力会」設立に向けての活動を行う。ネットワーク形成とともに、講演会費用など活動資金の確保も目的とする。

- ・特許検討依頼を年3件以上継続する。

共同研究・受託研究は12件と増加したが、アイデアニーズ対応型、解析ニーズ型、補助金型が主体となった。シーズ発信型は1件である。やはり、地域密着型の産学連携活動はこのようなタイプとなるものと考えられる。

テーマ研究会は新居浜高専知財研究会、教育プロジェクトを開始することができ、広がりが出てきた。介護工学研究会はNPO化により資金を得て共同研究につながった。また、毎日介護賞を受賞した。放射光利用関連テーマはシーズ発信型で地域基盤が弱いため、ペンディングとした。

講演会費用など活動資金はえひめ産業振興財団から得ることができた。企業協力会については東予産業創造センターに事務局を依頼することを提案し、高専事務と東予産業創造センターに調査を依頼することとなった。

パテントコンテストの学生出願を含めると、特許は出願3件となった。従来1件の出願もなかったのに比べると大きく前進した。

## (4) 実験研究設備の提供

- ・「ネットワークアナライザー」の活用など機器の提供機会の増大を図る。

- ・分析機器、IT等について、技術系公開講座の継続開催を行う。また、共同研究企業へ随時に技術教育を行う。

技術系公開講座の継続開催を行った。地元中堅企業へ機器を提供し、技術教育を行うことで、共同研究に発展させた。また、地元大手企業への提供に向けて準備を行った。

## (5) 地域への情報発信

- ・テーマ研究会・懇話会の新設：技術系の「情報通信工学懇話会（仮称；E佐藤先生他）」等の他、文化系の「教育懇話会（仮称；E稲見先生他）」等の設立を図る。「教育懇話

会」では、中学教諭等との連携を図り、公開討論会・出前授業の開催を目指す。

- ・科学技術特別シンポジウムは一般市民にもわかりやすい講演内容で継続開催する。
- ・パネル展示は国領祭期間に開催するとともに、学校外でも企画する。展示パネルは一般市民向け内容に改良する。

- ・工業技術懇談会での懇談の活性化による地域ネットワーク形成を図る。
- ・生涯学習センターとの共催で、「新居浜高専市民講座」を継続開催する。
- ・市民系公開講座として、「ホームページ作成」、「ガラス工芸」、を企画している。

新設した「ガラス工芸」は、公開技術講座当日以外にも、年間を通じ活動予定である。

- ・情報教育センターに、教官のデータベース（教育研究専門分野、技術相談分野、技術シーズ、講演テーマの情報）の作成を依頼する。また、ホームページにもリンクする。
- ・カレントな広報のためのリーフレットを作成・配布する。

テーマ研究会は新居浜高専知財研究会、教育プロジェクトを開始することができ、広がりが出来つつある。

工業技術懇談会などのイベント活動は、四国6高専産学官交流会 in Niihama、工業技術懇談会、科学技術特別シンポジウムを開催し、まずまずの活動であった。工業技術懇談会では紙産業との連携を初めて図り、スパンの拡大を行った。懇談の活性化は今後の課題である。

新居浜市役所でのパネル展示を2回行うとともに、会合のポスター掲示も行ったが、有効と思われる。他の市役所、商工会へもポスターを用いたPRを行った。

「新居浜高専市民講座」及び市民系公開講座として、「ホームページ作成」、「ガラス工芸」、を開催した。公開講座の他に、さらに、ガラス工芸教室を5回開催した。

四国地区高専研究者のデータベース構築の推進を行った。新居浜高専研究者総覧がスタートした。

地元大・中企業訪問、紙パルプ工業界等の団体訪問を行った。専攻科インターンシップPR活動にも協力した。

SICSとの関連を持つことを開始し、Z日野先生の講演会を機会に活動の足がかりを獲得した。

ジュニアドベンチャー選手権に4件応募した。M宮田先生が優秀賞を得るとともに産学連携活動が広がった。

カレントな広報に関しては、リーフレットを作成できなかったが、会合の冊子を作成した。パンフレットも企業ニーズに合わせて、改訂中である。また、マスコミへの広報を強化し、新聞・TVへの報道が増加した。

## 運営目標外の実施項目についての実施状況とその成果

教育関連で市民対象の教育フォーラムとサイエンス・パートナーシップ・プログラム（小学生対象の実験体験企画）に初めて取り組み、成果があった。

### (1) 教育フォーラム2003「英語の使える日本人をどう育てるか」

愛媛大学、新居浜市内の小・中・高の英語の教員、当高専の野村先生の講演の後、パネル討論を行い、一般市民80名、本校教職員50名と多数参加し、盛り上がった。

### (2) サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）

2日間にわたり、小学生を対象に、テーマ「電気で遊んでみよう」と題して、小学校や家ではできない科学の実験を体験してもらった。当高専の松英、横山、西井の各先生が取り組み、新居浜市内14校の小学5、6年生40名が参加し、大いに成果があった。

## ○ 総合的な評価と課題

共同研究・受託研究は12件と増加したが、アイデアニーズ対応型、解析ニーズ型、補助金型が主体となった。シーズ発信型は1件である。やはり、地域密着型の産学連携活動はこのようなタイプとなるものと考えられる。特許は出願3件となった。従来1件の出願もなかったのに比べると大きく前進した。テーマ研究会は新居浜高専知財研究会、教育プロジェクトを開始することができ、広がりが出来つつある。工業技術懇談会などの活動は、四国6高専産学官交流会 in Niihama、工業技術懇談会、科学技術特別シンポジウムを開催できた。技術相談も110件を超えている。全体にみて、活動は上向いて来ている。

教育関連の市民対象及び小学生対象の取り組みは、成果があったと言える。

課題であるが、群馬高専との議論をまとめてみると、企業ニーズは、アイデアニーズ（技術相談・共同研究）、解析ニーズ（センター保有機器）、学生採用ニーズに絞られる。一方、企業協力会と出前セミナーを両輪とした公式活動でPR・シンパ作りを有効に進める。PR・シンパ作りによるブランド評価作りを背景にして、上記3つのニーズをテコにして、水面下での、企業の信頼獲得、外部資金の獲得、共同研究契約、に動くというストーリーである。

今後、企業協力会など外部を巻き込んだ活動レベルアップのためのしかけの探索と構築に努力することが重要である。群馬高専方式がシンパ作りには有効であろうと思われるが、工業技術懇談会、テーマ研究会、出前セミナーのあり方を検討したい。一方、内部では、教員の研究・活動グループの活性化、学生参画の活性化のためのしかけの探索と構築も行う。

教育関連で市民対象及び小学生対象の取り組みについても、継続・発展させるべきである。発展のためには、高専内の活動グループの活性化を足がかりに行きたい。

**運営目標の実施状況とその成果**

- (1) IT社会構成員としての必要不可欠な情報基礎教育のプログラム構築
  - ・本校の情報基礎教育のための教科書として「ネットワーク社会における情報の活用と技術」を選定し、その中で必ず教えなければならない項目を1～2単位時間程度リストアップした。
- (2) ITを活用した新教育手法の導入推進
  - (2-1) ITを活用した新教育手法の導入推進
    - ・ITを活用した新教育手法の導入推進をするために次の4つを実施した。
      - (A) 専攻科AV教室の利用のための講習会
        - 教職員を対象とした講習会を3回実施した。
          - 第一回：平成15年12月19日
          - 第二回：平成16年1月27日
          - 第三回：平成16年3月5日
        - (B) プレゼンテーションソフト講習会（初級編）
          - 教官を対象とし、本科卒業研究発表程度のプレゼンテーションが作成できるようになるための講習会を平成16年3月15日に実施した。
        - (C) 教室予約システムの構築
          - 事務部門で作成した会議室等予約システムに視聴覚教室を組み込んだ。
        - (D) 視聴覚教室・専攻科AV教室の機器に関するアンケート
          - 専攻科AV教室の講習会を踏まえて、本校教官を対象とした視聴覚教室・専攻科AV教室の機器に関するアンケートを実施した。
    - (2-2) マルチメディア教育、遠隔教育の推進
      - ・高等教育IT活用推進事業と専攻科教育委員会と協力し合いながら、平成17年度開講予定科目の策定および平成16年度授業作成のための準備を行った。
      - ・平成16年度からの新事業 e-learning 実践モデル事業への参加およびその実施計画を検討した。
      - ・SCSの利用に関してはSCS配信がある毎に受信を呼びかけ、平成15年度は現在まで53.5時間利用した。
- (3) 情報教育設備の有効利用と充実
  - ・平成15年度より導入したICカードキーの管理・運用ルールの策定を行った。
  - ・電子計算機室第一演習室および第二演習室でAlc社の英語ソフトが利用できる環境を整備した。
  - ・LabVIEWの学部ライセンスを取得できた。LabVIEWに関する講習会は平成16年3月24日に実施した。
- (4) 学内ネットワーク設備の更なる整備と安全で健全な運用管理の実現
  - (i) 学寮ネットワーク整備と学内LANとの接続、運用管理
    - ・女子寮の建設前に、各居室への有線LANケーブル敷設を寮務委員会へ提案し、工事が行われた。

- ・ネットワーク接続用の機器として、女子寮の各居室から配線された LAN ケーブルを学内 LAN へ接続するためのスイッチング HUB を購入し、接続を実施した。
- (ii) 情報セキュリティ委員会の要請に基づくセキュリティ教育実施の協力
  - ・ IC カード配布時、情報セキュリティ委員会の依頼により情報セキュリティ教育を実施した。
- (iii) 事務処理の効率化、教職員間使用システムの運用管理体制の構築
  - ・ 会議室等予約システムを構築し、平成 15 年 1 月 26 日から運用開始した。スケジュール管理、証明書発行等については未実施。
  - ・ 全国高専機構ネットワークとしてインターネットとは別のパワードコム社の広域 Ether 網を使ったネットワークと、学内 LAN との接続を行った（事務部ネットワークからの接続の確認が取れ、3 月 4 日に全教職員を対象に説明会を実施した。教官用接続は3月中に行う）。
- (iv) 本校のネットワークのあり方についての基本方針、運用管理体制の構築
  - ・ 全国高専機構ネットワークとの関係があり、現時点では流動的であり、未実施。
- (v) 広報・図書委員会と連携し、既存の図書館無線 LAN 設備の利用
  - ・ 無線 LAN アクセスポイントを設置した。
- (vi) 広報・図書委員会策定本校ホームページ充実案の掲載と運用管理
  - ・ 掲載し、運用管理中。
  - ・ 広報・図書委員会からの依頼で、本校ホームページに本校教官のデータを公開するためのデータを収集し、教官一覧表として公開した。
- (vii) 学生委員会策定学生生活動 PR 用ホームページの掲載と運用管理
  - ・ 現在、学生委員会、クラブ顧問会等で検討中であり、未実施。
- (viii) 高度技術教育研究センター依頼による教官のデータベース作成
  - ・ Web 上で入力できるデータベースを構築した。
  - ・ 四国内 6 高専の研究者用データベース構築のために、まず、本校教官のデータ収集を行った。現在、他高専と調整中である。

## ○ 総合的な評価と課題

- ・ (1) IT 社会構成員としての必要不可欠な情報基礎教育のプログラム構築と (2 - 1) IT を活用した新教育手法の導入推進に関しては、時期的にはずれ込んだが年間計画で考えていた内容がほぼ達成されたと考えられる。
- ・ しかしながら、(2 - 1) に関してはプレゼンテーションソフトに関する講習会が本年度一度しか開くことができず、この点に関しては次年度さらに数度講習会を開く必要がある。
- ・ (2 - 2) マルチメディア教育、遠隔教育の推進に関しては、年間計画で考えていた内容はかなり達成されたと考える。特に高等教育 IT 活用推進事業に関しては当初の予定のかなりを達成できたと考える。
- ・ 一方、SCS の利用に関して問題が多い。SCS の利用自体は平成 15 年度は 53.5 時間あったが、そのうちの多くは一度に数人程度が視聴しているだけである。教職員の SCS の利用に関して更に PR が必要であると感じられる。同時に外部への PR のためシステムの確立しなければならない。
- ・ (3) 情報教育設備の有効利用と充実に関しては、年間計画で考えていた内容よりもかなり低い。情報処理室の有効利用はある程度実現できたが、視聴覚教室、専攻科 AV 教室の有効利用のためのアクションは起こせた段階であり、LL 教室に関しては全く手付かずであった。



- ・全国高専機構対応広域 Ether 網と学内 LAN との接続において、財務会計システムを実際に運用する際に今後生じるであろう問題についての対応は今後の課題である。また、学内ネットワークの利用形態方針（教官と学生の利用形態の方針等）の明確化、機構の考えと共に本校の考えを取り入れたネットワーク運用管理のより一層の体制強化が必要と考えられる。
- ・会議室等予約システムは取りあえず運用開始できた。現在、会議室（第 1、2、3 会議室、教職員連絡コーナー南）、乗用車（プリウス、エスティマ、貨物自動車）、視聴覚教室に限定しているが、今後、必要ならば予約対象を広げて行く。スケジュール管理、証明書発行については更なる具体的議論が必要と考えられる。
- ・ATM 専用サービス 6Mbps から広域 Ether 網 100Mbps への契約変更に伴う問題点の検討等は今後の課題である。

## 運営目標の実施状況とその成果

### 1. 基本方針

独立行政法人化を念頭に置き、次の3つの項目を柱（基本方針）として教務委員会の運営にあたる。

- 1) 学生の意識改革
- 2) 学校サイド（教職員、非常勤講師）の意識改革
- 3) システムの構築、業務実施方法の改善

これらを同時並行の形で取り組んでいく。

学生、教官とも意識改革について、目に見えるほどの成果はあがっていないが、教務委員会の運営に関する委員の協力体制は非常によかった。

### 2. 教務委員会の運営方法

主事補を中心とした「方針検討会」は、途中から必要に応じて開催することとしたが、大きな混乱はなく委員会の運営は可能であった。（時間的な問題で方針検討会の開催方法の見直しが必要）また、教務が主体になって行う学校全体の諸行事は、全教務委員が分担・協力し実施できた。

### 3. 具体的主要業務内容

#### 1) 改善を加えながら実施する業務

- 入学式・始業式（新入生研修）
- 1年合宿研修
- 夏季体験学習・体験講座
- 学校見学会
- 中学校訪問・学校説明会
- 実力試験
- インターンシップ
- TA、アドバイザー制度の見直し
- 来年度の行事スケジュール、時間割の作成
- 特別活動の充実（計画書の作成）
- 教育方法改善共同プロジェクトの推進

上記、11項目について実施した。実施前に昨年度の反省点を踏まえた打ち合わせを行い、実施後には来年度に向けた改善点の提案を行った。その内、特に大きな改善等が必要な事項は次のとおりである。

- ・1年合宿研修については、事前学習がまだ不十分であった。
- ・中学校訪問・学校説明会については、説明用のマニュアルと視聴覚機器の利用が必要である。（検討中、広報・図書委員会との連携協力）
- ・夏季体験学習では昨年とほぼ同じ程度の参加者があったが、テーマ毎の参加希望者数には差があり、テーマや実施形態の見直しが必要である。
- ・アドバイザー制度については、2年生の活用が不十分である。
- ・教育方法改善共同プロジェクトの成果としては、来年度、数学、英語、物理、化学

の4科目について、四国高専で共通試験を実施することとなった。また、本校で行っている実力試験との関連性についても見直す必要がある。

## 2) 新しく試行・実施する業務

新成績処理システムの確立（OCRカードの廃止）

オフィスアワーの試行（実施）と定着化

保護者を対象とした公開授業（参観日）、新任教官のための公開授業と新任教官による公開授業の実施

環境問題、国際理解、安全管理などに関する講演会の開催

各科、教科ごとの教育改善グループの組織化：シラバスの充実（周知方法、科目系統図）

定期試験（学年末試験を除く）欠点者へ科目担当者からのアドバイス（課題を含む）の実施

上記、6項目の内、 については未着手である。

- ・オフィスアワーについては、掲示板の設置などを行ったが、実施方法、学生への活用推進について試行中である。（一斉の時間帯で実施、共通場所での実施など）
- ・保護者を対象とした公開授業については、77名の参加があった。参加者からのコメントに対する改善が必要である。
- ・各科、教科ごとの教育改善グループの組織化は実現できたが、まだ有効に機能しているとはいえない。カリキュラムやシラバスの内容の検討について、具体的な実施を行っていく必要がある。
- ・上記 については全学的な実施には至らなかったが、一部実施した（形態は修正）。

## 3) 実施に向けての検討事項

習熟度別授業導入方法の検討（他高専の情報）

入試結果の解析と入試方法（絶対評価の中学校格差に対する対策）の検討

学生個々の学習カルテのレイアウトの検討（年間目標作文の活用）

成績評価の明確化（非常勤講師の科目を含む）とチェック機構の検討

留年、退学が多いことに対する原因分析と対策

担任の引継ぎ方法（マニュアル作製）

上記、6項目の内、 についての検討は行ったが、来年度実施できるところまでの検討には至っていない。他の項目についてはほとんど未着手の状態であり、早期の検討が必要である。

## 4) 他部門（事務系を含む）との連携体制の整備

低学年教育委員会との連携

学生委員会との連携

情報センターとの連携

専攻科教育委員会との連携

他部門との連携としては、参観日の保護者との懇談窓口、ショートホーム、ICカードの利用整備、シラバスのホームページへのアップ方法（学内統一）、J A B E E に関

するシラバス表示や時間割作成など、ある程度実施できているが、まだ不十分な点が多い。特に、低学年教育委員会との組織的な位置関係を明確にする必要がある。また、専攻科教育委員会とはJ A B E Eを見据えたカリキュラムの修正を行ったので、講義内容（シラバス）などについてさらに検討していく必要がある。

#### 5) F Dの推進

フォーラムや講演会についての実施（バックアップ）はある程度できたが、F D定着についてはまだ不十分である。F D活動への参加（全員参加）を目指した推進を行う必要がある。

### ○ 総合的な評価と課題

1. 実務的な業務事項が多く、その実施方法などの改善検討に追われて、今後の実施に向けての新しい取り組みの検討がほとんどできていない。もう少し焦点を絞った検討をして、できるだけ早い実施を目指していく必要がある。
2. 本年度実施した業務については、上述の問題点についての検討・改善を行って実施していく必要がある。
3. 保護者を対象とした公開授業については、参加者の増員対策、クラブ活動状況の見学などを含めた実施方法を再検討する必要がある。
4. 四国高専共通試験について、実施後の結果の有効活用（学生へのフィードバック、F D）を検討しておく必要がある。
5. 次年度の行事スケジュール、時間割の作成については、もう少し早い時期に着手していく必要がある。
6. 各科・教科ごとの教育改善グループの組織的な位置付けや連携体制を確立し、有効に機能させることが必要である。
7. 学業不振者に対する早期指導体制について再検討する必要がある。  
（欠点者へ科目担当者からのアドバイスなど）
8. 4年生の進路決定をできるだけ早い時期に行い、それに向けての準備指導を行うとともに、未決定者に対しては複数回の保護者との3者面談を実施する。
9. F D活動（学内講演会・研修会）への全員参加を目指した推進を行う。

**運営目標の実施状況とその成果**

1. 中期計画に基づく方針

1.1 学生指導に関する目標

[ 1 ] 社会ルールの遵守とモラルの向上

( 1 ) 挨拶運動を行う。

全教職員に学生への挨拶を依頼し、挨拶をする学生が増えてきたという印象を受けているが、まだこちらから声を掛けても全く無視する学生もいて十分とはいえない。

( 2 ) 登校指導

8:20から8:40の間、月2回程度実施する計画(従来の車両チェックを含む登校指導は年5~6回程度)計画を立て、6月より実施することができた。また9月よりは校長自ら月1回の登校指導を行った。学生主事は月3~4回の登校指導を行った。

( 3 ) 学校周辺の巡回、車両指導、駅周辺の見回り

車両指導については、9月より、事務職員による車両チェックを実施し、効果を上げている。学校周辺の見回りや休憩時間での校門指導について、全教官の協力を得て学生委員と交互に実施することができた。校門指導については別紙1のようにある程度の効果を上げることができた。しかし、依然として周辺住民からの苦情(喫煙、不法駐車など)が後を絶たない状況である。

( 4 ) 学生の服装を含む身だしなみ、および食べ歩き、ポイ捨てなどの対策

来年度より、1,2年生の茶髪、ピアスを禁止する方針を打ち出した。

( 5 ) 万引き、窃盗、交通マナー(自転車の二人乗りなど)、喫煙対策

担任への依頼とともに教室へポスターを掲示した。しかし、教室内外での盗難が頻発し、来年度に向けた抜本的な対策が必要である。

今年度の処分学生は別紙2に示すように、昨年度の35人から22人に減少しているものの、低学年の学生に服装の乱れや、授業のさぼりが目についた。

( 6 ) 女子ロッカーでの喫煙、清掃対策の検討

来年度からの、男子ロッカー、体育施設などを含む教養施設の清掃指導方針を作成した。今年度については、男子ロッカーはサッカー部に依頼し、女子ロッカーは年度末近くから自主的に清掃に取り組んでくれた。

( 7 ) 学生の処分

別紙2参照

( 8 ) 万引き、窃盗、喫煙、暴力事件などの原因調査とその抜本的な対策の検討

万引き、窃盗に対しては、指導マニュアルを作成して、保護者、担任に配布した。

喫煙に対しては、禁煙外来を導入し、12名の喫煙学生のうち6名が受診した。しかし、一旦禁煙しても再び喫煙するケースがあり、再喫煙の理由などを調査する必要がある。また、喫煙については全学的なアンケートをチャレンジプロジェクトの学生および学生委員会で実施した。その結果、喫煙者の割合は

1年生12% 2年生12% 3年生19% 4年生21% 5年生27%  
と学年を追うごとに喫煙率が上がってきていることが分かった。上の結果から、

3年生までの喫煙学生だけでも100名を超えることがわかる。したがって、本年度喫煙指導した学生はその10%程度ということになる。

暴力事件も1件発生した。このケースでは、早くから学生からのメッセージがあったにもかかわらず、それに気付いて適切な対応をすることができなかった。

## [ 2 ] アルバイト

( 1 ) 実態調査を行い、それに基づいて対策を検討する。

アンケート結果から、アルバイトをしている学生は

平日：1年生 14 % 2年生 28 % 3年生 44 % 4年生 52 % 5年生 44 %  
土日：1年生 21 % 2年生 46 % 3年生 54 % 4年生 59 % 5年生 50 %  
と、2年生でも平日に30%近い学生がアルバイトをしている実態が分かった。

また、保護者アンケートでは60%以上の方がアルバイトを肯定的に捉えている結果がえられている。これらに基づいて、新年度からアルバイトを現在の許可制から届け出制に変更し、アルバイトの実態を担任が把握し、指導に役立てていくこととした。

## [ 3 ] 学生会活動および課外活動の支援に関する目標

( 1 ) チャレンジプロジェクトの支援システム

学生委員の中に担当者をつくり、募集要項の作成と掲示を行った。また、学生大会でもアナウンスを行った。その結果、以下の4件の申請があった。

- ( a ) 新居浜高専禁煙活動推進研究会 代表 5 C 田岡千明
- ( b ) 2003 柳川ソーラーポート 代表 4 Z 佐々木昇平
- ( c ) I T ボランティア活動 代表 3 D 縄田 怜也
- ( d ) あすなる学園ボランティア 代表 1 S M 三木江 一郎

## [ 4 ] 学生会活動の活性化

( 1 ) 学生会および国領祭担当教官の設置

学生委員の中からそれぞれ2名の担当者を選び、活動の支援と指導を行った。

( 2 ) 代議員会の定期的な開催依頼

学生委員会として学生会へ申し入れたが、あまり開催されなかった。

( 3 ) 学生委員会と学生会との定期的な交流会の開催

学生会長との非定期的な会合に終わってしまった。

( 4 ) 学生会へ校門挨拶運動の実施を依頼

これも依頼を行い、毎月の第1月曜日に実施する予定である旨の返事を得たが、実施の報告は受けていない。

( 5 ) 学生会へ環境美化(環境委員)、図書利用の活性化(図書委員)の依頼

それぞれの委員会で、活動を行った。

## [ 5 ] 課外活動の活性化

( 1 ) クラブ顧問との定期的な会合

クラブ顧問会を設置し、3回の会合を行った。

( 2 ) アンケートなどでクラブ活動の実態把握を行う。

実施していない。

( 3 ) 全員顧問制についての検討

法人化の枠のなかで、次年度以降検討する必要がある。

( 4 ) 課外活動のPR

各クラブへホームページ作成の依頼を行った。

- ( 5 ) 課外活動時の車両違反、マナー(2人乗りなど)対策  
クラブ顧問へ指導の徹底を依頼した。
- ( 6 ) 文化部の活性化対策  
発表の場を多く作ることを計画したが、国領祭での一部の実施しかできなかった。
- ( 7 ) 帰宅部対策  
具体的な対策を実施することができなかった。

## 2. 中期計画に組み込まれていない項目について

### 2.1 プログラミングコンテスト支援体制について

#### [ 1 ] 支援組織を作り、全学的にテーマを募集する。

開催地委員会を立ち上げ、実質的な活動を既に始めている。

キャッチフレーズに弓削高専の学生からの応募作品が採用され、ポスターに本校学生の応募作品が採用された。

課題部門、自由部門に各1チームが予選を通過し、競技部門とともに本戦に参加した。競技部門は準優勝というすばらしい結果を残した。

### 2.2 ロボットコンテスト支援体制について

#### [ 1 ] 支援組織の強化を図る。

ノウハウの継承を図るよう部員を指導した結果、そのように活動をしてくれた。しかし、アイデアの公募は行うことができなかった。

## ○ 総合的な評価と課題

### 1. 評価

#### 1.1 学生指導に関する目標

##### [ 1 ] 社会ルールの遵守とモラルの向上

朝の登校指導や挨拶運動を通して、挨拶をする学生が増えた印象を受けているが、まだまだ十分とはいえない。車両指導は事務職員による巡回によって、効果的に行えるようになったが、大型バイクの乗り入れ等については問題が残っている。また、周辺住民からの苦情(喫煙、不法駐車など)も後を絶たない。

学生の身だしなみ、食べ歩き等については十分な指導ができていない。特に、休憩時間や昼休みに茶髪、ピアスの学生が県営住宅付近で大勢がたむろする状況が見られた。これについては、保護者アンケートなどを参考にして、新年度から1,2年生については茶髪、ピアスを禁止する方針を打ち出した。また、休憩時間にむやみに外出しないような指導も行い、それなりの効果を得ることができた。

万引きについては、処分学生は昨年度に比べて昨年に比べて大差ないものの非公式情報も含めるとかなり減少している。しかし、校内での盗難が数多く発生し、新年度に向けた対策が必要である。

男女ロッカールームや体育施設などの共用施設の利用については、きちんとしたルール化がなされていなかったため、新年度に向けたルール化の方針を作成した。

喫煙については、禁煙外来を導入し、喫煙処分の学生12名中6名の学生が受診した。その効果については、さらなる検証が必要である。

##### [ 2 ] アルバイト

保護者アンケートや実態調査アンケートを行い、新年度から許可制から届け出制へ移行することとした。これにより、アルバイトの実態を把握し、より適切な指導

が行える体制を整える。

[ 3 ] 学生会活動および課外活動の支援に関する目標

チャレンジプロジェクトを新設し、4 件の申請があった。学生会活動については呼びかけや提案は行ったものの、実質的なものはあまり得られなかった。ただ、学生の環境委員による美化活動ではそれなりの成果を上げることができた。

課外活動については、クラブ顧問会を設置して、クラブ関係の問題を議論できる環境を整えることはできたが、実質的な議論の深化はこれからの問題である。

文化部の活性化については、十分な成果を上げることができなかった。

1 . 2 プログラミングコンテストおよびロボットコンテスト支援体制について

[ 1 ] プログラミングコンテスト

支援体制を確立し、本年度の本校での開催に向けての準備体制を整えることができた。また、競技部門で、過去最高の準優勝に輝いた。

[ 2 ] ロボットコンテスト

全国大会に出場はできなかったものの、アイデア賞、特別賞を得た。校内で予選を行うほどの支援体制は作ることができなかった。

2 . 課題

2 . 1 学生指導について

- ( 1 ) 登校指導、挨拶運動の徹底
- ( 2 ) 1, 2 年生の茶髪、ピアスの指導の徹底
- ( 3 ) アルバイト指導の徹底
- ( 4 ) 共用施設の利用ルールの徹底
- ( 5 ) 盗難防止
- ( 6 ) 部活指導のあり方についての議論の深化
- ( 7 ) 学生会活動の活性化
- ( 8 ) 文化部活動の活性化

2 . 2 プログラミングコンテストおよびロボットコンテスト支援体制について

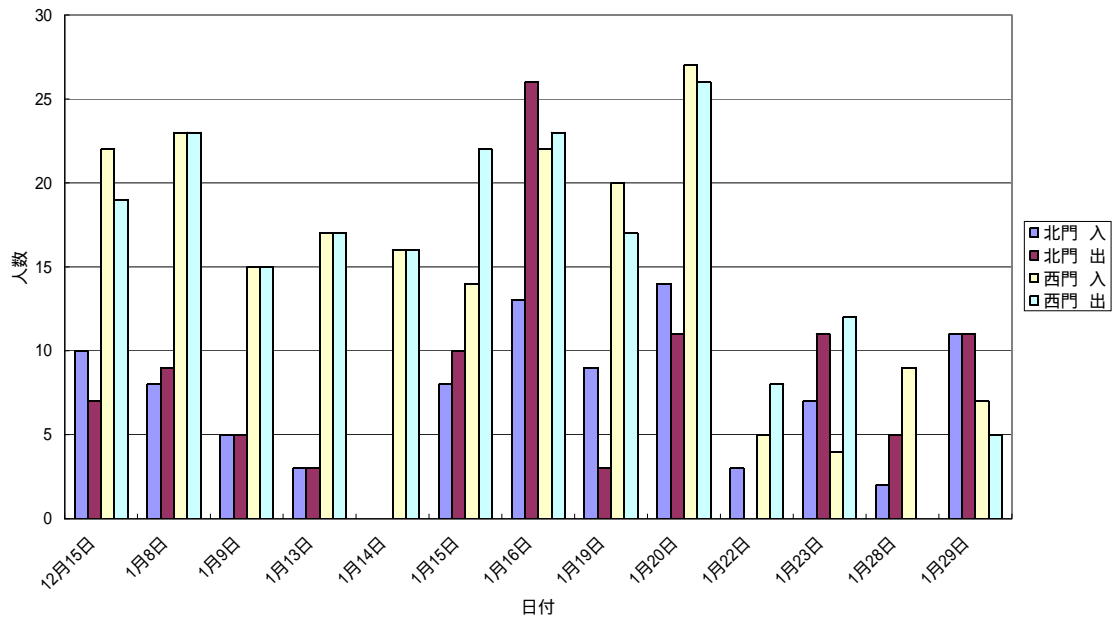
- ( 1 ) プログラミングコンテストの本校での開催準備
- ( 2 ) プログラミングコンテスト参加学生の支援
- ( 3 ) 四国地区ロボットコンテストの本校での開催準備
- ( 4 ) ロボットコンテスト参加学生の支援



別紙 1

休憩時間指導結果

2 - 3時間目休憩時間外出者調べ



2時間目と3時間目の休憩時間に、12月には60人前後の出入りがあったのに対して、指導後は20人前後に減少し、1月末には10人前後まで減少した。

別紙2 処分学生について

平成15年度	平成14年度
1年 喫煙 3名	0名
暴力 1名	0名
無免許 3名	0名
窃盗 0名	2名
万引き 0名	2名
カンニング 0名	1名
小計 7名	5名
2年 喫煙 4名	2名
万引き 1名	0名
窃盗 2名	1名
カンニング 0名	3名
小計 8名	6名
3年 喫煙 2名	15名
万引き 1名	1名
不正乗車 0名	1名
小計 3名	17名
4年 喫煙 3名	2名
カンニング 1名	1名
暴力 0名	3名
小計 4名	6名
5年 暴力 0名	1名
小計 0名	1名
合計 22名	35名

平成14年度には非公式情報としての万引き9件が、平成15年度には同じく1件が追加される。

### 運営目標の実施状況とその成果

#### 1 学寮の運営方針 「学寮の環境美化」

- ・学寮の環境整備の一環として、校長裁量経費により、雄風北寮(2年生)の床張り替え、手すりの塗装が行われた。さらに、各棟各階に冷蔵庫と掃除機が設置された。
- ・環境美化活動として次の内容を実施した。
  - 寮周辺の草刈り
  - 十字池およびその周辺の清掃
  - 粗大ゴミ置き場の雑誌、電気製品等の処分と清掃
  - 寮周辺に放置されていたタイヤ等粗大ゴミの処分

#### 2 実施項目

##### 2.1 女子寮の管理運営体制の確立

- ・女子寮の名称を学生、教職員から募り、応募のあった中から「清新な気風の中で、協調・友愛・自立の精神を育む寮」を目指して「清風寮」に決定した。
- ・女子寮の施設・設備、運用方法等について、WG、寮務委員会で検討を重ね以下のように決定した。

居室設備	机、イス、ベッド、ワードローブ、エアコン、ネットワーク接続端子など
共用部分設備	浴室(シャワー室、ユニットバスを含む)、スタディスペース、コミュニケーションスペース、ランドリーコーナー、ダイニングスペース など
防犯対策	入退室管理システム、玄関防犯カメラ、1階窓面格子緊急連絡電話、非常警報装置、周囲のフェンス など
管理体制	男性教官2名が毎日宿直(休日の昼間は教官1名が当直) 女性教官1名が2週に1日宿直 学寮指導員(毎日19:00~22:00)

- ・10月26日(日)視聴覚教室において、女子寮へ入寮を希望する女子学生および保護者を対象に、女子寮の概要、入寮手続き、施設、入寮予定日などについての入寮説明会を実施した。
- ・1月6日(火)清風寮1階コミュニケーションスペースにおいて、新たに入寮する女子学生11名(留学生1名)と保護者に対して、入寮オリエンテーションを実施した。
- ・2月4日(水)に、遠藤高松工事事務所長、濱中弓削商船高等専門学校寮務主事を招待してオープンセレモニーを挙行了。式典終了後、玄関前でのテーブルカットに続き、施設見学を行った。

##### 2.2 寮内LANの運用

- ・平成14年度は、学寮ネットワーク管理サーバおよび各階に1個の無線LANのアクセスポイントを設置し、それらの設定と試運転を行ってきた。平成15年5月11日の寮務委員会において学寮ネットワーク使用心得が作成され、ネットワークの使用時間などが定められた。
- ・平成15年5月に、情報教育センターネットワーク管理部門により学寮ネットワーク

講習会が開催され、寮生74名の受講者があった。その内54名の利用申請があり、学寮ネットワークを使用できるように登録し学寮ネットワークの運営を開始した。

平成15年10月に2回目の学寮ネットワーク講習会が開催され、寮生27名の受講があった。25名の申請があり、新たに登録された。

平成16年3月現在、79名の寮生が学寮ネットワークを用いて、インターネットにアクセスをしている。

- ・寮生から、次の要望があがっており、対応を検討しなければならない。
  - ネットワーク講習会の開催回数が少ない。
  - 居室の場所によっては無線LANにアクセスすることが出来なかったり、困難だったりするので改善してほしい。
  - 朝の登校までの時間もネットワークを使用したい。

っ

## 2.3 学寮HPの充実

- ・学寮の目的、日課、心得、諸経費などを紹介するWebページを作成した。
- ・寮行事については、行事が開催される度にデジカメで撮影した画像を用いたページを作成し、行事の楽しさが伝わるよう努めた。10月26日の保護者懇談会には、行事の様子をWebページを用いて保護者に紹介した。
- ・行事のページを開催される度に作成するのは担当者の負担になるので、負担が軽くなるよう、作成方法、ページ構成などを考えたい。

## 2.4 浴室の清掃

- ・「自分たちが使用する浴室は自分たちで清掃する」という基本方針のもと、環境衛生委員と指導寮生会が中心となり、全寮生が輪番で清掃を行うよう当番表の作成および清掃指導・点検を継続実施した。
- ・開始当初、忘れていた為に当番に来ない者がいたが、清掃開始時刻に放送をすることで対応した。また、自動給湯装置が設置され、浴槽へのお湯張りの負担が軽減された。

## 2.5 学寮保護者との連携強化

- ・寮生保護者連絡会について  
昨年度に引き続き、10月26日(日)視聴覚教室において、寮生保護者連絡会を実施した。57人の保護者の参加があり、学寮の取り組みの説明、学寮行事の紹介、事務連絡を行った。  
保護者からは次の意見・要望があった。
  - 寮内の清掃状況が良くない。
  - 建物周辺の清掃にも力をいれるべき。
  - 校内や寮内への人や車両のチェックを厳しくすべき。
  - クーラーや冷蔵庫の設置要求
  - 女子寮生と男子寮生が払う金額は同じになるのかそうでないのか。
  - シャワーの利用を認めて欲しい。(部活などで遅れるので)
- ・7月5、6日の保護者懇談会を利用し、学寮管理棟にて保護者からの相談、寮に対する意見・要望を聞く機会を設けた。14人の保護者からの個別相談があり、その際に、冷蔵庫設置の要望が多数あった。

## 2.6 文化講演会・教養講座の実施

未実施

## 2.7 夏休み以降の特別残寮の実施方法

- ・向陽北寮の女子寮への改修に伴い、向陽北寮から向陽南寮1階に場所を移して夏季特別残寮を実施した。なお、卒業研究、特別研究については、従来通り、7月末までは青雲寮を利用した。

夏季特別残寮期間中の利用状況は、次の通りであった。

特別研究	7 / 26 ~ 8 / 8 、 8 / 18 ~ 8 / 31	11人
卒業研究	7 / 26 ~ 8 / 8 、 8 / 25 ~ 8 / 31	20人
インターンシップ	8 / 18 ~ 8 / 31	1人
体験学習	7 / 26 ~ 7 / 29	3人
マルチメディア愛好会	8 / 1 ~ 8 / 8 、 8 / 18 ~ 8 / 31	5人
ロボット研究会	7 / 26 ~ 8 / 3	10人
野球部	7 / 26 ~ 8 / 8 、 8 / 19 ~ 8 / 31	3人
バレーボール部	7 / 27 ~ 8 / 8 、 8 / 18 ~ 8 / 31	4人
陸上部	7 / 26 ~ 8 / 8 、 8 / 22 ~ 8 / 31	8人
ソフトテニス部	7 / 26 ~ 7 / 28	1人
サッカー部	7 / 26 ~ 8 / 8 、 8 / 18 ~ 8 / 31	5人
剣道部	7 / 27 ~ 7 / 31、 8 / 22 ~ 8 / 28	3人
弓道部	8 / 18 ~ 8 / 31	6人
テニス部	7 / 26 ~ 8 / 6	8人

- ・特別残寮期間中、次のような問題点があり、指導教官の適切な指導、対応が必要である。
  - 途中で日程を変更したり、特別残寮を中止して帰省する学生が多数いたため、正確な人員の把握が困難であった。
  - 特別残寮終了時の指導教官による点検が行われない場合があった。

## 2.8 寮の暖房開始時期の検討

暖冬であったため、例年通り12月から暖房を開始した。

## 2.9 学寮管理棟の利用方法と改修

- ・3月末までに学寮管理棟を整理し、オープンなスペースを確保する予定。
- ・利用方法については、来年度検討する。

## 2.10 寮生の自主的活動の推進と支援（ボランティア活動等）

- ・例年通り、自治会と共同して学校周辺の溝掃除を5月11日（日）に行った。
- ・11月2日（土）、3日（日）の国領祭において、海外援助を行うために寮生会でチャリティバザーを実施した。学生、教職員に協力をお願いして集めた品物を販売し75,024円の収益金を得た。収益金は、日本赤十字社と日本ユニセフ協会にそれぞれ37,000円寄付した。（1,024円については次年度に繰り越し）

## 2.11 寮生会活動の活性化

- ・寮生会各委員会毎、年度当初に年間目標と計画を立案し、それに従って活動した。な

お、寮務委員が分担して、その活動の支援を行った。

- ・寮マッチ、寮生大会、寮祭への参加を促すために、成績や参加回数などを寮生毎にポイント化して、寮行事への参加率を高める方策が講じられた。
- ・他高専寮生会との交流は未実施

## ○ 総合的な評価と課題

- ・平成15年度に掲げた実施項目の中で、特に重点を置いたのは女子寮の運用開始に向けての検討と準備であり、多大な時間と労力を費やした。これまでの女子寮視察報告、アンケート調査結果を参考に検討を開始し、寮務委員が一丸となって取り組むとともに、多くの方の協力を得て、予定通り平成16年1月にスタートすることができた。
- ・他の実施項目についても、無難に実施してきた状況であるが、いくつか未実施の項目があるので、来年度の課題とする。
- ・平成15年度に生じた大きな問題は、2、3年生寮で11月に金品の盗難が頻発したことである。このような問題に対処していくためには、低学年、特に2、3年生の生活指導が大切であり、来年度は2、3年生を手厚く指導する体制を整えると共に、問題のある寮生については保護者と早めに連絡をとる必要がある。

**運営目標の実施状況とその成果**

- 1 ショート・ホームルームの実施
  - 始業10分前の登校を促し、第1時限から授業に集中できるよう姿勢を整える。 -
  - 第1学年では全日、第2学年では週3日、年間を通じて実施した。
- 2 学生の授業出席の改善
  - 毎日の出欠、遅刻、早退を調べ、指導し、改善をはかる。 -
  - 専門科目の出欠連絡を求め、担任が指導に努めた。科目によっては連絡が途絶えるものもあったが、第1学年の皆勤者は前年に比し14名増加した。また、第2学年の皆勤者は1名減ではあるが、第1学年次に比し6名の増加を見た。
- 3 教室の清掃・整備の徹底
  - 教室環境を毎日整備し、授業への集中を促進する。 -
  - 可能な限り清掃・整備に努めたが、クラス間にやや差が出た。
- 4 予習・復習の実行促進
  - 学力の修得のため、予習、復習の習慣化を目指す。 -
  - 通常は担任を通じて指示した。また、夏季休業期間には各教科から宿題を課すようにした。
- 5 アドバイザーによる指導の促進
  - 勉強意欲を増進させるために、学生への指導をより密なものにして行く。 -
  - 早期にアドバイザー担当者の連絡を求めて指導の促進にあたったが、学科の対応には差が出た。
- 6 オフィス・アワーの活用
  - オフィス・アワーの活用を通じて、学力の修得を目指す。 -
  - 担任を通じて指示し、活用を促した。
- 7 読書や活字に親しむ機会の増進
  - 文献や書籍を紐解くほか、図書館の利用を促し、学力の修得と視野の拡大を目指す。 -
  - 担任が引率し、図書館の利用を指導した結果、図書の本数はクラスにより差があるものの、前年に比し飛躍的に増加した。
- 8 学級担任会の開催
  - 随時開催し、情報交換を通じて、教育のあり方を検討する。 -
  - 低学年教育委員会の折りに開催し、情報の交換と指導方法の検討を行った。

**○ 総合的な評価と課題**

進級不可者の数は、留年未経験者の場合、第1学年では6名、第2学年では14名であったが、前年に比しそれぞれ2名減少した。また、皆勤者が増加したことを併せ見れば、取り組みは評価される。

しかし、清掃・整備の徹底は制度化が必要である。また、専門科目の出欠連絡やアドバイザーについては、学科の協力が不可欠である。

## 運営目標の実施状況とその成果

### 1. 広報関係

#### 1.1 新居浜工業高等専門学校の方針の策定

- (1) 広報マインドを全教職員に醸成するとともに、広報を一元管理し、新居浜高専を強くアピールする。
- (2) 広報の対象（広く世間へのアピール、受験生関連[受験生、その保護者、中学校先生]、地域の研究開発連携関係、卒業生を含む学校関係者等）を設定し、対象毎の基本方針を明確にし、多角的な広報媒体を有効に利用した広報活動を行う。  
H15年度からの新規の委員会であり、まず委員会の運営目標を定め、委員に周知するとともに、学校全体にも報告した。

#### 1.2 個別広報活動方針及び具体的広報活動の設定・推進

- (1) 平成14年度の広報活動の整理とアセスメント
- (2) 今年度の広報活動予定に関する情報蒐集と改善
- (3) 広報活動に関する全職員・学生からの要望・提案
- (4) ホームページの見直し
- (5) 印刷物の見直し
- (6) 平成15年度広報活動に関する新企画の提案、実行  
例：研究者総覧のホームページ掲載、マスコミへの積極的な情報提供、マスコミが関連している高専関連の企画へのバックアップ体制、社会や企業がほしがっている情報の分析、PR用ビデオ/DVDの作成（学生用，一般用）
- (7) 各委員会との協力体制の確立
- (8) 今年度行った広報活動実績を整理し，点検・評価を行う。  
学校案内の全面的な見直し、改訂を行った。  
新聞・報道情報の一元管理体制をとった。  
HPの規程を設け、トップページを全面更新し、また、各学科・科ページの評価を行い、学校広報の中心となるべき体制を整えた。  
未整備で不評な研究者総覧を、全学の課題として取り上げ、整ったものにした。  
中学校での学校説明会の改善、図書利用改善等で、教務委員会や低学年教育委員会に提言した。紀要については、それまで学校内での位置づけが曖昧な状態で発行されていた。今年度は、新たに地域への積極的な学術情報の発信という役割を明確化し、規程を整え、位置づけの明確な新紀要として発進させた。  
以上、個別事項については十分な達成状況である。

### 2. 図書関係

#### 2.1 図書運営目標

- (1) 図書基盤整備と図書館利用喚起による図書運営の活性化  
学生の利用頻度・貸出冊数の増、市民の図書館利用の促進
- (2) 教育面での図書館利用について、教官との協力体制を築く  
図書利用の活性化を主目標に据えた。



## 2.2 活性化のための活動計画

- (1) 図書の充実と各教官及び学生の積極的参画（平成15年度1,000冊）  
学生によるブックハンティング、シラバスと対応させた蔵書の充実、棚卸による蔵書の確認及び不明図書調査、蔵書の有効利用（特に研究図書の教官長期保有解消）、不要図書の倉庫蔵化？ により書架確保
- (2) 図書利用促進のため、教官の積極的関与及び学生図書委員の活用
- (3) 市民利用のためのPR活動とそれに対応した体制づくり
- (4) 図書利用利便性向上  
ブックディテクションの導入の検討（四国3高専では導入済み）  
月ごとに利用統計を学内に広報し、利用を喚起した。例年通りのブックハンティングに加え、シラバスと対応させた図書購入や、校長裁量経費による学生に読ませたい本購入等により蔵書の充実を図った。これによって、利用が倍増した。  
ブックディテクションについては検討の結果、導入を見送った。

### ○ 総括的な評価と課題

設定目標は、新規委員会としての趣旨を踏まえた積極的なものである。

積極的な目標に対し達成状況も十分なものと判断される。委員の負荷が、適正な学校運営へのシェアを超えたやや過大なものであったかと反省する。これの克服が課題であり、来年度は学校提案通り効率化した（構成員数、負荷時間）委員会運営を行いたい。

**運営目標の実施状況とその成果****1 省エネ、省資源活動の徹底**

委員会発足以来申し合わせてきた次の事項について、教職員の意識と活動の徹底をはかってきた。その集大成として平成15年12月に、全教職員を対象とした環境意識アンケート調査を行った。調査対象項目については、徹底率データ(%)を示す。

- \* ) シュレッダ-の使用禁止 : [ 装置回収済み ]
- \* ) 機密書類を含む古紙の分別とリサイクル。
- \* ) 紙の両面使用 ( 93 % )。 \* ) 封筒の再使用 ( 82 % )。
- \* ) 無人室の消灯、冷暖房停止 ( 98 % )
- \* ) ゴミの分別 ( 92 % )      \* ) グリーン購入
- \* ) 講演会開催 : [ 今年度は実施しなかった ]
- \* ) 教職員の意識調査 : [ 12月に実施済み ]

**2 校内の環境美化**

- \* ) 「学校環境衛生の基準」に基づいた環境衛生検査の実施 : [ 毎月実施(学生課担当) ]
- \* ) 雑草の刈り取り    \* ) 教職員による美化活動(ゴミ拾い、草取り)  
: [ 全教職員による除草作業を夏休み中と10月末の2回行った ]

**3 防火訓練**

- \* ) 教職員、学生全員の一斉防火訓練(会計課担当) [ 11月7日実施 ]  
反省点: 退避に時間がかかること、グラウンドでの放送が聞こえ難いこと
- \* ) 教職員による科、課別消火設備の実地訓練 [ 夏休み中に実施 ]

**4 防災計画の見直し**

地域との連携も考慮した、本校の全般的な防災計画を立案する。  
今後の本委員会の活動には、"環境"に"防災"を加える方向で検討する。  
: [ 施設係で立案中である ]

**5 学生に対する環境教育活動**

- \* ) 特活を利用した環境教育 : [ 1, 2年生に対して実施 ]
- \* ) 学生の環境専門委員会の活動の支援 : [ 花壇の維持管理、校内、学校周辺の清掃活動(市里親制度登録) ]

**6 HPの作成**

委員会活動をPRするためのHPの制作にとりかかる : [ 実施していない。今後の検討課題 ]

**○ 総合的な評価と課題**

- (1) 教職員の省エネ、省資源意識はかなり定着してきたと思われるが、なお地道なPR活用が必要である。
- (2) 学生の環境専門委員会は発足初年度にもかかわらず、活動が活発であった。
- (3) 防火訓練、環境衛生検査に関しては、学校全体の意識の徹底を図る必要がある。
- (4) 校内清掃活動に関しては、来年度は教職員と学生全員が活動する計画である。

**運営目標の実施状況とその成果**

- 人権擁護啓発（法務局） ポスター掲示・パンフレット配布
- ・人権擁護啓発（法務局） ポスター掲示・パンフレット配布

- 人権週間 12月4日～12月10日 ポスター掲示・パンフレット配布
- ・人権週間 12月4日～12月10日 ポスター掲示・パンフレット配布

- 愛媛県「差別をなくする強化月間」11月～12月 ポスター掲示
- ・愛媛県「差別をなくする強化月間」11月11日～12月10日ポスター掲示

- 男女共同参画啓発 ポスター掲示・パンフレット配布
- ・男女共同参画啓発 ポスター掲示・パンフレット配布

学生の特別教育活動における人権教育（教務委員会と連携）

研修会への出席

- 人事院四国事務局主催四国地区セクシュアル・ハラスメント防止研修リーダー養成コース（9月25日～26日）
- ・人事院四国事務局主催四国地区セクシュアル・ハラスメント防止研修
- ・リーダー養成コース（9月25日～26日）

講演会等の企画・立案

- 人権擁護委員（本校人権擁護委員会の外部委員に依頼予定）による講演会等（人権擁護，同和問題，男女共同参画等）を実施
- ・人権擁護委員（本校人権擁護委員会の外部委員に依頼予定）による講演会等（人権擁護，同和問題，男女共同参画等）を実施
- ・10月9日 佐伯 継一郎 弁護士 講演会
- ・セクハラ防止について全教職員に通知 8月4日
- ・「えひめ人権・同和教育」及び「人権・愛媛きらめき」配布 9月29日
- ・国家公務員セクハラ防止週間 12月4日～10日ポスター掲示

学生委員会との連携を図り，学生に対する人権に関する講演会等を実施

**○ 総括的な評価と課題**

- ・15年度計画していた事項についてはほぼ実施できたが，学生委員会との連携による学生に対する人権に関する講演会の実施は来年度の課題である。

### 運営目標の実施状況とその成果

#### 1 レクリエーション関係

- ・昨年度実績を参考に、アンケート要望項目を含め、平成15年度実施計画案のとおり実施予定
- ・計画したレクリエーションのうち、どれか1つは教職員が参加できるよう周知の徹底を図る。
  - ・今年度は計画したものはすべて実施できた。
  - ・今年度は教職員の希望として、映画鑑賞券、リーガアクアガーデン利用券の配布を企画したところ、ほぼ全員から利用希望があり、他のレクリエーションと併せ、ほとんどの教職員に計画したレクリエーションのどれかには参加してもらうことができた。

#### 2 健康診断関係

- ・平成15年度計画案のとおり実施予定
- ・保健室との連携による健康への意識高揚のための対策の検討
  - ・平成15年度計画案のとおり実施できた。
  - ・保健室との連携については協議が不十分であり、来年度への課題である。

#### 3 表彰関係

- ・平成15年度計画案のとおり実施予定
- ・平成15年度計画案のとおり実施できた。

#### 4 喫煙対策

- ・職員の喫煙状況調査（アンケート）及びその結果への対応策の検討
- ・禁煙クリニック受診支援の予算化の検討（診療費の一部補助）
- ・学外からの来訪者に対する校内禁煙の協力周知
- ・学生委員会との連携による禁煙パネルの設置
- ・講演会の実施
  - ・喫煙関係については、平成15年度は活動ができておらず反省を残した。
  - 来年度は安全衛生委員会に模様替えし、労働安全衛生法上も設置が義務づけられ、産業医、衛生管理者が構成員となることもあり、喫煙対策について検討をしていきたい。

### ○ 総合的な評価と課題

レクリエーションは当初の目標どおり実施できた。

喫煙関係については、来年度具体的な対応を行うことが求められる。

**運営目標の実施状況とその成果**

1. 情報セキュリティポリシー実施体制の校内への周知を図る。  
 以下の実施体制について、運営会議、公務分掌配布文書によって、周知を図った。  
 情報セキュリティ総括責任者 = 学生主事(校長補佐) 学内全ての責任者  
 情報セキュリティ委員会 = 本委員会  
 情報セキュリティ管理責任者 = 専攻科、各(学)科、各センター、図書館、各課の長  
 基幹情報ネットワーク管理者 = 情報教育センターネットワーク管理部門  
 情報端末管理者 = 端末利用者(全教職員)
2. 重要性に基づき情報の分類を各部署の情報セキュリティ管理責任者に依頼する。  
 以下の重要性分類の案を提示したが、各部署での具体的な分類は行えなかった。  
 重要性分類  
 I 本校幹部及び業務上必要とする最小限の者のみが扱う情報  
 II 外部に公開することを予定していない情報  
 III 外部に公開することを前提としている情報  
 (例) 偏入学試験入試問題 (試験日まで I、試験日以降 III)
3. 各部署において情報セキュリティ管理責任者に、情報セキュリティポリシーの具体的な実施手順を定めるよう依頼。(情報セキュリティポリシ 1.4 実施手順の作成)  
 4. で計画した説明会を通して、依頼した。
4. 説明会の実施(情報セキュリティポリシ 2.4.2 教育・訓練)  
 以下のような計画を立てて、情報セキュリティの啓蒙活動を行った。  
 (1) 情報セキュリティポリシーについて啓発と各部署で3. を作成するための手引き指針を情報教育センターネットワーク管理部門と連携して作成する  
 (2) インターネット上の分かりやすい情報源を紹介する  
 (3) 本校教職員と本校学生に対する情報セキュリティ教育
5. 自己点検のための教職員へのアンケートの検討と実施(情報セキュリティポリシ2.9.2) 行えなかった。
6. セキュリティポリシーや実施手順の見直し(情報セキュリティポリシ 2.9.3)  
 独法化を控えて、機構のセキュリティポリシーとの整合性を図る必要性があるため、本年度は実施しなかった。

**○ 総括的な評価と課題**

1. 評価  
 説明会、メール等を通して、情報セキュリティについて啓蒙活動を行ったが、ウイルスの感染を防ぐことができなかった。
2. 課題  
 (1) ウイルス対策の徹底  
 (2) 情報セキュリティに対するさらなる啓蒙活動  
 (3) 法人機構との整合性を図り、具体的な情報セキュリティポリシーの実施方法を策定

**運営目標の実施状況とその成果**

## 1 点検

授業、勉学、卒業生アンケートの実施

- ・例年通り「授業アンケート」、「勉学アンケート」を実施
- ・まだ実施していない年度の卒業生に対して、1月に「卒業生アンケート」を実施
- ・授業アンケートについては、アンケート分析WGにおいて分析を実施

保護者アンケートの実施

- ・各学科・科、委員会からアンケート項目を調査
- ・点検専門部会で取り纏め、12月に実施

教官アンケートの実施

- ・教育改善に関する教官アンケートを作成中
- ・3月中にWeb上でアンケートを実施し、集計する予定

各種委員会アンケートの実施

- 5月 「新入生アンケート」 (教務委員会)
- 10月 「企業アンケート」 (評価企画専門部会)
- 12月 「教職員環境意識調査」 (環境保全委員会)
- 2月 「生活、アルバイトアンケート」 (学生委員会)

その他、体験学習や保護者向け公開授業、教育フォーラムなどにおいて参加者アンケートを実施

各部門の取り組み状況の取り纏め

平成15年度「学校運営目標」、「教育改善推進計画」の実施状況を取り纏め、平成15年度版点検報告書に含める。

点検報告書の構成の見直し

検討中

## 2 評価

各部門の年間運営目標の実施結果の評価

実施状況の報告依頼中

各教官、学科・科、教科ごとのFD状況に対する評価

実施状況の報告依頼中

平成14年度自己評価の指摘事項に対する改善内容の分析評価

各教官からの提言を参考に自己評価書にまとめる予定である。

外部評価の実施

専門学科別に実施(機械工学、電気・電子工学、材料工学の3分野)

生物応用化学教育プログラムはJABEE本審査の実施

## ○ 総括的な評価と課題

1. 実施したアンケートの結果を分析し、どのように活用(フィードバック)するかが不十分である。本年度、アンケート分析WGを結成したが、授業アンケートの分析に留まった。WGの位置付けを明確にし、他のアンケートについても分析・提言などを実施する必要がある。
2. 自己評価書の内容や作成時期については再検討する必要がある。(たとえば、点検報告書との一体化)

**運営目標の実施状況とその成果**

- 1 学生相談案内を全クラスに配布して学生相談室を周知させる。  
年度当初に全クラスに配布した。
- 2 カウンセラーの来校されない金曜日は相談員で対応する。  
学生相談員担当表を作って対応した。
- 3 学生相談員が交替で研修に参加する。  
メンタルヘルス研究協議会は野口裕子教官が参加し、全国学生相談研修会は皆本教官が参加した。
- 4 教職員を対象にしたカウンセリングの講演会を企画する。  
1月27日に香川大学の小柳先生の講演会を実施した。

**総括的な評価と課題**

運営目標はすべて実施できたので良かった。ただ、カウンセリングの講演会には多くの教職員に参加して欲しかったので、出席を取った方が良かった。

**運営目標の実施状況とその成果**

## 管理運営に関する課題

## 1 法人化への対応について

- (1) 法人化の準備に向け、各課が一体となって取り組む必要があり、また、法人化に向けた事務組織の再編について検討する必要がある。
- (2) 法人化に向け予算を効率的に執行する方法を考える必要がある。

## 2 諸課題への対応について

- (1) 案件について、担当課だけでなく各課が共通認識をもち、高専としての問題であるという認識をもつ必要がある。

## 平成15年度運営方針について

- (1) 日常業務を確実に遂行するとともに、業務に関する報告・連絡・相談を行い、業務の円滑な遂行に努める。

- ・上記については、特に特別な方策はとらなかった。このため、これを検証するデータもなく、来年への課題として残る。

- (2) 法人化については、事務サイドで検討できる事項について、対策チームを設置し、年度計画を作成し、検討して行くとともに、定期的に業務の進行状況について事務連絡会に報告を行う。

特に平成15年度予算の早期執行に努め、極力3月中に予算の支払いを終了させるようにする。

- ・法人化については、特に対策チームは作らず、庶務課、会計課の担当部署で対応してきたが、法人化の対応は機能している。

法人化の進捗状況報告については、具体的な準備作業がかなり遅れたこともあり、定期的に報告する期間の余裕がなかったという反省点はある。

- ・予算の執行状況については、常時把握し、執行が遅れ気味の学科等については注意喚起する等、予算の早期執行について努力した。

- (3) 事務部長、各課長、学生課専門員、庶務課専門職員（企画担当）、会計課総務係長による事務連絡会を立ち上げ、週1回定例で開催する。

連絡事項、委員会の開催日程・協議内容等の報告を行うとともに、懸案事項について協議する。会議の協議内容については各課にフィードバックし、事務部としての共通認識をもつようにする。

- ・事務連絡会議は今年度から開催し、課横断の情報交換という点では成果があった。

しかし、必ずしも週1回開催できなかったこと、情報交換という意味合いが強く、運営目標に掲げた事項の協議が不十分であった。来年度は、事務部の懸案事項の協議機関という位置づけを強く持つことが必要となる。

- (4) 教官研究費の配分について、業績を反映した予算の配分について、検討を行う。

- ・平成15年度の教官研究費については、積算額の85%を各学科・科に当初配分し、残りの15%については、校長が各教官の業績等の評価に基づき評定し、学科



- ・科単位で積算の上，追加配分した。
- ・平成16年度の教官研究費の配分については，全教官から研究計画調書の提出を求めることとし，従来の配分単価による現員の積算を財源として研究計画評価部分50%，教員業務評価部分50％に分割し，各教官の業績を反映した上で個々の教官ごとに配分することとした。

(5) 施設の活用指針の作成のため，施設の有効利用の実態調査を行う。

- ・施設の有効利用の実態調査は実施できなかったが，HRを新たに確保するなど，使用面積の再配分や共有スペースの確保等を実施した。

施設の有効利用の実態調査は来年度の課題として残った。

また，施設の維持保全のため，各施設の雨漏の有無や配管，設備の故障状況等定期的に調査を実施し，これを基に緊急又は定期的な修繕の実施と改修計画の立案を行い，施設の活性化と昨日向上を図った。

(6) 教員の業績評価方法について検討を行い評価指針の策定を行う。

- ・評価指針策定のための検討ができなかった。来年への検討課題である。

## ○ 総括的な評価と課題

様々に学校改革を進めながら，最大の課題であった法人化の対応に取り組んできたが，国立55高専が1つの法人となるということもあって，受身での対応となったことは否めない。また，機構設立準備室からの指示待ちということもあり，内部規程等の整備が遅れがちとなった。

各課・各係が一丸となって業務に取り組む姿勢が十分とはいえ反省すべき点が残った。今後の課題としてSD研修に力を入れ事務職員の資質の向上を図ることが急務である。

## 1.4 学年毎の年間教育目標・方針の実施状況

### 1 学年・2 学年共通

低学年教育委員会委員長

板野 哲

#### 運営目標の実施状況とその成果

##### 1 ショート・ホームルームの実施

- 始業10分前の登校を促し、第1時限から授業に集中できるよう姿勢を整える。 -

第1学年では全日、第2学年では週3日、年間を通じて実施した。

##### 2 学生の授業出席の改善

- 毎日の出欠、遅刻、早退を調べ、指導し、改善をはかる。 -

専門科目の出欠連絡を求め、担任が指導に努めた。科目によっては連絡が途絶えるものもあったが、第1学年の皆勤者は前年に比し14名増加した。また、第2学年の皆勤者は1名減ではあるが、第1学年次に比し6名の増加を見た。

##### 3 教室の清掃・整備の徹底

- 教室環境を毎日整備し、授業への集中を促進する。 -

可能な限り清掃・整備に努めたが、クラス間にやや差が出た。

##### 4 予習・復習の実行促進

- 学力の修得のため、予習、復習の習慣化を目指す。 -

通常は担任を通じて指示した。また、夏季休業期間には各教科から宿題を課すようにした。

##### 5 アドバイザーによる指導の促進

- 勉学意欲を増進させるために、学生への指導をより密なものにして行く。 -

早期にアドバイザー担当者の連絡を求めて指導の促進にあたったが、学科の対応には差が出た。

##### 6 オフィス・アワーの活用

- オフィス・アワーの活用を通じて、学力の修得を目指す。 -

担任を通じて指示し、活用を促した。

##### 7 読書や活字に親しむ機会の増進

- 文献や書籍を紐解くほか、図書館の利用を促し、学力の修得と視野の拡大を目指す。 -

担任が引率し、図書館の利用を指導した結果、図書の出借冊数はクラスにより差があるものの、前年に比し飛躍的に増加した。

##### 8 学級担任会の開催

- 随時開催し、情報交換を通じて、教育のあり方を検討する。 -

低学年教育委員会の折りに開催し、情報の交換と指導方法の検討を行った。

#### 総括的な評価と課題

進級不可者の数は、留年未経験者の場合、第1学年では6名、第2学年では14名であったが、前年に比しそれぞれ2名減少した。また、皆勤者が増加したことを併せ見るならば、取り組みは評価される。

しかし、清掃・整備の徹底は制度化が必要である。また、専門科目の出欠連絡やアドバイザーについては、学科の協力が不可欠である。

### 3 学年

学級担任	機械工学科	豊田 幸裕
	電気工学科	大村 泰
	電子制御工学科	栗原 義武
	生物応用化学科	間淵 通昭
	材料工学科	松原 靖廣

#### 運営目標の実施状況とその成果

##### 1 欠課数の削減

(1) 欠課数の削減を目標に指導を行う。

##### 【成果】

学科や年度ごとの事情があり、昨年と単純に比較した数値を比較するのは意味があるかは疑問であるが、数値的には全般的に向上した。

	C	Z	E	D	M
H14 平均欠課数 ( / 人・年 )	56	29	44	35	67
H15 平均欠課数 ( / 人・年 )	34.2	30.6	54.1	27.2	35.2
H14 皆勤者数	6	14	9	12	5
H15 皆勤者数	6	4	13	15	6

3 M : 欠課数の多い学生 ( 2 名 ) について、1 名は月曜日の遅刻、欠課が多いため調査し、アルバイト時間が多いことが判明。親の協力を求め対処し、一旦は好転した。が、授業に付いていけないとの理由で、後期中間から再発。寮生であるが、留年のため 4 年寮にいる。

したがって、同級生の交友が少ないことなども原因と考え、教官室への来室を促し、閉塞感を打ち破るにはどうしたら良いかを話し合ったが、好転はしていない。もう 1 名は松山の自宅から毎日列車通学なので、一時間目の遅刻が多かったが、本人の努力と親の協力により、徐々に改善がみられた。

3 E : 後期から不登校 1 名、途中不登校ぎみになった学生 1 名、いくら指導しても効果の無い学生 3 名等々があり、総合的に見て欠課数を少なく出来ていないと思われる。ただ、7 ~ 8 割の学生は 8 時 3 0 分以前に登校できており、朝のショートホームによって昨年度より遅刻が減った学生もいる。

3 D : 学年の最初に、クラス目標および学年目標として、欠課時数を減らすことを挙げており、この目標に協力してくれる学生により、皆勤者数が数名ながら増加していると思われる。また、昨年度欠課が多いことが理由で留年してしまった学生がいたため、頻繁に保護者と連携協力することにより、前期ほとんど欠課なく、欠課オーバで留年という事態にはならず、少なくともこの学生に関しては欠課数を削減することができた。逆に、後期に入って体調をくずし、原因が分からないまま欠課時数が多くなり、結局入院するに至り、かなりの科目数を欠課時数 3 分の 1 に緩和しても欠課オーバとなってしまう別の学生のケースもあった。

3 C : 皆勤者が少なかった昨年よりは皆勤者数では増加しているが他学科と比較すると少ない、欠課数の非常に多い者が約 2 名 ( 進級の意欲のなくなった者 )。一貫、継続的な指導がなかったと反省している。

3 Z : 去年より欠課数が相対的にやや少ない程度であった。欠席数のほとんどが、数人のメ

ンバーでしめている。それを集中的に指導すべき必要やその手法に改善の余地があった。

## (2) 朝のSHRを実施

主に学生への連絡・注意、または学生からの報告・意見提出を主体とし、学生からのシグナルをなるべく早く気づく機会とする。強制参加にするかは検討。

### 【成果】

E以外は、特に内容を定めず、学生にも非強制で実施した。Eでは学習課題を与える形で実施した。

- 3M：早く来る学生（前半 1/3 程度～後半 4 名程度）とのコミュニケーションはとれた。授業時間への組み込みあるいは強制でなければ、学生へのメリットがなく、継続的な活動は難しかった。
- 3E：朝の挨拶の実施はほぼ完全に出来た。8:10 登校を奨励。約 8 割の学生が 8 時 30 分までに登校（前期平均 8:25，後期は年明けから 2～3 分後退）。真面目な学生は、朝の課題により電気の基礎が身についている。
- 3D：出張等の数日を除き、ほぼ全日実施できた。前期には半数以上の学生が 8:30 までに登校していたが、後期には 3 分の 1 程度まで人数が少なくなってしまった。大部分は、連絡事項、注意事項の伝達等の利用に役立った。
- 3Z：強制はせず実施した。担任は、1 年間、すべて顔をだすことが出来た。連絡、注意、報告、意見提出の場として意義が十分にあったと担任は感じている。8:30 までにならず来ている学生は最初自動車通学生がほとんどだったが、後半になると他の通学学生も混じって増えてきたようである。
- 3C：早く来る学生、朝勉強する学生とのコミュニケーションは十分取れた。学生側も担任が朝来ることで、担任への連絡はいち早くとることができ、相互にとって早い対応につながった。一方で、強制参加のような形にしなかったせいで、担任からの「全体への」連絡や訓示としては意味が少なかった。担任個人の成果としてはとりあえず 1 年間継続できたということだけのようであるが、3Eでされているようなことをするには相当の継続的な努力が必要と感じている。

## 2 特別活動に公共心を養う指導を取り入れる

昨年実施した清掃活動などにさらに積極的にとりくませる。

### 【成果】

全学科の担任が連携して、前後期の 2 回特活の時間を利用し、複数学科で共同での学校内外の清掃活動を行った。

実施方法や時期などには改善すべき余地（日程および天候の関係で全学科統一は出来なかった）があったものの、学年全体で取り組んだということで、一定の成果はあったといえる。これを積極的に進めていくと、校外の清掃ボランティアなどの行事につながるだろう。

また、特活の時間において、環境保全委員会の協力を仰いで環境に関する講話を全学科で実施した。

その他 3E では、道徳的な内容の読みものを読ませる、3Z では、環境・マナーなど外に向かったの話題も取り入れた。

## 3 担任間の連携の強化

月1度は行う。やむを得ない事情でmail会議とするときには、全員の発言を前提とする。

#### 【成果】

毎月の完全実施は無理であったが、進路相談、清掃活動、研修旅行などの議題を、担任会議あるいはメール会議にて議論し、情報交換ができ、それぞれ担任の指導上で有意義であった。

#### 4 その他の成果

3 E：研修旅行を、銅山の家自然の家へ徒歩にて1泊2日の行程で実施した。実施前は研修旅行に対し、肯定30%、否定70%であったが、実施後は肯定60%、否定14%となり、実施してよかったとの意見が多かった。

3 C：進路についての考えを具体化する機会を与えることを目的に、学科の教官に研究室案内（名目は4年生からの化学コース・生物コースの選択に関する情報提供）や専攻科の説明の機会を設けたが、今年の学生たちには意識を高めるよい機会になったように思う。また、留学から帰った学生の海外生活報告や海外交流プログラムで来校した外国人学生との交流から、外への意識を高める工夫をしてみたが、十分な成果とまではいかなかった。

3 M：研修旅行としてSpring-8施設を訪問。教室以外の体験の場が、学生の心の琴線に触れる機会が多いと感じた。「ああいう仕事に就きたい！」と、将来に夢を持った学生も出たこと、専門学校に行くことにしていた学生が、進路変更を取り止め5年まで頑張りたいというきっかけにもなったようだ。

#### 3 M：進路相談についての取り組み

担任自身の企業での経験を、「働く」という意味を、折に触れ説明する機会を作った。また、5年生の先輩、国立大学編入内定者、就職内定者にそれぞれ、今の進路を決めたきっかけを説明させた。学生からは、活発な質問が出て、自分の進路を決める意識を高めるきっかけになったと思われる。「高専で勉強することに誇りを持つ、高専にきた意味を改めて考える」ということを、特別活動の時間の中で、折に触れて話してきた。昨年末から今年にかけて、少しずつこのようなことを考え始めている学生が増えつつあるという感触をもっている。

#### 4 D：4年生に向けての準備

特別活動の時間に、4年生の実験（ミニロボコン電子創作実習）を担当している出口教官に実習発表会の様子のビデオを見せてもらい、話をしてもらった。また、4年生のインターンシップ発表会にも3年学生を参加させた。全学生に対しての動機付けには至らなかったが、4年生になるまでの準備として役立ったと感じた学生もいた。

### 総括的な評価と課題

3年生については、生活面の指導と将来への目標設定をもたせることの2点が重要である。

前者については、低学年からの一貫・継続した指導が必要であるのに加え、学科としてクラスが形成される・5年間の中間となる・進路変更を考える学生が出てくるなど3年生特有の状況を考えつつ、学科としての教育および指導方針をもち、また学年である程度統一性をもった方針と方法をもつべきである。と考える。

後者についても、学生が目標を設定しにくい中間の期間であるからこそ、早くから将来への目標やそのための計画をもたせることが非常に大切ではないか。生活や学習面での問題をもつ学生は、将来へのビジョン・希望をもたない（あるいは失った）者が大多数であることからその必要性が伺える。

以上の点から考えて、年間の目標を設定していくべきであると思われる。本年を振り返って見て、「欠課数の削減」に関しては、数値目標の設定が難しいが、常に最初に努力すべき項目であると考え。 「SHRの実施」に限らず、日常の生活指導に関する目標の設定も必要となる。なお、「担任間の連携」は、情報交換の場としても、学科間の指導方針の統一化という点でも、非常に有意義であったので継続していくべきと思われる。

## 4 学年

学級担任	機械工学科	松田 雄二
	電気工学科	尾西 康次
	電子制御工学科	今井 伸明
	生物応用化学科	牛尾 一利
	材料工学科	相根 博道

### (目標)

1. クラスの団結力・モラルの向上
2. 就職・進学に対する将来計画の具体化
3. 専門的知識と社会への適応能力の育成

### (方策)

1. クラスマッチ等の学校行事への全員参加（担任を含む）を目指す。
2. 日直業務の完全実施とその充実を図る。
3. インターンシップへ全員派遣（既修得者を除く）とその充実を図る。
4. 成績や出席状況が思わしくない学生に対する指導を強化する。
5. 実力試験の結果やS P I 適性検査等の情報を提供し、進路について、今何をすべきか考える指導を行う。

### 運営目標の実施状況とその成果

1. 4年生となりクラスも少し落ち着きを感じさせ、クラスマッチなどもスポーツの得意な学生達がクラスを引っ張るなど、友人関係等も良好な方向に向かってきたように思われる。また、日直、掃除当番や校内除草作業も、概ね実行できた。
2. インターンシップは全員が参加し、報告書の提出や報告会を行った。企業や大学等の雰囲気を感じ、精神的な成長、社会観の芽生えも感じられる。本校での企業説明会、就職関連の新聞記事（掲示）等を通して、自分の進むべき方向とも関連させて様々な印象を持っている様子である。  
就職関連本を教室に置き、またS P I 検査の一部もクラスで試みたり、進路や社会に対する関心を高めるような試みを行い、進路選択に対する指導を心掛けた。本校での企業説明会にも熱心に参加し、強い関心を示しているように感じられる。
3. 成績について懸念される学生に対しては、とにかく欠課時数が増えないように本人に声をかけ、注意や励ますのみならず、家庭への連絡も心掛けた。出席状況は悪くないが成績のふるわない学生も数名いる。一方、授業時間以外での指導などにより、今まで成績不振だった学生でもかなり成績を伸ばしてきている学生もいる。高学年になって本人の意欲が増したことが良い結果につながっており、今後もそうした学習意欲を継続させるような指導を行っていきたい。

### 総括的な評価と課題

インターンシップや本校での企業説明会は社会に対して目を向ける必要性や自覚を促す良い機会となり、進路に対する認識は高まっていると思われる。また一面で、自分の希望を明確にし、具体化する段になると、なかなか容易でない様子も見受けられる。インターンシップは派遣先の確保でなかなか難しい面もある。企業説明会では専攻科の認識度が低いこ

とを感じた学生もいるようである。電子制御工学科では、本年度も工場見学を行い、実際の企業の現場の方の生の意見を聞く機会を持たせた。現場での仕事の様子やそうした企業の方の生の意見を聞かせることで、社会の実際の仕事の様子を肌で感じ取らせる良い機会になったと思われる。

出席状況の思わしくない学生は特定化する傾向もあり、家庭との連携も有効な方法の一つと思われるが、家庭の仕事等により連絡の取りにくい場合もあり、なかなか実効もあがりにくい。



## 5 学年

学級担任	機械工学科	北住	順一
	電気工学科	皆本	佳計
	電子制御工学科	榊原	久司
	生物応用化学科	早瀬	伸樹
	材料工学科	志賀	信哉

### (目標)

5 年生全員卒業と全員の卒業後の進路決定

### (方策)

- 1 欠課の多い学生及び受講態度の良くない学生への注意と場合によっては保護者への連絡等による連携を図る。
- 2 成績不振者への注意と保護者への連絡等による連携を図る。

## 運営目標の実施状況とその成果

### 機械工学科

30 名が卒業の予定、1 名が卒業できない。

進学希望の 1 名の進路が決定していない。次年度試験を受ける予定である。

### 電気工学科

32 名が卒業の予定、1 名が卒業できない。来年度やり直すとの意思確認はできている。

就職希望の 1 名の進路が決定していない。家庭との相談はできており、本人が地元で就職先を探すことになっている(ご家庭の希望である)。

### 電子制御工学科

就職希望者 19 名全員内定

進学希望者(16 名)については、部分留年生 1 名の進路が未定

### 反省点

欠課の多い学生など上記目標達成のために注意が必要な学生については、定期試験の結果が出たときなど折々に面談して注意を喚起してきたが、部分留年生は自分の進路について安易に考える傾向があり、2 回編入学試験を受験したが、勉強不足のまま受験し、大学編入学を諦めざるを得ない状況になった。

### 生物応用化学科

5 年生全員卒業。

卒業後の進路については、卒業予定者 31 名の内 16 名が進学希望者で全員進学先が決定している。就職希望者 14 名についても全員の就職先が決定している。

残り 1 名については、ワーキングホリデー制度を利用した語学研修を希望し、7 月からオーストラリアで研修を行う予定である。

## 材料工学科

卒業：1名不可

病欠のため。今年度は体調回復を優先し、登校できるときだけ出席した。16年度卒業を目指している。

進路：就職希望1名未定

2月末に医療事務資格試験を受験した。合否結果は3月末。すでに本人宛にある病院からオファーがきている。

### **総括的な評価と課題**

合計3名が卒業できなかった。病気などのやむをえない者もいたが早めの指導が必要であった。

進路に関しては、学科が一生懸命めんどろを見ても家庭の理由で会社を決めない場合があったなど、難しい問題が残った。次年度からは、きちんと家庭との契約を結ぶ形で世話をすべきだと考える。

## 2. 教育改善推進計画の実施状況と成果

本校の教育改善活動を推進していくために、各学科・科、専攻科および関連する委員会毎に、年間の教育改善推進計画を年度当初に策定し、年度末に実施状況と成果について評価を行う活動が平成15年度から始まった。以下に、平成15年度の各部門の教育改善推進計画と実施状況、およびその評価を示す。

(教育改善推進計画をゴシック体で、実施状況と評価を明朝体で表記している。)

### 2.1 平成15年度教育改善推進計画の実施状況

#### 実施状況とその成果

##### (1) 学校として行う活動計画

###### 1. F D 研修会

3回の講演会を計画していたが、実施できたのは1回(新居浜高専教育力向上講座)である。参加教官数が少なかったという大きな問題点を残す結果となった。

また、教官会での各科・各学科からの教育改善の事例発表は予定通り7回実施した(別紙)。これらの情報を各科、各学科で有効に活用することが今後の課題である。

###### 2. 学外のF D 研修会への参加促進

国専協の主催、共催の研修会をはじめ、その他の学外研修会にもかなり参加した(別紙)。また、その内容は教官会で報告された。

##### (2) 教務委員会として行う活動計画

###### 1. 公開授業

本年度22回の公開授業を実施した(別紙)。また、実施方法(申込、学内への周知方法など)は確立したが、参加(聴講)者が非常に少ないという大きな問題を残している(公開授業に最低1名以上必ず参加することを決めている学科もある)。さらに、実施後のコメント等の意見交換方法も不十分である。

###### 2. 各科・教科ごとの教育改善グループの組織化

組織化は実現できたが、まだ有効に機能しているとはいえない。カリキュラムやシラバスの内容の検討について、教務委員会、専攻科教育委員会、J A B E E 推進室などとの連携が不十分であった。活動内容、実施時期、方法についての具体性に欠けていたためと思われる。また、組織の位置付け等を明確にするなどの改善が必要である。

###### 3. 学生向け講演会の開催

###### 1) 環境に関する講演会：特別活動の一環として計画(環境保全委員会)

学校全体としての実施は行っていない。学内一斉清掃などの実務と合わせて、実施時期や内容、実施方法を再検討する必要がある。

###### 2) 新居浜の歴史に関する講演会：広瀬歴史記念館名誉館長 末岡先生(9~10月)

公開講演会として実施した(学外からの参加者：30名程度)。

#### 総括的な評価と課題

1. 本年度のF D 活動については、取り組み始めたものが多く、まだ定着までには至っていないものばかりである。内容や実施形態・実施方法などを再検討し、定着に向けて改善していく必要がある。

2. F D 講演会、研修会については、参加者が少ないことが最大欠点である。(教官の意識改革が最優先課題である)・・・「F D 講演会」に全教官が参加している高専もある。

(参加があたりまえとなっている)

3. 学内での事例発表(教員会)を学外での発表、高専教育への投稿などへ発展させていく必要がある。
4. 公開授業の回数は増加したが、聴講者数には問題がある。また、実施後のコメントや意見交換などの実施方法について再検討が必要である。
5. 各科・教科ごとの教育改善グループの組織的な位置付けや連携体制を確立し、有効に機能させることが必要である。

#### **平成15年度教員会での教育改善に関する事例発表一覧**

- 1 第4回教員会(7月)  
発表者: 深山幸穂  
講演タイトル: 「教育改善への取組み」
- 2 第5回教員会(9月)  
発表者: 河村秀男  
講演タイトル: 「学科としての教育改善への取組み」
- 3 第6回教員会(10月)  
発表者: 大村 泰  
講演タイトル: 「8:10登校指導の試み」
- 4 第7回教員会(11月)  
発表者: 松英達也  
講演タイトル: 「レゴ・マインドストームスを用いたトレースロボットの作製」
- 5 第9回教員会(1月)  
発表者: 刑部富夫、谷脇充浩  
講演タイトル: 「実験・実習科目の変遷と教育方法の検討」
- 6 第9回教員会(1月)  
発表者: 野口裕子  
講演タイトル: 「電子辞書の使用について」
- 7 第10回教員会(2月)  
発表者: 川崎宏一  
講演タイトル: 「数学授業改善」

#### **平成15年度FD研修会等参加者一覧**

- 1 第7回四国地域インターンシップ推進協議会  
6月9日 四国経済産業局(高松市) 新田敦己
- 2 (社)日本工学教育協会主催 平成15年度工学教育連合講演会  
6月13日~6月15日 早稲田大学大隈講堂 今井伸明
- 3 平成15年度高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会  
7月14日~7月25日 豊橋技術科学大学 勝浦 創

- 4 第20回全国禁煙教育研修会  
7月26日～7月27日 丸亀オークホテル 檀上光昭
- 5 第5回高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム  
7月30日～8月2日 長岡技術科学大学マルチメディアセンター 小山一夫
- 6 国専協主催 平成15年度四国地区高等専門学校教官研究集会  
7月31日～8月1日 阿南工業高等専門学校 桑田茂樹、出口幹雄、吉川貴士
- 7 平成15年度高等専門学校・長岡技術科学大学教官交流研究集会  
8月17日～8月20日 長岡技術科学大学 伊月宣之
- 8 文部科学省主催 平成15年度高等専門学校教員研究集会(第二班)  
8月18日～8月19日 オークラホテル高松(高松市)  
桑田茂樹、平木弘一、千葉克夫、尾崎司郎、鴻上政明、森長 新
- 9 平成15年度高等専門学校・長岡技術科学大学教官交流研究集会  
8月20日～8月22日 長岡技術科学大学 深山幸穂、新田敦己
- 10 文部科学省主催 平成15年度国立高等専門学校教官研究協議会(新任教官研修)  
8月20日～8月22日 国立オリンピック記念青少年総合センター  
今井伸明、横山隆志、野村真理子
- 11 第1回全国高専テクノフォーラム  
8月25日～8月28日 釧路市国際観光センター 川崎宏一
- 12 国専協主催 平成15年度高等専門学校教育研究集会  
8月28日～8月29日 ホテルグリーンパーク鈴鹿(鈴鹿市) 河村秀男
- 13 情報セキュリティセミナー  
8月29日～8月30日 文部科学省分館虎ノ門ホール 栗原義武
- 14 平成15年度専攻科実務者会議  
9月17日～9月19日 小山グランドホテル(小山市) 中川克彦
- 15 第1回四国地区セクシャル・ハラスメント防止研修リーダー養成コース  
9月25日～9月26日 高松第2地方合同庁舎 志賀信哉
- 16 平成15年度中国・四国地区メンタルヘルス研究協議会  
10月23日～10月24日 セントユア山口(山口市) 野口裕子
- 17 第41回全国学生相談研修会  
12月7日～12月10日 東京国際フォーラム 皆本佳計
- 18 法人化に向けた特別講演会  
12月24日 阿南工業高等専門学校 桑田茂樹、森長 新、伊月宣之、檀上光昭
- 19 文部科学省主催「一日知的財産本部」の聴講  
1月16日 東京国際フォーラム 深山幸穂
- 20 高等教育IT支援事業  
高等専門学校における教材・素材の蓄積、流通等について  
2月26日～2月27日 メディア教育開発センター 勝浦 創
- 21 第4回ワークショップ「技術者倫理」  
2月26日～2月28日 新日本製鐵(株)代々木研修セミナー 高橋知司、吉川貴士
- 22 電子情報通信学会 平成15年度第2回JABEE自主研修会  
3月6日～3月7日 大阪大学工学部 榊原久司
- 23 第4回ワークショップ「コミュニケーションスキルの指導法」  
3月12日～3月14日 新日鐵幕張研修センター(千葉市) 森長 新

平成15年度公開授業実施結果

	日時	時限	科目名	対象学科・学年	科目担当者	場所
1	平成15年5月29日 (木)	1, 2時限	材料工学入門	材料工学科 1年	材料工学科全教官	材料工学科棟4カ所
2	平成15年7月2日 (水)	5時限	英語1	1年3組	尾崎司郎	1年3組教室
3	平成15年7月8日 (火)	1, 2時限	電子回路1	電気工学科 3年	佐藤眞一	電気工学科 3年教室
4	平成15年7月9日 (水)	1, 2時限	電力工学2	電気工学科 5年	檀上光昭	電気工学科 5年教室
5	平成15年7月9日 (水)	3, 4時限	電気電子計測2	電気工学科 3年	尾西康次	電気工学科 3年教室
6	平成15年7月10日 (木)	1, 2時限	情報リテラシ	電気工学科 1年	伊月宣之	情報処理室
7	平成15年7月16日 (水)	5, 6時限	電気回路2	電気工学科 3年	大村 泰	電気工学科 3年教室
8	平成15年7月17日 (木)	1, 2時限	電気磁気学2	電気工学科 4年	井門英司	電気工学科 4年教室
9	平成15年9月4日 (木)	1, 2時限	電気機器1	電気工学科 3年	稲見和生	電気工学科 3年教室
10	平成15年9月5日 (金)	1, 2時限	電気機器2	電気工学科 4年	皆本佳計	電気工学科 4年教室
11	平成15年9月10日 (水)	1, 2時限	材料力学	材料工学科 3年	志賀信哉	材料工学科 3年教室
12	平成15年9月11日 (木)	1, 2時限	基礎情報数学	電子制御工学科 3年	馬淵眞人	電子制御工学科 3年教室
13	平成15年9月17日 (水)	5, 6時限	材料加工学	材料工学科 4年	谷 耕治	材料工学科 4年教室
14	平成15年11月21日 (金)	3時限	英語2B	2年4組	野村真理子	2年4組教室
15	平成15年12月8日 (月)	6, 7時限	情報基礎実習1	電子制御工学科 1年	榊原久司, 占部弘治	CAD実習室(D科)
16	平成15年12月8日 (月)	6, 7時限	電子基礎実習	電子制御工学科 1年	榊原久司	基礎工学実習室
17	平成16年2月12日 (木)	3時限	技術英語1	生物応用化学科 3年	鴻上政明	生物応用化学科 3年教室
18	平成16年2月19日 (木)	1時限	時事英語	電気工学科 5年	Ray Tabesh	LL教室
19	平成16年2月17日 (火)	5, 6時限	電気工学実験3	電気工学科 5年	皆本佳計	電力工学実習室
20	平成16年2月20日 (金)	5, 6時限	電気工学実験1	電気工学科 3年	稲見和生	電気磁気学実習室
21	平成16年2月18日 (水)	7, 8時限	工学基礎実験	機械工学科 2年	刑部, 北住, 豊田, 谷口, 宮田	機械工学科製図室
22	平成16年2月25日 (水)	3~8時限	電子創作実習	電子制御工学科 4年	出口幹雄, 白井みゆき	基礎工学実習室

## 2.2 各学科・科教育改善推進計画の実施状況

### 機械工学科

#### 教育改善推進計画

学校運営における各学科の教育改善グル - プの組織化

メンバ - (チ - フ豊田、金沢、吉川)

#### (1) 機械工学科の教育改善体制

JABEE認定に向けた取り組みの体制

総括：豊田教官

外部評価調査グル - プ(チ - フ金沢、北住、宮田、豊田)

教育改善グル - プ(チ - フ豊田、谷口、石井、吉川、谷脇)

シラバス・カリキュラム検討グル - プ(チ - フ吉川、松田、刑部)

#### (A) 融合複合JABEEプログラムの4月開示に向けて

・2月12日～13日 外部点検評価委員による、点検実施。

評価結果(未入手)を受けて、対策案を検討予定。

・専攻科カリキュラム変更、本科カリキュラム変更、科目系統図の作成、保証時間数の確認、シラバス作成などを実施。

#### (B) 教育改善に向けた取り組みの体制

具体的な運営重点推進項目

#### (a) 卒研成果の評価法の見直し。(北住、吉川、松田、チ - フ刑部)

本年度、教育目的・目標に沿って、卒業研究の評価法を検討する。

研究成果(論文、作品等)、研究計画能力、実験・設計製作遂行能力、プレゼンテーション能力および考察能力等の項目を評価に導入することを検討する。

・卒研成果の評価法の見直しを検討した。卒研テーマは、基礎研究、応用研究、技術開発など多岐にわたっており、統一した評価が困難である。来年度は、JABEE学習教育目標のC「工学専門知識を活用し、問題解決に向けて自主的に考え、計画を立案・実行できる技術者の育成」を、どのような評価方法・基準で達成度を評価するかを、融合複合プログラムの他学科と調整し、統一的評価方法を決定する。

#### (b) 授業改善の推進。本年度には、企業が評価している「高専学生(本科、専攻科)の要件」を知るため、企業アンケートを実施し、改善内容を検討する。

(チ - フ金沢、北住、宮田、豊田)

・学校全体で企業アンケートを実施した。その結果から、学科で意見をまとめ報告した。

#### (c) 授業科目の学生によるアンケート結果をもとに、各教官、各教科の授業方法を

改善。毎年8月末までに前年度実施アンケートをもとに科全体で討議して、各自の目標を実現するための方策を決定して次年度からの授業で実施する。ただし、可能

であれば後期から実施する。(全教官)

・平成14年度専門科目アンケート分析について学科全体で取り組み報告した。

(d) 平成14年度から新カリキュラムとなり、授業・実験・実習等におけるもの作り、および、制御に関する科目の増加により、教育機器を充実させる。(平成15年度において2年生に工学基礎実験、平成17年度に4年の創造設計製作、平成16年度にメカトロニクス基礎、平成17年度にメカトロニクス応用開講予定)(全教官)

・工学基礎実験はすでに教育機器はあり、新カリキュラムを豊田、谷口、北住、宮田、刑部教官で実施した。

・4年の創造設計製作(平成17年度開講)のシラバスを検討し、作成した。

(2) 機械工学科で独自に行う予定の具体的活動計画

(a) (1) の機械工学科の教育改善体制における(B)教育改善に向けた取り組みの具体的な運営重点推進項目(a-d)について実施する。

・運営重点推進項目(a-d)に記述

(b) 公開授業は2年生の工学基礎実験、専攻科の計測制御実習Aで、平成16年1月頃実施する。その後、授業担当者と教育方法について議論し、教育方法を検討する。

・2年生の工学基礎実験の公開授業を実施した。

(c) 教官研修会にはできるだけ参加し、情報を収集する。

・校内で実施した研修会(2004/3/3 高知高専 島内功光先生による「高専教育の発展を目指して」)

・学外での研修会「技術者倫理ワークショップ」に吉川教官参加(資料回覧)



## 電気情報工学科（電気工学科）

### 1. 各学科の教育改善グループの組織化について

以下のような委員会、グループを学科内におき、教育改善委員会が中心となり、各委員会、各グループの意見集約を行う。

#### 委員会とグループ

##### (1) 教育改善委員会

電気情報工学科・電子制御工学科とのカリキュラムの融合について、主として両学科の教務委員が窓口となって両学科の合意を図って推進した。

また、教官ごとにバラバラであったオフィスアワーの日時を毎週集約することについて提案・推進した。さらに、実験の見直しの検討を始めた。

##### (2) カリキュラム・シラバス検討委員会

電気情報工学科・電子制御工学科とのカリキュラム融合について、電気情報工学科では「半導体工学」を、電子制御工学科では「ロボット工学」と「情報通信システム」を同時開講して、両学科の5年生が受講するようカリキュラムの改訂を検討し、平成16年度から実施する運びとなった。また、他高専の電気情報工学科や情報工学科のカリキュラムやシラバスも調査し、十分とはいえないが資料を集めている。

##### (3) 教育目標達成度評価委員会

成績評価の妥当性について成績が出た段階で一部議論しているが、細かくは検討していない。教育目標達成度の評価についてはまた検討をしていないので、この一年間のまとめとして年度末に検討を加えていきたい。

##### (4) 外部評価調査グループ

平成14年度の調査結果に基づき、平成15年度もよく検討を加えて対処すべきであるが、学校としての企業アンケートの結果が出た段階で、企業や卒業生からの評価を検討したい。

今年度は外部点検評価を実施したので、その結果をまとめて来年以降の教育改善に役立てるよう早急に検討していく予定である。JABEEについては、他大学や高専の等の状況を調査して検討を加え、これからの受審に向けて検討している。

##### (5) 内部評価調査グループ

###### (a) 在校生の授業への評価・要望その他の意見を調査

平素の学生からの要望や意見は、授業中やそれ以外の場で学生から得られた情報を昼食時に各教官から話題として出されるので、そこで意見交換を行っている。学科として検討する必要のあるものは科会議で議論している。前年度の授業評価アンケートについては、その結果をふまえて授業にフィードバックできるよう努力している。

##### (6) 自己点検評価グループ

グループとしての提案よりも日々気がつく場面があればその都度提案されているが、これまでグループからの特筆すべき提案はない。年度末に一区切りとして、グループにより一年間をとりまとめた提案を行う必要があると思われる。

##### (7) インターネット管理グループ

情報処理室の授業への対応を行っているが、一年間順調な対応がなされた。夏季体験学習等のPRページも例年になく充実したものが作成された。目下、来年度の授業に対応すべき準備が行われている最中である。

#### (8) 教官評価グループ

グループとしてはまだ検討会を持っていないが、年度末に評価会を行い、結果を科会議に出すつもりである。

#### 2. 平成15年度の具体的な活動計画

電気系学科のカリキュラムの融合を検討するため、選択科目を増やし、学生に受講する機会を与える目的で、例えば、電気情報工学科の4年生から導入する電気工学コース、情報工学コースの授業を電子制御工学科の学生が受講できるようにする等電気情報工学科と電子制御工学科の共通の授業科目の設定の検討を開始する。(6月下旬～)

- 2学科で3科目を同時開講することなどによって、受講学生の人数を平均としては2/3に減らすことができるので、少人数教育が可能となる。15年秋から、電気情報工学科と電子制御工学科とで教務委員を介して連絡を取りながらそれぞれの学科で検討を続けてきたが、最初の試みとして、5年次で、電気情報工学科では「半導体工学」を、電子制御工学科では「ロボット工学」と「情報通信システム」を同時開講して、両学科の5年生が受講するようカリキュラムの改訂を行い、平成16年度から実施することになった。近い将来、電気情報工学科が4年次でコース制に入ったときは、さらに他の科目にも適用することが可能となる。これで、学生にとっては科目の選択の幅が広がり、少人数教育の実施も可能となっていく。

教官教授力のスパイラルアップのために、授業参観、公開授業等を実施すると共に学生授業アンケート結果を反映させた授業改善について検討を開始する

1. 6月下旬～7月上旬 授業参観、公開授業
2. 9月中旬 授業参観、公開授業
3. 11月中旬 授業参観、公開授業
4. 1月下旬 授業参観、公開授業

- 公開授業については、7月7日から助手を除いた全員で、各々一科目について、夏休みをはさんで9月11日まで授業参観を実施した。参観の結果は、その週の内に学科会議等で意見交換を行った。また、授業担当者は学科教務委員に実施報告を提出し、参観した教官からはメールで意見を教務委員に送って、検討資料とした。なお、各自の授業との重なり等で参観に参加できなかった教官もかなりあった。計画では年に4回開催の予定であったが、1回と2回を合併して行い、残り2回は実施しなかった。事後のまとめ等を考えると年4回は多すぎるようなので、来年度は2回くらいがよいのではないかと考えている。

なお、本年度は各学科で教官個別の公開授業が行われたので、学科としてはできるだけ1名は参観に出席するよう心がけ、参観の感想等を実施教官にメールで送ることを心がけた。

一方、10月29日(水)は、一日かけて全校で保護者対象の公開授業を行った。1,2年生は混合学級なので学科ごとの集計はできないが、各々合計36名、26名の参加があった。

電気工学科3,4年の保護者は2名ずつ4名の参加があった。5年生の保護者の参加はなかった。この日は4年生の実験が3～7時限に実施されていたので、実験室の一隅に電気情報工学科の相談窓口を開設したが、相談に訪れた保護者はいなかった。学科としては、参観者が大変少なかったことに対して、今後種々の面から検討する必要がある。

在学中に取得する資格認定数を増やすための方策についてのガイドブックを整備する

- ・6月末までにガイドブックを整備、学生へ配布
- ・現在、資格試験受験の指導は、各教官が分担して世話をしているが、学科として統一したガイドブックを作成して指導に当たる。

○ガイドブックについてはこれまでに作成した古いものがあり、それを改良する予定であるがまだ着手しておらず、未達成である。各教官が分担して指導している資料を集約して早急に整備したい。

学生実験内容の整備のために、4年弱電、5年強電関係の実験内容を点検し、見直す

- ・8月末まで
- ・4年弱電の使用テキストがわかりにくいので、わかりやすいテキストを作成する。コース制にわかれた場合を視野に入れて、実験内容の手直しをはかる。

○電気工学実験2後期弱電の実験見直し、テキストの改訂を図る予定であったが、本年度は時間的なゆとりがなくて実現しなかった。電気工学実験3強電関係は前期については、「コンピュータを用いたDCモータの速度制御」というテーマのもと、4つの小テーマを作っているが、これらは昨年着手した新しいものであり、本年はその内容の充足を行い、ほぼ完成した。また、後期強電についても、6項目のテーマの改善を行い、2月には公開授業を行いその成果を報告した。

電気情報工学科PRのために、パンフレットを新たに作成し、中学校、企業へPRを行う

- ・6月中下旬
- ・昨年末に作ったものをもとに、より注目度、印象度の高いものへと手直しを行う。

○電気情報工学科PRのためのパンフレット作成については、中学生用学校説明会資料「はばたけ未来へ」の電気情報工学科のページを大幅に改訂した。なお、新たに別のパンフレットを作る計画であったが、それはできなかった。

電気情報工学科のWebページを点検し、見直す。

- ・6月下旬～8月上旬
- ・電気情報工学科の内容の充実を図る。Webページ更新体制の強化。教官個人ページの整備

○電気情報工学科のWebページの点検・見直しについては、大幅な改訂はしなかったが、全体的なデザインの変更、教官一覧表の体裁の変更、夏季体験学習ページの追加等を行った。全学的に「研究者総覧」ページが設置されたので、これから教官個人ページの整備を進めたい。

## ○ 総括的な評価と課題

教育改善グループの組織化を行ったが、このグループがそれぞれに独立して動くというよりは、全体的に動いてきたという感じである。したがって、各グループごとに成果のとりまとめを行うことは難しいことであった。

本年度の大きな改善点は、授業外に学生の学習習慣をいかに付けさせるかということテーマに、検討を加えて実現したことである。各教官のオフィスアワーを集約し、学生にとっては週二回オフィスアワーがあるということになり、そこへ学生が自主的にできるだけ多く集まって復習や予習、課題作成ができるような体勢を作った。このために科会議を週一回余分にとって検討を続けてきたが、今その体勢がスタートしている。これをうまく軌道に乗せ、学生に課外学習の雰囲気醸成するには、今後さらに努力が必要であるが、改善しながら発展させていきたい。

もう一つの課題として創造性を養うための実験の改善を検討しているが、これも早急に進める必要がある。

今後、授業アンケートをもとにした授業改善がどのようになされているか各教官からの経過報告と、それに対する検討を行う必要がある。それによってさらなる教育方法の改善を進めていきたいと思っている。今後、もう少し教育改善グループの動きを活発化させ、お互いのグループを関連づけたシステムとして動かしていく必要がある。

## 電子制御工学科

### 1. 電子制御工学科の教育改善体制と活動内容

#### (1) 教育改善委員会（田中（主任）、深山、今井、榊原（副主任）、山田）

##### 審議・活動内容

- (a) 教育改善の基本方針に関すること
- (b) 教育改善に係る環境の整備充実に関すること
  - ・ LabVIEW および NI-ELVIS を基礎工学実験室に導入。
  - ・ 基礎工学実験室のパソコンに高速 A/D 変換ボード、および、プリアンプを装備。
  - ・ 基板加工機のソフトの最新バージョンを導入。
  - ・ 卒業研究・特別研究のための研究用備品整備費を主任裁量経費から、若手教官に重点配分した。
- (c) 教育施設の管理運営に関すること
- (d) その他、教育改善に必要な事項

#### (2) シラバス・カリキュラム検討委員会（\*田中、栗原、出口）

##### 審議・活動内容

- (a) カリキュラムおよびシラバスの基本方針に関すること
  - ・ カリキュラムの改訂について検討した。下記(3)参照
- (b) カリキュラムおよびシラバスに係る環境の整備充実に関すること
  - ・ 平成16年度シラバスの電子制御工学科本科科目の学科内検討会を開催カリキュラムに関して検討を行った。
  - ・ シラバスのHP登録用システムの（学科内向け）を整備した。
- (c) その他、カリキュラムおよびシラバスに関する必要な事項

#### (3) 自己点検評価委員会（\*深山、松村）

- (a) 自己点検・教育改善のための提案を行う。
  - ・ 次の内容の提案を行った。
    - 変更前：後期、「情報通信システム」1単位（栗原）および「ロボット工学」1単位（山田）ともに必履修
    - 変更後：後期、「情報通信システム」1単位（栗原）,「ロボット工学」1単位（H14年度の自己点検結果に基づき,本年度は以下の教育改善を提案し, H16年度以降のカリキュラム,シラバスに反映させた。

### 1. 5D「情報通信システム」および「ロボット工学」

#### 1.1 改善にいたる経緯

点検報告書（H14年）のアンケート結果に「授業が面白くない」との学生の声があり、自己評価書（H14年）には、今後の課題として「電気・電子教官が共同して選択科目を増やす」との方針が示された。そこで、8月以降の学科会議による

協議により、改善方針を決定した。

1. 2 変更点山田), および「半導体工学」(E科, 尾西)の3科目のうち1科目選択

1. 3 変更の狙い

既に、進路や関心ある技術分野が明確化している5年後期において、情報通信分野、メカトロニクス分野、電子デバイス分野から選択させて、高度な内容を教授する。

2. 5D「経営工学」

2. 1 改善にいたる経緯

学生のニーズに応じた少人数、大人数授業の必要性が指摘され、その試行の一環として11月以降、学科会議および教務委員会での協議により改善方針を決定した

2. 2 変更点

変更前：後期，1単位，電子制御工学科のみで授業

変更後：後期，1単位，電気情報工学科と電子制御工学科とで合同授業

2. 3 変更の狙い

新設の科目において、2学科共通の一斉講義を行い、授業への十分な準備の時間を確保する

3. 1D「電子基礎実習」

3. 1 改善にいたる経緯

点検報告書(H14年)のアンケート結果に「授業が面白くない」との学生の声があり、自己評価書(H14年)には、今後の課題として「低学年時からの専門分野への意識付の必要性」との方針が示された。そこで、8月以降の学科会議による協議により、改善方針を決定した。

3. 2 変更点

変更前：通年，隔週，1単位（出口，榊原）

変更後：通年，隔週，1.5単位（出口，榊原）

3. 3 変更の狙い

低学年時にあって、専門分野や将来の進路への興味を喚起するとともに、併せて、専門分野への基礎となる低学年での科目履修の意欲を増進させる。具体的には、全テーマについて「解説」を1時間程度に増加するとともに、後期に1テーマ追加する。

4. 1D「情報基礎実習1」

4. 1 改善にいたる経緯

点検報告書(H14年)のアンケート結果に「授業が面白くない」との学生の声があり、自己評価書(H14年)には、今後の課題として「低学年時からの専門分野への意識付の必要性」との方針が示された。そこで、8月以降の学科会議による協議により、改善方針を決定した。

4. 2 変更点

変更前：通年，隔週，1単位（榊原，占部）

変更後：通年，隔週，1.5単位（榊原，占部）

4. 3 変更の狙い

(改善の狙いと内容)

低学年時において、専門分野や将来の進路への興味を喚起するとともに、併せて、専門分野への基礎となる低学年での科目履修の意欲を増進させる。具体的には、通年で5テーマを追加する。

(4) 教育目標達成度評価委員会（\*榊原、白井）

審議・活動内容

(a) 成績評価の妥当性に関すること

(b) シラバスに記載された評価方法の実施状況に関する事項

(c) その他、教育目標達成度の評価に関する事項

・シラバスに記載された評価方法の実施状況の調査は 3/10 の学科内シラバス検討会の際に行う予定。

・その他、教育目標達成度の評価に関する事項としては、将来、問題解決能力や創造性を卒業研究の評価に加えるために次のような方法で試行を行った。今年度の卒業研究発表会では、「問題解決能力がついていると評価できる発表」と「オリジナリティのある着想や工夫がある発表」にマークをするという方法で評価した。その結果、2名以上の教官が「問題解決能力」が身についていると評価した発表が 34 件の発表中、15 件あった。また、「創造性」が発揮されていると判断された発表が 4 件あった。

(5) 外部評価調査委員会（\*山田、栗原）

審議・活動内容

(a) 企業・大学・卒業生からの評価・要望その他の意見を調査

(b) 他大学、高専の審査状況の調査

・平成 16 年 2 月 17、18 日に外部点検評価委員会の外部評価を受けた。

(6) 内部評価調査委員会（\*今井、占部）

(a) 在校生の授業への評価・要望その他の意見を調査

(b) 学生支援活動を通じた、学生の要望その他の意見の調査

2. 今年の学科・科で独自に行う予定の具体的な活動計画

(1) 公開授業の実施予定

電子創作実習 4D(コンテスト)を16年の2月中旬に公開する

電子基礎実習(1年生)と情報基礎実習を12月に公開する。

・授業参観日に電子創作実習 4D を 4 月に公開した。(出口、白井)

・電子創作実習 4D(コンテスト)を平成 16 年 2 月 25 日に公開した。(出口、白井)

・電子基礎実習(1年生)と情報基礎実習を 12 月 8 日に公開した。(榊原)

(2) 研修会等への参加

・ 8 月新任教官研修受講。

・平成 15 年度工学教育連合講演会(6.15)に参加

・高等専門学校情報処理研究委員会第 23 回研究発表会

・電子情報通信学会主催の J A B E E 自主研修会(3/6, 7)に出席

・3月4日～5日 LabVIEWBasicsII コース受講

### 実施状況とその成果

#### 1 生物応用化学科の教育改善体制

学科内の教育改善に向け、1) 教育改善委員会、2) カリキュラム・シラバス検討委員会、3) 教育目標達成度評価委員会、4) 内部・外部評価委員会の各委員会を設置する。統括は教育改善委員会が行う。

#### 1) 教育改善委員会（河村、中山、早瀬、衣笠、勝浦、間淵）

##### (1) 各委員会、JABEE関連の年間計画を立案する。

各種委員会および JABEE 受審に関する計画を立案し、ウェブ上の「掲示板」に掲載した。

##### (2) 各委員会に年間実施計画を提出させる。

各種委員会は年間実施計画を立案し、ウェブ上の「掲示板」に掲載した。

##### (3) 各委員会の委員長会議を月 1 回定例に開催し、実施状況を把握し、調整・指示を行う。

委員長会議を 2 回開催したのみであり、各委員会に対し十分な調整・指示ができなかった。

##### (4) 各分野における各学年の学習到達目標を設定する。

各科目について、カリキュラム・シラバス検討委員会によるシラバス内容の検討に留まり、実力試験の実施や一般・数理科の科目担当教官との検討による到達目標の設定はできなかった。

##### (5) FD活動を推進する。

- ・各教官に授業のビデオ撮影を行わせ、報告書を提出させた。それを基に平成 15 年度授業改善に関する重点目標を設定した。
- ・教官研究集会や公開授業に教官を参加させた。
- ・夏季休業中を利用し、各教官の授業方法についての報告会を実施する予定であったができなかった。

#### 2) カリキュラム・シラバス検討委員会（衣笠、早瀬、中山、勝浦、間淵）

##### (1) 各科目のシラバス内容の検討、演習科目についてのシラバスの作成は実施した。

##### (2) 生物応用化学専攻分離に伴うカリキュラムの変更等の作業のため、学習到達目標のレベル設定はできなかった。

#### 3) 教育目標達成度評価委員会（真鍋、杉本、牛尾）

##### (1) 特別研究について適切な評価を行なうため、専攻科 1 年生に、年 2 回の中間レポート（A1 用紙 2 枚にテーマ、研究目的、実験方法、結果と考察、今後の方針を記載したもの）と英文要旨（中間英文要旨は 100 words、1 年次の期末中間英文要旨 200

words 程度)を提出させ、評価を行なった。

- (2) 実力試験の目的、実施方法、評価方法についての議論はできなかった。
- (3) (2)についての議論ができておらず、本科生、専攻科生に実力試験は実施できなかった。
- (4) キーワードを含んだシラバスの作成について教育改善委員会へ提案があったが、委員会において検討できなかった。

#### 4) 内部・外部評価委員会(杉本、真鍋、牛尾)

- (1) 前期中間試験後に学生の要望に関するアンケートを実施し、アンケート結果をまとめた。
- (2) 授業風景のビデオに関する各教官の意見をまとめた。
- (3) 外部評価を実施できなかった。

## 2 活動計画

### ビデオによる授業改善研究

日程どおり、各教官の授業のビデオ撮影を行なった。各教官は自らのビデオをみて、問題点、改善点を内部・外部評価委員会に提出した。得られた意見を教育改善委員会でまとめ、1) ひとつの話の説明の後に十分間をとること、2) 字を大きく書き、強調部分には色チョークや下線をつかうなど、板書に工夫を加えること、3) 書きながら話すのではなく、板書後の間を十分にとってから話すことを本年度の授業改善に関する重点目標として決定した。

### 学生の要望に関するアンケートの実施

前期中間試験後に学生の要望に関するアンケート実施した。記述式で行なったためか、あまり記入されておらず、まとめることはできなかった。

### 授業アンケートに基づく改善

授業アンケート結果に基づき各教官が提出した改善策を教育改善委員会においてまとめた。しかし委員会における再検討、および改善策の提案はできなかった。

### 総合的な評価と課題

各委員会において年間実施計画を立てたにもかかわらず、実施できなかった項目が多かった。原因は教育改善委員会内での議論のほとんどが JABEE 受審に関連したものとなってしまったこと、および教育改善委員長(主任)が月1回の委員長会議を開催せず、各委員会の活動を統括できなかったためである。



### 実施状況とその成果

1. J A B E E をにらみながら、次の6つの小委員会を設け活動を開始している。
  - (1) 教育目標 ( 曾我部、高橋、新田、志賀) 印：チーフ
    - ・材料工学科教育目標の設定。
    - ・JABEE基準1に対する学習・教育目標の設定。
  - (2) カリキュラム ( 新田、曾我部、高橋、志賀)
    - ・現状カリキュラムの学習時間の調査
    - ・H16年度以降のカリキュラムの検討
  - (3) シラバス ( 相根、池内、谷、松英)
    - ・H15年度シラバスの確認
    - ・H16年度シラバスの検討と確認
      - ・教育目標，カリキュラムについては，JABEE 推進グループの進捗にあわせて，十分な検討を重ね，まず教育目標を決め，それを達成するためのカリキュラム系統図を作成した．それらをもとに，H16 年度以降のカリキュラムの変更について検討し，結論を出すに至った．
      - ・シラバスについては，H15 年度分の本科および専攻科の全科目のシラバスについて検討し，内容，表現の統一など改善点を拾い出した。これらの検討項目は，H16 年度分に反映させる。また，他高専や大学のシラバスを参照し，本校のシラバスとの比較、検討を行った。
      - ・目標を設定し，目標に沿ったカリキュラムの検討（変更）ができた．
      - ・シラバスについてもいくつかの改善ができた．
  - (4) 外部評価調査 ( 志賀、谷、相根、松英)
    - ・最近の卒業生に対する正直な評価の聞き取り調査
      - ・13社の企業と4名の卒業生から聞き取り調査を行った。
      - 今回調査した企業の多くは、(新居浜)高専卒業生を高く評価していること、また、「専門基礎知識をしっかりと身につけ、自ら考えられる能力を持った学生」を希望していること。さらに、コミュニケーション能力の向上や精神面の鍛錬に寄与することから「課外活動を重要な位置づけにしている」ことが明らかとなった。
      - 卒業生の意見は母数が少ないので一般論としては扱えないが、MS-Word, Exel 等の市販ソフトを使いこなせるようになっておきたかったこと。また、企業の第一線で働いている人の講義には心動かされるものがあったようである。
      - ・アンケートとは違った正直な聞き取り調査ができ、それなりの成果は得られたが、母数が少なかった。
      - ・H16年度は年度当初から全教官が取り組みたい。

(5) 教育改善 (池内、松原、朝日、日野)

- ・現状調査 2 .
- ・公開授業、教授方法改善の計画・実施 2 .
- ・達成度評価の方法
  - ・達成度評価の方法は基本的にはシラバスに記載とおりの評価方法で良いと考える。一方、到達レベルの設定や評価方法の妥当性に関わる問題がある。シラバスに記載された評価方法の実施状況を検討するため、授業アンケートの「4.シラバスとおりの評価か」について分析した。この項目4は2.で述べる授業アンケートの分析には含めていない。項目4を数値化した結果は、全体的に低い値であったが、授業アンケートの分析結果と相関が認められ、学生評価の高い授業は項目4が高得点であった。なお、「シラバスの内容を知っている」とした学生は平均として25%に満たないことは問題点である。
  - ・到達レベルを適切に設定し、評価方法が妥当であれば、授業アンケートによって達成度の一部を評価できる。

(6) J A B E E 現状調査 (新田、曾我部、志賀)

- ・他高専、大学のJABEEへの取り組み状況調査 (M科と共同で調査)
- ・M科の先生と共に宮城高専へ調査に行った。

2. 公開授業等の実施

- ・H14年度の授業アンケートを分析し、問題点を洗い出し、改善策を検討する。
  - ・学生評価の高い授業科目について、公開授業を行う。
  - ・ビデオによる授業の公開と教授方法の研究を行う。
    - ・授業アンケート分析のため、アンケート結果を数値化し、学生評価の高い授業について公開授業を行った。
- アンケートの設問10項目の内、評価項目を授業に直接関連する6項目として満点600点から最低-600点となるよう数値化した結果、評価点数は417～-194(平均点129)の範囲で分布した。この内、材料加工学(417点、谷教官)と材料力学(397点、志賀教官)を公開授業とした。前者はパワーポイントを主体とする授業、後者は板書を主体とする授業である。
- ・公開授業の感想や意見を収集し、学生評価の高い授業を分析した。
  - ・材料力学の公開授業をビデオに収録し、授業参観できなかった教官も視聴して、教授方法を分析した。
  - ・アンケート結果を数値化することによって授業を定量的に評価できた。
  - ・公開授業参観およびビデオ視聴した教官全員が見習うべきところを捉えた。
  - ・2つの公開授業に共通する点が多く、授業の進め方、授業の良いところ等を2ページ(A4)にまとめ、各教官の授業改善に活用できるようにした。

3. 成績不振者のフォローアップ体制の構築

- ・H14年度の勉学アンケートを分析し、材料工学科の問題点を洗い出し、対策を検討する。
- ・オフィスアワー、アドバイザーを有効に利用する方法を検討する。
- ・学科独自の補習授業を検討する。
- ・2年次に工学基礎学力の確認を組み込む事を検討する。

- ・ H 1 4 年度の勉学アンケートを分析し，材料工学科の問題点を洗い出し，対策を検討する。
  - ・ 勉学アンケートの結果については他学科との比較をするに留まった。すなわち，宿題やレポートは「他人のものを参考にする」，「丸写しにする」学生が両者で 5 3 % で材料工学科が最も多い。また，1 日の勉強時間「ほとんどしない」学生が 6 9 % で材料工学科が最も多い，など問題があるが，これらの結果は機械工学科の結果と酷似しており材料工学科特有の問題点ではないと考える。なお，アンケート結果全体において機械工学科と材料工学科の分布に似通ったものが多いが，「自分の将来に明るい希望を持っていない」学生は，材料工学科が 3 3 % で最も多く，機械工学科が 1 9 % で一番少ない。
  - ・ 掲示板に掲示し，学生に掲示板を毎日見るように指導し，低学年の専門の授業において，学生にオフィスアワーを利用するよう呼びかけた。オフィスアワーの利用状況を定期的に調査しているが利用者は少ない。また，アドバイザー学生の呼び出しに応じない学生が居るなど，成果は上がっていない。平成 1 6 年度は低学年( 1 ， 2 年生)と専門各教官との係わりを深める方策を検討する必要がある。
  - ・ H 1 6 年度以降のカリキュラムの変更について検討し，材料工学の基礎学力を定着させるために，2 年次に「材料工学演習」を導入した。

#### 4 . 学生の個人情報の共有

- ・ 学生の個人カルテの作成を検討する。
  - ・ 教室会議のとき，学生の勉学・生活状況など個人情報を交換する。
    - ・ 学生の個人カルテの作成実施していない。
- 学生に一年間の目標を定めさせ，それをどのように達成するか，英検など各種資格試験に挑戦したか，など統一フォーマットを作成し，アドバイザーが学生を引っ張るように指導することを検討する予定であった。このことに関し，対 J A B E E では，学生が自主的に行動することが必要であり，学生の自主性を育む方策を検討する必要がある。その一つとして，来年度から「課題演習 2」( 1 ~ 5 年、3 単位)を設定する。本年度から，材料工学入門( 1 Z ) や実験・実習にプレゼンテーションを組込んでいるが，学生は失敗を通して自分で考えることの必要性を体験している。このことは授業後の調査による自己評価や感想にも表れている。
- ・ 過去何年かの教室会議に比べて，データは無いが，教室会議のとき，学級担任，学生委員，寮務委員からの学生情報や各教官による学生の授業中の様子などを多く話題にしてきた。
  - ・ これらの成果は明確でないが，受講態度に問題のある学生を注意する場合など，他の授業においても同じような注意を受けたことを併せて注意でき，以前よりも注意の効果があるように感じる。また，教官が学生のことを互いに話題にしていることを学生が知ることの効果もある。今後も続けて行きたい。

#### 5 . 進路指導の強化

- ・ 担任だけでなく，学科として進路指導を強化する方法について検討し実施する。
  - ・ 低学年( 1 Z ~ 3 Z ) の授業中に本年度の進路状況や卒業生の活躍状況などを話題として取り上げている。
  - ・ 保護者懇談会で，前年度の求人一覧表，過去 5 年間の就職，進学先を配布して，進路決定に対する具体的な意識を高めるよう努力した。また，就職関連本( S P I など) の教室への設置、S P I テスト( 性格) の試行等を実施した。( 4 Z )

- ・どのような成果があったかについては，調査していない．

### **総括的な評価と課題**

・ J A B E E をにらみながら 6 つの小委員会を立ち上げ，それぞれ一定の成果を上げることができた。しかし，各委員会の連携は十分とはいえず，スパイラルアップを図るよう，各小委員会を取り纏める材料工学科の教育改善委員会を早急に設置する必要がある。（現在の小委員会は教育方法改善委員会に名所変更）。また，学生指導の面から，成績不振者のフォローアップ体制および専門教官と 1，2 年生との係わりの度合いに問題があり，継続して，改善に取り組む必要がある。

## 実施状況とその成果

### 1 教育改善推進体制

数学、物理、化学に対応したグループ制

(グループを越えるものについては適宜、主任をチーフとする体制を取る)

数学グループ：川崎(チーフ)、小山、千葉、西谷、柳井、古城、三井各教官

物理グループ：塩原(チーフ)、平木、竹田各教官

化学グループ：新田(チーフ)、柴田各教官

推進体制を整備し、グループごとの小体制をとった。

### 2 具体的活動計画とスケジュール

数学グループ

#### (1) カリキュラム・シラバスの内容の検討

・年度の教科の教授法の総括討議

前年度末・年度初めに集中的に討議(非常勤講師を含む) (3月) 4月

三月末、四月はじめの二度にわたり非常勤講師を含め詳細に打ち合わせを行い共通講義の推進体制を整備した。

・適宜、進捗調整、修正等

適宜

各四半期ごとを中心に、進捗調整を行った。

・各専門学科との討議

7月～12月

意見交換と互いの授業への反映

グループごとに適宜行ったが、系統的にまとまった形ではできなかった。

・定期試験検討WG(教科毎)

定期試験前後

共通問題化に取り組む、また、結果の解析・反省

国専協事業成果の「高専数学活用事例集」を活用する。

科目別にワーキンググループを形成し、この単位で試験期ごとに詳細な検討を行った。その結果、共通科目は共通試験をほぼ実行した。数学試験問題では、当校では記述式を主としており、「高専数学活用事例集」はあまり参考にならなかった。結論的にこの項目は一番成果の出た項目である。

・情報教育関係：情報教育センターにメンバーが所属し検討

～3月

情報教育センター主導で検討を行った。

#### (2) その他

・数学検定WG

数学検定の状況調査（制度の調査、導入校の調査等）と実施上の課題の抽出

～ 9月

実施可能性と実施する場合の実施案提示

～ 12月

（試行：実施可能と判断できた場合、あるいはその判断のため）（年度の最後の検  
定チャンス）

実用数学検定試験の調査を行い、H16年度から単位化を取り込み、学校内に周知さ  
せ、H16年8月に第1回の団体受験実施の段取りまでこぎ着けた。

・ハンドヘルドコンピューターWG

これまでの利用結果のまとめ、他校での利用状況の調査

～ 9月

導入可能性検討、導入形態の研究（物理・化学や専門教科との関係）

～ 12月

物理・化学の演示授業や実験中心授業への対応が可能と考えられる。

注）ハンドヘルドコンピューターは手のひらコンピューターの意味である。その利用と  
しては、

コンピューター室を必要としないコンピューター利用教育ができる。

特に、各種センサー機能を付属させることができその場合は、ハンドヘルド（物  
理・化学・工学）の実験室になる。

その中に、代数ソフト「ディライブ」が含まれており、これを数学教育にどう使  
うかが課題（既に、米、東アジアでは普遍化しつつあり、また国内でも先端校が  
使った数学授業をしている。）

ハンドヘルドコンピューターの数学での活用結果のまとめを行ったが、利用拡大策の  
検討までには至らなかった。

物理への利用拡大の検討には入った。

物理グループ

(1) カリキュラム・シラバスの内容の検討

・年度の教科の教授法の総括討議

特に、中学新課程に対応した変更初年度に当たりそのフォロー・アセスメントを十分に  
行う前年度末・年度初めに集中的に討議（非常勤講師を含む。）（3月）4月

適宜、進捗調整、修正等

適宜

新1年生からカリキュラム変更を行ったが、教科書もそれに対応して改めた（高等学  
校用のものが適していることを確認しそれにした）。新教科書は以前のものと同編集方針  
を大きく変えており戸惑ったものの教授法を常に討議しながら、授業を行った。

・各専門学科との討議

7月～12月

意見交換と互いの授業への反映

特に、中学新課程に対応した変更初年度に当たりそのフォロー・アセスメントを十  
分に行う。

新1年生のカリキュラム変更、教科書変更に注力した結果、この面に関してはやや不  
十分であった。

・定期試験検討WG（教科毎）

定期試験前後

共通問題化に取り組む、また、結果の解析・反省

特に、中学新課程に対応した変更初年度に当たりその対応を十分に行う。

定期試験の共通問題化は完全になされた。

## (2) 演示授業の強化

- ・ハンドヘルドコンピューターの導入検討（数学グループと連携し、専門学科とも関連付け）  
～ 12月  
ハンドヘルドコンピューターの導入の検討を行うためまず教官が試用のため購入した。
- ・教育機器、実験主体教授法に関する情報蒐集と演示授業への取り込み ～ 12月  
教育機器、実験主体教授法については、多大の時間をかけて取り組んだが諸般の事情により大きな成果を上げるに至っていない。

## 化学グループ

### (1) カリキュラム・シラバスの内容の検討

- ・年度の教科の教授法の総括討議 - 特に、“イオン”について強化 -  
前年度末・年度初めに集中的に討議 (3月) 4月  
適宜、進捗調整、修正等 適宜  
新1年生については単位増もあり、大幅にカリキュラムの改訂を行った。特に、中学校で割愛された“イオン”について強化した。さらに今までは取り込めなかった“高分子化合物”、“環境化学”も2年生で教授した。
- ・各専門学科との討議 7月～12月  
意見交換と互いの授業への反映  
適宜各学科と意見交換を行い、カリキュラム変更反映させた。
- ・定期試験検討WG（教科毎） 定期試験前後  
共通問題化に取り組む、また、結果の解析・反省  
これについては、化学は以前より、2人で検討し、完全に実施している。今年度も同じく完全に実施した。

### (2) 演示授業の強化・実験授業の導入

- ・学生実験の導入  
計画立案 ～ 6月  
設備・道具購入 ～ 9月  
実施 : 遷移金属イオンの検出(2年) 後期授業  
実施 : 電気分解(2年) 16年度授業  
上記については実行し、も実験機器購入などを行って、予定通り16年度実施に向け万全な準備を行った。さらに、1年生については当初予定の2テーマを3テーマに増し実施した。
- ・ハンドヘルドコンピューターの導入検討（数学グループと連携し、専門学科とも関連付け）  
～ 12月  
化学実験あるいは演示授業にはこのツールは数学、物理の後になると判断し、導入については次年度以降の課題とした。

- ・その他教育機器、実験主体教授法に関する情報蒐集と研究 ~ 12月  
「化学と教育」等での化学教育研究の一貫で絶えず情報蒐集と研究を行った。

### **総括的な評価と課題**

項目により実施状況に多少の凸凹があるがコアの計画についてはおおむね達成できたと評価する。

課題： 期限間際の成果出しに追われる印象であった。今後、重点化、軽重アクセントを付ける必要がある。

計画外のワークが多く計画に必ずしも注力しきれなかった。



## ○ 実施状況とその成果

### 1. 教育改善推進体制

教科ごとにグループを組む。

英語グループ： 尾崎、鴻上、塚野、野村、野口(正)各教官

国語・国文グループ： 野口(裕)、森長、野田各教官

社会系グループ： 岩倉、板野、谷本各教官

保健・体育グループ： 安藤、今城、尋田各教官

\* : グループ長

体制が整い、それぞれのグループはグループ長のもと、教育改善方法を検討し、改善に取り組んだ。

科主任、各グループ長からなる体制を組む。

体制は組んだが、科会議のなかで機能した。

### 2. 活動計画

英語グループ

・月一回は会合を持つ。

実施状況：4月から2月までで合計25回英語科会議を開催した。

成果：新入学生学力確認試験、公開授業、教育フォーラム、語彙テスト、校内全学年統一英語学力試験、外国人教師を迎えての少人数授業、カリキュラム検討、教育方法改善等について協議・検討した。

評価・課題：英語科としては、今までにない新しい企画にチャレンジし、全般的にかなり満足できる成果を上げられたのではないと思われる。全学的な協力により、統一学力試験（試行）が実現されたことは、大きな成果であった。来年度は、正に年2回学力試験を実施することに決まっており、さらなる成果をあげるよう努力したい。

・教育方法・内容を検討する。

実施状況および成果：後期には外国人教師を迎え、本科3・5学年および専攻科1・2学年では少人数クラスの授業を実現した。また、TOEICを目指した授業支援ソフトを導入し、授業はもとより放課後での自主的な学習が可能になった。また、教育内容を厳選し、効果的な授業実践を行うよう努めた。

評価・課題：少人数クラスの実現により、以前よりも集中した授業、きめの細かい指導が可能となった。授業支援ソフトを利用した授業では、学生が早く操作に慣れ、自分のペースで学習できるようになることが必要である。また、授業以外で、自主的に利用することを今後奨励する必要がある。

・本校学生の語彙力に関する調査を行う。

実施状況および成果：学生の語彙力の実態を把握し、今後の指導の参考とするため、1年生から5年生まで全学的に語彙サイズを測定するテストを実施した。日本人英語学習者のために開発された語彙サイズテスト（望月正道,1998）を

用い、1・2年生は1,000語及び2,000語レベル、3～5年生は1,000語～5,000語レベルを測定し、語彙サイズを推定した。

今回のテストにより本校学生の語彙力の実態が把握できた。

評価・課題：今後、学生の語彙力に基づいた授業を実践する必要がある。また、さらなる学生の語彙力の養成を図ることも必要である。

#### 国語・国文グループ

- ・活動内容：グループによるFD等の実践
- ・定期試験ごとに会合を持つ

実施状況：定期のものとして4回、おもに下記の目的で会合を持った。

第1回(4月)電子辞書の授業での使用方法の検討など

第2回(6月)進捗の確認、今後の授業計画の検討など

第3回(10月)進捗の確認、今後の授業計画の検討など

第4回(3月)次年度シラバス、今後の教育方針の検討など

また、この他にも、各学年ごとに細かな打ち合わせが、随時行われた。

成果と課題：進捗(試験範囲)、評価の点で、教官の違いによる差は、最小限に抑えられた。定期的な会合は、有益なものであり、今後も続けたいが、学年ごとの細かな打ち合わせが更に必要であることが確認された。今後の課題としたい。

また、電子辞書の使用については、1年生にアンケート調査を行い、野口裕子教官が、教官会において中間報告を行った。学生も教官も電子辞書を使いこなす勉強が必要であることが確認された。

- ・教授内容の基本的な統一を検討する

実施状況:今回、1、2年生において、試験期ごとの教授内容(範囲)については、ほぼ統一がなされた。また、古文、漢文の内容統一について検討した

成果と課題:細かな点(どこまで深く教えるかといった点)については、各教官に一任されている。教官の特徴(専門分野の違い)を活かす上でも、これは、無理に統一する必要はない、と現在のところ判断している。無理な統一は、教授内容の低下を招く恐れがあるからである。今後の課題とする。

- ・シラバスの内容を検討し、改善をはかる

実施状況：平成15年度1年生からのシラバスは、1、2年で同じ教科書を用いることから、2年間の周期で改定を加えるという方針が今回決定した。

成果と課題：ただ、平成15年度1年生の授業において、実際にはシラバス通りにはいかなかった点も多少あった。今後の課題としたい。

- ・それぞれの教育改善のための工夫を持ち寄り、互いの教授能力の向上に努める

実施状況：教材研究の過程において、随時なされた。補助教材(プリントなど)の効果的なもの、あるいは有益有効な情報については、今後も共有等して向上に努めたい。

成果と課題：現在、国語の教授能力については、ある程度のレベルを保持していると考えている。ただし、今後、新入生の学力のレベルの問題など考慮するならば、さらなる研鑽が必要であることはいうまでもない。また、平成16年度1年生から、漢字学習の副教材を新しくする。この有効な使用方法の検討は必須である。

## 社会系グループ

- ・年4回の会合を持つ。(時期の目安は、試験期ごと)
- ・授業内容、方法を相互に検討する。

実施状況・成果・評価：予定通りには行かなかったが、前期後期1回ずつ社会系グループの会合を開催した。歴史1と倫理との間で重複した内容の調整について議論した。

また、5年生の選択科目(応用倫理学、法学、歴史特論)の授業内容を各自が報告し、お互いの科目の理解が高まった。

課題：来年度は、新任教官の科目を中心に、授業の内容・方法について検討する。
- ・資料を持ち寄り、検討を加える。
- ・機会を見て、相互に授業を参観する。授業方法を検討する。

実施状況・成果・評価：「日本国憲法」の授業を全員が参観するとともに、授業の配布資料を持ち寄り意見交換した。

課題：授業を参観する機会を増やすように努力する。

## 保健・体育グループ

- ・以前から授業内容、方法について、会合を持ち、検討していることをふまえて、定期的な会合の開催、授業内容、方法の改善に取り組む。
- ・授業改善
  - 教材の選定

ソフトボール・バレーボール(他の教材に比べ能力差が大きいことについて)

原因と対策：プレイしたことがないことが1番であり、特にソフトボールは中学校の教材になく、遊びのなかでもあまりやったことのない層の学生が含まれている。

低学年ではすぐにゲーム形式が取れないことが多いので、導入部で基本的な動きを取り出し分習形式で行う。

評価：基本的な動きを幾つか取り出し分習することによって、それぞれの教材の大まかな形を理解できるようになりゲームの様相も向上を見た。

課題：まだまだソフトボール・バレーボール嫌い(運動嫌い)の層ははっきりしているが、将来職場および社会体育で最も用いられる種目でもあり教材として取り上げて行きたい。そして、根本的にソフトボール・バレーボールの楽しさを指導して行きたい。
- ・授業方法
  - 体育実技での欠席・見学者の扱いについて
  - 現状：気候・天候状況、教材、授業形態などによって"サボリ"学生がでる。サボらないよう指導したにもかかわらず、これまで以上に目に付いた。
  - 原因：運動嫌い、気力低下、体育の服装忘れ、睡眠不足、無関心、その他
  - 対策：これまで欠席・見学について特に何も課することをしなかったため、何らかの対応を検討したい。
  - 無関心・無気力の学生に対し興味を持つ授業方法の工夫と、保健などの授業を通して、コンディショニングづくりと日常生活のあり方を指導したい。

「運動嫌い」に対する指導は体育の最終目標であるが、身体運動の必要性を地道に説得し、まだ未体験と思われるスポーツの爽快感を体感できるよう工夫したい。

・定期的な研究会・指導打ち合わせの会の開催

実施状況：3人の常勤教官の会合と、非常勤の先生から様子や問題点を聞く形態の2種類で行った。

成果・評価：授業間の連携や教材選定における統一性の面で向上があった。

学生観察の情報量が増え、個々の指導に生かされた。

非常勤の先生(ある意味外部)から見た高専学生の指導ポイントと言う点で大いに参考になった。

課題：会合の回数はこれまで以上になったが、なかなか時間設定がうまく行かず、特に放課後の時間などは、それぞれにクラブ指導などがあり、さらに校務分署の委員会などが入ることにより定期にできなかった。今後さらに工夫したい。

3. 中学校教育との連携方策

・中学校の指導要領を検討する。

実施状況：これまでも教科によっては中学校の指導要領および教科書を取り寄せて、検討していたが、中学の新指導要領の適用を受けた学生が入学するようになったことにより、第1学年の国語、英語、倫理、地理などに関連する分野について検討した。

課題：新年度は第2学年の歴史などの分野について検討して行く。

**総括的な評価と課題**

計画をたて、実施を進めたが、達成度は教科によって差異がでた。手広く計画をたてるのではなく、計画をしぼり、必ず実施する努力が求められる。

## 専攻科

### 1. 外部講師による講演会の開催

- 1.1 教官・学生の意識改革：卒業生による講演会（H15年9月頃までに実施したい）  
（企業における意識改革：ユースコンサルティング 社長 平田氏を予定しているが、別途、旭化成の人事担当者も考えている）

この講演会主催を、専攻科教育委員会として実施する。

「ベンチャーマインド養成セミナー」を10月22日～1月27日まで合計8回のセミナーを開催し、教職員への参加をメールや新居浜高専校報により募るが、参加者は専攻科教育委員のみであった。課題として、教職員へのPR方法の検討とともに学内講演会の開催時期などの調整も必要かと思われる。

- 1.2 愛媛オリジナル 微生物による環境浄化について」

対象：本校教職員、専攻科生、本科生(できれば5C、4C)

講師：愛媛県工業技術センター 所長 曾我部 氏

開催時期：日程調整を検討中。

（環境保全委員会と専攻科教育委員会との共催）

実施することができなかった。学内における講演会の開催時期が特定の時期に集中し、日程調整が困難であったことが課題である。

### 2. 学内講演会

- 2.1 専攻科生を対象として講演：講師 校長先生

専攻科1年生：「専攻科生の学生生活について」(平成15年7月頃)

専攻科2年生：「専攻科修了後……」(平成15年11月頃)

校長先生により、専攻科1年生：「専攻科生の学生生活について」(平成15年7月)に実施して頂き、学生の感想レポートに対する丁寧な個別指導をして頂き感謝しております。

専攻科2年生については、実施時期の設定と公務が重複し、実施できなかった。課題として、年間行事計画の日程調整が必要である。

- 2.2 専攻科生と対象とした講演：講師 専攻科卒業生

[1] “専攻科修了OBから見た専攻科生”等の題目による講演。

実施時期および講師については、現在、検討中である。

「ベンチャーマインド養成セミナー」を10月22日～1月27日まで合計8回のセミナーを開催し、教職員への参加をメールや新居浜高専校報により募る。専攻科生及び専攻科教育委員による講演の評価は高い。

### 3. 平成16年度開催予定である「中四国地区専攻科生研究交流会」の準備を行う。

- 3.1 学生の準備委員長、委員を選出し(平成15年6月末)、運営方法、会場、宿泊、ホームページの立ち上げなどを検討するとともに、準備用資金の校長裁量経費申

請を行う。平成16年2月中旬には、中四国の専攻科へ案内状の発送を行う。教官の準備委員長は、池内主任である。

平成16年度4月22日開催を目指し、その準備は着実に進行している。

学生側の実行委員長として、三木江一都君が選出された。

予稿集作成費用が校長裁量経費に採択され、予稿集原稿を3月24日に印刷所へ渡す。

#### 4. 専攻科履修要覧の大幅な改訂を行う。

4.1 専攻科生に対する校長先生からのメッセージを入れる。

4.2 教育目標及びその達成方法を分かり易い表現で記載する事を検討する。

4.3 学生にとって利用しやすい履修要覧の作成を目指し、資格取得、学外実習の意義、企業との交流、学会発表等の研究活動の状況、学位申請へのスケジュールなどを入れる。

4.4 原案の作成を6月中旬頃までに行い、7月上旬までには配布したい。

以上の4項目については、配布計画予定日から約2週間程度遅れて配布した。学生にとって分かり易く、利用し易い専攻科履修要覧を作成することができたことは評価できる。さらに、学生にとって利用し易い履修要覧を目指し、今年度末、内容の見直しを行っている。

#### 5. 専攻科シニア・インターンシップ(学外実習)の奨励

5.1 6月の運営会議において、その実施要項の了解を得る。

5.2 専攻科1年生の希望者及び実習可能な企業リストの作成を行い、実施する。

専攻科1年生、7名のシニア・インターンシップを実施できた。

課題は、従来とは異なった観点から、新たなシニア・インターンシップを策定し、実施に向けて努力したが、各学科との共有化が不十分であったことである。

#### 6. 専攻科基礎科目担当部会を立ち上げる

6.1 英語教育特別推進室：高橋先生(中川へ変更)を主軸に、5月より活動を始めている。さらに、学内に設置された英語教育改善WGとの連携を図る。

6.2 数学教育特別推進室：柳井先生を主軸に、6月中旬より活動を始める。月1回程度の打合会を開催する。

前期において、英語担当教官と“TOEIC: 400”達成を目指した長期計画について議論を行い、原案を作成した。さらに、“英語学習支援用ソフト”の申請を行う。生産工学専攻より生物応用化学専攻が分離申請を学位授与機構へするため、数学担当教官との連絡会を実施し、カリキュラムについて見直しを行うと共に、新設科目を設けた。

後期において、英語担当教官として新採用された外国人講師の長所を活かした教育方法などについて議論を行い、実施した。専攻科基礎科目である数学

英語の専攻科入試における必要性の見直しを数学担当教官及び英語担当教官と実施した。学生が“TOEIC IP”試験を受験しやすくするため、“TOEIC IP”試験の法人会員になる申請が採択され、本年度末に実施される。

### 総括的な評価と課題

#### 1. 外部講師による講演会の開催

1. 1 教官および学生の評価は高い。
1. 2 課題として、各委員会において開催される講演会との日程調整が問題である。  
ある時期に集中するため、学校全体における日程調整を行う場が必要である。
2. 学内講演会
  2. 1 教官の評価は高い。  
課題として、各委員会において開催される講演会との日程調整が問題である。  
ある時期に集中するため、学校全体における日程調整を行う場が必要である。
3. 平成 16 年度開催予定である「中四国地区専攻科生研究交流会」の準備
  3. 1 専攻科 1 年生と関係教職員との協力により、順調に準備は進んでいることは評価できる。中国四国地区専攻科生研究交流会のポスターを企業や官公庁へ掲示し、専攻科生の活動を PR したい。
4. 専攻科履修要覧の大幅な改訂を行う。
  4. 1 学生にとって分かり易く、利用しやすい専攻科履修要覧を作成することができたことは評価できる。
5. 専攻科シニア・インターンシップ(学外実習)の奨励
  5. 1 専攻科 1 年生、7 名のシニア・インターンシップを実施できたことは評価できる。  
課題は、従来とは異なった観点から、新たなシニア・インターンシップを策定し、実施に向けて努力したが、各学科との共有化が不十分であったことである。
  5. 2 来年度、専攻科 1 年生の全員によるシニア・インターンシップ実施に向けて官公庁および企業への依頼活動を実施している。各学科との協力体制を作ることが課題である。
6. 専攻科基礎科目担当部会を立ち上げる
  6. 1 専門基礎科目担当教官との連携を図る会合を立ち上げ、専攻科生の基礎力向上を目指した実施計画を作成し、運用することができた点は評価できる。  
しかし、全学で継続的な組織運営のシステム作りが課題である。

## 2.3 センター・委員会等教育改善推進計画の実施状況

### 情報教育センター

#### 実施状況とその成果

- 1 施設の有効利用のための講習会
  - ・教職員を対象とした専攻科 AV 教室の利用のための講習会を 3 回実施した。
    - 第一回：平成 15 年 12 月 19 日
    - 第二回：平成 16 年 1 月 27 日
    - 第三回：平成 16 年 3 月 5 日
  
- 2 プレゼンテーションソフト等を用いた教材作りに関する講習会
  - ・教官を対象とし、本校卒業研究発表会程度の教材作りができるようになるための講習会を平成 16 年 3 月 15 日に実施した。

#### 総括的な評価と課題

- ・上記 1、2 とも平成 15 年度に計画した内容はほぼ達成できたと考えるが、時期が大幅にずれ込んでしまった。そのため、特に 2 の講習会に関しては一度しか実施できなかった。



## 情報セキュリティ委員会

### 実施状況とその成果

- 1 平成14年度に策定された情報セキュリティポリシーを学内公開

本校ホームページ学内限定情報に、「新居浜高専情報セキュリティポリシー」を公開した。

- 2 本校情報セキュリティポリシーの周知のため全職員宛に通知

全教職員宛に新居浜高専情報セキュリティポリシーを遵守するよう学内への周知を図った。

- 3 全教職員に情報セキュリティに対する理解を深めてもらうために、総務省の国民のための情報セキュリティサイトをお知らせする。

情報セキュリティ委員長より、全教職員宛に、  
[http://www.soumu.go.jp/joho\\_tsusin/security/index.htm](http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/security/index.htm) をお知らせしていただいた。

- 4 情報セキュリティ教育に関する学生教育

情報教育センターと協力し、全学生への IC カード配布に伴い、全学生への情報セキュリティポリシーに関する学生教育を、IC カードの取扱い説明事項とともに実施した。

- 5 全教職員向けの本校情報セキュリティポリシーに関する説明会の実施

まだ、実施できておりません。

### 総括的な評価と課題

従来、文部科学省より、各機関ごとに情報セキュリティポリシーを策定し実施するよう要請がありましたが、来年度より、全国国立高専が、一法人高専機構となるため、各校で独自に策定した情報セキュリティポリシーの整合性が問題になってくるように思われます。

## 環境保全委員会

### 実施状況とその成果

#### 1 特活の時間を利用した環境教育

計画 対象： 1, 2 年生

講師： 本校教官

実施状況 対象： 3 年生（講師：真鍋、谷）（12月）

対象： 1 年生（講師：真鍋）（1月）

#### 2 環境に関する講演会

計画 対象：専攻科学生

講師：外部講師

実施状況 今年度は実施しなかった。

#### 3 環境専門委員会学生を対象とした教育活動

計画 対象：環境専門委員、ほか、環境問題に関心がある学生

外部講師による講演会、施設見学会、学生の環境意識調査

実施状況

外部講師による講演会

対象： 学生環境専門委員

講師： 石塚斐子（環境省環境カウンセラー）

学生環境専門委員会による学生の環境意識調査

対象： 全在校生

実施内容：アンケート方式による調査をして集計結果を国領祭の展示と高専  
だよりで発表

## 学生相談室

教職員を対象としたカウンセリングの講演会は後期中間試験中か学年末試験中に実施したいと思います。講師の委嘱のために講演会の日程を決めていただきたい。講師のご都合もあるので、ある程度幅のある日程を決めていただきたい。日程が決定次第、講師の選定に取りかかりたい。

冬季体育大会の1月27日に香川大学の小柳晴生先生に講演をして頂いた。

## 3 . 各部門の活動状況

### 3 . 1 教育活動

#### 3 . 1 . 1 学生の受入状況

##### 【本科】

##### ( 1 ) 学生募集方法

本科の学生募集の方法は、昨年度と変わっておらず、推薦入試と学力入試の2種類の選抜方式で、5学科（機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、生物応用化学科、材料工学科）とも募集人員は40名である。その内、推薦入試の募集人員は各学科とも35%程度である。推薦入試における推薦基準および選抜方法、また、学力入試における出願資格および選抜方法も昨年度と同様である。ただし、推薦入試の内申点について、昨年度は中学校の絶対評価による成績評価制度の導入にともない、中学校格差が生じることを考慮して、2年生と3年生の平均を用いたが、本年度は、従来からの中学3年生の12月現在の成績を用いる方法とした。今後、絶対評価の中学校格差の調査・分析を継続的に行っていく必要がある。また、3年前から導入した学力入試の傾斜配点についてもその効果を分析・評価する必要がある。

##### ( 2 ) 入試状況

表3.1.1に過去5年間の本科各学科別の入学志願者数、合格者数および入学者数を示した。

平成16年度入学(入試は平成15年度に実施)の状況に関しては次のことが読み取れる。

- 1) 志願者総数が262名であり、前年の350名と比べて大きく減少した。  
(愛媛県内の中学3年生数は、平成14年度が16,015名で、平成15年度は15,484名と約530名程度の減少である。)
- 2) 学科別志願者数については、機械工学科と電気情報工学科は昨年とほぼ同程度であるが、他の3学科(電子制御工学科、生物応用化学科、材料工学科)では激減している。中でも電子制御工学科の受験倍率は1.0倍、材料工学科では0.8倍である(いずれも第一志望による)。
- 3) 材料工学科の推薦入試の志願者数は増加せず、他学科のそれと比べてかなり少ない。志願者の出身地分布から、本年度の志願者数の減少は、新居浜市および今治地区からの受験者がかなり減少したことによる。その原因については不明であるが、本校のイメージアップ(留年・退学者数の減少、卒業後の進路先の開拓、魅力ある学生生活など)を行うとともに、今以上のPR活動を行い、早急な志願者増員対策を講じる必要がある。

表3.1.1 本科各学科別および入学年度別の入学志願者数、入学試験合格者数および  
入学者数

学科	入学年度	志願者数 (推薦)	倍率	合格者数 (推薦)	入学者数
機械工学科	平成12年度	77(5)	1.9	41(5)	40
	平成13年度	79(11)	2	41(11)	41
	平成14年度	83(14)	2.1	41(13)	40
	平成15年度	77(14)	1.9	42(14)	42
	平成16年度	69(12)	1.7	42(12)	42
電気工学科 (電気情報工学科)	平成12年度	76(15)	1.9	42(14)	42
	平成13年度	78(15)	2	41(9)	40
	平成14年度	56(16)	1.4	40(14)	40
	平成15年度	73(16)	1.8	41(14)	41
	平成16年度	71(21)	1.8	42(16)	42
電子制御工学科	平成12年度	61(17)	1.5	42(14)	42
	平成13年度	79(27)	2	41(16)	41
	平成14年度	58(17)	1.5	41(16)	39
	平成15年度	69(24)	1.7	42(14)	40
	平成16年度	41(19)	1	42(15)	42
生物応用化学科	平成12年度	81(17)	2	42(14)	42
	平成13年度	107(22)	2.7	42(16)	42
	平成14年度	68(22)	1.7	41(16)	41
	平成15年度	81(15)	2	42(15)	40
	平成16年度	51(17)	1.3	41(15)	41
材料工学科	平成12年度	55(3)	1.4	40(3)	40
	平成13年度	48(3)	1.2	40(3)	40
	平成14年度	60(4)	1.5	40(4)	40
	平成15年度	50(4)	1.3	41(4)	41
	平成16年度	30(4)	0.8	42(4)	41

( ) は女子で内数

### (3) 志願者増員対策

本年度、本校では入試志願者増員のために次のPR活動を行なった。

- 1) 本校説明用のパンフレット「はばたけ未来へ」を中学3年生一人ひとりに配布  
(県下の中学校、香川県・徳島県の一部の中学校)
- 2) 中学校訪問・学校説明会への参加
- 3) 校内見学会・夏季体験学習・体験講座の実施
- 4) 県下の中学校との教育懇談会の開催(5ヶ所)

また、平成16年3月～4月にかけて、受験生が大幅に減少した新居浜地区、今治地区をはじめ四国中央・東予・丹原・小松・松山・大洲・南予の一部の中学校を訪問した(入

試の状況、学校概況および出身在校生の状況を説明し併せて今年受験した生徒のレベル、合格者の習熟度等を伺った。

さらに、平成16年度には次のようなPR活動を考えている。

- 1) 各中学校用に「学校案内CD」を作成し、配布する。(250枚作成：愛媛県全校、香川県・徳島県・岡山県・広島県の一部の中学校)
- 2) 学生募集ポスターを作成し、各中学校に配布する。
- 3) 中学校主催の進路説明会用に5～6分程度のCDを作成し、学校案内と併せてビジュアル的に説明できるようにする。
- 4) 岡山、広島地区の中学校へのPRを行う(中学校訪問先の拡大)。

表3.1.2は、過去4年間の校内見学会および夏季体験学習に参加した中学生数を示した。平成15年度の参加者数はいずれも僅かであるが、平成14年度より増加している。また、表中には本校を入学志願した人数も示した。平成14年度までは、見学会や体験学習の参加人数に応じて入学志願者数も推移しているが、平成15年度にはその相関が見られない。これは、体験学習や見学会へ参加した生徒の入学志願率が減少していることを示している。この体験学習や学校見学会に参加する中学生の多くは、本校の受験を選択肢の1つとして多い。したがって、今後、体験学習のテーマや内容はもちろん実施形態を含めた見直しが必要である。また、見学会においてもその方法を改善する必要がある。さらに、出前講座や各種イベントへのテーマ参加などもPR活動の観点から積極的に実施していくべきと思われる。

表3.1.2 過去4年間に開催した学校見学会並びに体験学習への参加者数

実施年度	学校見学会 (人)	体験学習 (人)	入学志願者数 (人)
平成12年度	215	741	368
平成13年度	110	596	325
平成14年度	170	616	350
平成15年度	181	631	262

#### (4) 編入学生の募集方法と入学状況

表3.1.3に過去4年間の編入学生の入学状況を示した。平成15年度に半減していた入学志願者数は、平成16年度(入試は平成15年度に実施)には回復した。また、合格者数も10名であり、過去4年間で最高となっている。さらに、平成16年度には2次募集(12月)を行ったこともあり、普通高校からの入学者が2名となった(平成16年度入学者数：4名)。

例年、入学辞退者が多いが、これは、入学辞退の連絡時期を考慮すると、他高専の編入試験や大学(工業高校の場合は推薦)入試の掛け持ち受験のためと考えられる。第一志望として本校を受験してもらうためには、入学後はもちろん、合格者に対する入学前からの学習支援や進路実績(就職先・進学先)をあげることが必要と思われる。

表から、次の2つの問題点が読み取れる。1つは、平成16年度の機械工学科の受験者は5名であったが、全員が不合格である。試験問題のレベル・内容の見直しを行うとともに、本校が期待している受験者レベルを含めたPR活動を行う必要がある。他の1つは、材料工学科の志願者が毎年少ないことである。近隣の工業高校に類似の学科がないためと思われるが、PR方法の工夫や普通高校からの志願者を増やすなどの対策が必要と思われる。

表3.1.3 過去3年間の編入学生の入学状況

入学年度	機械工学科			電気工学科			電子制御工学科			生物応用化学科			材料工学科			全学(計)		
	志願	合格	入学	志願	合格	入学	志願	合格	入学	志願	合格	入学	志願	合格	入学	志願	合格	入学
13年度	7	1	0	6	3	3	7	2	1	0	0	0	1	0	0	21	6	4
14年度	9	1	0	5	3	0	6	1	1	1	0	0	1	0	0	22	5	1
15年度	2	1	0	2	1	0	3	1	1	3	0	0	1	0	0	11	3	1
16年度	5	0	0	7	5	3	4	1	0	5	3	1	1	1	0	22	10	4

(5) 外国人留学生の受け入れ状況

表3.1.4に過去5年間の外国人留学生の受け入れ状況を示した。平成15年度には4名の留学生を受け入れ、平成16年4月には5名の留学生(1名は私費留学)を受け入れた。以前は各学年に1~2名であった留学生もこのところ増加しており、平成16年度に本校に在籍する留学生は11名である。また、留学生の受け入れ学科の偏り(電気工学科と電子制御工学科が多い)もかなり解消され、平成16年度にはすべての学科に留学生が在籍している状況である。

留学生の学習や生活支援のために、本校では、各留学生に1名の留学生指導教員と学生のチューター(5年生は除く)をおいて対応している。また、平成15年度からは、留学生交流室を設けたり、学内組織としての留学生指導班を編成するなど、留学生のための支援体制もかなり整ってきた。さらに、女子寮が完成したことにより、女子留学生の受け入れも容易となった。今後、留学生の支援体制をより一層充実させていくとともに、留学生が日本人学生や地域の人との交流をより深めるためのイベントなども増やしていく必要があると思われる。

表3.1.4 過去5年間の外国人留学生の受け入れ状況

年度	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	材料工学科
12年度		ケア 1名	マレーシア 1名		
13年度			スリランカ 1名		
14年度		コロンビア 1名	モンゴル 1名		
15年度		イソ 1名	モンゴル 1名 マレーシア 1名		タイ 1名
16年度	マレーシア 1名	ベトナム 1名	マレーシア 1名 ベトナム 1名	中国 1名	

【専攻科】

(1) 専攻科生の入学状況

表3.1.5の専攻科入学状況および表3.1.6の専攻科入学試験の合格者における推薦選抜および学力選抜試験の内訳より、

1) 志願者数は昨年度より7名減少している。その理由は、他高専に専攻科が設置され、こと、大学編入学者の併願出願者が減少したことによる。

2) 入学者数は電子工学専攻は2名減少したが、生産工学専攻が4名の増加により、26名から28名へ2名増加している。その理由は、生産工学専攻生物応用化学コースの専攻分離や“生物応用化学プログラム”のJABEE受審によるものと思われる。

従って、専攻科への進学が大学への編入学に比べてどの点において有利であり魅力的であるかを本科生にPRし、理解させることが必要かを暗示した結果と推定される。

表3.1.5 専攻科入学状況

入学年度	生産工学専攻		電子工学専攻		合計	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
平成12年度	23(4)	18(2)	20(1)	15(1)	43(5)	33(3)
平成13年度	17(3)	15(3)	21(1)	15(1)	38(4)	30(4)
平成14年度	23(4)	15(2)	18(0)	11(0)	41(4)	26(2)
平成15年度	22(1)	13(1)	28(0)	13(0)	50(1)	26(1)
平成16年度	19(2)	17(2)	24	11	43(2)	28(2)

( )は女子で内数

表3.1.6 入学試験の合格者における推薦選抜と学力試験選抜の内訳

	入学年度	定員	志願者		合格者		入学者
			推薦	学力	推薦	学力	
生産工学専攻	平成12年度	12	4	19	4	17	18
	平成13年度	12	10	7	10	6	15
	平成14年度	12	4	19	4	13	15
	平成15年度	12	7	15	7	7	13
	平成16年度	12	5	14	5	12	17
電子工学専攻	平成12年度	8	9	13	9	7	15
	平成13年度	8	2	19	2	15	15
	平成14年度	8	7	11	7	7	11
	平成15年度	8	9	19	8	6	13
	平成16年度	8	5	19	5	6	11

## (2) 専攻科志願者の増員対策

専攻科志願者数を増やすためには、まず、専攻科を本科生だけでなく、地域の企業や市民の方々に積極的にPRを実施し、専攻科を知って頂く必要がある。

そこで、PR用の資料として「専攻科学生募集のポスター」および「専攻科学生募集要項」の全面改定を実施し、作成したポスターを持って市町村役場、県内の各種研究機関へ出かけ、掲示板への依頼と専攻科のPRを実施した。さらに、専攻科生の研究活動を地域の企業の方々に知って頂くため、本校高度技術教育研究センター主催の工業技術懇談会においてPRを実施した。一方、学内において専攻科のPR用パネルを作成し、図書館したロビーへの掲示や3年生の特別教育活動における専攻科のPRを実施した。

その結果、入学者数は2名増加したが、社会人特別選抜と他高専からの入学者数は、表3.1.7より増加していない。

そこで、社会人特別選抜の推薦資格の見直し、試験日の変更を行い、社会人の方々が受



験し易い“平成17年度専攻科学生募集要項”を作成した。

一方、全国の高専に専攻科が49校（平成16年度4月現在）設置され、他高専からの入学者数の増加は望めない状況である。

従って、専攻科の増員を図るためには、

1) J A B E E 認定などによる専攻科教育の更なる充実、特徴の P R、

2) 社会人にとって魅力ある講義体制

が必要である。

表3.1.7 入学試験の合格者における社会人、他高専出身の数

入学年度	定員	入学者			入学者計
		社会人	他高専	本校	
12	20	1	0	32	33
13	20	0	0	30	30
14	20	0	0	26	26
15	20	0	2	24	26
16	20	0	0	28	28

### 3.1.2 学生の留年・退学状況

表3.1.8~3.1.10には、年度別の学生の進級・卒業状況を示した。また、表3.1.11と表3.1.12には、平成15年度の学科別、クラス別の学生の異動（留年・退学）状況を示した。平成15年度もここ数年と同様に、多くの留年者および退学者を出してしまった。平成14年度と比較すると退学者数はほぼ同数で、留年者は少し減少しているが、他高専と比べるとこの数値は異常に大きい（四国6高専の中で一番多い）。これらの表から、平成15年度について次のことが読み取れる。

- 1) 退学者については、高卒同等資格（修了）を認めていることもあって3年生が多い。
- 2) 平成14年度と比較して、平成15年度の1, 2年生の退学者が増加している。これは、本校の導入教育のあり方を見直す必要性を示唆していると思われる。
- 3) 留年・退学者数に関しては、2年生においてクラス間格差が大きい。また、学科別に見ると、電気工学科3年生の退学者と材料工学科2年生の留年・退学者が多い。この対策としては、クラス運営方法の改善や連携・協力体制の強化が必要と思われる。

平成15年度から低学年教育委員会を設置し、1, 2年生の学習・生活指導に重点をおいた委員会活動を行ってきた。また、オフィスアワー制度の導入や朝のショートホーム（830運動）を実施（開始）した。さらに、年度当初に学年毎のクラス運営の目標を掲げ、目標達成を目指した指導・支援を行った。現段階では、目に見えるほどの成果は得られていないかも知れないが、今後、これらの制度をより充実させ、有効に活用していくことが肝要である。また、長期休業中の学習支援も検討、実施していくことが必要と思われる。

表3.1.8 年度別、留年・退学者数

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
留年者数	51	56	61	63	41
退学者数	49	46	65	53	52

表3.1.9 年度別、学年別、留年者数

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
1年生	4	6	9	6	4
2年生	7	24	5	17	11

3年生	20	14	21	17	9
4年生	17	9	21	14	14
5年生	3	3	5	9	3
合計	51	56	61	63	41

表3.1.10 年度別、学年別、退学者数

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
1年生	4	5	7	5	7
2年生	11	6	22	3	12
3年生	24	26	21	32	24
4年生	9	8	12	10	9
5年生	1	1	3	3	0
合計	49	46	65	53	52

表3.1.11 平成15年度学生異動状況(学科別)

		1年	2年	3年	4年	5年	計	
機械工学科	当初在籍数	42	42	38	38	31	191	
	異動	退学	0	1	4	2	0	7
		留年	1	1	2	4	1	9
	学年末進級者数	41	40	32	32	30	175	
電気工学科	当初在籍数		40	46	41	33	160	
	異動	退学		0	8	2	0	10
		留年		1	1	3	1	6
	学年末進級者数		39	37	36	32	144	
電気情報工学科	当初在籍数	43					43	
	異動	退学	2					2
		留年	1					1
	学年末進級者数	40					40	
電子制御工学科	当初在籍数	42	43	41	35	35	196	
	異動	退学	1	3	3	3	0	10
		留年	0	2	2	3	0	7
	学年末進級者数	41	38	36	29	35	179	
生物応用化学科	当初在籍数	40	48	38	38	31	195	
	異動	退学	2	2	4	2	0	10
		留年	1	2	3	2	0	8
	学年末進級者数	37	44	31	34	31	177	
材料工学科	当初在籍数	43	42	37	33	30	185	
	異動	退学	2	6	5	0	0	13
		留年	1	5	1	2	1	10
	学年末進級者数	40	31	31	31	29	162	
合計	当初在籍数	210	215	200	185	160	970	
	異動	退学	7	12	24	9	0	52
		留年	4	11	9	14	3	41
	学年末進級者数	199	192	167	162	157	877	

表3.1.12 平成15年度学生異動状況（クラス別）

		1年	2年
1組	当初在籍数	42	43
	異動	退学	3
		留年	0
	学年末進級者数	40	37
2組	当初在籍数	42	43
	異動	退学	3
		留年	1
	学年末進級者数	38	40
3組	当初在籍数	42	43
	異動	退学	0
		留年	1
	学年末進級者数	41	39
4組	当初在籍数	42	43
	異動	退学	1
		留年	1
	学年末進級者数	40	41
5組	当初在籍数	42	43
	異動	退学	1
		留年	1
	学年末進級者数	40	35
合計	当初在籍数	210	215
	異動	退学	7
		留年	4
	学年末進級者数	199	192

### 3.1.3 授業外教育の実施状況

#### (1) インターンシップの実施状況

平成15年度のインターンシップは、昨年度とほぼ同様、本校4年生を対象に夏休み期間を利用して実施した。参加学生は169名で、その内、企業に118名、大学の研究室に31名、公設（研究）機関に20名が受入れてもらった。また、地域別の参加者数は、県内参加者が124名（63受入機関）、県外の四国内は19名（11機関）、四国外は26名（21機関）で、総計95機関からの受入をしていただいた。

平成15年度のインターンシップの実施にあたり、その事前学習を充実させるために、従来からのインターンシップ講演会の開催に加えて、個々の学生に対してはインターシップ先が決まり次第、その目的を明文化することを指導した（目的の提出）。また、実施後には、インターンシップ報告書の作成と報告会も各学科単位で実施した。なお、インターンシップ講演会は下記の通り実施した。

#### インターンシップ講演会A

講演者：三菱電機ビルシステム（株）人事部 二馬康昌

日時：平成15年7月14日（月） 12時30分～14時30分

場所：新居浜工業高等専門学校（視聴覚教室）

参加者：4年生（機械工学科、電気工学科、材料工学科）

#### インターンシップ講演会B

講演者：アルプス電気（株）人事グループマネージャ 浅野祐子

日時：平成15年7月15日（火） 12時30分～14時30分

場所：新居浜工業高等専門学校（視聴覚教室）

参加者：4年生（電子制御工学科、生物応用化学科）

今後、さらに事前学習の充実、受け入れ機関の厳選、期間中の指導体制の強化、報告会を含めた事後学習充実などの検討、改善を継続的に行っていくことが大切である。

#### (2) 各種資格試験の取得状況

表3.1.13に平成15年度の各種資格試験の取得状況を示した。取得者には「英検」あるいは「課題演習1」として単位が認定される。単位認定者数は54名で、昨年の77名と比較して減少している（それ以前は100名前後の学生が単位取得している）。また、「課題演習2」の単位取得者数は、電気工学科で13名、生物応用化学科で29名であった。今後、学生に各種資格取得の有効性を理解してもらい、このような資格試験の受験や選択科目の受講をより勧めていく必要がある。なお、平成16年度から「課題演習2」は全学科で開設している。

表3.1.13 各種試験の資格取得状況

国家試験・資格試験	M	E	D	C	Z	計
実用英語技能検定（2級）			1			1
実用英語技能検定（準2級）		1	2	1	1	5
工業英語技能検定	1	1	1			3
TOEIC	1					1
TOEFL			1	1		2
ドイツ語技能検定	1	1				2
漢字検定	1					1
危険物取扱者（甲種）				3		3
危険物取扱者（乙種4類）	5				8	13
危険物取扱者（丙種）	2				1	3
デジタル技術検定2級情報			4			4
デジタル技術検定3級		2	1			3
PC利用技術認定試験2級			1			1
PC利用技術認定試験3級			3			3
初級システムアドミニストレータ			2			2
基本情報処理技術者試験			1			1
工事担任者		5				5
電気主任技術者試験		1				1
計	11	11	17	5	10	54

### (3) ティーチングアシスタントの実施状況

平成15年度のティーチングアシスタントも昨年度とほぼ同様に実施した。以下にその実施方法と状況を示す。

1. 内容：1, 2年の数学および物理について教科書を中心とした復習
2. アシスタント：5年生10人、専攻科1年生5人 計15人
3. アドバイザー：数学（1年生：古城教員、2年生：西谷教員）、物理（平木教員）
4. 受講生：1年生15名、2年生12名
5. 実施期間：10回（9月～1月）
6. 実施方法・時間：週1回（1年生：木曜日、2年生：火曜日）放課後1.5～2時間
7. 場所：物理教室
8. 実施状況
  - 1) 出席状況  
皆勤者：1年生 4名、2年生 3名
  - 2) 成績動向（前期末の成績と後期中間の成績を比較）  
1年生：数学Aの成績は、昨年と同様、7割近くの受講生の成績に向上が見られ、物理では4割の受講生の成績が上がった（昨年の物理では受講生の成績はほとんど上がらなかった）。  
2年生：物理の成績が軒並み向上した。数学Bも半数以上の学生に向上が見られた。
  - 3) 実施時間：延べ290時間（1,000円/時間 290,000円）
9. 問題点・コメント等
  - 1) 昨年と同様に、数学と物理は、その日の受講生の希望でどちらを学習しても良いことにした。
  - 2) アシスタントは一生懸命に指導してくれていたが、1年生の場合、アシスタントが10名で、少し多すぎるようであった。受講生の人数に応じたアシスタント数にすべきと思われる。（来年度は、受講生数を確認した後に、アシスタントを募集する。）
  - 3) 1年1組と2年5組からの受講生がなかった。受講生の募集・選出方法を改善する必要がある（希望して受講した学生は概ね出席率がよいように思われる）。
  - 4) 1年生の物理は、今年度から新教科書になっており、アシスタントが学習していない内容があり、少し戸惑っていたが、アドバイザー教員に指導していただいた。
  - 5) 受講生でない学生から「一緒に学習したい」との申し出があり、了承した（2年生で3、4名）。今後、受講生の募集方法についての改善を検討する必要がある。

### (4) 英語実力養成講座の実施状況

平成15年度の学年末休業中に英語実力養成講座を開講した。長期休業中のこのような学校全体の組織的な講座の開講は始めてである。以下にその実施方法と状況を示す。

1. 開講期間  
平成16年3月15（月）（火）～18日（金）の4日間 10:00～12:00
2. 場所：第1、第2電算室、一般教室
3. 講座の種類
  - 1) Aコース：英検2級 [TOEICスコア500～699] 又は英検準1級 [TOEICスコア700～849] 取得を目指したい者
  - 2) Bコース：英検準2級 [TOEICスコア400～499] 取得を目指したい者

- 3) 基礎コース：中学・高専低学年の基礎からやり直し、基礎学力をつけたい者
- 4. 対象者：本校学生
- 5. 担当者：本校6名の英語教員
- 6. 受講状況

- 1) 年度末の急な募集にもかかわらず、78名の学生が受講した。その内訳は、Aコースに8名、Bコースに48名、基礎コースに22名であった。
- 2) 本校でも学生の英語力の弱さを指摘されており、すぐにはその効果は現れてこないと思われるが、今後も長期休業中にこのような講座の開設を継続していく予定である。

(5) 学生対象の教養講演会

1) 「南極での通年観測・自然そして地球」

日時 平成15年10月17日(金) 14時10分～15時40分  
 場所 新居浜高専 視聴覚教室  
 講師 国立極地研究所教授 神山孝吉(第43次日本南極地域観測隊・越冬隊長)  
 対象 本科1年生対象。1年生約200名が聴講。

2) 「NHKデジタル塾 in 新居浜高専」

日時 平成16年1月19日(月)  
 12時30分～17時 ハイビジョン衛星放送デモ  
 15時30分～17時 講演「中谷日出のデジタル生活論」  
 場所 新居浜高専 視聴覚教室  
 講師 NHK解説員 中谷日出  
 対象 本科4,5年生、専攻科生対象

3.1.4 専攻科学生の成果発表状況

専攻科では、学生が特別研究で行った研究成果を、在学中に1回は専門分野の学会などで発表することを義務付け、積極的に挑戦するよう強く推奨している。また、論文にまとめて学会誌や紀要などに発表することを勧めている。図3.1.1に専攻科1期生からの発表件数の推移を示す。学会等発表件数は平成13年度以降30件程度で推移しているが、論文発表件数はこの2年間10件以下と以前に比べて少なく、論文発表の活性化を図る必要がある。

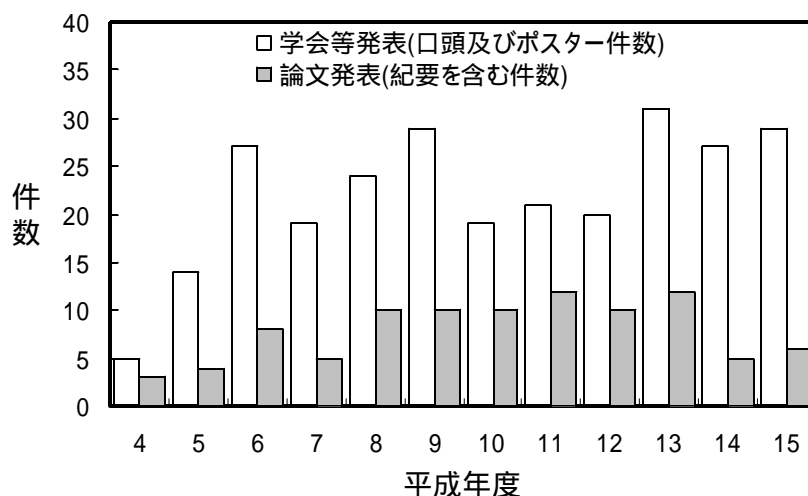


図3.1.1 専攻科生の発表件数の推移

### 3.1.5 就職・進学状況

#### 【本科】

平成15年度も、学生の就職・進学を支援するために5年生に対する保護者懇談会（平成15年4月26日（土）～27日（日））と企業説明会を開催した。企業説明会は、下記の通り4月に一度実施したが、企業側の求人時期が早くなっていることを受けて、2月にも実施した。

#### (1) 第1回企業説明会

日時：平成15年4月18日（金）13時～17時

場所：新居浜高専 第一体育館

対象：本科5年生、専攻科2年生、同保護者、教官

参加企業数：44社

#### (2) 第2回企業説明会

日時：平成16年2月13日（金）13時～17時

場所：新居浜高専 第一体育館

対象：本科4年生、専攻科1年生、教職員

参加企業数：52社

平成15年度本科卒業生の就職・進学状況を表3.1.14～3.1.16に示す。

表3.1.14 平成15年度卒業生の進路状況

学科名	卒業生数			就職者数			進学者数			左記以外の者	
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子
機械工学科	30	0	30	20	0	20	7	0	7	3	0
				うち県内就職者							
				8	0	8					
電気工学科	31	1	32	19	1	20	12	0	12	0	0
				うち県内就職者							
				8	1	9					
電子制御工学科	27	8	35	14	5	19	12	1	13	1	2
				うち県内就職者							
				2	0	2					
生物応用化学科	17	14	31	5	9	14	12	4	16	0	1
				うち県内就職者							
				1	5	6					
材料工学科	24	5	29	18	3	21	4	0	4	2	2
				うち県内就職者							
				11	2	13					
計	129	28	157	76	18	94	47	5	52	6	5
				うち県内就職者							
				30	8	38					

表3.1.15 大学への編入学等の状況（平成15年度）

学 科 名	大学編入学者数			高専専攻科入学			進学者計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
機械工学科	2	0	2	5	0	5	7
電気工学科	7	0	7	5	0	5	12
電子制御工学科	5	1	6	7	0	7	13
生物応用化学科	7	2	9	5	2	7	16
材料工学科	0	0	0	4	0	4	4
計	21	3	24	26	2	28	52

表3.1.16 高等専門学校専攻科への進学状況（平成15年度）

学校名	専攻名	進学者計		
		男子	女子	計
新居浜工業高等専門学校	生産工学専攻	9	0	9
新居浜工業高等専門学校	生物応用化学専攻	5	2	7
新居浜工業高等専門学校	電子工学専攻	11	0	11
詫間電波工業高等専門学校	電子通信システム工学専攻	1	0	1
計		26	2	28

### 【専攻科】

表3.1.17に平成15年度専攻科修了生の進路状況、表3.1.18に過去5年間の専攻科修了者の大学院進学状況を示す。

本年度は専攻科生の96%が就職している。この結果は、専攻科生の就職・進学希望のアンケートより、大部分の学生（80～90%）が専攻科修了後に就職を希望し、大学院への進学を意識していない結果と一致している。

そこで、大学院に関する情報提供をする機会を増やすため、本年度は大学院大学の教官による説明会を9月まで1回/月の割合で実施したが、専攻科2年生は3月より求職活動を開始しており、就職から進学へ意志を変えるインパクトを与えることはできなかった。

一方、専攻科1年生に対して技術者として社会において活躍している先輩や経営者などによる“特別講義：後期各週1回”や大学院大学の教官による“大学院説明会：不定期”を開催し、就職・進学に関する情報提供を行った。さらに、専攻科1年生に対して学外実習（専攻科シニア・インターンシップに変更）を推進したので、その結果を分析したい。

来年度は、専攻科シニア・インターンシップの期間を1ヶ月程度に延長し、学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連する就業体験を行い、自分の目指す技術者像を明確にすることにより大学院への進学者増加も期待される。



表3.1.17 平成15年度専攻科修了者の進路状況

専攻名	修了者数			就職者数			進学者数			左記以外の者	
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子
生産工学専攻	11	2	13	11	2	13	0	0	0	0	0
				うち県内就職者							
				5	2	7					
電子工学専攻	10	0	10	8	0	8	1	0	1	1	0
				うち県内就職者							
				2	0	2					
計	21	2	23	19	2	21	1	0	1	1	0
				うち県内就職者							
				7	2	9					

表3.1.18 過去5年間の専攻科修了者の大学院進学状況

年度	大学院名	生産工学専攻	電子工学専攻
15	長岡技術科学大学大学院		1
14	徳島大学大学院	1	
	九州工業大学大学院		1
	北陸先端科学技術大学院大学	1	1
13	徳島大学大学院	1	
	長岡技術科学大学大学院		1
	奈良先端科学技術大学院大学		1
12	長岡技術科学大学大学院		2
	豊橋技術科学大学大学院	1	1
11	島根大学大学院		1
	大阪府立大学大学院	1	

### 3.2 研究活動

#### 3.2.1 研究成果の発表状況

##### [1] 研究成果の発表状況

本校教員の平成15年度の研究成果の発表状況を次表に示す。

詳細については、別添の年間業績報告（第5号、平成16年6月）に示す。

表3.2.1 学術雑誌に掲載された論文（査読付）の数

学 科	教 授		助教授		講 師		助 手		計	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数
機械工学科	1	2					1	1	2	3
電気情報工学科					1	1	1	1	2	2
電子制御工学科	1	2	1	1					2	3
生物応用化学科	1	3	3	5			2	5	6	13
材料工学科	1	1	1	2			1	2	3	5
数理科	1	1	2	2					3	3
一般教養科			2	2					2	2
高度技術教育研究センター	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3

表3.2.2 総説・解説・著書の数

学 科	教 授		助教授		講 師		助 手		計	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数
機械工学科	2	2							2	2
電気情報工学科									0	0
電子制御工学科									0	0
生物応用化学科			1	1					1	1
材料工学科									0	0
数理科									0	0
一般教養科	2	2	1	1					3	3
高度技術教育研究センター	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0

表3.2.3 論文・報告書等の数

学 科	教 授		助教授		講 師		助 手		計	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数
機械工学科			1	7	1	1			2	8
電気情報工学科	2	4							2	4
電子制御工学科			2	4					2	4
生物応用化学科	1	1	1	3					2	4
材料工学科			2	8			2	3	4	11
数理科	1	2	1	1					2	3
一般教養科					1	2			1	2
外国人教師	-		-	-	-	-	-	-	1	1
高度技術教育研究センター	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

表3.2.4 口頭発表の数

学 科	教 授		助教授		講 師		助 手		計	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数
機械工学科	2	3	1	1			1	2	4	6
電気情報工学科	3	9			1	5	1	1	5	15
電子制御工学科	1	2	3	5					4	7
生物応用化学科	5	8	2	7			1	1	8	16
材料工学科	2	3	4	13			2	7	8	23
数理科			3	3	1	1			4	4
一般教養科	1	1	2	2					3	4
高度技術教育研究センター	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2

### [ 2 ] 発明の届出、特許出願・登録状況

本校教員の平成15年度の発明の届出、特許出願・登録状況を次表に示す。

表3.2.5 発明の届出、特許出願・登録状況

学 科	特許出願状況	特許登録状況
機械工学科		
電気情報工学科		
電子制御工学科		1 件
生物応用化学科	4 件	
材料工学科		
数理科		1 件
一般教養科		
合 計	4 件	2 件

### [ 3 ] 文部科学省内地研究員等の派遣状況

(平成15年度内地研究員及び在外研究員はいなかった。)

### 3.2.2 学会への参加・活動状況

本校教員の平成15年度の学会への参加・活動状況を次表に示す。

表3.2.6 学協会役員・幹事等

平成16年4月1日現在

所属学科名・氏名	所 属 学 会 名 等	期 間	備 考
(機械工学科) 豊田 幸裕	電気学会	2003.7 ~ 2005.6	産業計測部門 ウェーブレットとその周辺技術に関する協同研究委員会委員長
石井 重典	精密工学会	2001.4 ~	難削材加工専門委員会委員

吉川 貴士	日本高専学会	2001.4 ~ 2006.3	評議員
宮田 剛	日本機械学会	1998.6 ~	拠点委員
(電気情報工学科)			
稲見 和生	電気学会	2001.4 ~ 2003.3	四国支部協議員
檀上 光昭	電気学会	2003.4 ~ 2004.3	学会活動推進委員
佐藤 眞一	電気学会	2001.4 ~	自動車技術委員会: 調査専門委員会委員
			論文査読委員
佐藤 眞一	電子情報通信学会	1992.4 ~	
(電子制御工学科)			
深山 幸穂	計測自動制御学会	1997.4 ~ 2004.12	中国支部評議員
(生物応用化学科)			
真鍋 昌裕	日本化学学会	1998.4 ~	地域代表
(材料工学科)			
谷 耕治	日本鑄造工学会中国四国支部	1998.4 ~	常任理事
松英 達也	日本材料科学会	2003.4 ~	四国支部理事
朝日 太郎	日本セラミックス協会中国四国支部	2003.1 ~ 2003.12	第10回ヤングセラミ ストミティングin中 四国実行委員
			四国支部常議員
池内 保一	日本材料学会	2000.4 ~	
(数理科)			
川崎 宏一	日本金属学会	2001.4 ~ 2005.3	中国四国支部理事
(一般教養科)			
板野 哲	広島史学研究会	2001.4 ~	評議員

### 3.2.3 教員の学位取得状況

本校教員の学位取得状況を次表に示す。

表3.2.7 教員の学位（博士）取得数

学 科	15年度
機械工学科	6 / 10
電気情報工学科	8 / 12
電子制御工学科	8 / 10
生物応用化学科	13 / 13
材料工学科	10 / 11
数理科	9 / 12
一般教養科	2 / 15
合 計	56 / 83

欄内の数字は [ 学位（博士） / 現員 ] を示す。

(平成15年度の取得状況)

所属学科名・氏名	学 位	取得大学名	取得年月
(電子制御工学科) 山田 正史	博士(工学)	徳島大学	2003年(平15)5月 論: 1時限音響系の解析と制御に関する研究
(電気情報工学科) 香川 福有	博士(工学)	岡山大学	2003年(平15)9月 論: 能動アンテナのフェーズドアレー動作の研究
(生物応用化学科) 西井 靖博	博士(工学)	名古屋大学	2003年(平15)12月 論: 逆ミセル系におけるタンパク質の抽出および抽出装置に関する研究
堤 主計	博士(工学)	広島大学	2004年(平16)3月 論: Syntheses and Biodegradations of Copolymers Composed of Lactide and Cyclic Carbonate
(電気情報工学科) 平野 雅嗣	博士(医学)	大阪大学	2004年(平16)3月 論: Imaging of fine structure of bone sample with high coherent X-ray beam and high spatial resolution detector

3.2.4 外部資金導入状況

[1] 科学研究費補助金の採択状況

平成15年度の科学研究費補助金の採択状況(採択件7件、採択金額8,300千円)を次表に示す。

表3.2.8 科学研究費補助金の申請・採択状況

研究題目: 基盤研究(C) (単位: 千円)

		機 械		電 気		電 子		生 物		材 料		数 理		名 誉 教 授		合 計	
		件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額
15	申 請	1	4,300	3	6,387	4	11,961	4	18,152	1	2,000	3	7,220	1	4,950	17	54,970
年 採 度 採	継 続	0		0		1	700	0		0		0		0		1	700
	新 規	0		0		0		1	2,900	0		1	500	0		2	3,400

研究題目: 基盤研究(B) (単位: 千円)

		機 械		電 気		電 子		生 物		材 料		数 理		一 般		合 計	
		件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額
15	申 請	0		1	6,640	1	19,451	0		0		0		0		2	26,091
年 採 度 採	継 続	0		0		0		1	1,700	1	1,300	0		0		2	3,000
	新 規	0		0		0		0		0		0		0		0	

研究題目：萌芽研究

(単位：千円)

		機 械		電 気		電 子		生 物		材 料		数 理		一 般		合 計	
		件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額
15 年 度	申請	0		0		0		3	12,143	0		0		0		3	12,143
	採択継続	0		0		0		0		0		0		0		0	
	採択新規	0		0		0		0		0		0		0		0	

研究題目：若手研究(A)

(単位：千円)

		機 械		電 気		電 子		生 物		材 料		数 理		一 般		合 計	
		件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額
15 年 度	申請	0		0		0		0		0		0		0		0	
	採択継続	0		0		0		0		0		0		0		0	
	採択新規	0		0		0		0		0		0		0		0	

研究題目：若手研究(B)

(単位：千円)

		機 械		電 気		電 子		生 物		材 料		数 理		一 般		合 計	
		件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額
15 年 度	申請	0		1	4,410	0		3	13,342	4	17,776	1	800	1	1,170	10	37,498
	採択継続	0		0		1	700	0		1	500	0		0		2	1,200
	採択新規	0		0		0		0		0		0		0		0	

[ 2 ] 共同研究・受託研究・奨学寄付金研究の状況

平成15年度の共同研究・受託研究・奨学寄付金等の受け入れ状況を次表に示す。

表3.2.9 共同研究・受託研究・奨学寄付金等の受け入れ状況

共同研究

年度	研究 題 目	学 科 等	研究代表者
H 15	福祉機器修理・改善にかかる情報データベース化	機械工学科	吉川 貴士
	福祉機器改善等にかかる開発およびデータベース化	機械工学科	吉川 貴士
	深絞り成型の特性研究	機械工学科	宮田 剛
	モバイル端末システムに関する研究	電子制御工学科	今井 伸明
	大気圧プラズマによる温暖化ガスの分解処理装置の研究	電子制御工学科	出口 幹雄
	食用食物に関する研究	生物応用化学科	中川 克彦
	小型MO-CVD装置の開発	生物応用化学科	中山 享
	有機性廃棄物を発酵分解する菌の探査	生物応用化学科	早瀬 伸樹
	堆肥化に關与する微生物の解析	生物応用化学科	早瀬 伸樹
	水産練食品の加工過程の改善	生物応用化学科	堤 主計
	ガラス溶融用小型電気炉の開発	材料工学科	朝日 太郎
	11件		

受託研究

年度	研究題目	学科等	研究代表者
H15	ITSにおける電波応用技術に関する研究	電気情報工学科	佐藤 眞一
	1件		

奨学寄附金

学 科	平成15年度
機械工学科	500,000
電気情報工学科	0
電子制御工学科	0
生物応用工学科	1,300,000
材料工学科	150,000
数理科	300,000
一般教養科	0
その他	2,961,000
計	5,211,000

奨学寄附金受入状況

(単位：千円)

年度	目 的	学 科 等	研究者	寄 附 者	金 額
H15	ホップ代数の環への作用に関する研究	数理科	柳井 忠	柳井 忠	300
	4元素アルミニウム基合金中の相互拡散	材料工学科	高橋 知司	(財)軽金属奨学会	150
	教育研究等における学校運営に関する助成金	新居浜高専		新居浜高専後援会	1,000
	非線形Fuzzy予測制御(NPC)の事業用ガスコンパインドサイクル発電排煙脱硝制御改善への適用及び異分野への適用検討等	機械工学科	豊田 幸裕	日本ペーペー(株)	500
	教育研究等における学校運営に関する助成金	新居浜高専		新居浜高専後援会	1,000
	教育研究等における学校運営に関する助成金	新居浜高専		新居浜高専学寮保護者会	118
	葉酸結合型コレステロール誘導体の合成	生物応用化学科	牛尾 一利	日本油脂(株)	1,000
	新規機能性セラミックスの開発	生物応用化学科	中山 享	(株)本田技術研究所	300
	教育研究等における学校運営に関する助成金	新居浜高専		新居浜高専後援会	843
	計			9件	5,211

### 3. 3 学生生活

約470万人にもものぼるフリーターが社会問題となり、更に近年では全く就職に興味を示さないニート(NEET=Not in Employment, Education or Training)が現れていると言われている。本校でも、中学校の偏差値で分類されて本校に入学するために学習意欲のない学生が増えていると以前から教官会で触れられていた。また平成14年度の学生の課外活動調査より、部活動への参加学生の減少や、活動の衰退が報告された。

本校は高校生年代から大学生年代までの学生が学ぶ高等教育機関であるが、本校卒業生の中には就職してすぐ辞めたり、就職を希望しない卒業生がいる。本校を社会にでる通過儀礼としか考えず、学業以外に興味を持っている学生がますます増えている。”就職に有利”、”生涯の友人が得られる”とかを強調し”押付け支援”、”管理指導”等の従来からの本校での学生生活支援と指導を明らかにし、将来の学生生活の支援と指導とは何かを考える一助となることを願っている。

#### 3.3.1 学生生活の支援

##### [1] 奨学金制度、授業料免除の状況

学力優秀な学生であるが、経済的理由により授業料の納入が困難な場合、日本育英会、あるいは企業や企業が実施している奨学金の貸与、給付の便宜を図っている。更に、本校では授業料の免除または寄宿舎料の免除制度を設けている。しかし、毎月700円の寄宿舎料まで困窮して、これの免除を願う寮生が全くいないことも事実である。

授業アンケートから明らかなように放課後あるいは休日の時間を授業の予習復習したり読書する学生は殆どいない。また平成14年度自己点検書から部活動する学生は年々減少していることが報告された。多くの学生はアルバイトをして携帯電話の通話料金の支払、あるいはバイクや車等を購入し、立派な消費社会の一員として消費社会を背負っている。高度成長期になって学生が消費社会の一員とされるまでは勉学や部活動に学生は興味を持たたかもしれない。しかし、現在の企業は現在の学校で提供するものより面白いものを学生に提供し、学生を大切な消費者と見なしている。現行の学生の支援は、下記に報告する従来の延長で良いのか考える必要がある。

表3.3.1 授業料免除の状況

年度	学期	学生数 (休学者除く)	申請 者数	全額免除 者数(a)	半額免除 者数(b)	計(a+b)	不許可 者数	超過申 請者数
平成 10 年度	前期	1,050	81	55	10	65	16	0
	後期	1,038	77	53	9	62	15	0
	計	2,088	158	108	19	127	31	0
平成 11 年度	前期	1,050	94	60	12	72	22	0
	後期	1,041	81	52	14	66	15	0
	計	2,091	175	112	26	138	37	0
平成 12 年度	前期	1,065	96	64	7	71	37	0
	後期	1,054	79	54	6	60	25	0
	計	2,119	175	118	13	131	62	0
平成 13 年度	前期	1,062	91	42	25	67	24	0
	後期	1,038	87	44	21	65	22	0
	計	2,100	178	86	46	132	46	0



平成 14 年度	前期	1,022	71	35	25	60	11	0
	後期	1,013	71	28	28	56	15	0
	計	2,035	142	63	53	116	26	0
平成 15 年度	前期	1,011	91	46	14	60	31	12
	後期	1,005	83	42	22	64	19	0
	計	2,016	174	88	36	124	50	12

表 3.3.2 奨学生の採用状況

平成10年5月1日現在

団体名	本科						専攻科			計
	1年	2年	3年	4年	5年	小計	1年	2年	小計	
日本育英会	22	22	24	30	25	123	5	7	12	135
愛媛県	2	5	2	2	2	13	0	0	0	13
その他	0	2	5	1	3	11	0	1	1	12
計	24	29	31	33	30	147	5	8	13	160

平成11年5月1日現在

団体名	本科						専攻科			計
	1年	2年	3年	4年	5年	小計	1年	2年	小計	
日本育英会	14	23	25	21	22	105	4	2	6	111
愛媛県	0	6	2	3	2	13	0	0	0	13
その他	3	1	2	3	2	11	0	0	0	11
計	17	30	29	27	26	129	4	2	6	135

平成12年5月1日現在

団体名	本科						専攻科			計
	1年	2年	3年	4年	5年	小計	1年	2年	小計	
日本育英会	17	23	29	23	20	112	2	4	6	118
愛媛県	3	0	6	1	3	13	0	0	0	13
その他	4	2	1	3	3	13	0	1	1	14
計	24	25	36	27	26	138	2	5	7	145

平成13年5月1日現在

団体名	本科						専攻科			計
	1年	2年	3年	4年	5年	小計	1年	2年	小計	
日本育英会	18	25	25	31	29	128	0	2	2	130
愛媛県	2	3	1	3	0	9	0	0	0	9
その他	0	3	3	1	3	10	0	0	0	10
計	20	31	29	35	32	147	0	2	2	149

平成14年5月1日現在

団体名	本科						専攻科			計
	1年	2年	3年	4年	5年	小計	1年	2年	小計	
日本育英会	24	19	28	22	28	121	0	0	0	121
愛媛県	6	1	3	0	2	12	0	0	0	12
その他	0	3	3	3	1	10	0	1	1	11
計	30	23	34	25	31	143	0	1	1	144

平成15年5月1日現在

団体名	本科						専攻科			計
	1年	2年	3年	4年	5年	小計	1年	2年	小計	
日本育英会	28	31	25	25	23	132	1	0	1	133
愛媛県	6	8	0	3	0	17	0	0	0	17
その他	2	1	3	3	1	10	0	0	0	10
計	36	40	28	31	24	159	1	0	1	160

## [ 2 ] 学生相談件数

表3.3.3 学生相談状況(人)

年度	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
延べ件数	9	13	53	41	22	25	41	76	54	62
内 訳	心因性				3	2	13	0	3	2
	交友関係				11	12	12	20	6	8
	学業関係				6	10	1	13	16	27
	不登校				1	0	6	0	0	2
	その他				1	1	9	43	29	23

## [ 3 ] 学生の健康管理状況

15年度の健康診断実施状況は、14年度と同じなので、省略する。

### 3.3.2 課外活動の状況

課外活動は、正規の課程による授業以外に行う本校の組織的活動であり、授業と並行して行われる。従って本活動は、学校教育において重要な役割と使命を持った活動である。学生にとっては、この活動が社会人としての責任と規律を重んずる場であり、また自主性に富んだ人間育成の場となる。

本校の課外活動は、学生会のもと表3.3.4に示す部、愛好会が結成され、活動している。これらの部、愛好会に所属する学生の活動を助成するために、自主運営という形を維持しつつ、さまざまな形で助言、指導できるよう教員が活動に関わっていく必要がある。

[平成15年度における主な大会で上位入賞した部の紹介]

#### 【県高校総体四国大会】

卓球男子シングルス                      ベスト8      越智 優介(3E)      四国大会出場

#### 【四国地区高専体育大会】

サッカー                                      優勝                                      全国大会出場  
 男子バスケット                              優勝                                      全国大会出場  
 女子バスケット                              優勝                                      全国大会出場  
 硬式野球                                      優勝                                      全国大会出場  
 男子バドミントン                              優勝                                      全国大会出場  
 女子バドミントン                              優勝                                      全国大会出場  
 陸上男子800m                              3位                                      高橋 正人(4E)      全国大会出場

陸上男子円盤投	3位	高橋 宏輔(4Z)	全国大会出場
陸上男子やり投	3位	福島 隆一(4D)	全国大会出場
陸上女子800m	3位	西内 久恵(5D)	
陸上女子砲丸投	3位	松原 晴香(3C)	
ソフトテニス男子団体	準優勝		
ソフトテニス男子個人	優勝	宇都宮芳希(3D)	全国大会出場
ソフトテニス男子個人	優勝	山内 一平(4M)	全国大会出場
ソフトテニス男子個人	3位	鈴木 優輔(2E)	全国大会出場
ソフトテニス男子個人	3位	伊藤 成志(3Z)	全国大会出場
ソフトテニス女子個人	優勝	大西夏菜子(3D)	全国大会出場
ソフトテニス女子個人	優勝	西原 枝里(2E)	全国大会出場
ソフトテニス女子個人	3位	白石沙也加(1E)	
ソフトテニス女子個人	3位	大森 鮎美(1Z)	
卓球男子団体	2位		
卓球男子シングルス	優勝	越智 優介(1Z)	全国大会出場
卓球男子ダブルス	3位	越智 優介(3E)	
卓球男子ダブルス	3位	松木 洋幸(5D)	
柔道男子個人90kg 超級	2位	川本 貴史(4C)	全国大会出場
剣道男子団体	3位		
剣道男子個人	3位	堤 彰(1M)	全国大会出場
剣道女子個人	優勝	榊田 弥来(5D)	全国大会出場
テニス男子シングルス	2位	菊池 崇行(5M)	全国大会出場
テニス男子ダブルス	3位	渡邊 夏樹(4M)	
テニス男子ダブルス	3位	登尾 泰平(3Z)	

#### 【四国地区高専体育大会】

バドミントン男子団体	優勝		全国大会出場
バドミントン男子シングルス	3位	曾我部大輔(5Z)	
バドミントン男子ダブルス	優勝	高橋 茂樹(5E)	全国大会出場
バドミントン男子ダブルス	優勝	曾我部大輔(5Z)	全国大会出場
バドミントン女子団体	優勝		全国大会出場
バドミントン女子シングルス	優勝	小西美由紀(4Z)	全国大会出場
バドミントン女子シングルス	2位	越智 彩美(5Z)	全国大会出場
バドミントン女子ダブルス	優勝	越智 彩美(5Z)	全国大会出場
バドミントン女子ダブルス	優勝	酒井 静佳(3C)	全国大会出場
バドミントン女子ダブルス	2位	小西美由紀(4Z)	全国大会出場
バドミントン女子ダブルス	2位	的場 梢(1C)	全国大会出場
バドミントン女子ダブルス	3位	高橋 由子(5Z)	
バドミントン女子ダブルス	3位	曾我部里恵(3C)	

#### 【全国高専体育大会】

剣道女子個人	優勝	榊田 弥来(5D)	
--------	----	-----------	--

【西日本高専弓道大会】

男子個人	3位	近江 奨 (4Z)
女子団体	優勝	
女子個人	優勝	安藤 里美 (3C)

【全国高専通信弓道大会】

団体	優勝	
個人	2位	藤原 真吾 (5C)

【全国高専選抜弓道大会】

男子団体	2位	
女子団体	3位	
男子個人	2位	高石 龍一 (3D)

【プログラミングコンテスト】

課題部門	敢闘賞	堂本 孝幸 (5D)
「PSD」		平田 勝大 (5D)
- スポ - ツチャンバラから世界へ -		小田 大和 (3D)

自由部門	敢闘賞	亀岡 聡 (5D)
「ハスラー一直線」		前田 隆志 (5D)
- ビリヤード上達支援システム -		薦田 昌男 (5D)
		高橋 嗣和 (5D)
		山川 晃弘 (5D)

競技部門	準優勝	白濱 洋二 (5D)
「でめじらー」		渡辺 正義 (5D)
		石野 智敬 (3D)

【ロボコン四国大会】

燧灘のクラウン	ベスト4	新居 広光 (4D)
	デザイン賞	弓山 彬 (2D)
		首藤 将貴 (2D)
蛸八	特別賞	渡部 萌 (5E)
	奨励賞	吉川 希生 (2M)
		石川 誠也 (1D)

【総合文化祭】

吹奏楽	奨励賞	
写真部門	佳作	木村 涼子 (4D)
写真部門	佳作	柴田 樹 (4D)
絵画部門	佳作	好井 美樹 (4Z)
絵画部門	佳作	田所南海帆 (2C)
英語スピーチコンテスト		
自由弁論の部	3位	永井 友梨 (4D)

【四国地区 6 高専ソフトテニス定期戦】

男子団体	優勝	
女子個人 A	優勝	大西夏菜子 ( 3 D )
女子個人 A	優勝	西原 枝里 ( 2 E )
女子個人 B	優勝	白石沙也加 ( 1 E )
女子個人 B	優勝	大森 鮎美 ( 1 Z )
女子個人 B	準優勝	村上 紗郁 ( 2 C )
女子個人 B	準優勝	桐島えりか ( 2 E )

【四国高専剣道交歓試合】

女子個人	優勝	梶田 弥来 ( 5 D )
男子団体	3 位	

【四国 3 高専柔道試合】( 新居浜・高松・詫間 )

男子団体	2 勝 0 敗
------	---------

【四国高専春季バスケットボール大会】

男子団体	優勝
女子団体	優勝

【中国・四国高専バドミントン大会】

女子団体	準優勝	
女子個人ダブルス	優勝	小西美有紀 ( 4 Z )
女子個人ダブルス	優勝	曾我部里恵 ( 3 C )
女子個人シングルス	3 位	的場 梢 ( 1 C )

【四国高専春季テニス大会】

男子団体	優勝	
男子個人シングルス A	3 位	渡邊 夏樹 ( 4 M )
男子個人ダブルス C	優勝	金子 泰輔 ( 1 E )
男子個人ダブルス C	優勝	村上 大樹 ( 1 E )

【市民クラス別バドミントン大会】

1 部ダブルス	優勝	曾我部大輔 ( 5 Z )
1 部ダブルス	優勝	高橋 茂樹 ( 5 E )
2 部ダブルス	優勝	近藤 研太 ( 5 E )
2 部ダブルス	優勝	村上 拓也 ( 5 M )

【高校総体東予地区予選】

テニス男子ダブルス	優勝	末竹 哲也 ( 2 M )
テニス男子ダブルス	優勝	登尾 泰平 ( 3 Z )

【市民弓道大会】

弓道高校の部女子個人	3 位	安藤 里美 ( 3 C )
------------	-----	---------------

【夏季ジュニアテニス選手権東予地区予選】

男子シングルス 準優勝 末竹 哲也（２Ｍ） 県大会出場

【伊予銀カップジュニアテニス選手権東予地区予選】

男子シングルス 優勝 末竹 哲也（２Ｍ）

男子ダブルス 優勝 末竹 哲也（２Ｍ）

男子ダブルス 優勝 楠 仁希（２Ｚ）

【市民ジュニアバドミントン大会】

高校一部女子シングルス 準優勝 的場 梢（１Ｃ）

高校一部女子ダブルス 優勝 的場 梢（１Ｃ）

高校一部女子ダブルス 優勝 曾我部里美（３Ｃ）

【市内インドア大会】

ソフトテニス女子ダブルス ３位 大西夏菜子（３Ｄ）

ソフトテニス女子ダブルス ３位 西原 枝里（２Ｅ）

表3.3.4 平成15年度課外活動の状況

クラブ名	指導教員	部長名	部員	活動状況
(文化局)				
写真部	刑部 富夫	柴田 樹	27	四国高専総合文化祭
美術部	新田百合子	加治井文乃	15	四国高専総合文化祭
E・S・S部	尾崎 司郎	岡山 文香	5	四国高専総合文化祭
プラスバンド部	出口 幹雄 深山 幸穂 今井 伸明 白井みゆき 平野 雅嗣	伊藤 里美	17	国領祭(学生祭) 四国高専総合文化祭 卒業式・入学式
茶道部	中川 克彦 野口 裕子	石野 智敬	8	新居浜支部学校茶道大会 国領祭(学生祭) 四国高専総合文化祭
ローターアクト クラブ	皆本 佳計	縄田 怜也	12	ローターアクト地区大会 国領祭 四国高専総合文化祭
コンピューター部	田中大二郎 占部 弘治	白濱 洋二	4	プログラムコンテスト 四国高専総合文化祭
軽音楽部	檀上 光昭 平野 雅嗣	鎌田太久郎	53	国領祭(学生祭) 四国高専総合文化祭
(体育局)				
陸上競技部	吉川 貴士 衣笠 巧	高橋 正人	32	高校総体(地区予選) 東予地区陸上競技記録会 東予選手権

				新居浜トラック記録会 高校総体（県大会） 高専体育大会（四国） 高専体育大会（全国） 新居浜駅伝大会 西条駅伝大会 西条マラソン 四国高専駅伝大会
硬式野球部高学年	日野 孝紀	三浦 悟	15	高専体育大会（四国） 高専体育大会（全国）
硬式野球部低学年	栗原 義武 間淵 通昭 尾西 康次	谷 茂樹	26	高校野球（県大会） 新居浜市長旗争大会 新人戦 秋季大会（地区大会） 春季大会（地区大会）
サッカー部	塩原 正雄 安藤 進一 谷脇 充浩	小椋 亮輔	48	高校総体（地区予選） 高専体育大会（四国） 高専体育大会（全国） 高校選手権（地区予選） 高校選手権（県予選） 高校新人戦（地区予選） 新居浜市サッカー選手権大会 宇治プーマカップ
バレーボール部 （男子）	西井 靖博 香川 福有 谷本 修治	小澤 卓矢	20	高校総体（地区予選） 高校総体（県大会） 高専体育大会（四国） 東予1年生大会（地区大会） 東予選手権大会（地区予選） 高校新人戦（地区予選） 高校選抜大会（地区予選） 春季四国地区高専大会
バレーボール部 （女子）	松田 雄二 新田 敦己 堤 主計	田岡 千明	10	高校総体（地区予選） 高専体育大会（四国） 春季四国地区高専大会
バスケット ボール部（男子）	今城 英二	金澤 良太	31	高校総体（地区予選） 高校総体（県大会） 高専体育大会（四国） 高専体育大会（全国） 柴杯バスケットボール大会 東予地区高校1・2年生大会 高校新人大会（地区予選） 四国地区春季大会 全国高専バスケットボール強化大会

バスケット ボール部(女子)	朝日 太郎	南條由加子	9	高校総体(地区予選) 高校総体(県大会) 高専体育大会(四国) 高専体育大会(全国) 新居浜市民大会 高校1・2年生大会(地区予選) 市民大会 四国地区春季大会
ソフトテニス部	宮田 剛 鴻上 政明	小田 健三	36	高校総体(地区予選) 高校総体(県大会) 定期戦(四国高専) 高専体育大会(四国) 高専体育大会(全国) 高校1・2年生大会(地区予選) 国体少年の部(地区予選) 高校団体対抗戦(地区予選) 高校団体対抗戦(県大会) 高校新人戦(地区予選) 高校新人戦(県大会) 新居浜市民大会
卓球部	竹田 正 白井みゆき	安藤 隆浩	28	西条市長杯争奪大会 高校総体(地区予選) 高校総体(県大会) 高校総体(四国大会) 高専体育大会(四国) 高専体育大会(全国) ジュニア選手権大会 選手権大会(県大会) 高校新人戦(地区予選) 高校新人戦(県大会)
柔道部	野田 善弘 谷口 佳文 日野 孝紀 北住 順一	高橋 俊匡	14	高校総体(地区予選) 高校総体(県大会) 高専体育大会(四国) 高専体育大会(全国) 高校新人戦(地区予選) 新居浜市民体育祭
剣道部	尋田 博範 柳井 忠	岡田 健	8	高校総体(地区予選) 四国地区高専交流試合 近郊高専練成大会 高校総体(県大会) 高専体育大会(四国) 高専体育大会(全国) 東予地区練成会



				高校新人戦（地区予選） 高校新人戦（県大会） 近郊高専練成会 東予市地区練成会 小松町剣道大会 全国高専春季練成大会（高専）
ワンダー フォーゲル部	山田 正史 木本 伸	首藤 将貴	15	別子銅山登山 新居浜市合併記念イベント あかがねウォーク参加
水泳部	塚野 修 横山 隆志	石村 敏史	11	高校総体（地区予選） 高校総体（県大会） 3校（弓削，高松，新居浜）記録会 高専体育大会（四国）
パドミントン部	西谷 郁夫 三井 正 平木 弘一 大村 泰	白石 哲也	26	高校総体（地区予選） 高校総体（県大会） 高校総体（四国大会） 高専体育大会（四国） 高専体育大会（全国） 市民大会 四国総合大会（県予選） 高校新人戦（県大会） 選抜選手権（県大会） 中国四国高専大会
空手道部	皆本 佳計	久岡 孝彰	5	
弓道部	松英 達也 早瀬 伸樹 堤 主計	菊池 歩	35	高校総体（地区予選） 高校総体（県大会） 西日本高専大会 通信高専大会 東予大会 高校新人戦（地区予選） 高校新人戦（県大会） 高校選抜大会地区予選兼1・2年生 大会 県ジュニア女子選抜大会 新居浜市民大会 国体県代表選手選考会 全国高専選抜大会
テニス部	志賀 信哉 皆本 佳計 曾我部卓三	石川 圭太	24	高校総体（地区予選） 高校総体（県大会） 高専体育大会（四国） 高専体育大会（全国） タカラスポーツ杯大会 夏季ジュニア選手権大会（地区予選）

				夏季ジュニア選手権大会（県大会） 高校新人戦（地区予選） 高校新人戦（県大会） 伊予銀カップジュニア選手権大会 （地区予選） 伊予銀カップジュニア選手権大会 （県大会） 四国地区高専春季テニス大会
ラグビーフット ボール部	早瀬 伸樹 占部 弘治	越智 康光	17	高専体育大会（四国） 愛媛県高校ラグビー新人大会
（愛好会） 漫画同好会	岩倉 秀樹	岡田 舞	9	四国高専総合文化祭
文学研究会	森長 新 岩倉 秀樹	瀬戸口甘菜	5	四国高専総合文化祭
ロボット研究会	宮田 剛 松田 雄二 出口 幹雄	池田 祐一	26	新居浜祭り ロボットコンテスト（四国大会） 四国高専総合文化祭
先端技術研究会	刑部 富夫	佐々木昇平	12	柳川ソーラーボート大会
応援団同好会	野口 正樹	石野 智敬	3	ロボットコンテスト（四国大会） 四国高専総合文化祭 高校野球
科学研究会	桑田 茂樹	石川 沙葵	12	公開講座補助 夏季体験学習及び体験学習へテーマ 参加 チャレンジプロジェクト 伊予路てくてく出演
フットサル愛好会	谷脇 充浩	加地 恭介	25	東予地区小松フレンドリーカップ
マルチメディア 愛好会	占部 治	小田 大和	15	プログラミングコンテスト 国領祭（学生祭） 四国高専総合文化祭
合計	文化 1 3 8 愛好 1 2 8	体育 4 5 5	721	

### 課外活動における現状の課題と展望

近年、部活動への参加学生数の減少、活動の衰退が見られていたが、平成15年度は横ばいの状況である。よい成果をあげ活発に活動している部も見られる一方、活動を休止せざるをえない部もあり二極化が進んでいると思われる。このような状況は地域や入学してくる中学生の目からは一部の活動以外は魅力に乏しいと思われる。体育局および文化局の部活動の活性化については、それぞれの部において何らかの対策が講じられているが十分とはいえない。現在の本校ホームページ「学生会・クラブ活動」という項目を開けても、外部への積極的な情報発信という観点から考えれば、決してそのホームページが充実しているとはいえない。より準備をすすめる必要があるだろう

また、本校では部活動の顧問教員は、学生の依頼をその教員が承諾するという形で決まっ

ている。しかし、しかたなく部顧問を引き受けるケースが多く、実質的な顧問とは言いがたく、極めて憂慮すべき問題となっている。

一方、体育局および文化局の各部において、各部員およびそれらのチ - ムの競技・技術レベルを上げようと思えば日頃の真摯な練習はもちろん、対外試合・対外での発表会等の活動が必要である。従って、愛好会をも含めた課外活動を、円滑にかつ積極的に行おうとすれば経済的支援は欠かせない。

本校の後援会において、課外活動に対し支給される大会の範囲は、現在以下のものである。

体育局関係：全国高専体育大会、四国地区高専体育大会、四国地区ラグビー大会、  
四国地区高専駅伝大会、西日本地区高専弓道大会、県高校総体、高校野球  
文化局関係：四国地区総合文化祭、四国地区ロボコン大会、ロボコン全国大会、  
プロコン大会、ソーラーボート大会

現在、上記大会等は、課外活動援助基金、後援会費により援助を受けているが、いずれの大会においても、より活発な活動を行うには、その資金において決して満足できるものではなく、種々の課題を抱えている。後援会による援助は、教務関係をはじめ多岐にわたっており、会費値上げが困難な現状では、出来るだけ無駄を省くような方策を考えなければならない。また、部活動費としての学生会費の使途においても、より有効な活用という面で改善すべき点も多くあると思われる。

なお、上記大会以外の活動、すなわち、社会との接点のある学生によるグル - プ活動（クラブ活動でも可）にも支援しようという「チャレンジプロジェクト支援」が、実施され4件が採択されその活動が報告された。なお一層学習成果および課外活動の成果を生かした自主的・主体的活動が望まれる。

平成15年度学生委員会において、以下のような項目を掲げた。いずれも鋭意努力して実現しなければならない。

本校における部活動の位置づけを確認し、学生の部活離れに歯止めをかけ全学的に全教員で部活動に取り組む（全教員顧問制）。学生委員会が各教員の希望に基づき、いずれかの部に顧問として割り振る。このことにより継続的に部活動を活発化することが可能であり、また教員にとっても、学生指導の上で得るところがあると考えられる。これについては平成15年度に全教員の意思統一を行ない、平成16年度には全教員顧問制の実現を目標とする。

各部のホームページの開設を早急に行うと共に、部活動で優秀な成績を収めた学生の表彰、成績の掲示、垂れ幕、ホームページへの掲載等をより積極的に行い、部活動の活性化を図る。合宿所（燧荘）の設備が貧弱であり、設備改造の具体案をつくる必要がある。たとえば、洗濯機、乾燥機、風呂等の設備を整える。また、合宿中の食事を供給する方法も検討する。学生会と教員との研修会を定期的に行ない、部活動のあり方を話し合う。

以上、現在における課外活動における現状の課題と展望について記したが、その他、各部の指導教員において、学生に対する指導理念の相違が挙げられ、必ずしも本校としての部活動が組織的な動きとはなっていない。たとえば、具体的には活動場所や部室や更衣室の清掃、戸締まり、後始末、校内のゴミ対策等において指導の徹底に差が見られる。また、学校の約束事を守るといった基本的なことができていない場合がある。いずれも部活動を行う以前の躰の問題である。上述した ~ の目標と同様、難しい問題も含まれているが、早急に改善する必要があると思われる。

### 3.4 学内の管理運営

#### 3.4.1 教員組織

平成15年度には、電気工学科を電気情報工学科に改組し、本校の情報教育を推進するため情報教育センターを設置した。

教員組織図を表3.4.1、教職員の定員と現員を表3.4.2、各(学)科毎の教員の現員を表3.4.3 及び非常勤講師の採用状況を表3.4.1.4に示す。

表3.4.1 教員組織図 (H16.3.31現在)

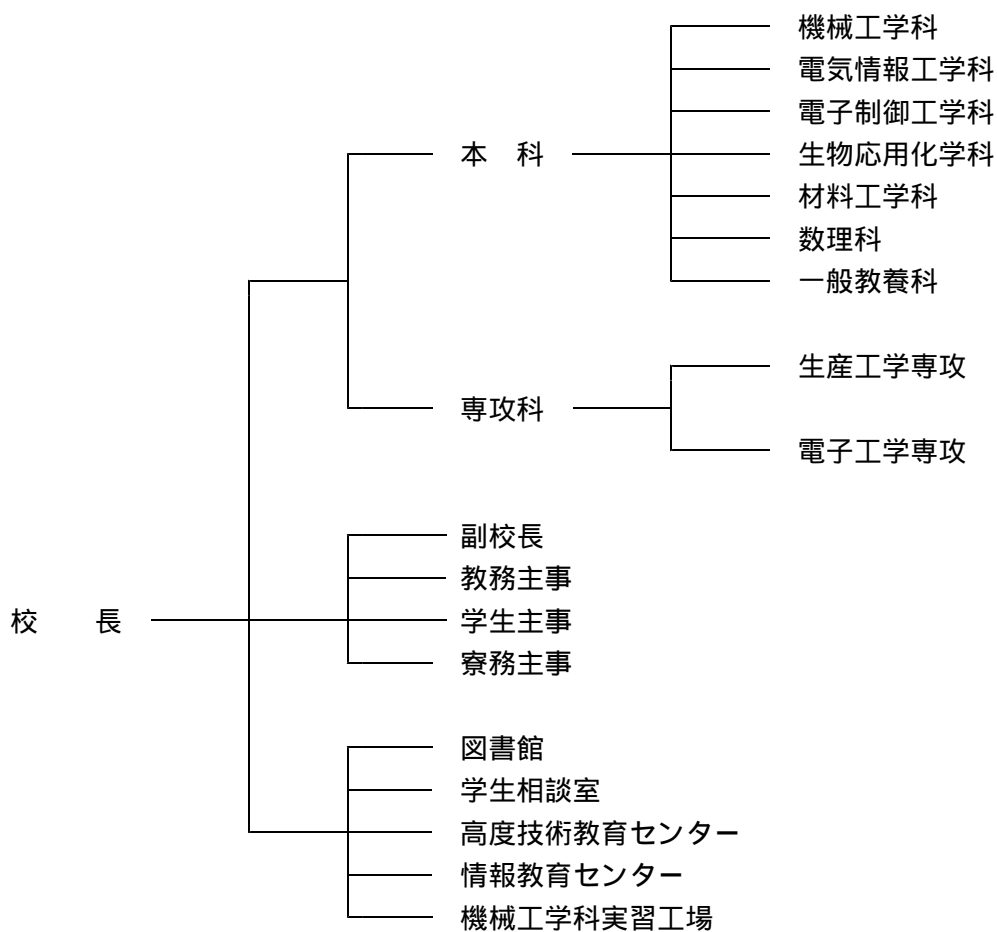


表3.4.2 教職員の定員と現員

平成16年3月31日現在

区分	教育職員						事務系 職員	合計
	校長	教授	助教授	講師	助手	小計		
定員	1	37	36	1	9	84	54	138
現員	1	33	31	9	10	84	54	138

表3.4.3 各(学)科毎の教官の現員

平成16年3月31日現在

区分	機 械 工 学 科	電気情報 工 学 科	電子制御 工 学 科	生物応用 化 学 科	材 料 工 学 科	数 理 科	一 般 教 養 科	計
教 授	4	4	3	6	5	6	5	33
助教授	3	4	4	5	4	3	8	31
講 師	1	2	1			3	2	9
助 手	2	2	2	2	2			10
計	10	12	10	13	11	12	15	83

表3.4.4 非常勤講師の採用状況

平成16年3月31日現在

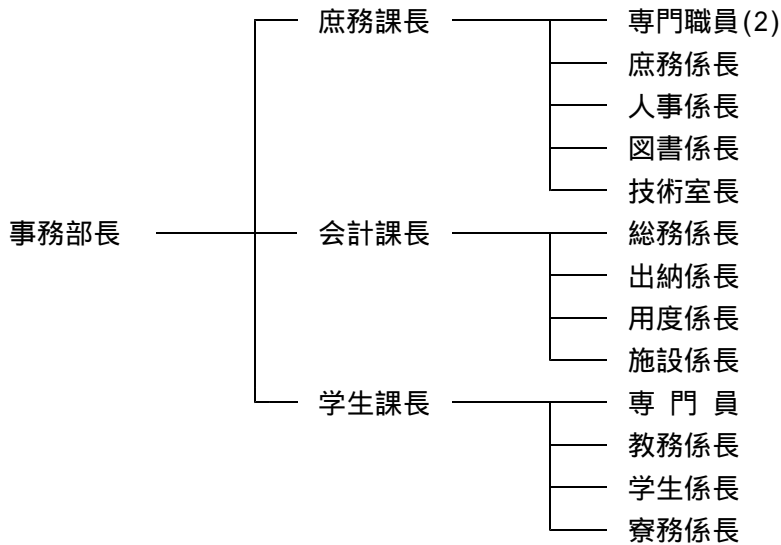
項 目	一 般	数 理	機 械	電 気	電 子	生 化	材 料	合 計	
14 年 度	員 数	17	6	6	3	1	6	2	41
	科 目 数	21	11	15	9	1	10	2	69
	授業時間数	2,519	1,009	677	443	34	407	101	5,190

### 3.4.2 事務組織

平成15年4月1日に学生課に専門員を配置した。

事務組織の状況を表3.4.5に示す。

表3.4.5 事務組織(平成16年3月31日現在)



### 3.4.3 技術室の活動状況

#### [1] 研修

研修名	研修機関	研究期間	参加人数
第6回西日本地区国立高等専門学校協会技術職員特別研修(機械系)	豊橋技術科学大学	8月27～29日	1
平成15年度中国・四国地区国立学校等技術専門職員研修	香川大学工学部	8月19～22日	1
平成15年度新居浜工業高等専門学校技術職員夏期技術研修(溶接コース)	愛媛県立新居浜高等技術専門学校	8月4日～6日、 8月11・12日	5

#### [2] 教育支援

- ・機械工作実習、機械工学実験、機械設計製図
- ・材料工作実習・材料工学実験、総合実習
- ・電子制御工学科実験、実習
- ・電気工学科実験・実習
- ・生物応用化学科実験
- ・卒業研究、特別研究

#### [3] 教材作成

- ・ビデオ教材(化学実験の安全、身近な微生物たち、ガラス細工)
- ・材料工学実験用試料
- ・シーケンス制御実験装置
- ・ADコンバータ
- ・OPアンプ実験装置
- ・コンピュータを用いたDCモータの駆動装置
- ・安定化電源回路実験装置

#### [4] 制作依頼

- ・ロボコンの練習用ステージ、
- ・ロボット梱包ケース、
- ・アイデア通りの看板

#### [5] その他

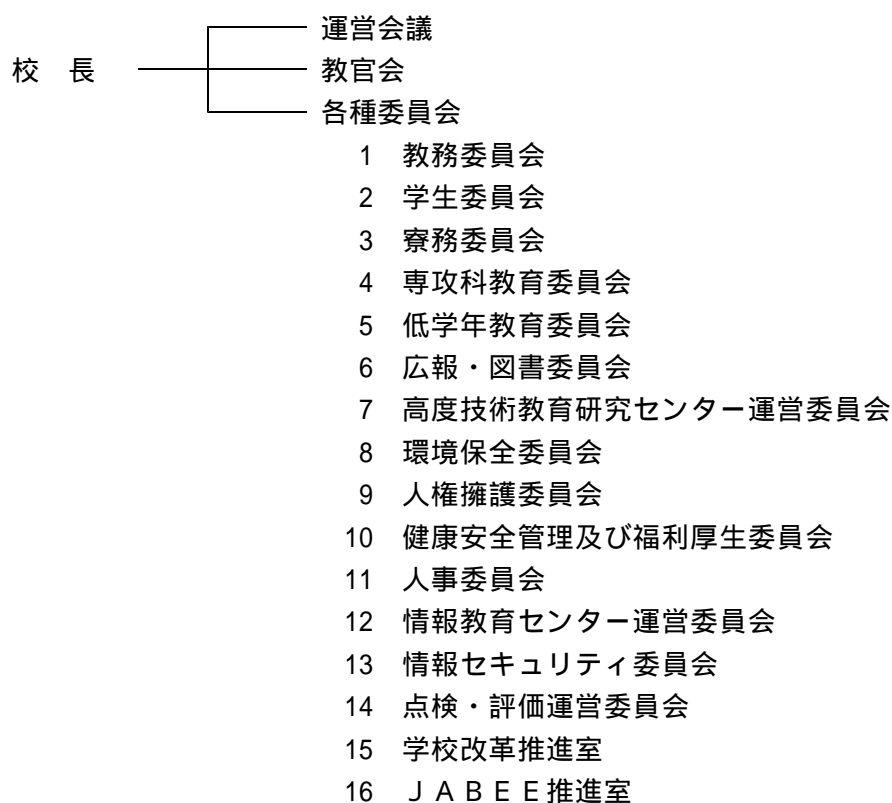
- ・ホームページ作成
- ・実験装置の改良・保守
- ・実験室の器具、備品管理
- ・学会発表

### 3.4.4 各種委員会

平成15年度には、本校の低学年における教育体制を整え低学年教育の実施と連絡調整機能の充実を図るため低学年教育委員会を、広報及び図書館の運営に関することを審議するため広報・図書委員会を、情報教育の管理運営及び基本方針を策定するために情報教育センター運営委員会を、本校における継続的かつ安定的な教育・研究及び行政事務の実施を確保するため情報セキュリティ委員会を、それぞれ設置した。また、本校の教育方法等を改善するために必要な方策を企画、立案及び推進するため学校改革推進室を、本校のJABEEに関する取り組みを推進するためJABEE推進室を設置した。さらに、平成16年度の独立行政法人化に向け新たに従来の組織の見直し作業を進めているところである。

各種委員会の状況を表3.4.6に示す。

表3.4.6 会議及び委員会等（H16.3.31現在）



各種委員会の開催内容を（添付資料3.4.1）に示す。

### 3.4.5 教職員の人事交流

平成16年度の教職員の人事交流状況を表3.4.7に示す。

表3.4.7 事務官の人事交流

	転入・転出先	16年度
転入	愛媛大学	3人
転出	愛媛大学	5人

### 3.4.6 予算の配分状況

#### [1] 校長裁量経費の配分状況

高専の運営予算として文部（科学）省から配分される校費は、平成11年度～平成15年度の間で大きな変化はなく、本校の場合ほぼ230,000千円～250,000千円であったが、当初予算を大きく分類すると表3.4.8の様な用途に配分され、使用された。同表は各予算費目について、上記校費を配分した概略配分パーセントを示しているが、大体、以下の方針に基づいている。

表3.4.8 本校の公費配分実績（予算総額に対する配分）

年度 予算項目	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
教育研究費	38.5	34.1	22.5	22.5	22.8
校長裁量経費(保留額)	3.9	3.2	13.2	18.1	13.3
特別教育経費	8.7	12.4	8.4	11.2	11.0
厚生補導関係費	4.9	4.6	5.2	4.3	5.4
校内共通経費	44.0	45.7	50.7	43.9	

(1) 教育研究費へは、平成11年度迄は文部省から配分される校費の積算事項のうち教官当積算校費・学生当積算校費・教育研究特別経費（教官当）・教育研究特別経費（学生当）の中から配分し、平成11年度は教育研究費、留学生教育経費、専攻科学生経費、学科共通費として配分された。

しかし、平成12年度に文部省で教官当積算校費等の見直しが行われたのに伴い平成12年度以降は、校費の積算事項のうち教育研究基盤校費（教官数積算分・学生数積算分・大学分等）の中から配分し、平成12年度は、教官数積算分 学科主任裁量経費として、平成13～14年度は、前年度の 以外に 学生の実験・実習関係費として、平成15年度は、教官研究費 学科主任裁量経費 学生の実験・実習関係費として配分された。

(2) この教育研究費の配分の内訳は、以下の様である。

平成11年度迄は教官1人当たり、実験系に属する教官の教育研究費は1,083千円、非実験系に属する教官の教育研究費は518千円と区分し学内配分していた。

しかし、平成12年度に文部省において教官当積算校費等の見直しが行なわれ、実験系・非実験系の区分が廃止されたのに伴い平成12年度以降は、文部(科学)省から示された「教官数積算分」及び「学生数積算分」の単価を基準にして(学)科に配分されるようになった。なお、平成12年度については経過処置として教官数積算分と合わせた額が前年度並みの教育研究費になるよう学科主任裁量経費(学生数積算分を含む)が配分された。

平成11年度迄は(2) 以外に留学生教育経費、専攻科学生経費が在籍する学生数等に応じて配分された。

なお、平成11年度に限り学科共通費（印刷代、コピー代、機器の維持費等）として教育研究費の3%又は5%が配分された。

しかし、平成12年度に文部省において教官当積算校費等の見直しが行なわれたのに伴い学内配分の見直しを行い文部(科学)省から示された「教官数積算分」を教官研究費として、「学生数積算分」から校内共通経費に充当する額を控除した額を新たに主任裁量により用途を定める事ができる学科主任裁量経費として配分した。



また、平成13年度からは実験実習のための経費として学生の実験実習関係経費が前述の経費に加えて配分された。(注：平成12年度は追加配分)

- (3) 校長裁量経費(保留額)は、平成12年度迄は教育研究費の配分総額の10%相当額が配分され、校長裁量のもとに教育研究に活用された。しかし、平成13年度には前年度に比し校長裁量経費が大きく増額されているが、これは、文部(科学)省において教官当積算校費等の見直しが行われたのに伴い各学科・科、各種委員会、高度技術教育研究センター等から提案された下記重点事項等の中から効率的、重点的に配分するため新たに設けられた。

平成15年度の重点事項等は次のとおりである。

各学科・科、各種委員会、高度技術教育研究センター等から提案されたものの中から下記重点事項を踏まえ、効率的、重点的に配分された。校長経費に採択された要求事項を表3.4.9に示す。

ア. 教育内容の改善(例：点検評価関係費，F D 関係費，新しい教授方法導入関係費、J A B E E 関係費等)

イ. 新たに企画される創造性教育

ウ. 学科横断的なプロジェクト型研究〔地域連携推進事業(教育、研究、生涯学習に関わるもの)を含む。〕の推進に伴う経費で、主に設備の購入にかかるもの

エ. 新たに企画されるP R活動、特色ある学生募集活動

オ. 施設の有効活用に資するもの

カ. 学位取得への支援(論文抜き刷り経費等)

キ. 新任教官の卒研指導等の教育研究環境の整備

ク. その他教育研究活動等で、新たに行うもの

さらに、点検書・自己評価書に基づく改善 今年度緊急に対応すべき事項に関して、追加公募を行った。追加公募に採択された要求事項を表3.4.10に示す。

教育研究等で表彰を受けるなど顕著な功績を挙げた者に対する研究費の特別配分

- (4) 特別教育維持費は、主として実習工場経費、高度技術教育研究センターの運営費、学生用図書購入費、図書館経費、教育用電算機維持費、校内LANシステム維持費、ネットワーク接続経費、各種大型実験設備の維持費等に使用される。
- (5) 厚生補導関係費は、学生の厚生補導経費、寄宿舍経費、ものづくり教育推進経費等に使用される。
- (6) 校内共通経費は費用額が大きいのが、主として学校運営全般に必要な一般経費、光熱水料、下水処理費、業務委託費、保守等経費、賃金、入試経費、入試P R経費、施設費、事務電算化経費等に使用されている。

表3.4.9 平成15年度 校長裁量経費採択一覧表

学科等名	事項番号	要 求 事 項	主たる担当者	金額 (千円)
機械工学科	アイ	計測・制御分野の科目新設に伴う機器充実化及び新規教授方法の導入	宮田 剛	3,274
機械工学科	カ	学位取得に関わる投稿論文の別刷り経費について	宮田 剛	128
電気情報工学科	キ	ネットワークコンピュータシステムの構築	横山 隆志	1,867
電子制御工学科	ア	PCのみの実践的計測技術を駆使した学生実験テーマの導入	出口 幹雄	5,113
生物応用化学科	ア	自己点検書作成費及びJABEE審査における費用	河村 秀男	1,021
生物応用化学科	カ	学位取得のための論文抜き刷り経費等	堤 主計	109
材料工学科	ア	万能試験機のシステムアップ	志賀 信哉	2,394
数理科	ア	物理学実験装置の整備	塩原 正雄	1,981
一般教養科	ア	授業用剣道具購入	多田 博範	600
一般教養科 専攻科教育委員会	ア	英語学習支援システム「ALC NetAcademy」の導入	尾崎 司郎 中川 克彦	4,436
庶務課	オ	新居浜高専構内監視カメラ整備	林 興一	2,159
教務委員会	ア	カードマーカーシステム	桑田 茂樹	945
教務委員会	ア	液晶プロジェクターの追加導入	桑田 茂樹	499
点検専門部会	ア	点検報告書及び自己評価書（平成14年度版）の作成	谷口 佳文	1,154
情報セキュリティ委員会	オ	ウイルス対策ソフトウェア保守経費	檀上 光昭	818
情報教育センター	ウ	高等教育IT活用推進事業のための広域Ethernet網接続計画	勝浦 創	819
プログラミングコンテスト	ク	第14回プログラミングコンテスト決勝出場支援経費	占部 弘治	496
高度技術教育研究センター	ウ	水産練製品の加工過程の改善のための冷凍装置	堤 主計	814
高度技術教育研究センター	ウ	堆肥化に関与する微生物反応解析装置	中川 克彦	932
高度技術教育研究センター	ウ	熱機械分析装置（TMA）	中山 享	2,621
高度技術教育研究センター	ウ	「非線形光学結晶を表面に配向した新規光学機能性ガラスの作製」に関する装置・設備	朝日 太郎	724
高度技術教育研究センター	ウ	センターテーマ「錯体・界面合成による原子レベルで均一性を実現した複合金属材料開発」遂行のための設備	中山 享	252
合 計		22 件		33,156

表3.4.10 平成15年度 校長裁量経費（追加公募）採択一覧表

学科等名	事項番号	要 求 事 項	主たる担当者	金額 (千円)
生物応用化学科		学位取得に関わる論文の別刷り代	西井 靖博	35
教務委員会		H R 教室増設	桑田 茂樹	7,741
学生委員会		企業説明会の開催	檀上 光昭	668
学生委員会		トレーニングマシン移設	檀上 光昭	3,652
寮務委員会		寮生会への生活支援	谷口 佳文	1,625
広報・図書委員会		教養書100冊	小山 一夫	204
情報教育センター		電子計算機室第一演習室への外付け音源ボードの導入	勝浦 創	456
情報教育センター		LabVIEW5.1以上の全校化による教育方法改善	出口 幹雄	551
庶務課		大型プリンター印刷装置一式	林 興一	685
会計課		正面メッセージボックス設置工事	浜崎 慶一	1,302
学生課		尚友会館南側広場整備	山本 一仁	1,785
合 計		1 1 件		18,704

## 【2】各学科・科の主任裁量経費の配分状況

### 【機械工学科】

学科の重点目標は、

- (1) 平常授業に支障をきたさないこと。
- (2) ものづくり関連授業における関連設備および機器の整備。
- (3) 若手教官に対する財政的援助。

である。

(1)(2)の項目では、主にデザイン工学演習、工学基礎実験に必要な消耗品に当てた。(3)の項目では、教官研究費を均等配分した。さらに配属された卒研生(2万)と専攻科生(5万)の人数に応じて各教官に配分した。

これらの費用を除いた主任裁量経費を、教育・研究用の消耗品ならびに共通備品の整備と修理の費用として配分した。

### 【電気情報工学科】

平成15年度の主任裁量経費は、学科会議にて以下の方針を建て配分を行った。

- ・ 学科共通で使用する雑誌の教育・研究用雑誌の購入経費に当てる。
- ・ 教員FD推進のために使う。
- ・ 若手教員の研究推進補助に使う。
- ・ 情報処理室の設備充実に使う。
- ・ 学科共通の事務経費に当てる。

その結果、配分額141万円を以下のように使用した。成果も併せて述べる。

- ・ 雑誌購入費 465,820円

資格試験の内容確認、卒業研究・研究の資料として活用した。

- ・ プロジェクタ、ノートパソコン一式 520,000円  
ネットワークを用いた学科共有フォルダの利用や電子会議システムの導入も併せて  
行い、学科会議・FD会議の効率化が行えた。
- ・ 若手教員の研究費補助（主に香川教員）224,180円  
博士（工学）の学位を取得された。
- ・ 情報処理室のプリンタ更新 50,000円  
情報処理の演習・学生実験実習のレポート作成の効率化が図られた。
- ・ 学科共通事務経費 150,000円

### 【電子制御工学科】

以下の主任裁量費配分指針に基づき配分を行った。

1. 卒業研究、特別研究等に於ける研究室の環境整備費として助手、講師、助教授に  
経費を配分する。
2. 14年度の振り替え（コピー機等による赤字）の補填を行う。
3. 教官あたりの研究費は、今年度は、積算額を基準に配分する。
4. 学位取得等による必要経費の申請があれば別途考慮する。

主任裁量経費配分額：1,428,000円  
 研究室の環境整備費：900,000円（助手20万、講師・助教授10万円を配分）  
 事務機器購入等：528,000円（13年度分赤字81.5万円の補填）  
 合計 1,428,000円

### 【生物応用化学科】

主任裁量経費配分額：1,333,500円

学科の重点目標：

- ・ JABEE実施審査における資料作成のための文房具の購入とコピー機の保守
- ・ 本科5年生および専攻科1年生を対象とした工場見学の実施

内訳 文房具の購入費 259,000  
 コピー機の保守費 476,800  
 バス借り上げ費 77,700

学科内での配分方法：

- ・ 図書購入費（Science Direct、ACSの電子ジャーナル費負担分）520,000
- ・ 重点目標購入費 813,500

### 【材料工学科】

学科運営共通経費	400千円
工作室機器経費	100千円
4Z「総合実習」	100千円
2Z「機械工作法実習」経費	100千円
廃棄物処理経費	100千円
電子顕微鏡維持経費	100千円
若手教官への支援経費	100千円
装置の修理費	100千円
複写機更新経費（14年度不足分）	200千円

### 【数理科】

- ・基本的な経費（図書費、コピー代）を科共通経費としてまかなう
- ・教育改善インフラ整備（コンピューター環境等を、レベル差なく整えグループとして活用する）
- ・執行額（概算）：

図書費	1,000千円
コピー代	300千円
コンピューター環境整備等	800千円
計	2,100千円

### 【一般教養科】

各教科の教材、語学系科目の視聴覚機器、体育の運動器材等、授業運営に不可欠なものを整えるほか、新任教官経費を確保するため、主任裁量経費と教官研究費、実験経費とを総合させ、新任教官経費をのぞき 保健・体育教官1人の経費と他教科教官1人の経費とが2：1になるようにした。

平成14年度に比し、教官研究費、実験経費が減額されたことも手伝い、機器・機材経費が不足している。

主任裁量経費内訳

科維持経費	408,000円(+ 28,000円)
国語・国文	131,000円(- 92,300円)
外国語	376,000円(+ 176,000円)
社会系	113,000円(- 139,400円)
保健・体育	972,000円(+ 37,700円)
芸術	100,000円(- 10,000円)
合計	2,100,000円(± 0円)

\*カッコ内は前年度比

## 3.4.7 環境管理・安全防災体制

環境保全委員会の活動

### 【1】紙の有効利用

リサイクル紙使用、両面使用、使用済み古紙の分別とリサイクルなど、そして、次のような紙の有効利用、省資源活動を行った。

- \* ) シュレッダー使用禁止に伴う機密文書処分(5月20日と16年3月10日に回収して、製紙工場に搬入し、処分した。)
- \* ) 古紙の4種分別システムがほぼ定着し、ゴミ置場には紙ごみがほとんど出なくなった。
- \* ) 紙の使用枚数のデータを図 3.4.1 に示す(12年度以降は全てリサイクル紙を使用)。

年度別紙使用枚数(千枚単位)

年度	PA3	PA4	PB4	PB5	ZB4	ZA4	合計枚数
10	35	805	190	106.5	364		1500.5
11	45	757	165	90	338		1395
12	34	794.5	150	22.5	323	133	1457
13	36	914	157.5	42.5	285	110	1545
14	36.5	1020	115	37.5	280	92	1581
15	54	2350	150	100	307	157	3118

P(PPC用紙)、 Z(ザラ紙)、 A、Bは版サイズ

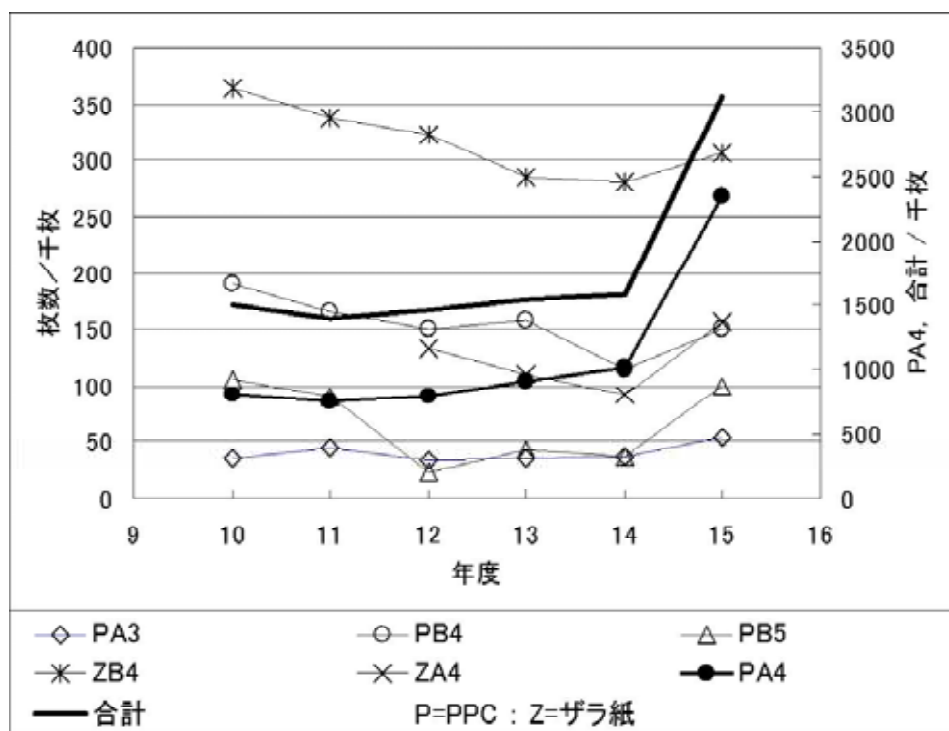


図 3.4.1 紙使用枚数経時変化

A4 版 PPC 用紙以外の用紙の使用枚数は環境保全委員が活動を開始(H12 年度)して以来、減少傾向にある。特に、授業用に使うザラ紙の使用量は着実に減少している。15 年度の僅かな増加の原因は、独法化に伴う棚卸のためである。A4 版 PPC 用紙が 15 年度で急激に増加した原因は、独法化、生物応用化学科の JABEE 申請、電気工学科の学科改組に伴う事務量の増加のためである。

## [ 2 ] 節電活動

次のような節電活動を行った。

- \* ) 夏季のノ - ネクタイ、ノージャケット運動(希望者はワッペンを貼り付け)
- \* ) 学生環境委員の協力を得て、教室などの出入り口に「退室時には消灯確認」のラベルを貼り付けた。
- \* ) 消費電力量が契約量に近づいたときは、施設係から LAN で度々節電を呼びかけた。

これまでの活動の成果で、増加傾向が止まり、最近 5 年間の消費電力量はほぼ横ばいである。その結果を図 3.4.2 に示す。

年間電力使用量	
年度	電力消費量
6	136.40
7	149.25
8	151.01
9	157.62
10	165.76
11	163.83
12	186.43
13	185.06
14	193.12
15	188.10

単位(万 kWh)

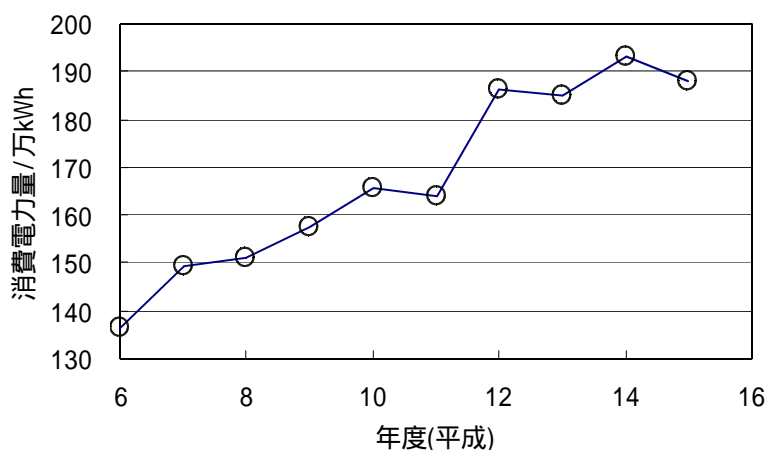


図 3.4.2 消費電力量の経時変化

### [ 3 ] ゴミ分別

次のような活動を通して、廃棄物のリサイクルに努めた。

\* ) 飲料用容器(カン、ビン、ペットボトル)のリサイクル

飲料用容器を市のゴミ処理システムではなくて、構内売店に返してリサイクルするシステムに変更(5月から実施)。それに伴って、教室等に専用容器を設置。

更に、年度末ころに、ペットボトルを分別して欲しい、との回収業者からの要望があり、16年度から実施できるように、ペットボトル専用容器を追加した。

\* ) プリンタインクカートリッジリサイクル

使用済みのものを業者に返してリサイクルするため、用度係横に専用回収容器を設置した。(16年1月15日)

#### [ 4 ] 学校保健法にもとづく環境衛生検査のシステムづくり

- \* ) 検査結果報告に従って、学生課が素早く対応し、その結果を委員会に報告して、対処方法を更に検討するシステムを確立した。

#### [ 5 ] 防火訓練活動

- \* ) 消火設備操作実習  
各課、科別(9グループ)で8月中に実施。  
部署毎に現場の実情にマッチした緊急時対処マニュアルを作成
- \* ) 校内一斉防火訓練  
11月7日(金)7,8時限目 出火想定時刻 15:50、想定場所:機械科棟2階

#### [ 6 ] 校内美化活動

- \* ) 教職員8月28, 28日各課、科都合のよい時間帯に校内の除草作業を実施。
- \* ) 10月10日(始業日)学生、教職員一斉、校内美化活動30分程度のゴミ拾い
- \* ) グランド、体育館周辺の長期放置器具等の廃棄処分(10月)
- \* ) 「学校環境美化宣言」が運営会議で決議された(9月10日)。  
その趣旨に沿って、翌年度から、教職員と学生が協同して、年間を通じて校内の美化作業をすることを決めた(2月)。

#### [ 7 ] 学生の環境専門委員会の活動支援

環境保全委員会の発案で学生会組織の中に、「環境専門委員会」を設立した。その活動状況を示す。

- \* ) 学生科棟庭の花壇設置(170株、7月16日:オープニングセレモニー)とその後の維持管理
- \* ) 市民一斉清掃活動に参加(7月27日)
- \* ) 高専西側の道路の清掃を、新居浜市の里親制度に登録して、実施(月1回程度)
- \* ) 全学生を対象として、環境意識調査を実施。結果を国領祭の展示、と「高専だより」で発表。
- \* ) 学生環境専門委員会初代委員長を学生表彰対象者として推薦し、受賞した。

#### [ 8 ] 環境教育

特活の時間を使って環境教育を行った。

- \* ) 3年E,C,D科(1月8日:講師:真鍋)
- \* ) 3年生M,Z科(1月8日:講師、谷)、
- \* ) 1年生全クラス(1月30日:講師、真鍋)



(添付資料 3.4.1)

各種委員会等の主な議題(平成15年度)

【運営会議】

- 1 メンバー 校長(水野豊) 事務部長(石橋栄)  
教務主事(桑田茂樹) 学生主事(檀上光昭) 寮務主事(谷口佳文)  
専攻科長(中川克彦) 高度技術教育研究センター長(川崎宏一)  
庶務課長(林興一) 会計課長(浜崎慶一) 学生課長(山本一仁)  
各学科・科主任(刑部富夫、伊月宣之、田中大二郎、河村秀男、  
曾我部卓三、小山一夫、板野哲)
- 2 委員会開催回数 15回
- 3 開催日及び主な議題
  - 第1回(4月16日)
    - 協議事項
      - 1 「新居浜工業高等専門学校点検・評価実施規則」の一部改正について(庶務課長)
      - 2 平成15年度学校運営目標について
    - 報告事項
      - 1 平成14年度国専協第5回総会について(校長)
      - 2 平成15年度国専協等諸行事について(校長)
      - 3 JABEE推進室メンバーについて(校長)
      - 4 学生の実態データについて(校長)
      - 5 平成15年度企業説明会について(学生主事)
      - 6 全国高等専門学校第14回プログラミングコンテストについて(学生主事)
      - 7 「新居浜工業高等専門学校事務組織規程」の一部改正について(庶務課長)
      - 8 委員会報告
  - 第2回(5月14日)
    - 協議事項
      - 1 平成15年度学校運営目標について
      - 2 平成16年度専攻科学生募集要項について(専攻科長)
      - 3 平成16年度専攻科入学者選抜検査実施要項について(専攻科長)
    - 報告事項
      - 1 平成15年度第1回国専協四国地区会議について(校長)
      - 2 「生物応用化学技術者教育プログラム」のJABEE認定申請について(校長)
      - 3 各種論文等への応募状況について(校長)
      - 4 全国高等専門学校ロボットコンテスト2003について(学生主事)
      - 5 第57回愛媛県高等学校総合体育大会について(学生主事)
      - 6 学寮ネットワーク使用心得(案)について(寮務主事)
      - 7 「新居浜工業高等専門学校事務分掌細則」の一部改正について(庶務課長)
      - 8 委員会等報告
  - 第3回(6月11日)
    - 協議事項
      - 1 「新居浜工業高等専門学校点検・評価実施規則」の一部改正について(庶務課長)
      - 2 新居浜工業高等専門学校の中期目標・中期計画(案)について(校長)

- 3 平成15年度教育改善推進計画(案)について(校長)
- 4 平成15年度学内予算の配分について(校長)
- 5 平成16年度概算要求について(校長)
- 6 平成16年度編入学生募集要項について(教務主事)
- 7 専攻科インターンシップ実施要項について(専攻科長)

報告事項

- 1 平成15年度国専協第1回総会について(校長)
- 2 新居浜工業高等専門学校教育業績等評価実施要綱について(校長)
- 3 平成14年度校長裁量経費成果報告について(校長)
- 4 平成14年度学科配分経費ヒヤリング結果について(校長)
- 5 チャレンジプロジェクト募集要項(案)について(学生主事)
- 6 「えひめデジタルコンテンツグランプリ2003」開催要領について(学生主事)
- 7 委員会報告

第4回(7月11日)

協議事項

- 1 平成15年度国立高等専門学校教員顕彰候補者の募集について(校長)
- 2 平成16年度編入学者選抜検査実施要項(案)について(教務主事)
- 3 学校の安全対策等について(校長)

報告事項

- 1 科学研究費補助金説明会について(会計課長)
- 2 全国高等専門学校第14回プログラミングコンテスト予選結果について(学生主事)
- 3 平成15年度夏季休業中の特別残寮について(寮務主事)
- 4 自民党産学官連携小委員会ヒヤリングについて(校長)
- 5 委員会報告

第5回(9月10日)

協議事項

- 1 生物応用化学専攻分離及び専攻科のカリキュラム変更に伴う学則の一部改正について(専攻科長)
- 2 学生指導における教員と事務職員の連携協力について(校長)
- 3 平成16年度編入学者二次募集について(教務主事)

報告事項

- 1 学年別学級担任と懇談の結果について(校長)
- 2 プロコンのキャッチフレーズとポスターの募集について(学生主事)
- 3 平成15年度新居浜市高等学校協議会第2回生徒指導主事会の報告について(学生主事)
- 4 自動車の駐車場について(庶務課長)
- 5 適切な勤務時間の管理について(校長)
- 6 平成15年度四国地区高等専門学校テクノセンター長会議報告について(高技センター長)
- 7 委員会報告

第6回(10月8日)

協議事項

- 1 平成16年度編入学者選抜検査(第2次)実施要項について(教務主事)

報告事項

- 1 防火訓練の実施について(環境保全委員会委員長)

- 2 プログラミングコンテスト開催地委員会要項について（学生主事）
- 3 車両指導について（庶務課長）
- 4 「新居浜工業高等専門学校ホームページ掲載に関する申合せ（案）」について（庶務課長）
- 5 公開授業の実施について（教務主事）
- 6 寮生保護者との連絡会及び女子寮の入寮説明会の開催について（寮務主事）
- 7 卒業研究・特別研究の現状と課題の点検と評価について（校長）
- 8 委員会報告

第7回（11月12日）

協議事項

- 1 紀要の発行について（広報・図書委員会委員長）
- 2 高等教育IT活用推進事業の「遠隔教育実施ユニット」への参加と「単位互換協定書」の締結について（専攻科長）
- 3 学生の授業態度の改善について（校長）

報告事項

- 1 ホームページの充実について（広報・図書委員会委員長）
- 2 電子ジャーナルSDの経費について（広報・図書委員会委員長）
- 3 読書感想文コンクールについて（広報・図書委員会委員長）
- 4 出席及び登校状況について（校長）
- 5 公開授業の報告について（教務主事）
- 6 女子寮入寮説明会及び寮生保護者連絡会報告について（寮務主事）
- 7 女子寮の運用について（案）（寮務主事）
- 8 第14回プロコン視察報告について（学生主事）
- 9 平成15年度理工系教育高度化設備費の配分について（事務部長）
- 10 NHK文化セミナーin新居浜高専（仮）について（庶務課長）
- 11 旅行命令及び旅費支給要項の一部改正について（庶務課長）
- 12 委員会報告

第8回（12月10日）

協議事項

- 1 新居浜工業高等専門学校学寮管理運営規則の一部改正について（学生課長）
- 2 校長裁量経費（追加公募）募集要項について（校長）
- 3 HR教室増設について（校長）
- 4 学生の授業受講態度の改善について（校長）

報告事項

- 1 平成16年度学校運営体制について（校長）
- 2 平成15年度国専協第2回総会について（校長）
- 3 平成15年度第2回国専協四国地区会議について（校長）
- 4 平成15年度事務部長協議会秋季総会について（事務部長）
- 5 新居浜高専教育フォーラム2003について（教務主事）
- 6 サイエンス・パートナーシップ・プログラム実施報告について（教務主事）
- 7 平成15年度新居浜市高等学校協議会第3回生徒指導主事会報告について（学生主事）
- 8 平成15年度全国専攻科実務者会議について（専攻科長）
- 9 施設予約システムの運用について（庶務課長）
- 10 新居浜工業高等専門学校紀要特定論文審査取扱い内規（案）について（庶務課長）

- 11 「四国6高専産学官交流会 in Niihama」の開催について  
(高度技術教育研究センター長)
- 12 カウンセリングに関する講演会の実施について(学生相談室長)
- 13 委員会等報告

第9回(1月14日)

協議事項

- 1 本科のカリキュラム変更について(教務主事)
- 2 校長裁量経費(追加公募分)の要求事項の採択について(校長)
- 3 学生の学習・進路の意識に関する課題について(校長)

報告事項

- 1 平成16年度本科入学者選抜検査実施要項について(教務主事)
- 2 新居浜工業高等専門学校の中期目標・中期計画(案)について(校長)
- 3 学生の進路意識等調査の結果について(校長)
- 4 平成16年度予算について(会計課長)
- 5 「NHKデジタル塾in新居浜高専」の実施について(庶務課長)
- 6 「マレーシア留学生の会」との交流会報告について(学生主事)
- 7 女子寮入寮について(寮務主事)
- 8 図書館の利用状況について(広報・図書委員会委員長)
- 9 委員会報告

第10回(2月12日)

協議事項

- 1 法人化対応のための学校運営の措置に関する基本方針案について(校長)
- 2 HR増設に関する計画の一部変更について(校長)
- 3 平成16年度学校行事予定表について(教務主事)
- 4 私費外国人留学生選抜検査実施要項(案)について(教務主事)

報告事項

- 1 平成15年度教官業績評価の実施について(校長)
- 2 法人化の準備のための今後の日程について(校長)
- 3 国立高等専門学校事務部長協議会臨時総会について(事務部長)
- 4 平成15年度外部評価委員会の開催について(教務主事)
- 5 新居浜工業高等専門学校取引金融機関選定委員会規程の制定について(会計課長)
- 6 平成15年度学位取得記念学術講演会の実施について(庶務課長)
- 7 休憩時間(2-3時間目)外出者調べについて(学生主事)
- 8 欠課数・皆勤者数の推移(H15年度)について(校長)
- 9 高専生のための教養書百選(第一次リスト)について(校長)
- 10 平成16年春期特別残寮について(寮務主事)
- 11 新居浜高専工業技術懇談会の開催について(高度技術教育研究センター長)
- 12 委員会報告

第11回(2月25日)

協議事項

- 1 法人化対応のための学校運営の措置に関する基本方針について(校長)
- 2 本科卒業要件の改正について(教務主事)
- 3 本科及び専攻科カリキュラム変更に伴う学則の一部改正について  
(教務主事、専攻科長)

#### 報告事項

- 1 平成15年度国専協校長懇談会について(校長)
- 2 平成16年度の校内清掃活動について(環境保全委員会委員長)
- 3 平成15年度四国地区高等専門学校学生主事会議について(学生主事)
- 4 平成15年度「学校運営目標」及び「教育改善推進計画」の実施状況について(校長)
- 5 学校運営計画関係の今後のスケジュールについて(校長)
- 6 第1回新居浜高専教育力向上講座(教育講演会)の開催について(専攻科長)
- 7 委員会報告

#### 第12回(3月10日)

##### 協議事項

- 1 平成17年度専攻科学生募集要項について(専攻科長)
- 2 高等教育IT活用推進事業に係る遠隔教育による単位互換協定の締結について(専攻科長)
- 3 本科卒業要件の改正について(追加・修正分)(教務主事)
- 4 平成16年度授業時間割表について(教務主事)
- 5 茶髪、ピアス及びアルバイトに関する新指導方針について(学生主事)

##### 報告事項

- 1 平成15年度第3回国専協四国地区会議について(校長)
- 2 平成16年度運営会議及び教員会開催予定日について(庶務課長)
- 3 総務、文化、体育局細則の一部改正について(学生主事)
- 4 教育業績等評価実施要綱の一部改正について(庶務課長)
- 5 英語実力養成講座の開講について(教務主事)
- 6 委員会報告

#### 臨時運営会議

#### 第1回(8月25日)

##### 協議事項

- 1 平成15年度国立高専教員顕彰候補者の決定について(校長)
- 2 校長裁量経費の要求事項の採択について(校長)
- 3 教官研究費保留額の配分について(校長)
- 4 平成16年度本科学生募集要項について(教務主事)

##### 報告事項

- 1 女子寮の名称について(寮務主事)
- 2 職員証(名札)の着用について(庶務課長)
- 3 プロコン大会の準備体制について(学生主事)
- 4 セクシュアル・ハラスメントの防止について(校長)

#### 第2回(9月16日)

##### 協議事項

- 1 J A B E E に対する本校の方針について(校長)
- 2 専攻科のカリキュラム変更に伴う学則の一部改正について(専攻科長)

#### 第3回(3月22日)

##### 協議事項

- 1 平成16年度学校運営重点推進目標について(校長)
- 2 J A B E E に対する本校の方針について(J A B E E 推進室長)

- 3 平成17年度専攻科学生募集要項の日程等について（専攻科長）
- 4 本科履修要覧について（教務主事）
- 5 新居浜工業高等専門学校学則の一部改正等について（庶務課長）

報告事項

- 1 新居浜工業高等専門学校に勤務する職員の勤務時間に関する規程の廃止等について（庶務課長）
- 2 「平成15年度学校運営目標」の実施状況について（学校改革推進室長）
- 3 平成15年度教育改善推進計画の実施状況について（学校改革推進室長）
- 4 材料工学科の魅力再生について（学校改革推進室長）
- 5 教育研究支援体制ワーキング実施要項案について（学校改革推進室長）
- 6 J A B E E（融合複合・新領域）プログラム公開資料について（JABEE推進チームリーダー）
- 7 国立高等専門学校事務部長協議会臨時総会について（事務部長）
- 8 委員会報告

**【教務委員会】**

- 1 メンバー
  - 委員長（教務主事 桑田茂樹）
  - 教務主事補（深山幸穂、新田敦己、森長 新）
  - 学生課長（山本一仁）
  - 各科選出委員（金沢克明、稲見和生、勝浦 創、西谷郁夫）
- 2 委員会開催回数 22回（内メール会議1回）
- 3 開催日及び主な議題
  - 第1回（4月4日）
    - 1 平成15年度教務委員会の運営方針について
    - 2 入学式・新入生研修について
    - 3 オフィスアワーの試行について
    - 4 実力試験の実施について
    - 5 1年生大洲合宿研修について
    - 6 総合基礎演習の未修得学生への対応について
  - 第2回（4月15日）
    - 1 1年生大洲合宿研修について
    - 2 オフィスアワーのアンケート調査結果の報告（各科・各学科）
    - 3 夏季体験学習・体験講座・（学校見学会）のWGの結成について
    - 4 インターンシップ（WGの結成）について
    - 5 実力試験の実施報告と今後のあり方について
    - 6 ショートホーム（8：30にチャイムを鳴らす）について
    - 7 中学校訪問（3月）の報告
    - 8 高専訪問の報告
  - 第3回（5月6日）
    - 1 1年生大洲合宿研修について
    - 2 インターンシップについて
    - 3 夏季体験学習・体験講座・（学校見学会）について
    - 4 公開授業の実施方法について
    - 5 中学生に対するPR効果の調査

- 6 入学式・新入生研修の問題点・改善点について
- 7 「環境と人間」、「技術者倫理」、「経営工学」について
- 8 実力試験のあり方について

第4回（5月20日）

- 1 特別活動の予定表作成について
- 2 公開授業の実施方法について
- 3 平成16年度編入学試験実施要項について
- 4 1年生に対する入試アンケートの実施について（アンケート案）
- 5 入学式・新入生研修の問題点・改善点について（来年度実施方針）
- 6 「環境と人間」、「技術者倫理」、「経営工学」のシラバスについて
- 7 実力試験のあり方について
- 8 習熟度別授業の試行方法について
- 9 90分授業の導入について
- 10 休学条件について（3ヶ月の問題）
- 11 映写システムの利用状況について

第5回（6月4日）

- 1 平成16年度編入学試験実施要項について
- 2 学校説明会の日程について（9/6）
- 3 定期試験（学年末試験を除く）欠点者への科目担当者からのアドバイス（課題を含む）方法について
- 4 授業支援移動映写システムの利用状況と改善について
- 5 学生向け講演会の実施について（環境問題、新居浜の歴史）
- 6 中学校訪問、学校説明会について（各科・各学科への協力依頼）
- 7 1年生へのアンケート結果について
- 8 TAの実施方法について
- 9 特別活動の予定表作成について
- 10 平成15年度公開授業試行実施要領について

第6回（6月17日）

- 1 大洲合宿研修の反省会と来年度の方針
- 2 新入生アンケートの解析とまとめ
- 3 特別活動の予定表作成について
- 4 在校生の母校（中学校、高校）への現状報告について
- 5 入試データの解析結果について
- 6 校長裁量経費の予算申請について

第7回（7月1日）

- 1 7月の半日授業について
- 2 追認試験の実施時期・成績締め切り日について
- 3 オフィスアワーの状況調査結果について
- 4 「環境と人間」、「技術者倫理」、「経営工学」の開講方法について
- 5 90分授業の導入について

第8回（7月15日）

- 1 平成16年度本科入学生の募集要項と実施要項について
- 2 学外者の授業等の見学について
- 3 中学校訪問の担当・スケジュールについて

- 4 実力試験の改善について 英語の全学統一試験
- 5 夏季体験学習、校内見学会について（進捗状況）
- 6 インターンシップ講演会の報告
- 7 教室のエアコン使用について
- 8 TAの進捗状況

第9回（9月2日）

- 1 学校見学会について
- 2 TAの実施について
- 3 9月特別活動（1, 2年生、専門学科担当）の実施方法について
- 4 保護者向け公開授業の実施方法（案内状を含む）について
- 5 平成16年度編入学の2次募集について
- 6 教官便覧の中の「学級担任の業務（手引き）」部分の充実について
- 7 2年5組と5Zのホームルーム移動について
- 8 教務関係業務の今後のスケジュールについて（時間割、授業科目変更など）

第10回（9月16日）

- 1 学生の授業・勉学アンケートの実施方法について
- 2 防火訓練（11/7）に伴う授業振替について
- 3 講演会（10/17、1年生）に伴う授業振替について
- 4 平成16年度編入学の2次募集（12/14）について
- 5 教官便覧の中の「学級担任の業務（手引き）」部分の充実について
- 6 プロジェクター（校長裁量経費）1台の使用方法について
- 7 数学検定の合格者の単位認定について
- 8 来年度の時間割作成にあたって（解決しておく問題点について）

第11回（10月7日）

- 1 長岡技大の単位互換（認定）方法について
- 2 保護者向け公開授業の実施方法（当日の役割分担等）について
- 3 後期始業日の清掃分担について
- 4 教室の学生使用方法について（時間帯、開錠・施錠方法）
- 5 10/17の太鼓台集合（高専西道路）に伴う対応について
- 6 平成16年度時間割作成、年間スケジュールの作成方針について
- 7 平成16年度カリキュラム変更について
- 8 TOEIC I P試験の単位認定について

第12回（10月21日）

- 1 実力試験の実施方法について
- 2 課題演習2の統一について
- 3 カリキュラムの変更について
- 4 機械工学科棟の製図室の使用方法について
- 5 環境と人間・経営工学・技術者倫理の各科の対応について
- 6 朝のショートホームルームの実施について

第13回（11月4日）

- 1 英語の統一試験について
- 2 インターンシップ反省会の報告
- 3 保護者のための公開授業の実施報告（アンケート結果）

第14回（11月18日）



- 1 5年生の3科目（環境と人間、技術者倫理、経営工学）の授業形態について
- 2 平成16年度時間割作成の基本方針について
- 3 ショートホームルームの実施方法について（継続審議）
- 4 10月17日（太鼓台）授業の実施に関する問題点（来年度以降の対応）
- 5 「教官便覧」、「はばたけ未来へ」などの見直し方法について

第15回（12月2日）

- 1 カリキュラム変更について（生物応用化学科）
- 2 継続的な治療のための欠課時間数の緩和について
- 3 進路変更希望学生に対する指導方法について
- 4 平成16年度時間割作成の基本方針について
- 5 平成16年度年間行事予定表の作成方針について

第16回（12月16日）

- 1 平成16年度入学者選抜実施要項について
- 2 体験学習WGの総括（報告）
- 3 学校説明会（中学校）の説明方法の改善について
- 4 「ものづくり教育推進経費」の予算執行方法について

第17回（1月13日）

- 1 平成16年度推薦入試の実施方法について
- 2 電気情報工学科、電子制御工学科のカリキュラム変更について
- 3 平成16年度年間行事予定表（案）について
- 4 学生アンケートの結果について
- 5 私費留学生の受入方法について

第18回（1月27日）

- 1 平成16年度年間行事予定表（案）について
- 2 平成16年度推薦入試の口頭試問（英語・数学・専門）の問題について
- 3 「技術者倫理」「経営工学」「環境と人間」の講義形態等について
- 4 「高専だより」の教務関係の原稿について
- 5 学生の欠課時数の取り扱いについて（3Dの学生）
- 6 科目名変更について（応用数学Sとその他の科目）
- 7 本科履修要覧の見直し（修正）について

第19回（2月17日）

- 1 平成16年度カリキュラムの変更（追加分）について
- 2 平成16年度新入生研修、前期始業日の行事予定等について
- 3 四国6高専の共通試験の実施について
- 4 平成15年度ティーチングアシスタント（TA）の実施報告

第20回（3月2日）

- 1 卒業要件（選択必修科目の設定）について
- 2 平成16年度授業時間割の確認について
- 3 平成16年度シラバスの掲載項目、レイアウト等について
- 4 平成16年度本科履修要覧について
- 5 入学説明会について

第21回（3月16日）

- 1 平成16年度本科履修要覧について
- 2 カリキュラム変更に伴う読み替え科目等の設定について

- 3 中学校訪問（入試結果、PR、新入生の情報等）について
  - 4 教官便覧の見直しについて
- 第1回メール会議（2月20日）
- 1 科目名変更（応用数学S）について
  - 2 前回のカリキュラム変更について

### 【学生委員会】

- 1 メンバー 委員長(学生主事 檀上光昭)  
学生主事補(松村弘志、三井 正)  
学生課長(山本一仁)  
各科選出委員(石井重典、香川福有、西井靖博、朝日太郎、今城英二)
- 2 委員会開催回数 20回(定例)、5回(臨時)
- 3 開催日及び主な議題
  - 第1回(4月4日)
    - 1 新年度運営方針について
    - 2 入学式の手伝いについて
    - 3 新居浜市高等学校協議会生徒指導主事会報告
    - 4 プログラムコンテストについて
    - 5 防犯、交通マナー、禁煙ポスターについて
    - 6 各種担当者の決定
    - 7 始業式の表彰者の検討
    - 8 ICカード運用規定(案)について
    - 9 学生委員会開催日について
  - 第2回(4月22日)
    - 1 懲罰委員会の廃止について学科意見の収集
    - 2 クラブ活動顧問話し合いについて
    - 3 企業説明会アンケート見直し配布(学生・教官向け)
    - 4 各種担当者の決定
    - 5 校内外巡回および車両指導巡回の当番
    - 6 車両指導巡回の記録・基準と適用
    - 7 登校指導当番
    - 8 新居浜駅指導および車両指導報告
    - 9 2004'プロコン会場の検討報告
    - 10 企業説明会(4.18)の反省
  - 第3回(5月13日)
    - 1 日本育英会奨学生の選考
    - 2 授業料免除
    - 3 喫煙学生について
    - 4 窃盗学生について
    - 5 学生団体結成願について
    - 6 チャレンジプロジェクトについて
    - 7 全教官での巡回について
    - 8 車両警告書の文書の見直し
  - 第4回(5月27日)

- 1 喫煙学生の処分について
- 2 教官見回り当番について
- 3 総務、文化、体育局細則（案）の検討
- 4 学生への生活習慣およびアルバイトのアンケート作成
- 5 許可車両の認定方法
- 6 チャレンジプロジェクト募集要項
- 7 校内外巡回の報告
- 8 登校指導の実施時期
- 9 新居浜市高等学校協議会第1回生徒指導主事会の報告
- 10 学生大会、クラスマッチの反省
- 11 車両違反者について

第5回（6月10日）

- 1 巡回指導の重点場所、時間について
- 2 チャレンジプロジェクト募集要項の修正案について
- 3 車両警告書の文書の見直し
- 4 学生会細則（愛好会の認定基準）の検討および部活動等について
- 5 学生への生活習慣およびアルバイトのアンケート（案）について
- 6 許可車両の認定方法
- 7 車両指導および登校指導について
- 8 車両関係報告
- 9 企業説明会の実施時期について
- 10 処分学生の経過報告

第6回（6月24日）

- 1 万引きの指導
- 2 一般教室棟のカギ施錠申し入れについて
- 3 2輪交通安全講習会（6.21）の反省
- 4 学生への生活習慣およびアルバイトのアンケート修正・追加
- 5 登下校以外・休日での車の学生乗り入れ禁止通達
- 6 応援団の参加範囲
- 7 学生生活およびアルバイトのアンケート案
- 8 総務、文化、体育局細則（案）
- 9 学生会への要望伝達
- 10 チャレンジプロジェクトへの参加

第7回（7月8日）

- 1 クラブ顧問会の設置について
- 2 学生へのアンケートについて
- 3 高校野球の応援について
- 4 総体激励会について
- 5 懲戒委員会の廃止について
- 6 各種文書の見直しについて
- 7 課外活動状況について
- 8 チャレンジプロジェクトについて
- 9 車両関係報告
- 10 不審者への対策について

- 11 「出会い系サイト」について
- 12 「全国高校生小論文コンテスト」作品募集について
- 13 「非行防止強調月間」について

第8回（7月22日）

- 1 学生生活およびアルバイトのアンケート案
- 2 クラブ顧問会（案）
- 3 車両違反学生の処分方法について
- 4 苦情報告2件
- 5 チャレンジプロジェクトの予算の使い方
- 6 高校野球および総体の報告

第9回（9月9日）

- 1 無免許運転について
- 2 苦情電話について
- 3 プロコンのキャッチフレーズとポスターの募集について
- 4 第2回生徒指導主事会の報告
- 5 就職活動について
- 6 車両指導體制について
- 7 学生便覧の見直し
- 8 交通安全講習会の見直し
- 9 巡回当番について
- 10 来年度3年生合宿研修

第10回（9月30日）

- 1 四国地区体育大会についての反省
- 2 喫煙学生の処分
- 3 学生表彰について
- 4 クラブのホームページ作成
- 5 丸刈りおよび漫画没収事件について
- 6 車両巡回マニュアル
- 7 学校周辺の巡回

第11回（10月14日）

- 1 西条祭りの補導について
- 2 全国高専学生交流会について
- 3 車両指導について
- 4 国領祭の指導體制について
- 5 国領祭でのクラブ活動の活動状況展示について

第12回（10月28日）

- 1 喫煙学生の処分
- 2 国領祭の個人委託販売について
- 3 来年度3年生合宿研修
- 4 学生便覧の見直し
- 5 平成16年度 就職活動の手引き
- 6 国領祭の関連事項

第13回（11月11日）

- 1 日本育英会奨学生緊急採用

- 2 暴力事件について
- 3 来年度3年生合宿研修について
- 4 臨時見回り体制について
- 5 公開授業についての保護者の意見
- 6 企業説明会について

第14回(11月25日)

- 1 落書きの調査依頼
- 2 マレーシア全高専留学生の年末会合の合宿所使用
- 3 来年度3年生合宿研修
- 4 学生の暴言と北門・西門の開閉
- 5 暴力事件
- 6 巡回指導
- 7 盗難事件について
- 8 不審者の侵入と喫煙
- 9 第3回新居浜市生徒指導主事会
- 10 車両指導
- 11 企業説明会について

第15回(12月9日)

- 1 学生指導を問う
- 2 中学校・高等学校生徒指導主事連絡協議会
- 3 夜間の体育施設の利用方法について
- 4 トレーニングマシンの設置場所について
- 5 薬物乱用防止西条地区大会
- 6 平成16年度行事予定
- 7 企業説明会実施計画

第16回(1月20日)

- 1 学生処分(喫煙)
- 2 チャレンジプロジェクト活動費要求
- 3 マレーシア全高専留学生の年末会合と合宿所体育館使用
- 4 部活動等ホームページ掲載基準(案)
- 5 ロッカー室の取り扱い
- 6 学生表彰
- 7 企業説明会
- 8 冬季体育大会
- 9 校門指導
- 10 来年度健康診断について
- 11 盗難事件報告
- 12 車両指導への暴言
- 13 全国高専弓道大会の案内

第17回(2月5日)

- 1 喫煙学生について
- 2 定期学生大会について
- 3 チャレンジプロジェクトの報告会について
- 4 ロッカー室の掃除について

5 2-3時限目休憩時間の外出者について

6 外部の方の駐車等について

第18回(2月10日)

1 女子ロッカー室、男子ロッカー室の清掃

2 愛好会、部活活動報告および会計報告について

3 校内外巡回指導

第19回(3月2日)

1 学生処分について

2 愛好会の結成について

3 学生表彰について

4 卒業式における学生委員の用務

5 茶髪、アルバイトの取り扱いについて

6 交通事故処分の基準の作成について

7 クラブ顧問の年度内委嘱について

8 新年度の学生便覧について

9 平成15年度四国地区高等専門学校学生主事会議について

10 平成16年度始業日行事について

第20回(3月16日)

1 校内車両規定違反処分決定の変更

2 茶髪・ピアスの指導方針

3 アルバイトの指導方針

4 卒業生表彰学生

5 生活アルバイトアンケート

6 交通違反・事故処分の規定

7 今年度の反省

臨時学生委員会

第1回(4月15日)

1 入学料免除について

2 企業説明会について

3 入学式、始業式行事の反省

第2回(4月30日)

1 喫煙学生の処分方法

2 自転車盗難騒動について

第3回(6月3日)

1 万引き学生の処分について

2 窃盗学生の停学明け指導担当者について

第4回(6月13日)

1 カンニング学生の処分について

2 万引き学生の処分について

3 二輪車安全講習会について

第5回(8月29日)

1 バイク無免許運転者の処分について

2 9月からの車両指導について

## 【寮務委員会】

- 1 メンバー 委員長（寮務主事 谷口佳文）  
寮務主事補（塚野修 柴田亮）  
寮監（多田博範）  
学生課長（山本一仁）  
各科選出委員（宮田剛 横山隆志 占部弘治 堤主計 日野孝紀）
- 2 委員会開催回数 23回
- 3 開催日及び主な議題
  - 第1回（4月4日）
    - 1 平成15年度の目標・計画
    - 2 4月の学寮関係諸行事の予定について
  - 第2回（4月22日）
    - 1 前期寮生大会について
    - 2 5月の学寮関係諸行事の予定について
    - 3 寮内外大掃除について
    - 4 学寮ネットワークに関する運用規定について
    - 5 入退寮希望者について
  - 第3回（5月6日）
    - 1 寮マッチについて
    - 2 野外活動について
    - 3 大掃除について
    - 4 自転車の整理について
    - 5 学寮ネットワークについて
  - 第4回（5月20日）
    - 1 寮マッチ、野外活動、寮内外大掃除の反省について
    - 2 平成15年度応急措置の実技指導と学寮防火避難訓練について
    - 3 6月の行事予定について
    - 4 盗難事件について
    - 5 学寮ネットワーク使用について
    - 6 学校案内（学寮）について
  - 第5回（6月3日）
    - 1 1年生部屋替えについて
    - 2 寮祭について
    - 3 寮生会からの提案事項
    - 4 学寮のホームページについて
    - 5 網戸の修理について
  - 第6回（6月17日）
    - 1 夏季休業中の特別残寮
    - 2 校長裁量経費の要求について
    - 3 7月の行事予定について
    - 4 女子寮概要資料
    - 5 女子寮名称の公募について
  - 第7回（7月1日）
    - 1 夏季休業中の特別残寮について

- 2 寮関係ホームページについて
  - 3 居室等の補修等について
  - 4 女子寮の設備について
  - 5 リーダー研修について
  - 6 寮生の生活状況について
- 第8回（7月15日）
- 1 夏季特別残寮について
  - 2 女子寮について
  - 3 寮生の指導方法について
  - 4 夏季学寮リーダ研修について
- 第9回（8月26日）
- 1 9月の行事予定について
  - 2 平成15年度夏季リーダ研修について
  - 3 女子寮名称について
  - 4 平成15年度夏季特別残寮について
- 第10回（9月2日）
- 1 本年度の学寮運営目標の進捗状況について
  - 2 学校見学会について
- 第11回（9月16日）
- 1 女子寮運営のための検討事項
  - 2 保護者アンケートについて
  - 3 10月の行事予定について
- 第12回（10月7日）
- 1 女子寮説明会、保護者懇談会について
  - 2 寮内LANについて
  - 3 2、3年生部屋替について
  - 4 ゴミ回収について
  - 5 雄風北寮の床の張替について
  - 6 物品の紛失について
- 第13回（10月21日）
- 1 女子寮説明会について
  - 2 保護者連絡会について
  - 3 11月の行事予定
- 第14回（11月4日）
- 1 「水飲み・洗口・手洗い・足洗い場の定期記録簿」について
  - 2 ゴミの回収について
  - 3 1年生部屋替え（2回目）について
  - 4 寮行事について
- 第15回（11月19日）
- 1 寮行事について
  - 2 低学年寮生の自転車置場について
  - 3 1年生の部屋替えについて
  - 4 12月の行事予定について
- 第16回（12月2日）



- 1 雄風北寮の居室の床の張り替えについて
  - 2 盗難事件等について
  - 3 麻雀事件について
  - 4 雄風北寮への侵入者について
  - 5 高学年の日課について
  - 6 寮生の駐輪場について
  - 7 学寮運営規則について
- 第17回（12月16日）
- 1 高学年の日課について
  - 2 女子寮の入寮について
  - 3 解散式について
  - 4 1月の行事予定
  - 5 2年生寮の床張替えに伴う作業日程について
  - 6 校長裁量経費（追加）について
- 第18回（1月13日）
- 1 高学年の日課（点呼）について
  - 2 低学年寮の終夜灯（休日前）について
  - 3 寮マッチについて
- 第19回（1月27日）
- 1 年度末・春季休業中特別残寮について
  - 2 清風寮オープンセレモニー
  - 3 女子寮生部屋
  - 4 寮生の授業欠席について
- 第20回（2月3日）
- 1 特別残寮について
  - 2 学寮指導学生リーダー研修について
  - 3 寮生の募集について
  - 4 高学年点呼方法の変更について
  - 5 学寮継続願について
  - 6 寮生会役員による風紀指導の報告
- 第21回（2月17日）
- 1 平成16年度行事予定について
  - 2 女子寮の部屋替えについて
  - 3 春季特別残寮について
  - 4 寮生負担経費について
- 第22回（3月2日）
- 1 部屋替えについて
  - 2 「寮生活のしおり」について
- 第23回（3月23日）
- 1 リーダー研修について
  - 2 学寮運営目標の実施状況について

#### 【専攻科教育委員会】

- 1 メンバー 委員長（専攻科長 中川克彦）

専攻主任（池内保一、馬淵真人）  
学生課長（山本一仁）  
各科選出委員（吉川貴士、井門英司、深山幸穂、衣笠 巧、高橋知司、  
柳井 忠、谷本修治）

2 委員会開催回数 25回

3 開催日及び主な議題

第1回（4月8日）

- 1 平成15年度の運営方針について
- 2 専攻科のPRパンフレットの改訂について
- 3 専攻科関連科目のシラバスを本校ホームページへ掲載について
- 4 平成15年度の仮専攻科履修要覧について
- 5 始業式後に実施する専攻科1年生および2年生への科目履修、連絡事項などのガイダンスについて
- 6 専攻科始業式の進行について
- 7 専攻科の授業時間数について

第2回（4月22日）

- 1 他機関より入学した学生の学力確認制度について
- 2 後期中間試験中の曜日振り替えによる授業時間の調整について
- 3 専攻科の平成14年度自己点検報告書のまとめについて
- 4 専攻科の募集要項について
- 5 その他
  - （1）専攻科パンフレットについて
  - （2）専攻科募集用ポスターの印刷について
  - （3）専攻科学生の学会活動の発表状況
  - （4）専攻科生の学習等達成度記録簿
  - （5）ミーティングアワーの運営
  - （6）専攻科棟掲示板の増設とミーティングルームの設営
  - （7）専攻科交流会
  - （8）TOEIC模擬試験の実施

第3回（5月6日）

- 1 専攻科募集要項の変更
- 2 専攻科入試の合否判定基準について
- 3 勉学アンケートについて

第4回（5月13日）

- 1 中四国地区専攻科生交流会について
- 2 平成14年度自己点検報告書について
- 3 学校案内について
- 4 中長期計画について

第5回（5月27日）

- 1 専攻科へ他機関から入学してくる学生に対する支援について
- 2 専攻科教育委員会の活動内容について
- 3 その他
  - （1）入試問題作成，面接の採点について
  - （2）専攻科特別講義のシラバスについて

- (3) TOEIC IP試験の実施について
- (4) ホームページの見直しについて
- (5) 10月17日に材料科学会の講演会の本校開催について

第6回(6月17日)

- 1 専攻科推薦入試の反省事項について
- 2 各種検討事項の進捗状況について
- 3 専攻科各コース, 専攻の技術者像について
- 4 SCSの集中講義について

第7回(6月24日)

- 1 科学技術週間の開催について
- 2 大学発起業化助成事業の説明会の開催報告について
- 3 専攻科のカリキュラムの見直しについて
- 4 各種検討事項の進捗状況について

第8回(7月1日)

- 1 校長裁量経費要求について
- 2 検討事項の進捗状況について
- 3 その他
  - (1) 独語の科目名称について
  - (2) 生物応用化学コースの専攻分離について

第9回(9月2日)

- 1 専攻科PRパンフレットの最終原稿の点検について
- 2 生物応用化学専攻分離について
- 3 専攻科科目の科目名変更、単位数の変更について
- 4 H16年度 生産専攻のカリキュラム変更について
- 5 H16年度 電子専攻のカリキュラム変更について
- 6 点検検討部会からのアンケート依頼について
- 7 専攻科2年生が学位授与機構へ提出する書類作成説明会について
- 8 専攻科実務者会議の審議事項について
- 9 専攻科インターンシップの実施報告会について
- 10 その他
  - (1) 新設科目「新居浜工業高等専門学校 ベンチャーマインド養成セミナー」について
  - (2) 新設科目「学外教育実習(案)」について
  - (3) 専攻科、英語科から要求していた、英語学習支援システム(ALC NetAcademy)の採択について
  - (4) 長岡技科大のインターネット授業(e-learning)の後期科目について

第10回(9月30日)

- 1 専攻科学外実習(シニア・インターンシップ)の成績評価について
- 2 TOEIC IPテストの実施について
- 3 学生に対するアンケートについて
- 4 中国・四国地区専攻科生研究交流会について
- 5 その他
  - (1) 生物応用化学専攻分離に伴う学位授与機構への書類提出について
  - (2) JABEE推進に関する学内事情について

- ( 3 ) TOEIC対策 , 英語ソフト導入について
- ( 4 ) e-learning(長岡技大配信)の講義認定について
- ( 5 ) 放送大学の受講指導について
- ( 6 ) 点検検討部会からのアンケート依頼に対する回答について

第 1 1 回 ( 1 0 月 7 日 )

- 1 「新居浜工業高等専門学校 ベンチャーマインド養成セミナー」の概要について
- 2 専攻科棟 1 階の専攻科生談話室について
- 3 専攻科学力 2 次試験実施について
- 4 e-learning協定への参加について

第 1 2 回 ( 1 0 月 1 4 日 )

- 1 専攻科選抜試験アンケートについて
- 2 専攻科パンフレットの活用について
- 3 来年度の専攻科講義担当者について
- 4 専攻科学力 2 次試験などの実施について
- 5 e-learning用の講義選定について

第 1 3 回 ( 1 0 月 2 8 日 )

- 1 専攻科授業アンケートの集計方法について
- 2 専攻科授業の教室に関するアンケートの実施について
- 3 平成16年度の専攻科講義担当者について
- 4 平成16年度専攻科選抜試験アンケート結果に対する改善案について
- 5 専攻科 2 次募集 ( 社会人選抜 ) の実施実施について
- 6 T O E I C I P 試験について
- 7 防災訓練について

第 1 4 回 ( 1 1 月 1 1 日 )

- 1 T O E I C I P 試験実施報告
- 2 集中講義「経営工学」について
- 3 J A B E E 本審査に伴う授業変更について
- 4 来年度の専攻科担当者について
- 5 教育連携単位互換実施計画について
- 6 英語学習支援用ソフトの導入説明会について
- 7 専攻科の修了年限の検討について
- 8 平成16年度専攻科選抜試験アンケート結果に対する改善案について

第 1 5 回 ( 1 1 月 2 5 日 )

- 1 J A B E E 本審査に関する報告
- 2 平成 1 6 年度の専攻科講義担当者について
- 3 運営会議へ提出した教育連携単位互換実施計画の件について
- 4 英語学習支援用ソフトの導入説明会の報告及び今後の計画について
- 5 第 2 回 T O E I C I P 試験の実施報告について
- 6 平成16年度中四国専攻科生研究交流会の準備の進捗について
- 7 学寮保護者連絡会(10月26日)における専攻科生父兄からの意見について

第 1 6 回 ( 1 2 月 2 日 )

- 1 前回 ( 第 1 5 回 ) の会議議事録の訂正について
- 2 平成 1 6 年度の専攻科講義担当者について
- 3 これまで実施したTOEIC IPのデータ解析報告について

- 4 H16年度カリキュラムの変更について
  - 5 平成16年度 専攻科選抜試験についての教官アンケートに対する改善案について
  - 6 高等教育IT活用事業単位互換協定案の改定案について
  - 7 中四国地区高専専攻科生研究交流会の概要について
- 第17回(12月16日)
- 1 教育連携単位互換実施計画について
  - 2 平成16年度 企業説明会の実施時期の変更について
  - 3 四国6高専産学交流会 in Niihama の開催案内について
  - 4 専攻科インターンシップに対する各学科の意見報告について
- 第18回(1月13日)
- 1 専攻科社会人特別選抜2次募集について
  - 2 教育連携単位互換実施計画について
  - 3 平成15年度 中国四国高専専攻科TOEIC IP の実施調査報告について
  - 4 専攻科インターンシップに対する各学科の意見報告について
  - 5 中四国専攻科生研究交流会の進捗について
  - 6 平成17年度専攻科入試の日程について
- 第19回(1月20日)
- 1 専攻科インターンシップに対する各学科の意見報告について
  - 2 「新居浜高専ベンチャーマインド養成セミナー」のフォローアップセミナー開催について
  - 3 中四国専攻科生研究交流会の進捗について
  - 4 JABEE対応に伴うカリキュラムの見直しについて
- 第20回(1月27日)
- 1 平成16年度年間行事予定表に追加掲載する事項について
  - 2 中国四国地区大学高専遠隔授業について
  - 3 中四国専攻科生研究交流会の進捗について
  - 4 平成16年度専攻科科目のシラバスの見直しについて
  - 5 教育連携単位互換実施計画について
- 第21回(2月3日)
- 1 専攻科の勉学アンケート
  - 2 教育連携単位互換実施計画について
  - 3 中国四国地区大学高専遠隔授業
  - 4 企業説明会の実施について
  - 5 専攻科のシラバス作成フォームについて
  - 6 特別研究発表会について
  - 7 専攻科生交流会の進捗について
- 第22回(2月17日)
- 1 専攻科の後期授業アンケート実施について
  - 2 平成15年度第5回JABEE推進室会議(2月10日開催)の専攻科教育委員会に関する審議事項について
  - 3 来年度の講義時間について
  - 4 特別講義1と化学特許概論について
  - 5 来年度の専攻科時間割について
  - 6 専攻科シラバス作成について

- 7 専攻科学力入試における数学・英語の導入について
- 8 専攻科社会人特別選抜試験の出願資格の見直しについて
- 9 特別講義2について
- 10 専攻科ホームページの改定について

第23回(3月2日)

- 1 高等教育IT活用推進事業について
- 2 専攻科シニア・インターンシップの企業・官公庁への依頼について
- 3 中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会の申込み状況について
- 4 専攻科ホームページの改訂について
- 5 専攻科2年生の進路について
- 6 平成17年度新居浜高専専攻科募集要項の作成
- 7 平成16年度専攻科履修要覧の作成
- 8 専攻科学力入試における数学・英語の導入について

第24回(3月9日)

- 1 H17年度募集要項について
- 2 岐阜高専から提案された e-learning 実践モデル事業への参加
- 3 HP進捗状況
- 4 H16年度履修要覧
- 5 学力入試における数学、英語の導入について
- 6 来年度専攻科入学予定者の履修指導(5年生)について
- 7 シラバス入力方法について

第25回(3月23日)

- 1 平成17年度新居浜高専専攻科募集要項について
- 2 数学担当教官との連絡会実施について
- 3 平成16年度専攻科履修要覧の作成について
- 4 専攻科ホームページの改訂について
- 5 専攻科講義科目のシラバス点検について
- 6 今年度の専攻科教育委員会の総括と来年度への提言

**【低学年教育委員会】**

- 1 メンバー 委員長 板野 哲  
副委員長 小山一夫  
委員 深山幸穂 松村弘志 塚野 修 野口正樹 安藤進一 尾崎司郎  
平木弘一 古城克也 岩倉秀樹 野田善弘 木本 伸 新田百合子  
竹田 正 山本一仁

- 2 委員会開催回数 15回

- 3 開催日及び主な議題

第1回(平成15年3月25日)

- 1 1・2年生の通学及び生活指導、健康管理について
- 2 勉学指導について
- 3 学級担任会について

第2回(4月4日)

- 1 ショート・ホームルームについて
- 2 欠席・遅刻について

- 3 清掃について
  - 4 予習・復習、オフィスアワー、アドバイザーについて
  - 5 図書館の利用指導について
- 第3回(4月30日)
- 1 本年度運営目標について
  - 2 ショート・ホームルームの実施状況について
  - 3 専門科目の出欠について
  - 4 図書館利用指導の実施状況について
- 第4回(5月28日)
- 1 専門科目の出欠連絡について
  - 2 特別活動の年間無計画について
  - 3 盗難予防について
  - 4 停学明けの学生指導について
- 第5回(7月2日)
- 1 半日授業後半期の時間の取り扱いについて
  - 2 欠席・遅刻の集計について
  - 3 夏季休業のあり方と宿題について
  - 4 学生の問題点について
  - 5 2年5組の教室について
- 第6回(7月25日)
- 1 夏季休業中の宿題の実施状況について
  - 2 保護者懇談会時の保護者の意見について
- 第7回(8月28日)
- 1 2年5組の教室移動について
  - 2 夏季休業明けの取り組みについて
  - 3 9月の特別活動について
- 第8回(9月25日)
- 1 指導を要する学生について
  - 2 イジメを受けた学生について
  - 3 性教育講座について
  - 4 授業中の教官の入室について
  - 5 各アンケートのあり方について
  - 6 進路変更先の調査について
- 第9回(11月5日)
- 1 進路変更先の開拓について
  - 2 ショート・ホームルームの問題点、実施方法、効果について
  - 3 英語の学内統一試験の実施方法について
  - 4 専門科目の出欠連絡について
- 第10回(12月3日)
- 1 性教育講座の開設について
  - 2 勉学姿勢に問題がある学生について
  - 3 進路変更の指導について
  - 4 盗難事件への取り組みについて
- 第11回(1月7日)

- 1 冬季休業明けの取り組みについて
  - 2 成績不振・問題学生の指導について
- 第12回（1月19日）
- 1 成績不振学生の指導について
  - 2 学年末試験に向けての指導について
- 第13回（2月4日）
- 1 学年末試験に向けての取り組みについて
  - 2 進級判定への取り組みについて
- 第14回（3月20日）
- 1 進級不可学生の状況について
  - 2 進路変更の指導について
- 第15回（3月25日）
- 1 低学年指導の課題について
  - 2 低学年指導の反省について

### 【広報・図書委員会】

- 1 メンバー 小山（委員長・図書館長）、事務部長、庶務課長、学生課長  
谷脇（機械）、井門（電気情報）、白井（電子制御）、西井（生物化学）、  
松英（材料）、柳井（数理）、鴻上（一般）
- 2 委員会開催回数 11回
- 3 開催日及び主な議題
  - 第1回（4月30日）
    - 1 平成14年度決算報告（図書購入費、視聴覚経費、後援会図書充実費）について
    - 2 平成14年度図書・情報委員会の活動について
    - 3 平成15年度広報・図書委員会運営目標・活動計画（案）について
  - 第2回（5月28日）
    - 1 「年間業績報告」の原稿について
    - 2 学生図書委員の活動について
    - 3 学校案内の発行について
    - 4 電子ジャーナルSD（Science Direct）の経費負担について
    - 5 ホームページの掲載記事について
  - 第3回（6月25日）
    - 1 トップページ構成と掲載基準について
    - 2 校長裁量経費要求書について
    - 3 電子ジャーナルSDの経費負担について
    - 4 平成15年度共通図書費使用計画（案）について
    - 5 平成15年度後援会図書充実費使用計画（案）について
    - 6 平成15年度図書館ホームページコンテスト実施要領（案）について
    - 7 平成15年度第1回ブックハンティングについて
    - 8 図書の利用状況について
  - 第4回（8月5日）
    - 1 「新居浜工業高等専門学校ホームページ運用・管理に関する申し合わせ（案）」の再検討について
    - 2 トップページ構成について



- 3 「学校案内」・「はばたけ！未来へ」の検討について
  - 4 電子ジャーナルSDの経費負担検討結果について
  - 5 蔵書点検結果報告について
  - 6 愛媛県大学図書館協議会出席報告について
  - 7 長岡技科大図書館情報シンポジウム出席報告について
  - 8 図書館の利用状況について
  - 9 紀要について
- 第5回（9月30日）
- 1 紀要について
  - 2 ホームページのトップページについて
  - 3 平成16年度電子ジャーナルについて
  - 4 研究者要覧ホームページアップについて
  - 5 「学校案内」・「はばたけ！未来へ」の評価について
- 第6回（10月5日）
- 1 紀要の発行について
- 第7回（10月22日）
- 1 紀要の発行について
  - 2 研究者総覧について
  - 3 「学校案内」・「はばたけ！未来へ」の評価について
- 第8回（11月26日）
- 1 新居浜工業高等専門学校紀要特定論文審査取扱い内規（案）について
  - 2 研究者総覧について
  - 3 学校説明会等における広報について
  - 4 ホームページ英語版の作成について
  - 5 平成15年度第2回ブックハンティング実施報告について
  - 6 図書館整備について
- 第9回（12月24日）
- 1 研究者総覧について2）
  - 2 ホームページ英語版の作成について研究者総覧について
- 第10回（1月28日）
- 1 校報について
  - 2 ホームページ上への研究者総覧設置に伴う各学科・科のホームページの改善について
  - 3 図書館ホームページコンテスト応募作品について
  - 4 「図書館だより」の発行について
  - 5 紀要の進捗状況について
  - 6 平成16年度図書館利用の活性化について
- 第11回（3月2日）
- 1 平成16年度図書館利用の活性化について
  - 2 各学科等のホームページの評価について
  - 3 「新居浜工業高等専門学校図書館規程」及び「新居浜工業高等専門学校図書館校外者利用要項」の一部改正について

**【高度技術教育研究センター運営委員会】**

- 1 メンバー 委員長（センター長 川崎宏一）

副センター長（中山 享）

事務部長（石橋 栄）

各科選出委員（宮田剛、馬淵真人，出口幹雄、朝日太郎、千葉克夫、谷本修治）

2 委員会開催回数 5回

3 開催日及び主な議題

第1回（6月17日）

- 1 平成14年度点検評価最終案及び平成15年度学校運営目標について
- 2 平成14年度センターテーマ報告とセンターテーマ評価基準について
- 3 年間行事予定について

第2回（7月22日）

- 1 センターテーマ評価について
- 2 科学技術特別シンポジウムについて
- 3 科学技術週間パネル展示について

第3回（10月1日）

- 1 共同研究・受託研究の状況について
- 2 四国地区高専地域連携推進会議について
- 3 大学発起業化助成事業について
- 4 予算・校長裁量経費について
- 5 センター機器について

第4回（12月22日）

- 1 四国6高専産学官交流会in Niihama、四国地区高専地域連携推進会議について
- 2 ジュニアアドベンチャーについて
- 3 理工系教育高度化設備費について
- 4 共同研究について

第5回（3月3日）

- 1 平成15年度学校運営目標の実施状況について
- 2 新居浜高専知財研究会の会合実施について
- 3 平成16年度新居浜高専市民講座の企画について
- 4 企業協力会について
- 5 「都市エリア産学官連携促進事業」予算要求について
- 6 専攻科との連携について

#### 【発明委員会】

1 メンバー 委員長（高技センター長 川崎宏一）

高技副センター長（中山 享）

事務部長（石橋 栄）

各科選出委員（宮田剛、馬淵真人，出口幹雄、朝日太郎、千葉克夫、谷本修治）

2 委員会開催回数 2回

3 開催日及び主な議題

第1回（7月22日）

教官の特許出願1件について

第2回（3月3日）

学生の特許出願1件について。

## 【環境保全委員会】

- 1 メンバー 委員長(真鍋昌裕)  
副委員長(谷耕治：Z科委員)  
会計課長、庶務課長、学生課長  
各科選出委員(松田雄二(M科)、井門英司(E科)、出口幹夫(D科)、  
杉本榮佑(C科)、千葉克夫(S科)、野村真理子(G科))
- 2 委員会開催回数 11回
- 3 開催日及び主な議題
  - 第1回(4月25日)
    - 1 委員会の活動指針の確認
    - 2 今年度の活動計画(ゴミ分別、環境衛生検査、防災計画見直し、)
    - 3 学生の環境専門委員会の活動支援について
    - 4 機密文書回収日程
  - 第2回(5月23日)
    - 1 飲料用容器の完全リサイクル(構内売店に返してリサイクルシステムに乗せる)
    - 2 学校環境衛生検査月報告
    - 3 紙、電気年間使用量の報告
  - 第3回(6月25日)
    - 1 防火設備の各科課別実地訓練について
    - 2 エアコン使用に関する省エネ活動について
    - 3 消費電力と気象データとの関係調査システムの構築(校長裁量経費申請)
    - 4 学校衛生検査月報告
    - 5 教職員の環境意識調査実施計画
    - 6 「ノネクタイ、ノージャケット」運動実施の検討
  - 第4回(7月18日)
    - 1 防火設備の各科課別実地訓練の実施計画
    - 2 学校環境衛生検査月報告
    - 3 「ノネクタイ、ノージャケット」運動実施の確認
    - 4 消灯ラベルの貼り付け
    - 5 学生環境専門委員会活動報告
  - 第5回(8月27日)
    - 1 学校衛生検査
    - 2 科課別防火設備実地訓練と緊急時対処マニュアル
    - 3 全校一斉防火訓練準備
    - 4 教職員による校内の清掃活動実施計画
    - 5 学生環境専門委員の活動報告
  - 第6回(9月26日)
    - 1 校内水道水水質検査による異常データ
    - 2 校内一斉防火訓練
    - 3 校内一斉清掃活動
    - 4 教職員の環境意識調査
    - 5 夏季電気使用状況報告
  - 第7回(10月28日)
    - 1 防火訓練実施計画書の作成

- 2 学校環境衛生検査報告
- 3 教職員による環境美化活動
- 4 構内屋外長期放置物の処理
- 5 始業日一斉清掃の反省と今後の対策
- 6 特活時間の環境講座

第8回(11月28日)

- 1 防火訓練の反省
- 2 教職員による環境美化活動について
- 3 学校環境衛生検査報告
- 4 学生環境専門委員会活動報告

第9回(12月19日)

- 1 学生と教職員の協同美化活動
- 2 教職員環境意識調査の準備状況報告
- 3 学校環境衛生検査報告
- 4 学生環境アンケートにおける学生からの質問事項への回答
- 5 学校環境美化宣言の有効活用

第10回(1月23日)

- 1 来年度の校内美化活動の具体策
- 2 学校環境衛生検査報告
- 3 環境専門委員会委員長の学生特別表彰
- 4 学生環境専門委員会活動報告
- 5 プリントインクカートリッジのリサイクル
- 6 特活時間の環境教育報告

第11回(2月19日)

- 1 来年度の校内美化活動
- 2 ペットボトルを缶と瓶から分別
- 3 学校環境衛生検査報告
- 4 機密書類処理日程

**【人権擁護委員会】**

- 1 メンバー 委員長 校長  
委員 事務部長、教務主事、学生主事、寮務主事、庶務課長、会計課長、  
学生課長、学外有識者(林 千代子、高橋胤夫、丹 絹子)
- 2 委員会開催回数 0回

**【健康安全管理及び福利厚生委員会】**

- 1 メンバー 委員長 事務部長  
委員 健康管理者(庶務課長),安全管理者(会計課長),  
健康管理担当者(人事係長),安全管理担当者(施設係長),  
放射線取扱主任者(川崎宏一),  
危害防止主任者(石井重典,杉本榮佑,谷 耕治)
- 2 委員会開催回数 1回
- 3 開催日及び主な議題  
第1回(4月24日)

- 1 平成14年度職員厚生関係行事・決算報告について
- 2 平成15年度職員厚生関係行事計画(案)について
- 3 禁煙対策について
- 4 平成15年度運営目標・活動計画について

### 【人事委員会】

- 1 メンバー 委員長 校長  
委員 事務部長, 教務主事, 専攻科長, 各学科・科主任
- 2 委員会開催回数 9回
- 3 開催日
 

第1回	5月9日	第6回	9月26日
第2回	5月30日	第7回	11月27日
第3回	7月9日	第8回	1月7日
第4回	8月1日	第9回	3月15日
第5回	8月25日		
- 4 主な議題等
  - (1) 教官の任用について
  - (2) 非常勤講師の任用について
  - (3) その他

### 【情報教育センター運営委員会】

- 1 メンバー センター長(水野 豊)  
副センター長(佐藤眞一、栗原義武、勝浦 創)  
教務主事(桑田茂樹)  
専攻科長(中川克彦)  
事務部長(石橋 栄)
- 2 委員会開催回数 2回
- 3 開催日及び主な議題
  - 第1回(4月21日)
    - 1 平成15年度のセンター運営方針と活動計画について
    - 2 運営委員会の開催予定について
  - 第2回(3月5日)
    - 1 今年度の活動状況の点検評価
    - 2 予算執行計画の確定について

### 【情報教育センター 情報教育推進部門】

- 1 メンバー 部門長(情報教育センター副センター長 勝浦創)  
専攻主任(馬淵真人)  
教務主事補(新田敦己)  
学務専門職員(高橋宏)  
各科選出委員(宮田剛、大村泰、栗原義武、西井靖博、松英達也、  
川崎宏一、鴻上政明)
- 2 委員会開催回数 9回
- 3 開催日及び主な議題

第1回(5月7日)

- 1 定例会議の日程について
- 2 ICカードによる電子計算機室等の管理について
- 3 平成15年度情報教育センター年間計画について

第2回(6月4日)

- 1 ICカード運用案について
- 2 各グループからの活動報告
- 3 中国・四国地区国立大学間共同授業について

第3回(7月2日)

- 1 IT機器アンケートについて
- 2 ICカードキーについて
- 3 予算計画について
- 4 各グループからの活動報告
- 5 その他
  1. 中国・四国地区国立大学間共同授業について
  2. IT活用推進事業全体会議について
  3. 情報教育センターニュースについて

第4回(9月3日)

- 1 SCS利用促進について
- 2 豊橋技術科学大学での研修報告
- 3 各グループからの活動報告
- 4 その他
  1. ICカードでのIT施設利用可能時間について
  2. ALCNetAcademyについて
  3. 国際シンポジウムの参加募集について

第5回(9月24日)

- 1 教育連携単位互換実施計画(案)について
- 2 ICカードキーの修理報告について
- 3 MATLABについて
- 4 各グループからの活動報告
- 5 その他
  1. ファイアウォールの設定終了について
  2. MS社のネットミーティングについて
  3. 会議室におけるLAN回線のしようについて
  4. 校内各所へのパソコンの配置について
  5. SCS受信の学外への公開について
  6. SCSにおける「衛星設計コンテスト」の受信について

第6回(11月5日)

- 1 NHK文化セミナーin新浜高専(仮称)について
- 2 各グループからの活動報告

第7回(12月3日)

- 1 会議室予約システムについて
- 2 電気計算機室第二演習室の利用マナー向上について
- 3 高専コンソーシアムについて

- 4 各グループからの活動報告
- 5 その他
  - 1 . 長岡技術科学大学のE-learningについて

第8回(2月4日)

- 1 eラーニング総合活用高等教育連携事業(仮称)について
- 2 高専IT教育コンソーシアムについて
- 3 電子計算機室第二演習室の利用マナーについて
- 4 各グループからの活動報告

第9回(3月3日)

- 1 第6回高等教育IT活用推進事業全体会議について
- 2 高専IT教育コンソーシアムについて
- 3 各グループからの活動報告
- 4 その他
  - 1 . SCS利用について
  - 2 . 学生のICカード利用について
  - 3 . 学生のICカードの返却について

**【情報教育センター 事務処理システム推進部門】**

- 1 メンバー 部門長(情報教育センター副センター長 佐藤真一)  
           庶務課長(林 興一)  
           会計課長(浜崎慶一)  
           学生課長(山本一仁)
- 2 委員会開催回数 2回
- 3 開催日及び主な議題
 

第1回(6月5日)

  - 1 会議室予約システムについて
  - 2 高専教務事務システムについて
  - 3 事務処理システム推進に向けての今後の取組について
  - 4 事務処理システム推進部門委員会の開催予定について

第2回(11月20日)

  - 1 施設予約システムについて
  - 2 独立行政法人化に伴う財務会計システムについて

**【情報教育センター ネットワーク運用管理部門】**

- 1 メンバー 部門長(情報教育センター副センター長 栗原義武)  
           庶務課専門職員(柳瀬志郎)  
           指定委員(宮田 剛、横山隆志、占部弘治)  
           技官(辻久 巳)
- 2 委員会開催回数 適宜、電子メールによる連絡
- 3 開催日及び主な議題
 

4月活動内容

校内配属等の異動に伴う電子メールエイリアス設定変更(全学)

新委員会の電子メールエイリアス作成(当該委員会)

eラーニングの受講の支障に対する検討開始

## 5月活動内容

図書館閲覧システムの設定変更(9日)

eラーニング受講のためのネットワークに関する技術的検討のための打ち合せ(30日)

学寮ネットワーク利用者講習会(寮務委員会)

NNCT.JP ドメイン更新

## 6月活動内容

ICカード運用ルール打ち合せ(2日 情報教育推進部門、学生課)

ICカード導入に伴う学生講習会(19,20日 情報教育推進部門、情報セキュリティ部門)

## 7月活動内容

MS Windows95以前のサポート終了に関する検討(情報セキュリティ委員会)

新居浜高専トップページ改善検討(11日 広報図書委員会)

## 8月活動内容

学内導入ウィルスチェックソフトのライセンス更新のための調査

女子寮改修に伴うネットワーク検討

ワーム感染への対応(情報セキュリティ委員会)

## 9月活動内容

一般教養科教官室移動によるネットワーク設定変更(11日)

ワーム感染への対応(17日頃 情報セキュリティ委員会)

eラーニング受講のためネットワーク設定変更(29日)

## 10月活動内容

新居浜高専新トップページ原案作成(2日 広報図書委員会)

学内サーバのセキュリティ対応作業(6日)

学内導入ウィルスチェックソフトのライセンス更新(全学、情報セキュリティ委員会)

## 11月活動内容

ALC英語学習ソフト導入のためのネットワーク調査(11日 情報教育推進部門)

プログラミングコンテスト全国委員会のための第一会議室ネットワーク設定変更

## 12月活動内容

eラーニング受講のためのファイアウォール導入

## 1月活動内容

女子寮ネットワーク機器設置(寮務委員会)

## 2月活動内容

財務会計システムとの回線接続

## 3月活動内容

財務会計システムとの接続のためのネットワーク機器設定変更

学内サーバ故障による対応(19日)

学内ウィルスチェックサーバをすり抜けた新種ワームへの対応(29日 情報セキュリティ委員会)

## 【情報セキュリティ委員会】

- 1 メンバー 委員長(学生主事 檀上光昭)  
事務部長(石橋 栄)  
情報教育センターネットワーク管理部門長(栗原義武)  
委員(三井 正、横山隆志、白井みゆき)
- 2 委員会開催回数 11回(主としてメール会議)



### 3 開催日および主な議題

#### 第1回(4月10日)

- 1 平成15年度運営目標と計画

#### 第2回(4月18日)

- 1 情報セキュリティポリシーのウェブページでの公開

#### 第3回(4月21日)

- 1 重要性の分類方法について

#### 第4回(4月28日)

- 1 ファイヤーウォールとe-ラーニングについて

#### 第5回(6月5日)

- 1 情報セキュリティポリシーの周知方法について
- 2 ICカードの配布と学生向けの説明会について
- 3 パソコンのウイルス対策について
- 4 昨年度情報セキュリティ委員会活動報告

#### 第6回(7月16日)

- 1 成績入力システムについて
- 2 パスワードの管理について

#### 第7回(10月15日)

- 1 高専機構ネットワークについて

#### 第8回(12月4日)

- 1 高専機構ネットワークとの接続方法について

#### 第9回(12月24日)

- 1 ネットワーク上での迷惑行為について

#### 第10回(1月27日)

- 1 研究者総覧のホームページ掲載について

#### 第11回(2月4日)

- 1 高専交流会、特別研究発表会のホームページ掲載について

### 【点検・評価運営委員会】

- 1 メンバー 委員長 校長  
指定委員 事務部長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、高度技術教育研究センター長、庶務課長、会計課長、学生課長  
各科主任 刑部富夫、伊月宣之、田中大二郎、河村秀男、曾我部卓三、小山一夫、板野 哲

- 2 委員会開催回数 4回

### 3 開催日及び主な議題

#### 第1回(6月11日)

- 1 平成15年度点検評価運営委員会の活動方針及び活動計画について
- 2 点検・評価実施規則の一部改正について
- 3 平成14年度に実施した外部評価の取りまとめについて

#### 第2回(8月5日)

- 1 専門部会活動報告
- 2 点検報告書について
- 3 自己評価書の作成について

- 4 企業アンケートの実施方法について
- 第3回（11月12日）
- 1 卒業研究・特別研究の点検・評価について
  - 2 実験・実習科目の点検・評価について
  - 3 専門部会活動報告
  - 4 企業アンケートの実施について

- 第4回（2月12日）
- 1 平成15年度外部評価の実施計画について
  - 2 専門部会活動報告

### 【点検専門部会】

- 1 メンバー 部会長 （寮務主事 谷口佳文）  
 指定委員 庶務課長（林興一） 学生課長（山本一仁）  
 指名委員 （馬淵真人 柳井忠 衣笠巧）

- 2 部会開催回数 4回

- 3 開催日及び主な議題

- 第1回（8月27日）
- 1 平成15年度の点検専門部会の活動について
  - 2 各種アンケートの実施方法について

- 第2回（11月13日）
- 1 企業アンケートの集計について
  - 2 各種アンケートの実施について
  - 3 実験実習科目の点検評価のコメントについて

- 第3回（12月17日）
- 1 保護者アンケート、卒業生アンケートの集計方法について
  - 2 実験実習科目の点検評価のコメントについて

- 第4回（2月26日）
- 1 保護者アンケート、卒業生アンケート集計の進捗状況について
  - 2 教官アンケートの実施について

### 【評価・企画専門部会】

- 1 メンバー 委員長 （副校長 桑田茂樹）  
 指定委員 （事務部長、教務主事、学生主事、寮務主事）  
 指名委員 （谷 耕治、谷本修治）

- 2 部会開催回数 3回

- 3 開催日及び主な議題

- 第1回（5月29日）
- 1 平成15年度点検・評価の実施計画について
  - 2 規則の一部改正について
  - 3 平成15年度各部門（各学科・科）の運営目標に基づく活動評価について
  - 4 平成14年度実施した外部評価のとりまとめについて
  - 5 生物応用化学科の平成14年度の点検評価及び教育改善活動の報告について

- 第2回（7月30日）
- 1 自己評価書の作成方法について

- 2 企業アンケートの実施方法について
- 第3回（9月11日）
- 1 今後の日程について
  - 2 自己評価書の執筆方法について

## 【外部評価委員会】

### 機械工学分野

#### 1 メンバー

（外部評価委員 3名）

愛媛大学工学部機械工学科	教授	井出	敬
阿南工業高等専門学校機械工学科	教授	中村	克孝
ユースエンジニアリング(株)	代表取締役社長	角田	勝美

（学内出席者）

機械工学科教官

#### 2 委員会開催回数 1回

#### 3 開催日及び主な議題

（開催日）平成16年2月12日（木）・13日（金）

- （主な議題）
- ・ 創造性涵養の観点から見た実験実習・卒業研究
  - ・ J A B E E 対応のための今後のカリキュラムのあり方
  - ・ 研究活動の活性化と教育へのフィードバック

### 電気情報工学科・電子制御工学科

#### 1 メンバー

（外部評価委員 3名）

徳島大学工学部電気電子工学科	教授	木内	陽介
高知工業高等専門学校電気工学科	教授	野村	弘
ユースエンジニアリング(株)	会長	平田	利實
新居浜市役所産業振興部商工観光課	参事	惟高	哲也

（学内出席者）

電気情報工学科教官及び電子制御工学科教官

#### 2 委員会開催回数 1回

#### 3 開催日及び主な議題

（開催日）平成16年2月17日（火）・18日（水）

- （主な議題）
- ・ 創造性涵養の観点から見た実験実習・卒業研究
  - ・ J A B E E 対応のための今後のカリキュラムのあり方
  - ・ 研究活動の活性化と教育へのフィードバック

### 材料工学分野

#### 1 メンバー

（外部評価委員 3名）

愛媛大学工学部機能材料工学科	教授	白石	哲郎
高松工業高等専門学校制御情報工学科	教授	吹田	義一
(株)コピックス	代表取締役社長	伊藤	和徳

（学内出席者）

材料工学科教官

#### 2 委員会開催回数 1回

### 3 開催日及び主な議題

(開催日) 平成16年2月16日(月)・17日(火)

- (主な議題)
- ・ 創造性涵養の観点から見た実験実習・卒業研究
  - ・ J A B E E 対応のための今後のカリキュラムのあり方
  - ・ 研究活動の活性化と教育へのフィードバック

#### 【学校改革推進室】

- 1 メンバー 委員長 校長  
指定委員 副校長(教務主事)、事務部長、学生主事、寮務主事  
指名委員 深山幸穂、塚野 修、西谷郁夫
- 2 開催回数 7回
- 3 開催日及び主な議題
  - 第1回(4月18日)
    - 1 本校の中期目標・中期計画(案)について
  - 第2回(5月9日)
    - 1 本校の中期目標・中期計画(案)について
  - 第3回(6月3日～6月6日(電子会議))
    - 1 平成15年度教育改善推進計画の策定について
  - 第4回(8月5日)
    - 1 「認証評価にかかる国立高等専門学校の評価項目、評価要素、観点例について  
- 中間まとめの報告」について
  - 第5回(10月7日)
    - 1 中期計画における数値化できる高専活動目標について
  - 第6回(12月19日)
    - 1 中期計画について
  - 第7回(3月16日)
    - 1 平成15年度「学校運営目標」及び「教育改善推進計画」の実施状況について
    - 2 材料工学科の再生について
    - 3 教育支援体制について

#### 【J A B E E 推進室】

- 1 メンバー 委員長 校長  
指定委員 副校長(教務主事)、事務部長、専攻科長、生産工学専攻主任、  
電子工学専攻主任、  
指名委員 推進チームリーダー(河村秀男、豊田幸裕、馬淵真人(15.9月まで)、野口正樹、柳井 忠、榊原久司(15.10月から))
- 2 開催回数 6回
- 3 開催日及び主な議題
  - 第1回(4月17日)
    - 1 J A B E E 説明会等の報告について
    - 2 平成15年度J A B E E 本審査受審について  
平成15年度本審査に向けての活動計画について  
(生産工学専攻生物応用化学)
    - 3 平成14年度活動報告及び平成15年度活動計画について

(生産工学専攻機械工学及び材料工学、電子工学専攻)

第2回(6月6日)

- 1 教育プログラムに関する情報の公開開示ルールについて
- 2 教育プログラムに関する資料の保管ルール及び保管場所について  
(自己点検書及びその作成の基礎となる資料)
- 3 教育及び教育に関する貢献の評価方法と開示について
- 4 生物応用化学科プログラムに関する検討事項
- 5 各プログラムごとの活動状況報告
- 6 J A B E E 推進図書について

第3回(9月9日)

- 1 生物応用化学プログラム以外のJ A B E E プログラムのあり方について
- 2 各プログラムごとの活動状況報告

第4回(11月28日)

- 1 J A B E E 受審の報告について
- 2 今後の取り組み課題の確認について

第5回(2月10日)

- 1 融合複合型プログラムの活動状況報告
- 2 J A B E E プログラム対応のための履修要件の変更について

第6回(3月17日)

- 1 J A B E E プログラムの公開内容等について

### 3.5 施設、設備の整備と運用

#### 3.5.1 施設の整備状況

校内の施設整備状況として、まず女子寮の設置があげられる。これは、既存施設の有効利用の観点から、老朽・狭隘化の著しかった男子寮（向陽北寮）について耐震改修も併せた全面改修を実施し、女子寮（清風寮：1,372㎡）へ転換整備したものある。

この整備に関連して、清風寮周辺の屋外環境整備、男子浴室の自動給湯設備の設置、雄風北寮寮室の床改修、雄風北寮他2棟の屋外鉄部塗装改修、さらには学寮食堂の空調機更新を実施し、学寮居住環境の向上を図った。

また、合併教室棟のホームルームの狭隘化解消と教育環境改善のため、一般教室棟3階教官室等の移転・集約整備を行い、84㎡のスペースを確保し、ここをホームルームとして改修整備した。

他に、尚友会館南側の屋外環境整備工事を行い、潤いのある学生広場を確保した。

#### 3.5.2 語学演習室の整備、利用状況

##### [1]整備状況

- 1 昭和62年度更新の語学演習装置を引き続き利用。
- 2 平成10年度以前に以下の機器を購入済み
  - 50インチ大型TV2台
  - VTR2台
  - 8ミリビデオカセットデッキ1台
- 3 ICカードキーによるLL教室のフリーアクセス化
- 4 Internet活用に備えて、HUBの設置
- 5 平成14年度に液晶プロジェクタ、PC、DVD、DVを設置

##### [2]利用状況

表3.5.1 語学演習室の利用状況

区	当該設備の 利用授業 科目名	利用対象学科	履修 人数	年間利用時間
	分	1 英語1	全学科（混合学級1年生）	84人
2 英語2A		全学科（混合学級2年生）	86人	120時間
3 英語演習書購読		専攻科（1年生産工学専攻）	14人	60時間
4 英語演習書購読		専攻科（1年電子工学専攻）	15人	60時間
5 中級英会話		5年生（4年選択必修）	40人	30時間
6 独語会話		5年生（5年選択必修）	40人	30時間
計	6科目	全学科及び専攻科1年	279人	540時間

##### [3]整備状況に関する補足

平成15年度より語学学習教材としてALC社のNetAcademyが導入された。しかし現有設備では語学演習室では利用ができないため、主に電子計算機室第二演習室で活用されてい

る。将来的には語学演習室で利用可能とするように、PCの導入をはじめとした整備が必要である。

#### [ 4 ] 利用状況に関する補足

平成 14 年度よりPCの画面を液晶プロジェクターで大画面に投影できるようになり、internetのWeb上の豊富な教材を即時提示できるようになった。また、DVD及びDVがスピーカーと接続された為、洋画・洋楽・TVドラマ等を教材として利用可能になった。

また、H15年度後期に設置された IC カード入出システムにより、学生による放課後等のLL 教室利用が今後期待される。

### 3.5.3 電子計算機室の整備と利用状況

高度情報化社会における情報教育の重要性は増加の一步をたどっており、特にインターネット利用の普及により従来のリテラシー教育、プログラミング教育だけでなく、情報化社会に参画する態度を身につけさせることが重要になってきている。また、技術進歩もきわめて速く、日進月歩の状況であり、先端技術を身につけさせることが必要不可欠である。それらを踏まえて、全校的な情報教育および情報処理室の整備などを検討するために、平成 15 年度に情報教育センターを校内に立ち上げた。

今日コンピュータを利用した教育は様々な分野で利用されており、平成 15 年度より語学教育の一環としてALC社のNetacademyを導入し、語学教育にも電子計算機室は利用されている。

現在の電子計算機室のシステムは5年間リース制となっており、平成 13 年 4 月にup-to-dateなシステムに一新した。当電子計算機室は第一演習室及び第二演習室の 2 教室体制になっており、主に機械工学科、生物応用化学科、材料工学科、専攻科生のコンピュータ教育と専攻科生をはじめとした語学教育に利用されている。電子計算機室の業務は平成 15 年度に情報教育センターの管理へ移行した。

平成 15 年度は主に情報基礎教育の見直しと上記語学教育用ソフトの導入及びそれに伴う整備を行った。また、休み時間や放課後、学生が自由に電子計算機室を利用し、自学自習できる環境を整えるため、ICカードキーを導入した。

高等教育IT活用推進事業の一環として、長岡技術科学大学をはじめとした12機関で単位互換協定を締結し、e-learningによる他大学、高専の単位取得が可能になった。

#### [ 1 ] 整備状況

##### ( 1 ) ハード面

- ・ICカードキーによる「入室管理システム」を導入し、懸案であった学生の時間外利用を可能とした。
- ・第一演習室のクライアントPCにUSB音源ボード付きヘッドフォンを導入することで第一演習室、第二演習室とも語学教材を用いた講義やe-learningの受講が可能となった。

##### ( 2 ) ソフト面

- ・ALC社のNetacademyを導入した。同ソフトは校内LANに接続されており、電子計算機室以外からも利用できるが、本校において全学生が同ソフトにアクセスすることができることは電子計算機室が保障しており、電子計算機室の果たす役割がますます大きくなった。
- ・本校における全学的な情報基礎教育の確立のため、教科書の選定とその中の必修項目のリストアップを行った。これらの項目を平成 17 年度シラバスに反映させることで、全学的な情報基礎教育が図られる。

- ・教員の資質向上の一環として、電子計算機室を利用してプレゼンテーションソフト講習会を実施した。

## [ 2 ] 利用状況

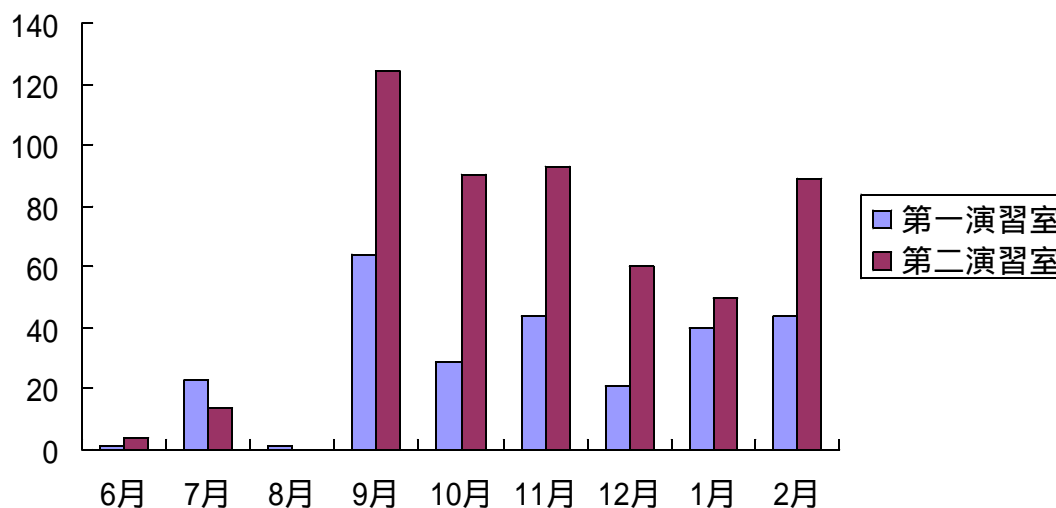
### ( 1 ) 講義

- ・第一演習室は年間630時間の利用があった。稼働率で53%程度であった。
- ・第二演習室は年間360時間の利用があった。稼働率で30%であった。  
第一演習室は50%以上と高い稼働率を示している。また、第二演習室も30%とやや低い稼働率であったが、語学教育による電子計算機室の利用が今後見込まれるため、稼働率は更に上昇することが見込まれる。

### ( 2 ) 時間外利用

平成15年度からICカードキーによる「入室管理システム」を導入した。そこで、本格的に稼働させた6月以降の学生が自主的に利用した時間外利用の月別の利用件数を下の図にまとめた。

図3.5.1 電子計算機室の時間外利用件数



稼働当初は学生の認知度が低かったせいか、少なかったが夏休み明けの9月以降利用件数が増加している。第一演習室は267件の記録が残っており、一日平均1名以上の利用が、第二演習室は524件の記録が残っており、一日平均2名以上の利用があった計算になる。平成16年度以降は更に利用の増加が期待できる。

## 3.5.4 図書館の整備と利用状況

### [ 1 ] 整備状況

#### ・視聴覚機器

閲覧室AV視聴コーナーに、平成4年6月設置されたビデオ視聴装置3台のうち2台を平成15年度にDVD/VTR視聴型に更新し、平成13年3月設置したCD/DVD装置1台と合わせて4台の視聴覚機器が設置されている。

#### ・所蔵検索用端末及びインターネット用パソコン



閲覧室には、所蔵検索用端末（OPAC）2台及びインターネットコーナーには、5台のパソコンが設置されている。

・電子ジャーナル等

平成15年度は、長岡技術科学大学を中心とするコンソーシアムには、新外国雑誌目次データベース及びSD（Science Direct）に参加しており、平成16年度には、ACS（American Chemical Society）、AIP / APS（American Institute of Physics / American Physical Society）、IEEE - ASPP（Institute of Electrical and Electronics Engineers Inc. ALL-Society Periodicals Package）及びMath SciNet（American Mathematical Society）にも参加する。

・蔵書

平成15年度の図書受入冊数は、共通図書203冊、教員研究図書242冊及び製本雑誌90冊であり、平成14年度より535冊増加し、蔵書冊数75,312冊となった。

また、各学科・科教員により閲覧室及び1・2階書庫の蔵書の見直しを行い、約6,800冊の図書を抽出し、所蔵スペース確保のため、平成16年度以降に処分を予定している。

**[2] 利用状況**

平成15年度の入館者数、貸出人数及び貸出冊数を平成14年度と比較すると、入館者3,835人増加、貸出人数970人増加、貸出冊数2,008冊増加となっている。

図書館活性化活動としての、ブックハンティング、図書館を利用した授業の実施等による効果があったものと思われる。

なお、平成15年度の月別の利用状況を次表に示す。

表3.5.2 平成15年度における図書館利用状況

月	4	5	6	7	8	9	
入館者数	3,546	4,664	4,231	3,105	811	4,902	
貸出人数	391	505	277	262	48	266	
貸出冊数	672	928	569	667	74	502	
月	10	11	12	1	2	3	合計
入館者数	3,729	3,168	3,436	2,995	3,492	1,902	39,981
貸出人数	249	254	258	279	227	104	3,120
貸出冊数	502	462	575	550	416	275	6,192

**3.5.5 実習工場の整備と利用状況**

**[1] 整備状況**

板、直方体の製作、キー溝加工等に縦フライス盤を使用しているが、内1台は本校設立当初からの物で相当ガタがきており、特にY軸のバックラッシュは1mm近くあり、普通寸法公差が出しにくい状態である。

設備更新をして頂き、その際NC化もして頂き、実習においても高精度な部品加工、及び今までは加工出来なかった形状の部品も加工できる高度な実習を行えるようにして頂きたい。

なお現在実習工場に設置されている設備は以下の通りである。

機械・装置の設備状況(設置年度)

機種	数	年度	機種	数	年度
軽合金溶解炉	1	1967	旋盤	1	1963
可傾式坩堝炉	1	1990	〃	1	1974
高周波誘導溶解炉	1	1997	〃	2	1977
コシキ炉(キュボラ)	1	1966	〃	1	1980
造型機	1	1971	〃	1	1981
シェルモールド造型機	1	1978	〃	2	1990
サンドブレンザ	1	1975	CNC旋盤	4	1992
卓上ボール盤	1	1963	卓上型電気センタドリル	1	1984
〃	1	1983	立てフライス盤	1	1963
〃	1	1988	〃	1	1970
直立ボール盤	1	1963	横フライス盤	1	1987
ラジアルボール盤	1	1963	スロッター	1	1963
両頭グラインダー	2	1963	ホブ盤	1	1977
〃	2	1967	交流アーク溶接機	2	1998
〃	1	1973	〃	1	1987
〃	1	1978	〃	1	1978
〃	1	1984	TIG溶接機	1	1999
研削盤	1	1976	炭酸ガスアーク溶接機	1	1987
〃	1	1978	〃	1	1985
平面研削盤	1	1976	MIG自動溶接機	1	1998
形削盤	1	1967	電気スポット溶接機	1	1980
〃	1	1996	プラズマ切断機	1	1999
金切鋸盤	1	1965	エアー・ハンマ	1	1963
〃	1	1972	空気圧縮機	1	1971
〃	1	1977	ベビコン	1	1979
〃	1	1995	コンプレッサー	1	2000
生型硬度計	4	2000	ハンマードリル	1	2000

[ 2 ] 利用状況

実習以外に機械工学科の卒業研究及び1SM、2SMの特別研究の実験装置等の製作支援及び各学科の卒業研究、特別研究の装置等の製作依頼があった(300件余)。

昨今の技官の定員削減に関して、班の数を減らしてはとの意見があるが、4つの班に分けた場合班人数が10人にもなり、実際に実習を行えない学生が大勢出て、高専の特徴である実践的な技術者の養成は出来なくなる。また別の意見として、班の数はそのまま、教員が実習を受け持てばよいとの議論もあるが、教員側に大幅な定員増を望むべくもなく、むしろ逆に、平成15年度は1名減であった。このような実情をみると、実習の進め方と指導教員のあり方の根本的対策が必要と思われる。

なお、時間割に組み込まれている実習は以下の通りである。

平成十年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日(5、6、7) 3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日(5、6、7) 3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日(5、6、7) 3H

	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十一年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（5，6，7）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（5，6，7）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十二年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（5，6，7）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（6，7，8）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十三年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（6，7，8）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（6，7，8）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十四年度	1M工作実習1	前期：後期	火曜日（6，7，8）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（6，7，8）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	月曜日（2，3，4）	3H
平成十五年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（5，6，7）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（5，6，7）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十六年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（6，7，8）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M総合実習	前期：後期	水曜日（6，7，8）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H

### 3.5.6 SCS/MUPの活用状況

#### [1]整備状況

- ・SCSに関しては一部機器の故障に伴う修理を行った。また、録画装置を従来のVTRからHDD、DVDレコーダへ更新した。
- ・MUP事業は平成13年度に終了し、平成14年度から「高等教育IT活用推進事業」が5年計画で発足した。しかし、独立法人化に伴う、事業見直しのため、平成15年度で終了となった。

#### [2]利用状況

- ・平成15年度は56.5時間であり、平成14年度の46時間と比較して、利用状況の改善が見られた。SCSの平成15年度の利用実績の詳細は以下の通りである。

表3.5.3 SCSの平成15年度の利用実績

	回数	時間
講演会	9回	23.5時間
研究打ち合わせ	8回	16時間
会議	3回	9時間
その他	1回	8時間
合計	21回	56.5時間

### [3]「高等教育IT活用推進事業」

高等教育IT活用推進事業の平成15年度活動報告を記す。

(1)平成15年度計画：

1:コンテンツ作成環境の整備

平成14年度明らかになった問題点を改善するために次のことを行う。

コンテンツ作成ワークフローの構築

コンテンツ作成のための講習会の開催

コンテンツ作成機材の充実

2:作成したコンテンツの授業への活用

平成15年度に作成したコンテンツを授業へ活用した結果をフィードバックし、より効果的なコンテンツのあり方を検討する。

3:授業計画の立案

平成15年度に平成17年度に行う授業の計画を立てる。

4:ネットワーク接続

平成15年度中にeラーニング配信サーバへの接続を完了する。

(2)平成15年度実施内容：

1:コンテンツ作成環境の整備及び作成したコンテンツの授業への活用

コンテンツ作成ワークフローの構築

本校ではパワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを用いた授業を行っている教官はいるが、その中で動画を用いている場合は皆無である。

そのために、動画撮影、編集、コンテンツ化のためのワークフローを長岡技術科学大学を参考にして、現在構築中である。

本年度4月より、生物応用化学科1年生の基礎化学実験の中で、いくつかのコンテンツを作成し、実際の授業で活用した。

その結果、学生・授業担当教官・コンテンツ作成者の意見をまとめると、次のような問題点があがってきた。

(1)ライティングが良くないため、暗い部分が生じており見にくい。特に、「ガラス細工」などの動きのある演示実験の際にその傾向が大きい。

(2)撮影が編集を意識したものになりきれていない。そのため、編集作業が予想以上にかかっている。

(3)全体の画面構成が良くないため、臨場感があまりなく、あまり興味を持てなかった。

(4)音がうまく拾えていなかった。

その他にも小さな問題点はいくつかある。本プロジェクトの他機関のコンテンツを参考にして上記の点の改良を検討した。

検討結果：

- ・専攻科AV教室が比較的防音性がよく、通常のコンテンツを作成するため部屋として利用する。

- ・撮影を容易にするために、講師、カメラ、ライトの位置を固定する。

- ・専攻科AV教室で撮影、編集ができる環境を整える。

- ・撮影用ビデオカメラ、ライトについては現在のものが利用できる。

- ・画面構成等については、他の機関のコンテンツを参照し、今後も検討する。

コンテンツ作成のための講習会の開催

本校教官が本プロジェクトのためのコンテンツを作成できるための講習会を平成

16年3月15日に実施し、好評であった。なお、本講習会は内容のレベルを上げて、平成16年度も引き続き実施する予定である。

コンテンツ作成機材の充実

上記で示したように、専攻科AV教室で編集を可能にするために動画を処理するためのPCを購入した。これによりひとつの部屋で撮影、編集が可能な体制が整備された。

#### 2:作成したコンテンツの授業への活用

本校で撮影した動画コンテンツ、本プロジェクトの他機関のコンテンツを比較した。その結果、独自のものよりも他機関、特に長岡技術科学大学、北陸先端大学院大学のコンテンツが本校では好評であり、この形式を参考にして作成することにした。本プロジェクトのプラットフォームであるWebCTについて第二回WebCTユーザーカンファレンスに本校教官が参加し、WebCTの有効利用についての情報を収集した。

#### 3:授業計画の立案

平成17年度から遠隔授業を最低1科目開講するための授業計画を本校専攻科教育委員会及び情報教育センターで立案した。

授業科目：微生物工学概論

担当教官：早瀬教官

### 3.5.7 学内LAN・インターネットの管理・運営体制

本校の学内LAN・インターネットの管理・運営は、平成15年度に発足した情報教育センターの一部門であるネットワーク運用管理部門で担当している。

ネットワーク運用管理部門の構成は、部門長、教員の委員2名、技官2名(平成15年度1名)で、インターネット(学術情報ネットワーク)への接続に関すること、学内のネットワーク機器の基幹部分の設定に関すること、学寮ネットワークに関する運用、本校トップページの技術的なこと等を行っている。

本校で現在稼働しているネットワークは、平成13年度末に整備されたギガビットネットワークで、校内の各棟を結ぶ基幹光ケーブルは二重化されており、通信速度は1Gbps、各棟内では100Mbpsのイーサネット、各部屋の情報コンセントに接続されている。

これらと同時に整備された学内サーバにおいては、1台のサーバの中に、各学科・部署のドメイン情報をWebブラウザを用いて設定できるようになったため、それ以前に行っていたような専門知識を持っていなくても運用可能なことから、各学科・部署のホームページ、メールアドレス登録、IPアドレスの管理については、広報・図書委員会からの依頼で各学科・部署より選出された担当者が行っている。

これらの担当者は、作成されたWebデータをサーバの各場所に設置する業務を行っていて、学校全体あるいは学科・部署のホームページや全体で考えるべき問題であるが、実際問題としては、サーバ担当者に、Webページのデザインの構成もふくめて全てを担当者に依頼するケースがあり、一部の担当者に非常に負担を強いていることが問題点として挙げられる。

学寮ネットワークに関しては、偶然にも、ネットワーク運用管理部門の委員が寮務委員と兼任しているため、学寮での学生集会等の時間を利用し、学寮ネットワークについて学生が遵守しなければならない事項についての説明会を開催し、また、女子寮の改修の際に既存の学寮ネットワークへの接続を行い、これまで運用ができていた状況である。しかし、今後もこれまでどおりの運用ができるとは限らず、別の問題点であるといえる。

昨今、コンピュータウイルスの問題が大きく取り上げられるようになっているが、本校の学内ネットワークとインターネットへの接続する部分に、ファイアウォールが設置されている。

このファイアウォールにおいては、必要最低限の情報のやりとりを行うように設定しているため、導入同時に利用していないアプリケーションを、後になって学内で利用するようになった場合に、そのままでは利用できないため、設定変更を行う必要がある。平成15年度には、eラーニングの受講などで、ファイアウォールの設定変更の必要が生じた。また、インターネットへの接続以外にも、平成15年度には、高専機構との接続、IT教育のための広域Ether網への接続などがあり、新たなネットワーク機器の導入、設定変更など、平成13年度のギガビットイーサネットの導入時には想定していなかった用件が重なり、ネットワーク関連経費が例年に比べて特に増大してしまった。

## 3.6 社会との連携

### 3.6.1 高度技術教育研究センターの運営と活動状況

平成15年度は「四国6高専産学官交流会 in Niihama」を新規に開催し、また、共同研究が11件と倍増するなど活動が向上したと言える。また、ジュニアドベンチャー選手権への参加、教育フォーラムの開催、新居浜高専知財研究会の発足など、活動分野の拡大も進んだ。1.2で記した、平成15年度の高技センターの実施状況と成果に関する具体的な活動状況について述べる。

#### 1 高度技術教育研究センターの運営規程等

組織、業務、施設に特に変更はない。増設された機器と設置場所を以下に記す。大型機器として「移動体用情報通信シミュレーション装置」が設置された。今後の活用が大いに期待される。

移動体用情報通信シミュレーション装置	: 高技第1実験室
熱機械分析装置	: 高技第5実験室
BODテスター	: 生物応用化学科

#### 2 高度技術教育研究センターの活動状況

##### [1] センターテーマの推進状況

・地域との共研テーマ	18テーマ
・学外との共研テーマ	6テーマ
・学内での共研テーマ	3テーマ
合計	27テーマ

・順調にアウトプットが得られたテーマ	12テーマ
・一定のアウトプットが得られたテーマ	9テーマ
・見直しするテーマ又は休止中のテーマ	6テーマ
合計	27テーマ

件数としては27テーマで、平成14年度(29テーマ)に比しほぼ同数のテーマであったが、この中の9テーマから、共同研究が10件成立した。(他に、試験機器の利用に関連して共同研究が1件成立して、計11件となった。また、受託研究も1件成立した。)企業から奨学寄付金を獲得しているテーマも3件あり、外部資金を獲得したセンターテーマは12テーマとなった。今後の共同研究件数の増加が期待される。この理由としては、平成14年度において、既に、産学連携の動きが強まる傾向が見られたが、平成15年度に「テーマ評価制度」をスタートさせたことも、このようなアウトプット指向を強めたと言える。「テーマ評価制度」では外部資金、産学連携、特許、外部発表、等のアウトプット項目をポイントとしており、企業アイデアニーズや解析ニーズへの対応が強まったと言える。「見直しするテーマ」、「休止中のテーマ」は新たなテーマに置換していきたい。

##### [2] 地域との交流会活動

工業技術懇談会などの交流会活動は、四国6高専産学官交流会 in Niihama、工業技術

懇談会、科学技術特別シンポジウムを開催した。また、えひめ産業振興財団・東予産業創造センターとの共同主催が実現した。パネル展示も拡大して開催した。

( 1 ) 工業技術懇談会

- ・平成16年2月27日(金) 13時30分～17時
- ・講演3件
  - ・「愛媛県紙産業研究センターの役割」～産業への技術的支援～  
愛媛県紙産業研究センター 所長 藤原勝壽
  - ・「紙パルプ業界について」～技術者教育も含めて～  
三木特種製紙(株) 代表取締役会長 三木輝久
  - ・「新製品開発 - 紙を例にして - 」  
(株)和紙のイシカワ 代表取締役社長 石川順一
- ・技術相談
- ・企業関係者34名、本校教職員35名、専攻科生2名参加 計71名

( 2 ) パネル展示(四国6高専産学官交流会を含め3回実施)

(第1回)

- ・平成15年6月2日(月)～6月6日(金)
- ・科学技術週間の行事として、新居浜市役所1階ロビーにおいて高度技術教育研究センター及び生物応用化学科における教育研究成果をパネルにより展示した。

(第2回)

- ・平成16年2月2日(月)～2月6日(金)
- ・新居浜市役所1階ロビーにおいて機械工学科、材料工学科及び数理科における教育研究成果をパネルにより展示した。

( 3 ) 第4回科学技術特別シンポジウム

- ・平成15年7月10日(木) 13時30分～17時
- ・講演2件
  - ・「放射光による微細加工と実用化に向けた応用研究」  
九州大学応用力学研究所基礎力学部門 複合連続体力学分野  
助手 宮野公樹
  - ・「ITSの動向と今後の展望 - D S R C 応用ビジネスの展開 - 」  
三菱電機(株)ITS推進本部 副本部長 大石將之
- ・技術相談
- ・企業関係者39名、本校教職員34名、専攻科生30名参加 計103名

( 4 ) 四国6高専産学官交流会 in Niihama

- ・平成15年12月17日(水) 12時～17時
- ・講演会
  - ア 新居浜高専との共同研究成果の企業サイドからの発表 2件
    - ・「精密外周検査装置OCOプロジェクトに関する開発」  
(株)シーライブS.I事業推進室 宇高輝彦
    - ・「正しい循環型社会へ移行するため産業副産物を粗骨材に再利用」  
新居浜建機レンタル(株)新規事業開発室室長 門田憲二
  - イ 四国5高専からの成果・シーズの発表 5件
    - ・「高調波発生法による窒化ガリウム薄膜の非線形光学特性の測定」  
阿南工業高等専門学校 電気電子工学科 助教授 長谷川竜生



- ・「大気圧低温プラズマの応用」  
高松工業高等専門学校 電気情報工学科 助教授 鹿間共一
  - ・「高エネルギー中性子検出器の開発」  
詫間電波工業高等専門学校 電子工学科 助手 天造秀樹
  - ・「弓削商船高専の現有の設備とシーズ及び成果」  
弓削商船高等専門学校 商船学科 教授 松下邦幸
  - ・「バイオマスガス化発電」  
高知工業高等専門学校 機械工学科 助教授 永橋優純
- ・パネル展示
- A．四国6高専の成果・シーズの紹介  
新居浜高専のパネル出展者  
機械工学科 豊田幸裕、吉川貴士、宮田 剛 電気情報工学科 佐藤眞一  
電子制御工学科 出口幹雄 生物応用化学科 中川克彦、杉本榮佑  
数理科 川崎宏一
- B．新居浜市の産業遺産の紹介
- C．小池国際特許事務所四国サテライトオフィスの業務紹介
- ・技術相談、特許相談
  - ・企業関係者70名、本校教職員51名、専攻科生2名参加 計123名

### [ 3 ] 地域への参画、情報発信、技術講座、技術サポート

#### ( 1 ) ジュニアドベンチャー選手権への参加

若手研究者を対象としたジュニアドベンチャー選手権に本校から4件応募した。  
平成15年11月11日(火) ((財)えひめ産業振興財団主催)  
機械工学科 宮田 剛 が優秀賞(20万円の研究奨励金)を受賞した。  
テーマ 「バイアス変調型光センサーによる遠隔医療用ワンチップ型生体計測装置の開発」

参加した他の3件は以下の通りである。後日、技術相談が多数寄せられた。

- ・機械工学科 吉川貴士 専攻科 本田真也 電気情報工学科 尾西康次
- ・材料工学科 松英達也 材料工学科 日野孝紀

#### ( 2 ) 愛媛の農林水産業未来ビジョンフォーラム

～知的財産権を活用して、オンリーワン化と相互連携を目指す～

平成16年1月23日(金)13時30分～16時30分に石鎚山ハイウェイオアシス館大ホールで行われた。本校の生物応用化学科の早瀬伸樹助教授がパネラーとして参加し、  
農林水産業における、当高専の技術・研究での協力をPRし、驚きの声があがり、大いに反響があった。

#### ( 3 ) 第1回全国高専テクノフォーラム

平成15年8月26日(火)～27日(水)に釧路にて行われた。高技センター長 川崎宏一が参加し、「産学連携の仕組み作り」のセッションで、「新居浜高専を中核とした愛媛県東部地域における産学官連携活動」と題して講演した。出席していた宇部、有明高専などのセンター長からプラスの評価を得た。

(4) 愛媛大での産学官交流会でのパネル展示

平成15年9月19日(金) 「産学官研究開発交流会 in 愛媛」

新居浜高専のパネル出展者

機械工学科 豊田幸裕、吉川貴士、宮田剛 電気情報工学科 佐藤真一

電子制御工学科 今井伸明、出口幹雄、山田正史

生物応用化学科 中山享、早瀬伸樹 数理科 川崎宏一

[4] 技術関連の諸活動

(1) 知的財産関連

ア 新居浜高専知財研究会の発足

本校では、従来、知財教育の一部授業への取り入れ、知的財産権講演会の実施を行ってきたが、平成15年12月に「新居浜高専知財研究会」を設立した。知財教育方法の研究、独創的な研究開発の奨励と実用化を推進するため、既に東予産業創造センター、小池国際特許事務所等の参加をいただいている。平成16年3月16日(月)に研究会を開催した。責任者は電子制御工学科 深山幸穂である。

イ 学生の Patent コンテスト参加奨励

文部科学省、特許庁等主催の平成15年度 Patent コンテストにおいて、本校電子制御工学科5年生2名の連名の応募が、高専部門において全国で10件以内が入選する「出願支援発明」に選ばれた。入選したのは、「短時間計測が可能な音波式温度分布計測システム」に関する卒業研究を通じた発明で、弁理士の指導のもとに出願した。特許庁の審査を経て成立すれば、発明した学生が特許権をもつことができる。その際の弁理士費用、出願手数料、審査請求料及び権利化後の維持費2年分はコンテスト主催者側の方で負担する。本件の申請教員は電子制御工学科 深山幸穂である。

(2) 公開講座

技術系公開講座としては3件行った。一般市民、地域の技術者の資質向上に寄与した。

ガラス工芸技術の世界

平成15年6月21日(土) 13時~17時 一般市民11名が参加

最新計測機器の活用法とその紹介

地域の技術者5名が参加

・電子線マイクロアナライザーの活用法とその紹介

平成15年7月28日(月) 13時~17時

・超伝導型核磁気共鳴装置の活用法とその紹介

平成15年7月29日(火) 10時~16時

ホームページの作成

平成15年6月21日(土) 13時~17時 一般市民9名が参加

生物応用化学科の桑田茂樹、中山享が担当した、「ガラス工芸技術の世界」は工芸作家の前原博先生の助言と協力によって行った。参加者からは非常に大きな反響があった。

「最新計測機器の活用法とその紹介」(生物応用化学科 中川克彦、中山享、堤主計、材料工学科 新田敦己が担当)には5名の地域の技術者が参加した。技術者の分

析技術の理解に寄与し、機器の PR の面でもプラスであった。参加者からは、今後、分析を依頼したいとの意見が出た。

電気情報工学科の檀上光昭、香川福有、横山隆志が担当した「ホームページの作成」には9人の市民が参加し、熱心にホームページの作成に取り組み、好評であった。

### (3) 西条産業情報支援センター (SICS) での活動

新居浜高専と SICS との連携による企業支援の活動を目的として、打ち合わせを開始した。手始めに、平成16年1月19日(月)に「最近のナノテクノロジーの開発状況について」と題して材料工学科 日野孝紀が講演した。

### (4) 東予産業創造センターだより

東予産業創造センターの広報誌「東予産業創造センターだより」に「スポット・新居浜工業高等専門学校」というコラムを設定していただき、センター機器の紹介を行った。平成14年度に引き続き、平成15年度も7月、9月、平成16年1月、3月と年4回全ての号に掲載された。発行部数は1200部で「産官」向けに配布されている。

## 3 平成15年度 外部資金・技術相談

### [1] 外部資金・技術相談総括表

	12年度	13年度	14年度	15年度
共同研究	6件 162万円	3件 140万円	5件 242万円	11件 238万円
受託研究	2件 325万円	0件 0万円	1件 722万円	1件 50万円
奨学寄付金	1637万円	1117万円	1030万円	521万円
助成金	198万円	2565万円	342万円	65万円
科研費	2990万円	2360万円	238万円	830万円
技術相談	55件	49件	91件	116件

### [2] 技術相談

技術移転交流会、工業技術懇談会の懇談活性化、により技術相談が大幅に増加した。

#### 学科別技術相談件数

	12年度	13年度	14年度	15年度
機械工学科	12件	2件	12件	5件
電気情報工学科	7件	5件	3件	2件
電子制御工学科	0件	0件	5件	3件
生物応用化学科	35件	34件	56件	92件
材料工学科	2件	4件	6件	6件
数理科	-	4件	9件	8件
合計	55件	49件	91件	116件

## 4 教育関連の諸活動

### [1] 新居浜高専市民講座 (新居浜市生涯学習センターと共催)

平成15年度は7講座開講、講師は本校教官が担当し、新居浜高専視聴覚教室で実施各講座とも2時間(10時~12時)で、定員を超える一般市民64名が受講し、興味・関心が高かった。次年度へ向けて講演件数の増加を要請された。

5月31日 介護はどんどん楽になる!?

~介護支援機器のお話~ 機械工学科 吉川貴士

6月28日 これからの運転・交通はどうなる!

~IT社会の自動車・交通システム~ 電気情報工学科 佐藤眞一

7月26日 バクテリアは働いている!

~微生物の環境・生活での利用~ 生物応用化学科 早瀬伸樹

8月30日 あなたの知らないガラスの魅力!

~窓ガラスから電子部品まで~ 材料工学科 新田敦己

9月27日 自動車の心臓は"エンジン"です!

~生活を支える熱機関のお話~ 数理科 平木弘一

10月25日 円地文子の世界-『女坂』を読む

~『源氏物語』の訳者でもある作家の代表作です~ 一般教養科 野口裕子

12月6日 脳死について考えよう

~脳死は人の死だろうか~ 一般教養科 谷本修治

#### [2] 教育フォーラム2003「英語の使える日本人をどう育てるか」

・平成15年12月26日(金)13時~17時

・基調講演 「教育現場で英語が使える日本人(学生)を育てる方法」  
愛媛大学大学教育総合センター 助教授 折本 素

・事例発表 ・「コミュニケーション能力を伸ばす小学校英語活動のあり方」  
新居浜市立神郷小学校 戸井和彦

・「中学英語、最前線から」

新居浜市立北中学校 高橋良光

・「技能としての高校英語再考」

愛媛県立新居浜西高等学校 管 開

・「語彙の定着を目指して-アクション・リサーチによる授業改善」

新居浜工業高等専門学校 一般教養科 野村真理子

・パネル討論

・一般市民80名、本校教職員50名が参加 計130名

#### [3] サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)

平成15年12月6日(土)及び12月7日(日)

小学生を対象に、テーマ「電気で遊んでみよう」と題して、小学校や家ではできない科学の実験を体験してもらった。

新居浜市内14校の小学5、6年生40名が参加

業務責任者は材料工学科 松英達也、業務担当は生物応用化学科 西井靖博、

電気情報工学科 横山隆志である。

#### [4] 教育支援プロジェクト

平成15年7月から4回開催し、約300名が受講した。

理科離れ対策や教育支援を目的として、小学校の子ども会、小・中学校の文化祭にお

いて、「モータ作り」、「純銀キーホルダー作り」、「コンピュータで表示機ボードに絵や文字を描く」、「コンピュータで2輪自動車を走らせる」、「モータが回る原理」、「ローソクでモータボートを走らせる」、「水飲み鳥」などの支援を行った。

その結果、受講生からは、今後も参加したいとの高い評価を得た。体験学習の指導に参加した学生からは、自分で、電子回路を組んだり、コンピュータでプログラムを作ったりするものが出てきて、高い教育効果が得られた。

本校の「教育支援プロジェクト」チームは以下の3名である。

電気情報工学科 稲見和生、材料工学科 谷 耕治、電気情報工学科 横山隆志。

### 3.6.2 公開講座、社会への生涯学習事業の実施状況

平成15年度の公開講座及び生涯学習事業の実施状況を次表に示す。

表3.6.1 公開講座の実施状況

講座名	対象者	期間	時間帯	参加者
ガラス工芸技術の世界	市民一般	6/21	13:00～17:00	11
最新の計測機器の活用法とその紹介 機器名：電子線マイクロアナライザ	工業技術者	7/28	13:00～17:00	2
機器名：超伝導型核磁気共鳴装置	工業技術者	7/29	10:00～12:00 13:00～16:00	3
ホームページの作成	市民一般	8/2	13:00～17:00	9

表3.6.2 生涯学習事業の実施状況（新居浜高専市民講座）

場所 新居浜工業高等専門学校 視聴覚教室

時間 10:00～12:00

月日(曜)	内容(テーマ)	講師名(所属)
5月31日(土)	介護はどんどん楽になる！？ ～介護支援の機器のお話～	機械工学科 助教授 吉川貴士
6月28日(土)	これからの運転・交通はどうなる！ ～IT社会の自動車・交通システム～	電気工学科 教授 佐藤真一
7月26日(土)	バクテリアは働いている！ ～微生物の環境・生活での利用～	生物応用化学科 助教授 早瀬伸樹
8月30日(土)	あなたの知らないガラスの魅力！ ～窓ガラスから電子部品まで～	材料工学科 助教授 新田敦己
9月27日(土)	円地文子の世界「女坂」を読む ～源氏物語の訳者でもある作家の代表作です～	一般教養科 教授 野口裕子
10月25日(土)	自動車の心臓は「エンジン」です！ ～生活を支える熱機関のお話～	数理科 教授 平木弘一
12月6日(土)	脳死について考えよう！ ～脳死は人の死だろうか～	一般教養科 助教授 谷本修治

### 3.6.3 教員の学外活動状況

平成15年度の教員の学外における活動の状況を次表に示す。

表3.6.3 非常勤講師

所属	氏名	機関	担当科目	週当たり時間数	担当期間
一般科目	谷本修治	十全看護専門学校	倫理学	100分 (計30時間)	15.4.23 ~15.9.17
一般科目	岩倉秀樹	瀬戸内短期大学	日本国憲法	90分 (計30時間)	15.4.1 ~15.9.30
一般科目	野口裕子	四国学院大学	日本文学史	90分 (計30時間)	15.4.1 ~16.3.31
電子制御 工学科	白井みゆき	愛媛県立伊予三島 看護専門学校	情報科学	180分 (計60時間)	15.4.10 ~15.6.5
一般科目	安藤進一	愛媛大学	スポーツ 実習1	180分 (計60時間)	15.10.1 ~16.3.31

表3.6.4 各種審議会等委員

所属・氏名	兼業先機関等	期間	開催回数	
〔機械工学科〕 吉川貴士	新居浜市廃棄物減量等推進審議会委員	14.12.2 ~16.11.30	月1回	
	新居浜市福祉協議会福祉用具改善相談員	15.4.17 ~16.3.18	年3回	
	新居浜市情報化推進会議eまちづくり推進専門部会員	15.5.12 ~16.3.31	年3回	
	NPO法人「新居浜いきいき工房」理事	15.4.1 ~17.5.31	年3回	
	新居浜市情報化推進会議eまちづくり推進専門部会員	15.5.12 ~16.3.31	年3回	
	新居浜市中小企業新製品研究開発認定及び評価委員会委員	15.7.1 ~17.6.30	年2回	
	(財)えひめ産業振興財団えひめ福祉関連用具開発普及協議会運営委員	15.6.5 ~17.3.31	年3回	
	新居浜市ボランティア市民活動センター運営委員会委員	15.11.11 ~17.3.31	年3回	
	〔電気情報 工学科〕 伊月宣之	愛媛県経済労働部企業振興課えひめITフェア運営委員会委員	15.4.1 ~16.3.31	年3回
		檀上光昭	(財)えひめ産業振興財団エネルギー使用合理化相談員	15.5.28 ~16.3.5

〔電子制御 工学科〕			
田中 大二郎	新居浜市情報化推進会議委員	14.10.3 ~ 16.3.31	年 8 回
深 山 幸 穂	新居浜市中小企業新製品研究開発認定 及び評価委員会委員	15.7.1 ~ 17.6.30	年 2 回
〔生物応用 化学科〕			
中 山 享	新居浜市中小企業新製品研究開発認定 及び評価委員会委員	15.7.1 ~ 17.6.30	年 2 回
真 鍋 昌 裕	新居浜市環境審議会委員	12.8.1 ~ 15.7.31	年 3 回
真 鍋 昌 裕	新居浜市環境審議会委員	15.8.1 ~ 18.7.31	年 3 回
桑 田 茂 樹	(財)東予産業創造センター技術審査専 門委員会委員長	15.8.7 ~ 16.3.31	年 1 回
〔材料工学科〕			
曾我部 卓三	新居浜市中小企業振興審査委員会委員	13.7.1 ~ 15.6.30	年 3 回
谷 耕 治	新居浜市情報化推進会議 e まちづくり 推進専門部会員	15.5.12 ~ 16.3.31	年 3 回
日 野 孝 紀	大阪大学大学院生産科学専攻 L P M 国 際会議事務局 L P M 2 0 0 4 組織員	15.8.5 ~ 16.8.31	期間中 5 回
〔数理科〕			
川 崎 宏 一	放射光利用研究促進機構(財)高輝度光 化学研究センタートライアルユース課 題選定委員会委員	15.4.28 ~ 17.3.31	年 2 回
川 崎 宏 一	放射光利用研究促進機構(財)高輝度光 化学研究センター利用研究課題選定委 員会分科会委員	15.4.28 ~ 17.3.31	年 2 回
川 崎 宏 一	新居浜市中小企業振興審査委員会委員	15.7.1 ~ 17.6.30	年 2 回
川 崎 宏 一	愛媛県科学技術振興会議委員	15.8.25 ~ 17.8.7	年 2 回
平 木 弘 一	新居浜市放置自動車廃物判定委員会委 員	14.4.30 ~ 16.4.29	年 5 回
平 木 弘 一	(財)えひめ産業振興財団エネルギー使 用合理化相談員	15.5.28 ~ 16.3.5	年 2 回

表3.6.5 スポーツ・文化活動等

所属学科名・氏名	所属学会等名	期間	備考
(機械工学科)			
宮田 剛	新居浜市ソフトテニス連盟理事	6.4.1～	
〃	日本体育協会公認C級スポーツ指導員	7.4.1～	
〃	日本体育協会公認C級コーチ	12.4.1～	
〃	日本ソフトテニス連盟公認1級審判員	13.4.1～	
(一般教養科)			
安藤 進一	ワールドカップサッカーキャンプ地誘致 実行委員会委員	12.6.1 ～15.5.31	
〃	新居浜市スポーツ振興審議会委員	14.8.6 ～16.8.5	
〃	愛媛県サッカー協会常務理事	14.8.30 ～16.3.31	
〃	新居浜市サッカー協会理事長	14.8.30 ～16.3.31	

### 3.6.4 広報活動

平成15年度の広報活動の状況を次表に示す。

表 3.6.6 広報活動の状況

:回

15年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
報道機関等	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
愛媛新聞	2	2	1			1	1	1	3	1	1	1	14
朝日新聞	1			1					1		1		4
毎日新聞	1	1	1	2			2	2	3				12
読売新聞		2	1										3
日刊工業新聞	1												1
日本経済新聞									1				1
海南eタイムズ							3	1				1	5
市政だより			1	1					1				3
ハートネットワーク	1		2	2	1	1			2		1	1	11
NHK									1	2			3
南海放送							1		1				2
愛媛朝日放送			1										1
計	6	5	7	6	1	2	3	7	13	4	3	3	60



### 3.7 国際交流

#### 3.7.1 留学生の受入状況と指導体制

宗教的事情で食材に制限がある男子留学生の人数が少なくなって来たのと時を同じくして、平成14年度からは留学生が日本人との交流を以前より促進させるために、日本人寮生と同じ寮生活をしている。日本語の勉強、日本の学校と学校暦が違うために、留学生と同じ学年の日本人学生より留学生は二歳年上であるが、本校来校の初年度（本科3年生）は二人の日本人本科3年の学生と3人部屋に、次年度（本科4年）からは個室に入室している。平成16年1月に女子寮が開寮し、11名が入寮した。

表 3.7.1 留学生の受入状況

年度	機械工学科	電気工学科 (電気情報工学科)	電子制御工学科	生物応用 化学科	材料工学科
12年度		ケニア 1名	マレーシア 1名		
13年度			スリランカ 1名		
14年度		コロンビア 1名	モンゴル 1名		
15年度		イラン 1名	モンゴル 1名 マレーシア 1名		タイ 1名
16年度	マレーシア 1名	ベトナム 1名	マレーシア 1名 ベトナム 1名	中国 1名	

#### 3.7.2 在学生の海外留学と研修状況

表 3.7.2 在学生の海外留学

年度	学科・学年	氏名	留学先	期間
10	機械工学科 5年	小林 充宏	オーストラリア	1997.10 ~ 1998.10
11	生物応用化学科 3年	一色 涼子	オーストラリア	2000.1 ~ 2000.12
12	実績なし			
13	機械工学科 5年	木村 宏樹	オーストラリア	2001.4 ~ 2002.3
	電子工学専攻 2年	金丸 俊之	ニュージーランド	2001.9 ~ 2002.1
	電子制御工学科 3年	永井 とも	ニュージーランド	2002.1 ~ 2002.12
14	生物応用化学科 3年	坂田 直美	アメリカ	2002.7 ~ 2003.6
15	生物応用化学科 3年	金丸 真希	イギリス	2003.4 ~ 2004.3
	生物応用化学科 3年	白石 悠	イギリス	2003.7 ~ 2004.6

表 3.7.3 在学生の研修

年度	学科・学年	氏名	研修先	期間
10	機械工学科 5年	長井 啓司		1998.10.5 - 9
11	電子制御工学科 4年	石川 雄司	カナダ	夏休み
12	なし			
13	生産工学専攻 1年	坪内 栄志	アメリカ	1週間
14	なし			
15	なし			

### 3.7.3 教員の国際会議への参加状況

平成15年度の教員の国際会議への参加状況を次表に示す。

表 3.7.4 教員の国際会議への参加状況

	平成15年度
カナダ	1件
メキシコ	1
オランダ	1
アメリカ	1
ベトナム	1
台湾	1
日本	7

(内訳)

所属学科・氏名	国際会議等名	会場(開催地)	期間
電子制御工学科 深山 幸穂	13th IEEE-NPSS Real Time Conference 2003	Hotel Omni Mont Royal (カナダ)	H15.5.22 ~ H15.5.27
数理学科 柳井 忠	XV Coloquio Latinoamericanode Algebra	Hacienda Cocoyoc Hotel (メキシコ)	H15.7.20 ~ H15.7.25
機械工学科 豊田 幸裕	13th IFAC Symposium on System Identification	ロッテルダム (オランダ)	H15.8.24 ~ H15.8.30
電子制御工学科 出口 幹雄	56th Gaseous Electronics Conference	CATHEDRAL HILL HOTEL (アメリカ)	H15.10.18 ~ H15.10.25
生物応用化学科 真鍋 昌裕	第8回ユーラシア化学会議	Daeoo Hotel (ベトナム)	H15.10.19 ~ H15.10.26
機械工学科 宮田 剛	The 5th Pacific Rim Conference on Lasers and ElectroOptics	The Grand Hotel (台湾)	H15.12.15 ~ H15.12.20
材料工学科 松英 達也	ISSP2003	金沢国際ホテル (日本)	H15.6.11 ~ H15.6.13
材料工学科 松英 達也	ATEM03	名古屋国際会議場 (日本)	H15.9.10 ~ H15.9.12
材料工学科 朝日 太郎	Goldschmidt2003	くらしき作陽大学 (日本)	H15.9.10 ~ H15.9.12
材料工学科 朝日 太郎	第5回環太平洋セラミック 国際会議	名古屋国際会議場 (日本)	H15.9.30 ~ H15.10.2
電子制御工学科 深山 幸穂	Stchastic System Symposium	宇部国際ホテル (日本)	H15.10.29 ~ H15.10.31
生物応用化学科 真鍋 昌裕	九州コロイドコロキウム 国際会議	福岡大学 (日本)	H16.3.7 ~ H16.3.9
生物応用化学科 河村 秀男	九州コロイドコロキウム 国際会議	福岡大学 (日本)	H16.3.7 ~ H16.3.9

### 3.8 教育および学校運営の改善活動

平成15年度は、学校運営目標とともに教育改善推進計画（冊子）を作成し、改善活動を行った。以下にその実施状況を示す。

#### 1. 校長によるFD活動

昨年度に引き続き、平成15年度も

1) 学科・科との懇談、2) オフィスアワーの開設、3) 担任との懇談、4) 各教員との個別懇談、5) 学生との懇談等を実施し、広く学内からの意見や要望を聞き、学校運営・改善を推進した。

#### 2. 初任者研修、非常勤講師研修

平成15年4月に新任教職員のための研修を実施した。また、平成15年度の非常勤講師全員を対象とした研修も実施した（各科・学科主任も出席）。

#### 3. FD研修会の開催

新居浜高専教育力向上講座としてFD研修会を開催した。

日時：平成16年3月3日（水）16時～

講演：16時～17時30分

質疑応答：17時30分～

場所：第1会議室

講師：高知高専 物質工学科 島内功光 教授

演題：「高専教育の発展を目指して」

この研修会では、参加教員数が少なかったという大きな問題点を残す結果となった（高知高専ではほとんど全員が出席するとのことであった）。

#### 4. 教育改善の事例発表（教員会）

平成15年度7月からの教員会で、各科・各学科からの教育改善の事例発表を行った。今後、これらの情報を各科、各学科で有効に活用することが大切である。

平成15年度教官会での教育改善に関する事例発表一覧

1 第4回教員会（7月）

発表者：深山幸穂

講演タイトル：「教育改善への取組み」

2 第5回教員会（9月）

発表者：河村秀男

講演タイトル：「学科としての教育改善への取組み」

3 第6回教員会（10月）

発表者：大村 泰

講演タイトル：「8：10登校指導の試み」

4 第7回教員会（11月）

発表者：松英達也

講演タイトル：「レゴ・マインドストームスを用いたトレースロボットの作製」

5 第9回教員会（1月）

発表者：刑部富夫、谷脇充浩

講演タイトル：「実験・実習科目の変遷と教育方法の検討」

6 第9回教員会（1月）

発表者：野口裕子

講演タイトル：「電子辞書の使用について」

7 第10回教員会（2月）

発表者：川崎宏一

講演タイトル：「数学授業改善」

## 5. 学外のFD研修会への参加

平成15年度は、国専協の主催、共催の研修会には1名以上は必ず参加し、また、それ以外の研修会には、内容に応じて参加することを目標とした。表3.8.1に平成15年度に参加した研修会等の一覧を示した。この内、国専協の主催平成15年度四国地区高等専門学校教官研究集会では、本校から2件の発表も行った。また、これらの研修会に参加した場合、教員会でその内容を報告した。

表3.8.1 平成15年度FD研修会等参加者一覧

1	第7回四国地域インターンシップ推進協議会 6月9日 四国経済産業局（高松市）	新田敦己
2	（社）日本工学教育協会主催 平成15年度工学教育連合講演会 6月13日～6月15日 早稲田大学大隈講堂	今井伸明
3	平成15年度高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会 7月14日～7月25日 豊橋技術科学大学	勝浦 創
4	第20回全国禁煙教育研修会 7月26日～7月27日 丸亀オークホテル	檀上光昭
5	第5回高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム 7月30日～8月2日 長岡技術科学大学マルチメディアセンター	小山一夫
6	国専協主催 平成15年度四国地区高等専門学校教官研究集会 7月31日～8月1日 阿南工業高等専門学校	桑田茂樹 出口幹雄 吉川貴士
7	平成15年度高等専門学校・長岡技術科学大学教官交流研究集会 8月17日～8月20日 長岡技術科学大学	伊月宣之
8	文部科学省主催 平成15年度高等専門学校教員研究集会（第二班） 8月18日～8月19日 オークラホテル高松（高松市）	桑田茂樹 平木弘一 千葉克夫 尾崎司郎 鴻上政明 森長 新
9	平成15年度高等専門学校・長岡技術科学大学教官交流研究集会 8月20日～8月22日 長岡技術科学大学	深山幸穂 新田敦己
10	文部科学省主催 平成15年度国立高等専門学校教官研究協議会 （新任教官研修） 8月20日～8月22日 国立オリンピック記念青少年総合センター	今井伸明 横山隆志 野村真理子
11	第1回全国高専テクノフォーラム 8月25日～8月28日 釧路市国際観光センター	川崎宏一

12	国専協主催 平成15年度高等専門学校教育研究集会 8月28日～8月29日 ホテルグリーンパーク鈴鹿(鈴鹿市)	河村秀男
13	情報セキュリティセミナー 8月29日～8月30日 文部科学省分館虎ノ門ホール	栗原義武
14	平成15年度専攻科実務者会議 9月17日～9月19日 小山グランドホテル(小山市)	中川克彦
15	第1回四国地区セクシャル・ハラスメント防止研修リーダー養成コース 9月25日～9月26日 高松第2地方合同庁舎	志賀信哉
16	平成15年度中国・四国地区メンタルヘルス研究協議会 10月23日～10月24日 セントユア山口(山口市)	野口裕子
17	第41回全国学生相談研修会 12月7日～12月10日 東京国際フォーラム	皆本佳計
18	法人化に向けた特別講演会 12月24日 阿南工業高等専門学校	桑田茂樹 森長 新 伊月宣之 檀上光昭
19	文部科学省主催「一日知的財産本部」の聴講 1月16日 東京国際フォーラム	深山幸穂
20	高等教育IT支援事業 高等専門学校における教材・素材の蓄積、流通等について 2月26日～2月27日 メディア教育開発センター	勝浦 創
21	第4回ワークショップ「技術者倫理」 2月26日～2月28日 新日本製鐵(株)代々木研修セミナー	高橋知司 吉川貴士
22	電子情報通信学会 平成15年度第2回JABEE自主研修会 3月6日～3月7日 大阪大学工学部	榊原久司
23	第4回ワークショップ「コミュニケーションスキルの指導法」 3月12日～3月14日 新日鐵幕張研修センター(千葉市)	森長 新

## 6. 各科・教科ごとの教育改善グループの組織化

組織化は実現できたが、まだ有効に機能しているとはいえない。カリキュラムやシラバスの内容の検討について、教務委員会、専攻科教育委員会、JABEE推進室などとの連携が不十分であった。活動内容、実施時期、方法についての具体性に欠けていたためと思われる。また、組織の位置付け等を明確にするなどの改善も必要である。

## 7. 公開授業

本年度22回の学内公開授業を実施した(表3.8.2)。昨年の6件と比較すると回数は増加している。また、実施方法(申込、学内への周知方法など)は確立したが、参加(聴講)者が非常に少ないという大きな問題を残している(公開授業に最低1名以上必ず参加することを決めている学科もある)。さらに、実施後のコメント等の意見交換方法も不十分であり、改善が必要と思われる。

また、平成15年度初めて、保護者向けの公開授業も実施した。これは、広く保護者に高専の授業(講義)や実験などを参観してもらい、高専の教育に対する理解を深めてもらうことを目的としたものである。実施方法は以下の通りである。

日時：平成15年10月29日（水）1～8限

方法：当日の本科全学年・全学科の授業・実験等を全て公開する。（オープンスクール）管理棟玄関に案内窓口を設け、教務係事務官および教務委員が対応する。各学科主任および担任は、個別窓口を設け、保護者の質問等に随時応じる。

当日、受付をされた保護者は77名で、アンケートを実施した結果、厳しい指摘も何件か頂いた。これらを踏まえ、今後の実施を継続するとともに、実施形態等の改善も必要と思われる。

表3.8.2 平成15年度公開授業実施結果

	日時	時限	科目名	学科・学年	科目担当者	場所
1	平成15年 5月29日(木)	1,2時限	材料工学 入門	材料工学科 1年	材料工学科 全教官	材料工学科棟 4カ所
2	平成15年 7月2日(水)	5時限	英語1	1年3組	尾崎司郎	1年3組教室
3	平成15年 7月8日(火)	1,2時限	電子回路 1	電気工学科 3年	佐藤眞一	電気工学科 3年教室
4	平成15年 7月9日(水)	1,2時限	電力工学 2	電気工学科 5年	檀上光昭	電気工学科 5年教室
5	平成15年 7月9日(水)	3,4時限	電気電子 計測2	電気工学科 3年	尾西康次	電気工学科 3年教室
6	平成15年 7月10日(木)	1,2時限	情報リテ ラシ	電気工学科 1年	伊月宣之	情報処理室
7	平成15年 7月16日(水)	5,6時限	電気回路 2	電気工学科 3年	大村 泰	電気工学科 3年教室
8	平成15年 7月17日(木)	1,2時限	電気磁気 学2	電気工学科 4年	井門英司	電気工学科 4年教室
9	平成15年 9月4日(木)	1,2時限	電気機器 1	電気工学科 3年	稲見和生	電気工学科 3年教室
10	平成15年 9月5日(金)	1,2時限	電気機器 2	電気工学科 4年	皆本佳計	電気工学科 4年教室
11	平成15年 9月10日(水)	1,2時限	材料力学	材料工学科 3年	志賀信哉	材料工学科 3年教室
12	平成15年 9月11日(木)	1,2時限	基礎情報 数学	電子制御工 学科3年	馬淵眞人	電子制御工学 科3年教室
13	平成15年 9月17日(水)	5,6時限	材料加工 学	材料工学科 4年	谷 耕治	材料工学科4 年教室
14	平成15年 11月21日(金)	3時限	英語2B	2年4組	野村真理子	2年4組教室
15	平成15年 12月8日(月)	6,7時限	情報基礎 実習1	電子制御工 学科1年	榊原久司, 占部弘治	CAD実習室 (D科)
16	平成15年 12月8日(月)	6,7時限	電子基礎 実習	電子制御工 学科1年	榊原久司	基礎工学実験 室
17	平成16年 2月12日(木)	3時限	技術英語 1	生物応用化 学科3年	鴻上政明	生物応用化学 科3年教室

18	平成16年 2月19日(木)	1時限	時事英語	電気工学科 5年	Ray Tabesh	L L 教室
19	平成16年 2月17日(火)	5,6時限	電気工学 実験3	電気工学科 5年	皆本佳計	電力工学実験 室
20	平成16年 2月20日(金)	5,6時限	電気工学 実験1	電気工学科 3年	稲見和生	電気磁気学実 験室
21	平成16年 2月18日(水)	7,8時限	工学基礎 実験	機械工学科 2年	刑部,北住,豊 田,谷口,宮田	機械工学科製 図室
22	平成16年 2月25日(水)	3~8 時限	電子創作 実習	電子制御工 学科4年	出口幹雄, 白井みゆき	基礎工学実験 室

## 8. 新居浜高専教育フォーラム2003の開催

地域の教育機関との協力、連携を深める目的で、平成15年度に初めて教育フォーラムを開催した。その内容を以下に示す。なお、このフォーラムは、毎年継続して実施する予定である。

<新居浜高専教育フォーラム2003の実施内容>

テーマ：「英語の使える日本人をどう育てるか」

日時：平成15年12月26日(金)13時~17時

基調講演：「教育現場で英語が使える日本人(学生)を育てる方法」

愛媛大学大学教育総合センター 助教授 折本 素

事例発表：

1)「コミュニケーション能力を伸ばす小学校英語活動のあり方」

新居浜市立神郷小学校 戸井和彦

2)「中学英語、最前線から」

新居浜市立北中学校 高橋良光

3)「技能としての高校英語再考」

愛媛県立新居浜西高等学校 管 開

4)「語彙の定着を目指して - アクション・リサーチによる授業改善」

新居浜工業高等専門学校 野村真理子

パネル討論：

パネリスト：当日の講演者、事例発表者

一般市民80名、本校教職員50名が参加した。近郊の小、中学校、高等学校を中心に案内したが、塾の講師の先生方など予想以上に多くの参加者があった。

## 9. J A B E E 受審

平成15年度、「生物応用化学プログラム」が日本技術者教育認定機構(J A B E E)の審査を受け、認定された。

J A B E E 認定証

認定月日：2004年5月10日

教育機関名：新居浜工業高等専門学校 生産工学専攻

認定プログラム名：生物応用化学

認定分野：化学および化学関連分野(応用化学コース)

また、デザイン工学プログラム(生産工学専攻(機械工学コース・材料工学コース))、

電子工学専攻)も平成17年度に受審する予定である。

## 10. 外部点検評価の実施

平成15年度JABEE審査を受けた生物応用化学科を除いた、他の学科は、外部点検評価を実施した。今回の点検評価項目は次の3点とした。

- (1) 創造性涵養の観点から見た実験実習・卒業研究
- (2) JABEE対応のための今後のカリキュラムのあり方
- (3) 研究活動の活性化と教育へのフィードバック

その実施日を以下に示す。

- 1) 機械工学科 外部点検評価実施日：平成16年2月12日(木)～13日(金)
- 2) 電気情報工学科・電子制御工学科 外部点検評価実施日：平成16年2月17日(火)～18日(水)
- 3) 材料子学科 外部点検評価実施日：平成16年2月16日(月)～17日(火)

以上のように、平成15年度のFD活動については、取り組み始めたものが多く、まだ定着までには至っていないものが多い。内容や実施形態・実施方法などを再検討し、定着に向けて改善していく必要がある。FD講演会、研修会については、参加者が少ないことが最大欠点である(教員の意識改革が最優先課題である)。また、学内でのFD事例発表(教員会)を学外での発表、高専教育への投稿などへ発展させていくことも大切である。各科・教科ごとの教育改善グループについては、組織的な位置付けや連携体制を確立し、有効に機能させることが必要と思われる。

## 11. その他の講演会

平成15年度本校で開いた講演会を以下に示す。

### 1) 学位(博士)授与講演会の開催

平成15年度に3名の教員が学位(博士)を取得された。これに伴い、今後の本校の教育研究活動の活性化を推進するために学位(博士)授与講演会を平成16年3月に開催した。

日 時 平成16年3月17日(水) 13時30分～15時40分

場 所 視聴覚教室

講演者等 1) 電気情報工学科助手 香川福有

講演題目 「能動アンテナのフェーズドアレー動作の研究」

2) 生物応用化学科助手 西井靖博

講演題目 「逆ミセル系におけるタンパク質の抽出および抽出装置に関する研究」

3) 電子制御工学科講師 山田正史

講演題目 「音場を制御する」

### 2) 公開講演会

題 目 「日本の近代化と別子銅山」

日 時 平成15年10月3日(金) 15時30分～17時

場 所 新居浜高専 視聴覚教室

講 師 新居浜市広瀬歴史記念館名誉館長 末岡照啓 氏

対 象 本校教職員及び一般の聴講希望者(学外参加者約30名)